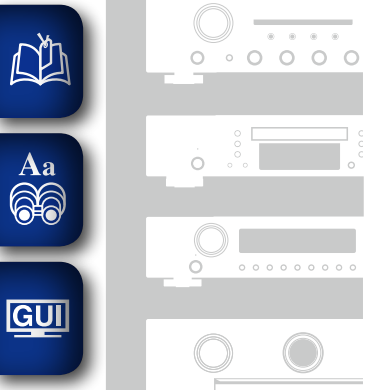
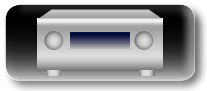


marantz®

AV Surround Receiver

SR6007

取扱説明書



ご使用になる前に

お買い上げいただきありがとうございます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例
図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

感電注意
△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

分解禁止
⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

電源プラグをコンセントから抜く
●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

電源プラグをコンセントから抜く

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く
- 煙や異臭、異音が出たとき
- 落としたり、破損したりしたとき
- 機器内部に水や金属類、燃えやすいものなどが入ったとき

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体と接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認してから販売店にご連絡ください。
お客様による修理などは危険ですので絶対におやめください。

必ず実施

ご使用は正しい電源電圧で
表示された電源電圧以外で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

必ず実施

電源コードは大切に
電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

必ず実施

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着しているときは
電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

火気禁止

火や炎を近づけない
本機の上でろうそくを灯す・タバコの灰皿を使用するなどの火や炎の発生しているものを置かないでください。
火災の原因となります。

禁止

内部に水などの液体や異物を入れない
機器内部に水などの液体や金属類、燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

水ぬれ禁止

水滴や水しぶきのかかるところに置かない
雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
水がかかったり、濡れた状態で使用すると火災、感電の原因となります。

分解禁止

ねじを外したり、分解や改造したりしない
内部には電圧の高い部分がありますので、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

接触禁止

雷が鳴り出したら
機器や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

接触禁止

使用中、使用直後に高温となる部分には触らない
使用中、使用直後は上面や高温注意マークの面には触れないでください。
機器の放熱のために高温となっており、触れた場合にやけどをする恐れがあります。

高温注意

禁止

乾電池は充電しない
電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

水場での使用禁止

風呂・シャワー室では使用しない
火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器、および小さな金属物を置かない
こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電の原因となります。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

注意 禁止

付属の電源コードを使用する

他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでください。
電流容量などの違いにより火災・感電の原因となることがあります。

必ず実施 禁止

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない

電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しないでください。その場合、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは

電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるように設置する

電源のスイッチを切ってもコンセントからは完全に遮断されていません。
万一の事故防止のため、本機をコンセントの近くに置き、すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるようにしてください。

必ず実施

機器の接続は説明書をよく読んでからおこなう

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従っておこなってください。
また、接続には指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

必ず実施

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

必ず実施 禁止

電池を使用するときは

- 極性表示に注意し、表示のとおりに正しく入れる。
- 指定以外の電池は使用しない。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
- 電池は火のそばや直射日光のあたるところ、暖房器具などの高温の場所に置かないでください。
- 不要になった乾電池を廃棄するときはお住まいの地域の条例に従って処理してください。

間違えると電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

禁止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光のあたるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

必ず実施

壁や他の機器から少し離して設置する

放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

禁止

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いたりして使用する

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

禁止

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

移動させるときは

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

長期間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。

注意

5 年に一度は内部の掃除を

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

目次

ご使用になる前に …… 2
安全上のご注意 …… 2
目次 …… 4
使用上のご注意 …… 5
付属品を確認する …… 5
本機の特長 …… 6

基本編 …… 7

接続のしかた …… 8
知っておいてほしいこと …… 8
HDMI 接続に対応している機器を接続する …… 10
HDMI 接続に対応していない機器を接続する …… 16
マルチチャンネル出力に対応している機器と接続する …… 28
外部のパワーアンプと接続する …… 29
ホームネットワーク(LAN)に接続する …… 30
電源コードを接続する …… 31
設定のしかた …… 32
Audyssey® セットアップ …… 32
ネットワークの設定をする（ネットワーク） …… 39
再生のしかた(基本操作) …… 40
知っておいてほしいこと …… 40
ブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーを再生する …… 41
Super Audio CD を再生する …… 41
CD プレーヤーを再生する …… 42
iPod を再生する …… 43
USB メモリーを再生する …… 46
FM 放送を聴く …… 49
ネットワークについて …… 57
インターネットラジオを聴く …… 57
パソコンや NAS に保存されているファイルを再生する …… 60
オンラインサービスを利用する …… 64
便利な機能 …… 66
AirPlay 機能 …… 70
リスニングモードを選ぶ（サウンドモード） …… 72
リスニングモードを選ぶ …… 72

応用編 …… 79

スピーカーの設置 / 接続 / 設定をする(応用) …… 80
スピーカーを設置する …… 80
スピーカーを接続する …… 82
スピーカーを設定する …… 92
接続のしかた (応用接続) …… 94
リモートコントロール端子に接続する …… 94
外部のコントロール機器と接続する …… 95
再生のしかた(応用操作) …… 96
HDMI コントロール機能 …… 96
スリープタイマー機能 …… 97
ウェブコントロール機能 …… 98
デュアルバックアップメモリー機能 …… 100
フロントキーロック機能 …… 100
リモートロック機能 …… 101
各種メモリー機能 …… 102
ゾーン 2(別の部屋)での再生 …… 103
音声出力 …… 103
再生 …… 104
スリープタイマー機能 …… 104
詳細設定のしかた …… 105
メニュー 一覧 …… 105
メニュー画面の表示例 …… 107
テレビ画面の表示について …… 108
文字入力について …… 109
オーディオ …… 110
ビデオ …… 117
入力ソース …… 122
スピーカー …… 126
ネットワーク …… 130
一般 …… 134

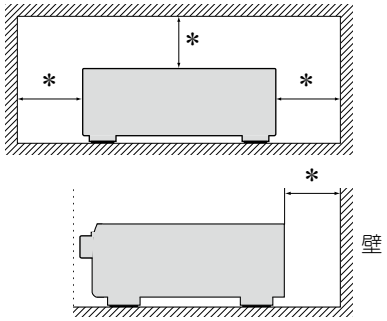
情報編 …… 140

各部の名前 …… 141
フロントパネル …… 141
ディスプレイ …… 142
リアパネル …… 143
リモコン …… 144
その他の情報 …… 146
登録商標について …… 146
サラウンド …… 147
映像信号とモニター出力の関係 …… 153
用語の解説 …… 155
故障かな？と思ったら …… 158
マイコンの初期化 …… 162
保証と修理について …… 163
主な仕様 …… 164

使用上のご注意

設置について

本機内部の放熱をよくするために、壁や他の機器との間は、十分に離して設置してください。



＊ 30cm 以上

携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置で使用してください。

お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れは、やわらかい布で軽く拭き取ってください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ベンジンやシンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。

結露（つゆつき）について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部（動作部）に水滴が付くことがあります（結露）。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を切ったまま 1～2 時間放置してから使用してください。

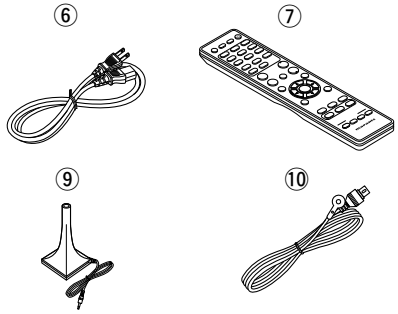
ステレオ音のエチケット

- 隣近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

付属品を確認する

ご使用の前にご確認ください。

① 簡単セットアップガイド. 1
② CD-ROM（取扱説明書）..... 1
③ 安全にお使いいただくために 1
④ 保証書（梱包箱に貼り付けています）..... 1
⑤ 製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内..... 1
⑥ 電源コード【本機専用】... 1
⑦ リモコン（RC017SR）..... 1
⑧ 単4形乾電池. 2
⑨ セットアップマイク（ACM1HB）..... 1
⑩ FM室内アンテナ 1



本機の特長

ディスクリート回路構成による全 7 チャンネル同一クオリティーのパワーアンプ搭載（実用最大出力 110W、負荷 8 Ω）

本機には、オリジナル音源を忠実にサウンド再生するために、全チャンネルに同一のクオリティーと同一のパワーを持つパワーアンプを搭載しています。
パワーアンプ回路には、ディスクリート回路構成を採用することによって、高品位なサウンド再生を実現しています。

インターネットラジオなどのネットワーク機能に加え、AirPlay® 機能を搭載（☞70 ページ）

インターネットラジオを聴いたり、パソコンに保存している音楽ファイルを再生したり、テレビに写真を映したりするなど、さまざまな再生をお楽しみいただけます。
また、本機は AirPlay 機能も搭載していますので、iPhone®/iPad®/iPod touch® や iTunes® の音楽をネットワークを通して本機で再生できます。

iPad、iPhone*1 や Android スマートフォンで本機の基本的な操作がおこなえる“marantz Remote App”に対応

“marantz Remote App” は、iPad、iPhone、Android スマートフォンや Android タブレットで本機の電源のオン / オフやボリュームコントロール、ソースの切り替えなどの基本操作がおこなえるアプリケーションソフトです。

*1 “marantz Remote App” を iTunes の App Store からダウンロード（無料）してください。本機を LAN 接続し、同じネットワーク上に Wi-Fi（無線 LAN）にて iPhone/iPod touch を接続する必要があります。

基本的な設定が簡単にできる“セットアップアシスタント”メニュー

テレビ画面に表示する操作ガイドに沿って、誰でも簡単にスピーカーの接続やネットワークの設定など基本的な設定がおこなえます。

操作性に優れたグラフィカル・ユーザー・インターフェース

本機には、メニュー表示や階層ディレクトリーを視覚的にわかりやすくした“グラフィカル・ユーザー・インターフェース”を搭載しています。階層を表示させることで、自分が何処にいて、何を設定しようとしているのかがわかりやすくなり、操作性を向上させています。

さまざまなデジタル AV 機器を接続できる HDMI 端子を装備（入力：6 系統、出力：2 系統）

本機には 6 系統の HDMI 入力端子を装備しており、ブルーレイディスクプレーヤー、ゲーム、HD ビデオカメラなどのさまざまな HDMI 端子搭載機器との接続ができます。

HDMI（3D、ARC、Deep Color、“x.v.Color”、オートリップシンク、4K）および HDMI コントロール機能対応（☞10 ページ）

本機は、HDMI の 3D や ARC（Audio Return Channel）機能以外に、4K（3840 × 2160 ピクセル）の映像信号が入力された場合に、その映像のクオリティーをそのままテレビへ出力するビデオパススルー機能、およびメニュー画面（GUI）を 4K 映像画面に重ねて表示する GUI オーバーレイ機能にも対応しています。

HDMI2 系統による同時再生

本機には、2 つの HDMI モニター出力を備えています。1 つをプロジェクターに、もう 1 つをテレビに接続し、信号を同時に出力できます。

アナログ映像信号（SD 解像度）を 4K の信号にアップスケーリングするデジタルビデオプロセッサー搭載

本機は、アナログ映像や SD（標準画質）映像を 4K（3840 × 2160 ピクセル）にて HDMI への出力を可能にする 4K ビデオアップスケーリング機能を搭載しています。これにより本機とテレビの接続が HDMI ケーブル 1 本で済むだけでなく、どの映像ソースでも HD 画質に迫る精細な映像を再現することができます。

iPhone や iPod の再生に対応した iPod/USB 端子搭載（☞23 ページ）

iPod に付属の専用 USB ケーブルを本機の iPod/USB 端子に接続すると、iPod の再生や、本機のリモコンで iPod の操作ができます。

Audyssey DSX®

本機は Audyssey DSX® プロセッサーを搭載しています。本機にフロントハイトスピーカーを接続して Audyssey DSX® 再生をおこなうことにより、より上下の空間表現力を持った再生をお楽しみいただけます。また、フロントワイドスピーカーを接続することで、よりワイドな左右の空間表現力をもった再生をお楽しみいただけます。

M-XPort（marantz-eXtension Port）（☞27 ページ）

拡張性に優れたマランツ独自の M-XPort を搭載しました。ワイヤレスレシーバー RX101（別売り）を接続して Bluetooth 機器（デジタルオーディオプレーヤー、携帯電話など）の音楽ファイルを本機で再生できます。

基本編

ここでは、本機の基本的な接続や操作方法について説明しています。

- 接続のしかた ☞8 ページ
- 設定のしかた ☞32 ページ
- 再生のしかた（基本操作） ☞40 ページ
- ネットワークについて ☞57 ページ
- リスニングモードを選ぶ（サウンドモード） ☞72 ページ

接続のしかた

知っておいてほしいこと

本機をお使いになる前に接続をしてください。
本機とお手持ちの映像機器の性能を十分に発揮してより高画質な映像再生と、より高音質のオーディオ再生ができるホームシアターを実現するために、本機とテレビ、本機と各映像機器との接続には HDMI ケーブルをお使いください。

❏HDMI 接続に対応している機器

接続する映像機器が HDMI 接続に対応していない場合は次の接続をおこなってください。

❏HDMI 接続に対応していない機器

本機では、DIGITAL AUDIO IN 端子と COMPONENT VIDEO IN 端子に割り当てるソースを変更することができます。
各機器の接続ページ内の 入力端子の設定 に記載している端子が変更できる端子です。
端子の割り当てについての詳しい説明は「端子に割り当てる入力ソースの変更について」(☞16 ページ)を、設定方法は「入力端子の割り当て」(☞123 ページ)を、それぞれご覧ください。

ご注意

- メニュー画面は本機と HDMI 接続しているテレビのみに表示します。本機とテレビを他の映像出力端子で接続している場合は、本体のディスプレイを見ながら操作してください。
- すべての接続が終わるまで電源プラグをコンセントに差し込まないでください。ただし、“セットアップアシスタント”(📖 8 ページ)メニューを操作中は“セットアップアシスタント”メニューの指示に従って接続してください。(“セットアップアシスタント”メニューを操作中、入出力端子は通電しません。)
- “セットアップアシスタント”(📖 8 ページ)メニューを操作中は、接続する機器の電源をオフにしてください。
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しく L と L、R と R を接続してください。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。雑音の原因となることがあります。

❏ HDMI 接続に対応している機器

TV	☞11 ページ	CBL/SAT	☞13 ページ	DVD	☞13 ページ
Blu-ray	☞13 ページ	GAME	☞13 ページ	MEDIA PLAYER	☞13 ページ
AUX	☞13 ページ				

❏ HDMI 接続に対応していない機器

TV	☞17 ページ	CBL/SAT	☞18 ページ	DVD	☞19 ページ
Blu-ray	☞20 ページ	AUX	☞21 ページ	MEDIA PLAYER	☞22 ページ
iPod/USB	☞23 ページ	CD	☞24 ページ	PHONO	☞25 ページ
TUNER	☞26 ページ	M-XPort	☞27 ページ	NETWORK	☞30 ページ

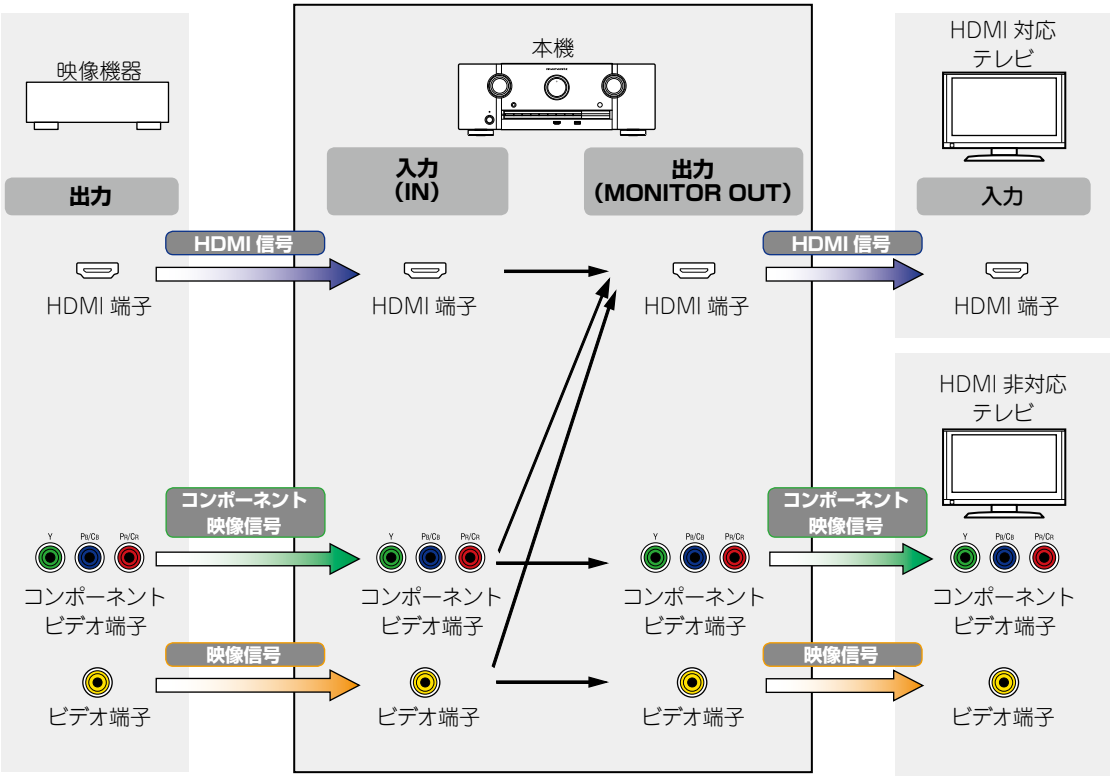
❏ その他

SPEAKER	☞82 ページ	AC IN	☞31 ページ

入力された映像信号を変換して出力する（ビデオコンバージョン機能）

本機には 3 種類（HDMI、コンポーネントビデオ、ビデオ）の映像入力端子と 3 種類（HDMI、コンポーネントビデオ、ビデオ）の映像出力端子があります。
この機能は、本機に入力されたさまざまな方式の映像信号を、本機からテレビに出力する映像信号方式に自動的に変換して出力するものです。

【メインゾーンでの映像信号の流れ】



例えば、HDMI 対応のテレビと本機を 1 本の HDMI ケーブルで接続すると、HDMI 映像信号以外の入力信号を自動的に HDMI 信号に変換して HDMI 端子からテレビに出力します。一種類の映像信号のみを出力しますので、別の映像信号形式で出力する機器の再生に切り替えても、本機からテレビに出力する映像信号は変わらないため、テレビの映像入力を切り替える必要がありません。そのうえ、本機に入力したアナログ映像信号（ビデオ信号やコンポーネント映像信号）は、解像度の高いデジタルの HDMI 映像信号に変換して出力するため、映像の品位も向上します。
また、テレビが HDMI 接続に対応していない場合には、本機とテレビのビデオ信号をアナログ接続してください。この場合は、本機に入力したコンポーネント映像信号はビデオ信号に変換できません。本機は HDMI 入力信号をアナログビデオ信号に変換することができないため、HDMI 機器から入力する場合はコンポーネントビデオ入力端子またはビデオ入力端子を使用してください。

必要に応じて設定してください

- 本機で自動的に映像信号の変換をおこなわない場合は、次の設定でこの機能を無効にします。
  “ビデオコンバージョン”（☞119 ページ）
- テレビに出力する映像信号の解像度を変更する場合は、次の設定で変更します。
  “解像度”（☞120 ページ）

- ビデオコンバージョン機能は、NTSC、PAL、SCAM、NTSC4.43、PAL-N、PAL-M および PAL-60 のフォーマットに準拠しています。
- HDMI 対応テレビの解像度は、メニューの“ビデオ”⇨“モニター”（☞137 ページ）で確認できます。

ご注意

- **メニュー画面は本機と HDMI 接続しているテレビのみに表示します。本機とテレビを他の映像出力端子で接続している場合は、本体のディスプレイを見ながら操作してください。**
- HDMI 信号はデジタル信号です。HDMI 信号をアナログ信号に変換することはできませんが、アナログ信号を HDMI 信号に変換することはできます（☞153 ページ）。
- ゲーム機など特殊な映像信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が動作しないことがあります。

HDMI 接続に対応している機器を接続する

本機には HDMI 対応機器を 8 台（6 入力 /2 出力）まで接続できます。

本機と接続する機器に HDMI 端子がある場合には、HDMI ケーブルでの接続をおすすめします。HDMI ケーブルでの接続には、ほかの接続方法にはない次のメリットがあります。

- **音声と映像をデジタル信号で伝送することにより高品位な再生を実現**
  アナログの映像伝送で実現できなかったハイビジョン映像の伝送や、ブルーレイディスクプレーヤーで採用された高音質音声フォーマット（Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、dts-HD、dts-HD Master Audio）の伝送ができます。
  また、HDMI 接続では機器間の再生に必要な情報のやり取りもおこなわれます。それらの情報を利用して著作権保護、テレビの解像度などの情報の認識、ARC 機能、HDMI コントロール機能などを実現しています。
- **音声信号と映像信号を HDMI ケーブル 1 本で伝送**
  従来の接続では、接続する機器間を音声ケーブルと映像ケーブルを使用して接続する必要がありましたが、HDMI 接続では、HDMI ケーブル 1 本で音声信号と映像信号を伝送できます。これにより、ホームシアターシステムで煩雑になりやすい配線をすっきりさせることができます。
- **HDMI コントロール機能による相互コントロール（☞96 ページ）**
  HDMI 接続している本機と HDMI 機器の電源、音量、入力切り替えなどの操作を連動しておこなうことができます。
- **その他に、3D 映像再生、Content Type（コンテンツ・タイプ）、ARC 機能など、映像や音声に関する機能に対応しています（☞14 ページ）。**

- HDMI 規格にはバージョンがあります。バージョンごとに対応できる機能や性能が異なります。本機は HDMI 規格の ARC 機能や 3D 再生機能に対応しています。これらをお楽しみいただくためには、本機に接続する HDMI 機器も同じ規格であることが必要です。本機に接続する機器の HDMI 規格のバージョンについては、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
- テレビによっては HDMI 接続での音声入力に対応していないものがあります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

❏ **本機とテレビを HDMI 接続する前に（☞11 ページ）**
❏ **本機とテレビを HDMI 接続する（☞12 ページ）**

❏ **本機と映像機器を HDMI 接続する（☞13 ページ）**

❏ **HDMI 機能（☞14 ページ）**
❏ **HDMI 接続に関する設定（☞15 ページ）**

本機とテレビを HDMI 接続する前に

本機と HDMI 対応のテレビを接続する方法は 2 とおりあります。
お手持ちのテレビに合わせた接続をおこなってください。

本機と接続するテレビが ARC 機能に対応していますか？

はい ↓

本機とテレビを HDMI 接続する
（☞12 ページ）

いいえ ↓

本機とテレビを HDMI 接続する
（☞12 ページ）

＋

テレビを接続する（☞17 ページ）

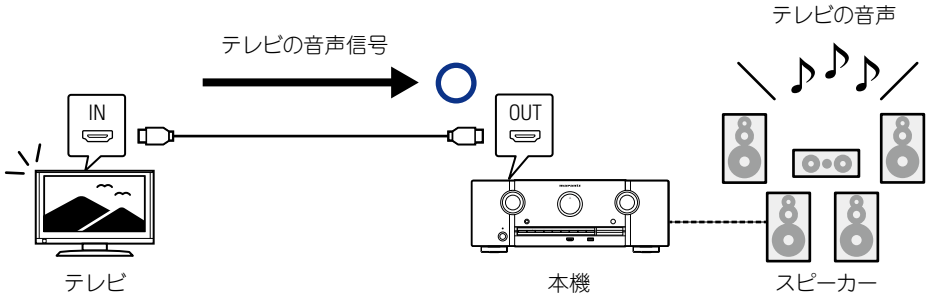
音声の接続を HDMI 接続以外の方法でおこないます。

❏ARC（Audio Return Channel）機能について

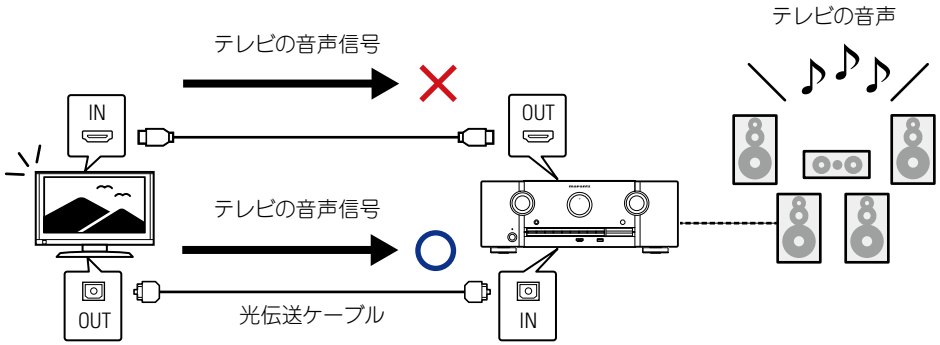
テレビの音声信号を HDMI ケーブルを経由して本機に伝送し、本機でテレビの音声を再生する機能です。
ARC 機能のないテレビとの HDMI 接続では、本機に接続した再生機器の映像信号をテレビに伝送することはできても、テレビの音声を本機で再生することはできません。テレビ番組をサラウンド音声で視聴したい場合などには、別途音声ケーブルの接続が必要になります。
これに対し、ARC 機能のあるテレビとの HDMI 接続では、音声ケーブルの接続は不要です。本機とテレビを接続する HDMI ケーブルを通して、テレビの音声信号を本機に入力することができます。この機能により、テレビの音声を本機のサラウンド再生で楽しみいただけます。

ARC 機能を使用するときは、HDMI 対応の“イーサネット対応標準 HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”で接続してください。
テレビ側の接続や設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

【ARC 機能のあるテレビとの接続】



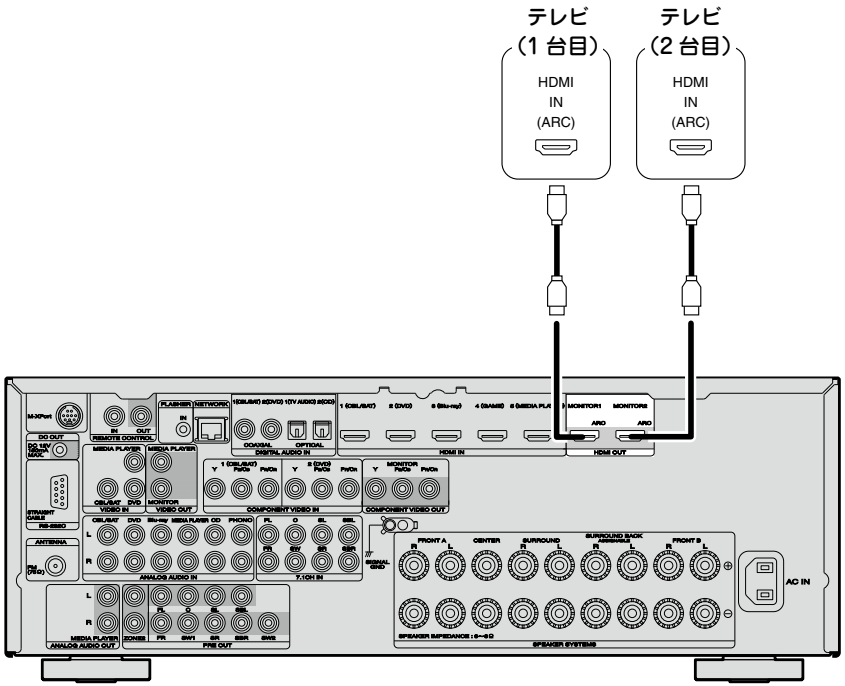
【ARC 機能のないテレビとの接続】



本機とテレビを HDMI 接続する

接続に使用するケーブル

音声＆映像ケーブル（別売り）
HDMI ケーブル



- プレーヤーの解像度をテレビが対応している解像度に合わせてください。プレーヤーとテレビの解像度が合っていない場合、映像は出力されません。
- 本機とテレビを HDMI ケーブルで接続しても、テレビが HDMI 音声の再生に対応していない場合は、映像信号のみテレビに出力します。「テレビを接続する」（☞17 ページ）の音声接続をおこなってください。

ご注意

- HDMI 出力端子からの音声信号（サンプリング周波数、チャンネル数など）は、相手側の機器が入力できる HDMI 音声の仕様に制限されることがあります。
- **本機を ARC 機能に対応していないテレビと接続する場合は、HDMI ケーブルのほかに音声ケーブルが必要になります。接続方法は、「テレビを接続する」（☞17 ページ）をご覧ください。また、ARC 機能については、「ARC（Audio Return Channel）機能について」（☞11 ページ）をご覧ください。**

DVI-D 端子付きの機器に接続するとき

デジタル信号による映像伝送には、DVI-D（Digital Visual Interface）方式もあります。これは、主にパソコン用に開発されたもので、一部の AV 機器（プロジェクターなど）にも搭載されています。本機の HDMI 映像信号を DVI-D 映像入力対応の機器に出力する場合は、HDMI/DVI 変換ケーブルをお使いください。HDMI 映像信号を DVI 信号に変換します。
DVI-D 端子ではデジタル信号の高品位伝送はできますが、機器間によってはコピーガードなどの問題で正しく動作しない場合があります。

ご注意

- 本機を DVI-D 端子付きの機器と接続する場合、音声は出力されません。「テレビを接続する」（☞17 ページ）の音声接続をおこなってください。
- HDCP に対応していない DVI-D 機器には出力できません。
- 機器の組み合わせによって、映像が出力されない場合があります。

ARC 機能対応のテレビを使用するときに必要な設定

ARC 機能対応のテレビを使用する場合は、次の設定をおこなってください。

1 **“HDMI コントロール”（☞119 ページ）を“オン”に設定する。**

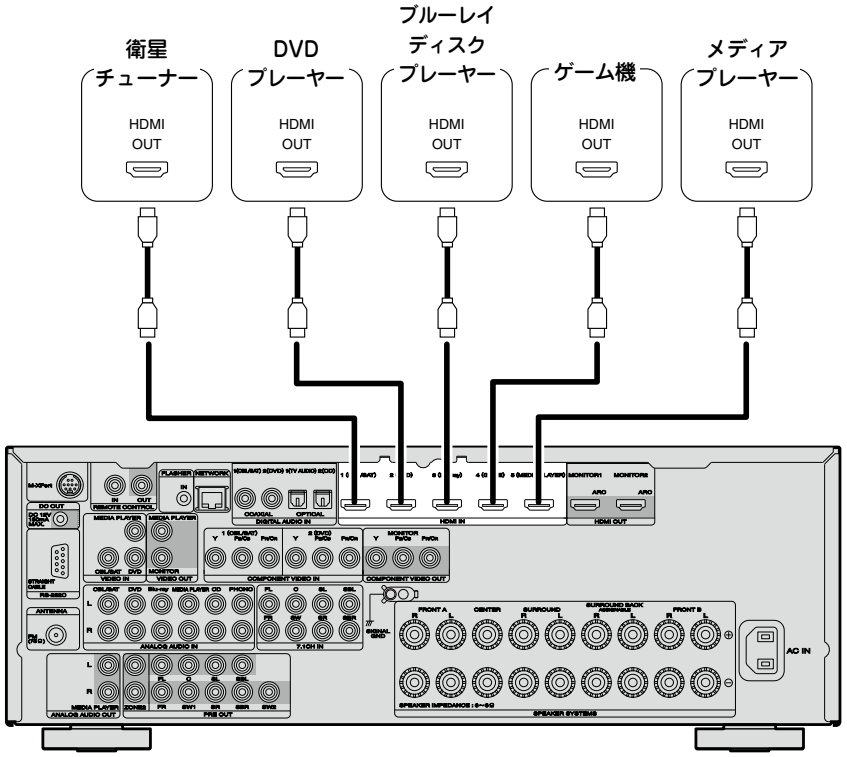
2 **ARC 機能対応のテレビを接続している HDMI MONITOR 端子の番号に合わせて、“コントロールモニター”（☞119 ページ）の設定をする。**
ARC 機能対応のテレビを HDMI MONITOR 1 端子と HDMI MONITOR 2 端子の両方に接続している場合、ARC 機能を同時に使用することはできません。

本機と映像機器を HDMI 接続する

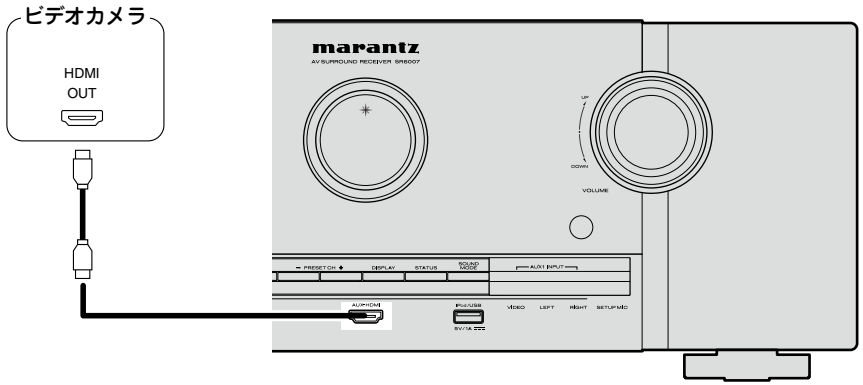
接続に使用するケーブル

音声＆映像ケーブル（別売り）
HDMI ケーブル

- HDMI とは、デジタル映像信号とデジタル音声信号を HDMI ケーブル 1 本で伝送できるインターフェースです。



【 リアパネル 】



【 フロントパネル 】

- 本機とプレーヤーを HDMI ケーブルで接続した場合は、本機とテレビも HDMI ケーブルで接続してください。
- 本機を Deep Color（ディープ カラー）機能または 4K 機能対応の機器と接続する場合は、“ハイスピード HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”を使用してください。
- プレーヤーの解像度をテレビが対応している解像度に合わせてください。プレーヤーとテレビの解像度が合っていない場合、映像は出力されません。

HDMI 機能

本機は次の HDMI 機能に対応しています。

❏3D 機能

本機は、HDMI 規格の 3D(3 次元)映像信号の入出力に対応しています。3D 映像の再生には本機のほかに、HDMI 規格の 3D 機能に対応しているプレーヤーとテレビが必要です。また、3D 映像をご覧いただくには、別売りの 3D メガネが必要です。

ご注意

- 3D 映像を再生するときは、本機の取扱説明書と一緒に 3D 映像機器の取扱説明書もご覧ください。
- 本機は 3D 映像コンテンツの再生中にメニュー画面や状態表示画面に映像を重ねて表示できます。ただし、一部の 3D 映像コンテンツではメニュー画面や状態表示画面に映像を重ねて表示できません。
- 3D 情報がない 3D 映像を入力した場合でも、本機のメニュー画面および状態表示画面を重ねて表示できます。
- テレビ側で 2D 映像を 3D 映像へ変換した場合、本機のメニュー画面および状態表示画面は正しく表示できません。本機のメニュー画面および状態表示画面を正しく表示したい場合は、テレビの 2D 映像を 3D 映像へ変換する設定をオフにしてください。

❏4K 機能

本機は、HDMI 規格の 4K(3840 × 2160 ピクセル)映像信号の入出力に対応しています。

本機を 4K 機能対応の機器と接続する場合は、“ハイスピード HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”を使用してください。

❏HDMI コントロール機能 (☞96 ページ)

本機で外部機器を操作したり、外部機器から本機を操作したりすることができます。

ご注意

- 接続する機器や設定によっては、HDMI コントロール機能が動作しない場合があります。
- HDMI コントロール機能に対応していないテレビやブルーレイディスクプレーヤー、DVD プレーヤーは操作できません。

❏Content Type (コンテンツ・タイプ) 機能

HDMI 規格で追加された機能です。この機能は、出力映像の種類(コンテンツ情報)に適した設定を自動でおこないます。

ご注意

本機では、メニューの“ビデオモード”(☞119 ページ)の設定が“オート”のときに Content (コンテンツ・) Type (タイプ) 機能が有効になります。

❏Deep Color (ディープ・カラー) 機能 (☞155 ページ)

Deep Color (ディープ・カラー) 機能対応の機器を接続するときは、“ハイスピード HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”を使用してください。

❏Auto Lip Sync 機能 (☞118、157 ページ)

❏“x.v.Color”、sYCC601 color、Adobe RGB color および Adobe YCC601 color 機能 (☞155、157 ページ)

❏HD オーディオフォーマット

❏ARC (Audio Return Channel (オーディオ・リターン・チャンネル)) 機能 (☞11 ページ)

著作権保護システムについて
HDMI 接続を通して BD ビデオや DVD ビデオなどのデジタル映像と音声を再生するためには、プレーヤーとテレビ、プレーヤーと AV アンプなどの双方が HDCP(High-bandwidth Digital Content Protection System)と呼ばれる著作権保護システムに対応している必要があります。HDCP はデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション技術です。本機は、HDCP に対応しています。 • HDCP に対応していない機器を接続した場合は、映像と音声を正しく出力できません。お手持ちのテレビやプレーヤーなどについては、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

HDMI 接続に関する設定

必要に応じて設定してください。詳しくは、各参照ページをご覧ください。

❏HDMI 設定 (☞118 ページ)

HDMI の入出力信号に関する設定をします。

- オートリップシンク
- HDMI コントロール
- パワーオフコントロール
- HDMI オーディオ出力
- スタンバイ時の HDMI 入力
- ビデオ出力
- コントロールモニター

ご注意

HDMI 入力端子から入力した音声信号を HDMI 接続しているテレビに出力するには、HDMI 音声の出力先を“TV”に設定してください。
アナログ入力端子またはデジタル入力端子から入力した音声信号を、HDMI MONITOR 出力端子から出力することはできません。

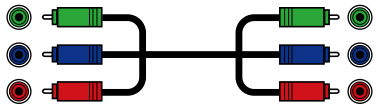
HDMI 接続に対応していない機器を接続する

高品位な映像再生と高音質なサラウンド再生のために、本機とテレビ、本機と映像機器の接続には HDMI ケーブルでの接続をおすすめします（☞10 ページ「HDMI 接続に対応している機器を接続する」）。
ここでは、お手持ちの機器が HDMI 接続に対応していない場合の接続について説明します。

各機器の接続のしかた

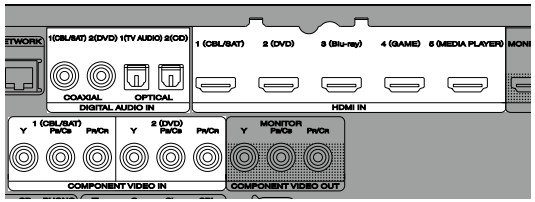
TV	☞17 ページ	CBL/SAT	☞18 ページ
DVD	☞19 ページ	Blu-ray	☞20 ページ
AUX	☞21 ページ	MEDIA PLAYER	☞22 ページ
iPod/USB	☞23 ページ	CD	☞24 ページ
PHONO	☞25 ページ	TUNER	☞26 ページ
M-XPort	☞27 ページ	NETWORK	☞30 ページ

接続に使用するケーブル

映像ケーブル（別売り）	
コンポーネントビデオケーブル	
ビデオケーブル	
音声ケーブル（別売り）	
同軸ケーブル	
光伝送ケーブル	
オーディオケーブル	
ケーブル（別売り）	
イーサネットケーブル	

端子に割り当てる入力ソースの変更について

本機では、HDMI IN 端子、DIGITAL AUDIO IN 端子および COMPONENT VIDEO IN 端子に割り当てるソースを変更することができます。



ブルーレイディスクプレーヤーのデジタル音声接続を例に説明します。本機のリアパネルのビデオ入力とデジタル音声入力の端子にはブルーレイディスクプレーヤー用の入力端子の表示（Blu-ray）がありません。しかし、これらの端子にブルーレイディスクプレーヤーを割り当てると、割り当てた端子をブルーレイディスクプレーヤー用として使うことができます。本機の入力ソースを切り換えるときに“Blu-ray”を選ぶと割り当てた端子に接続しているソースを再生できます。

❑端子に割り当てる入力ソースの変更のしかた

（☞123 ページ）

テレビを接続する

- ここではお手持ちのテレビが HDMI 接続に対応していない場合の接続方法を説明します。HDMI 接続のしかたは、「HDMI 接続に対応している機器を接続する」(☞10 ページ) またはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 本機と接続するテレビに ARC 機能対応の HDMI 端子がある場合は、テレビのデジタル音声信号を本機に伝送することができます (☞11 ページ「ARC (Audio Return Channel) 機能について」)。ARC 機能により、テレビの音声を本機で聴いたり、テレビに直接接続している HDMI 機器を視聴できたりします。その際、別途音声接続をする必要はありません。ARC 機能については、テレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 本機で ARC 機能に対応していないテレビの音声を聴く場合は、光伝送ケーブルをお使いください。

映像機器を接続する際には、「入力された映像信号を変換して出力する(ビデオコンバージョン機能)」(☞9 ページ) をご覧ください。

❑音声の接続

本機との接続には次の方法があります。**いずれか 1 つの接続を選んでおこなってください。**

1 DIGITAL AUDIO OPTICAL (TV AUDIO) 端子
DIGITAL AUDIO COAXIAL 端子 ＊
マルチチャンネル音声 (デジタルビットストリーム音声) を入力すると、本機でデコードし、サラウンド再生をします。

＊ この接続をおこなう場合は、本機の設定を変更する必要があります (☞ 入力端子の設定)。

❑映像の接続

本機との接続には次の方法があります。**いずれか 1 つの接続を選んでおこなってください。**
それぞれの端子名の先頭番号は推奨順です。良質な再生品質が得られる順番です。

1 COMPONENT VIDEO OUT (MONITOR) 端子
アナログ映像接続です。映像信号を色成分別に 3 つの信号に分けて伝送するため、信号の劣化が少なく、アナログ映像接続の中では最も高品位な映像が再生できる接続方法です。

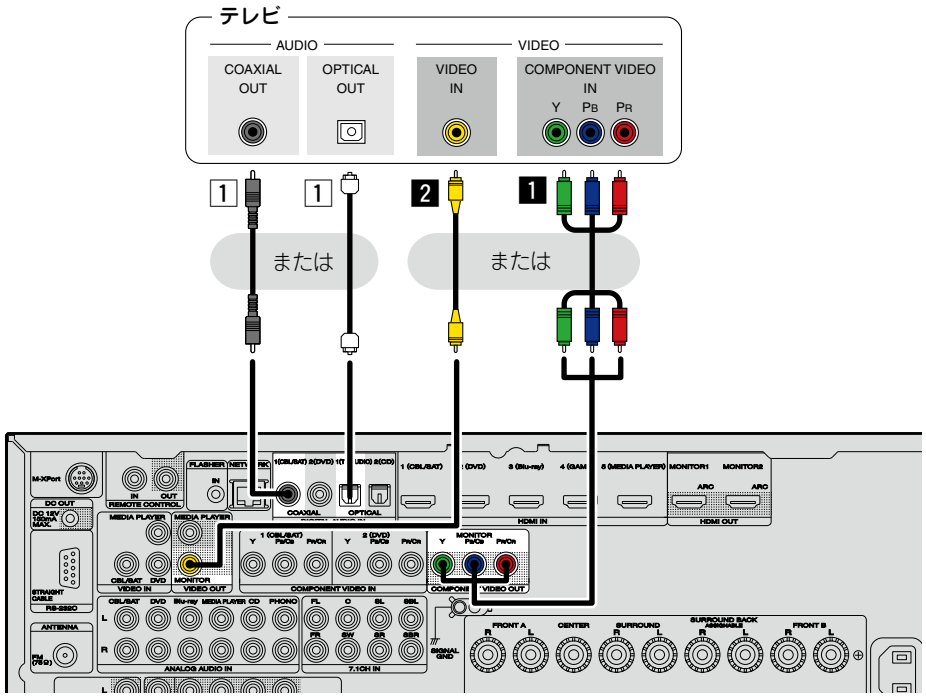
2 VIDEO OUT (MONITOR) 端子
アナログ映像接続です。

入力端子の設定

次の接続をするときは、入力端子の設定を変更する必要があります。

1 DIGITAL AUDIO COAXIAL 端子
1 の端子に接続する場合は、"CBL/SAT" を "TV AUDIO" に変更してください。

変更のしかたは、「入力端子の割り当て」(☞123 ページ) をご覧ください。



ご注意

- **メニュー画面は本機と HDMI 接続しているテレビのみに表示します。本機とテレビを他の映像出力端子で接続している場合は、本体のディスプレイを見ながら操作してください。**
- 本機とテレビを HDMI 接続しない場合は、他の映像機器からの映像入力も HDMI 接続をしないでください。詳しくは、「入力された映像信号を変換して出力する(ビデオコンバージョン機能)」(☞9 ページ) をご覧ください。
- テレビを本機の COMPONENT VIDEO OUT 端子に接続し、iPod、USB メモリーまたはネットワークのコンテンツを再生した場合、本機から出力する画面 (再生画面など) を表示できません。本機から出力する画面を表示したい場合は、テレビを COMPONENT VIDEO OUT 端子および VIDEO OUT 端子の両方に接続してください。

セットトップボックスを接続する（衛星チューナー / ケーブルテレビチューナー）

ここではお手持ちの衛星チューナーやケーブルテレビチューナーが HDMI 接続に対応していない場合の接続方法を説明します。
HDMI 接続のしかたは、「HDMI 接続に対応している機器を接続する」(☞10 ページ) をご覧ください。

❑音声の接続

本機との接続には次の方法があります。**いずれか 1 つの接続を選んでおこなってください。**
それぞれの端子名の先頭番号は推奨順です。良質な再生品質が得られる順番です。

1 DIGITAL AUDIO COAXIAL 端子
DIGITAL AUDIO OPTICAL 端子 ＊
マルチチャンネル音声 (デジタルビットストリーム音声) を入力すると、本機でデコードし、サラウンド再生をします。
＊ この接続をおこなう場合は、本機の設定を変更する必要があります
(☞ 入力端子の設定)。

2 AUDIO IN (CBL/SAT) 端子
アナログ音声接続です。この接続ではデジタル音声をアナログ音声に変換するため、1 の接続に比べ、出力される音声に劣化が生じる場合があります。

❑映像の接続

本機との接続には次の方法があります。**いずれか 1 つの接続を選んでおこなってください。**
それぞれの端子名の先頭番号は推奨順です。良質な再生品質が得られる順番です。

1 COMPONENT VIDEO IN (CBL/SAT) 端子
アナログ映像接続です。映像信号を色成分別に 3 つの信号に分けて伝送するため、信号の劣化が少なく、アナログ映像接続の中では最も高品位な映像が再生できる接続方法です。

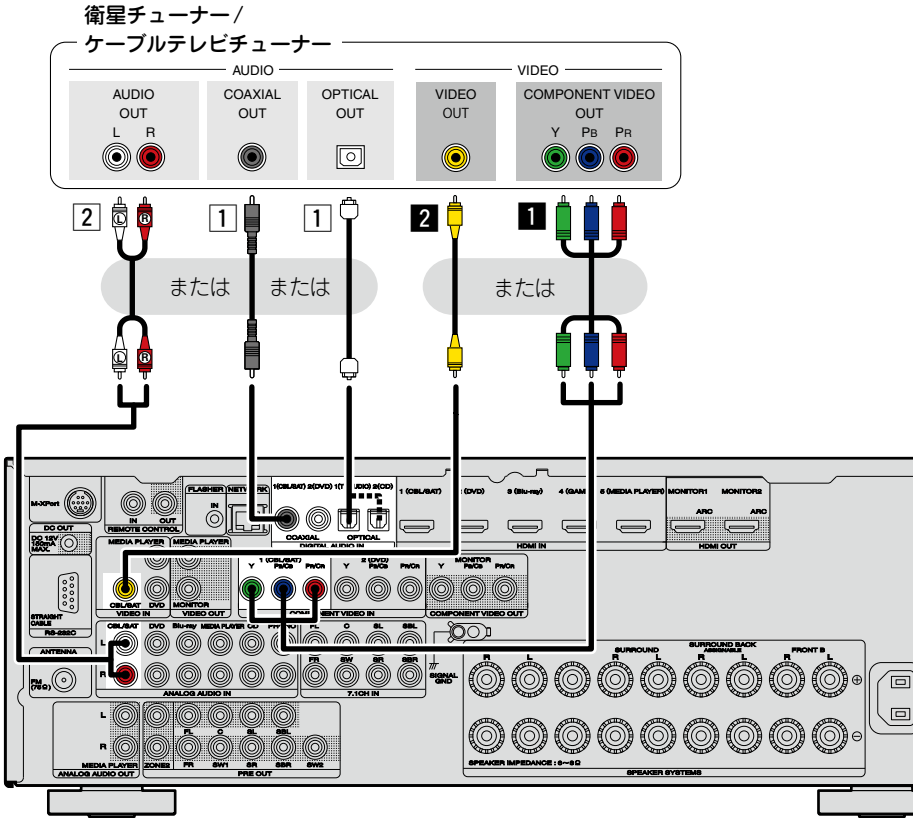
2 VIDEO IN (CBL/SAT) 端子
アナログ映像接続です。

入力端子の設定

次の接続をするときは、入力端子の設定を変更する必要があります。

1 DIGITAL AUDIO OPTICAL 端子
1 の端子に接続する場合は、“TV AUDIO”を“CBL/SAT”に変更してください。

変更のしかたは、「入力端子の割り当て」(☞123 ページ) をご覧ください。



DVD プレーヤーを接続する

ここではお手持ちの DVD プレーヤーが HDMI 接続に対応していない場合の接続方法を説明します。
HDMI 接続のしかたは、「HDMI 接続に対応している機器を接続する」(☞10 ページ) をご覧ください。

❏音声の接続

本機との接続には次の方法があります。**いずれか 1 つの接続を選んでおこなってください。**
それぞれの端子名の先頭番号は推奨順です。良質な再生品質が得られる順番です。

1 DIGITAL AUDIO COAXIAL 端子
DIGITAL AUDIO OPTICAL 端子 *
マルチチャンネル音声 (デジタルビットストリーム音声) を入力すると、本機でデコードし、サラウンド再生をします。
* この接続をおこなう場合は、本機の設定を変更する必要があります
(☞ 入力端子の設定)。

2 AUDIO IN (DVD) 端子
アナログ音声接続です。この接続ではデジタル音声をアナログ音声に変換するため、1 の接続に比べ、出力される音声に劣化が生じる場合があります。

❏映像の接続

本機との接続には次の方法があります。**いずれか 1 つの接続を選んでおこなってください。**
それぞれの端子名の先頭番号は推奨順です。良質な再生品質が得られる順番です。

1 COMPONENT VIDEO IN (DVD)端子
アナログ映像接続です。映像信号を色成分別に 3 つの信号に分けて伝送するため、信号の劣化が少なく、アナログ映像接続の中では最も高品位な映像が再生できる接続方法です。

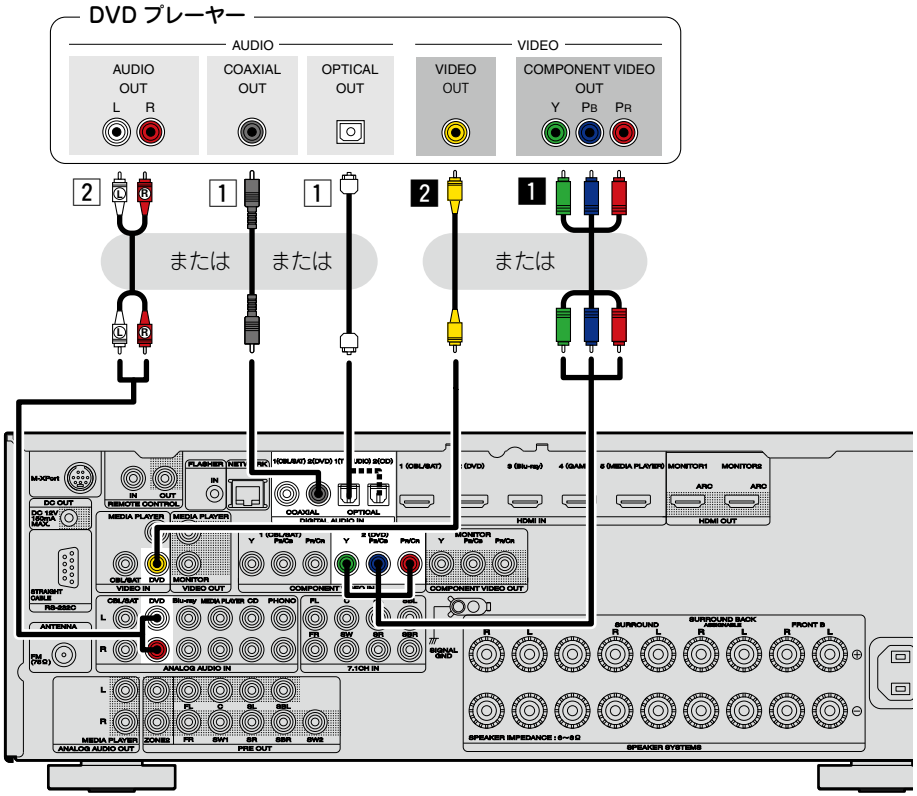
2 VIDEO IN (DVD) 端子
アナログ映像接続です。

入力端子の設定

次の接続をするときは、入力端子の設定を変更する必要があります。

1 DIGITAL AUDIO OPTICAL 端子
1 の端子に接続する場合は、"TV AUDIO" を "DVD" に変更してください。

変更のしかたは、「入力端子の割り当て」(☞123 ページ) をご覧ください。



ブルーレイディスクプレーヤーを接続する

ここではお手持ちのブルーレイディスクプレーヤーが HDMI 接続に対応していない場合の接続方法を説明します。
HDMI 接続のしかたは、「HDMI 接続に対応している機器を接続する」(☞10 ページ) をご覧ください。

❑音声の接続

本機との接続には次の方法があります。**いずれか 1 つの接続を選んでおこなってください。**
それぞれの端子名の先頭番号は推奨順です。良質な再生品質が得られる順番です。

1 DIGITAL AUDIO COAXIAL 端子
DIGITAL AUDIO OPTICAL 端子

マルチチャンネル音声 (デジタルビットストリーム音声) を入力すると、本機でデコードし、サラウンド再生をします。
ただし、ブルーレイディスクプレーヤーの HD 音声(DOLBY DIGITAL PLUS や dts-HD など)のデジタルビットストリーム音声信号は伝送できません。
この接続をおこなう場合は、本機の設定を変更する必要があります
(☞ 入力端子の設定)。

2 AUDIO IN (Blu-ray) 端子

アナログ音声接続です。この接続ではデジタル音声をアナログ音声に変換するため、1 の接続に比べ、出力される音声に劣化が生じる場合があります。

❑映像の接続

本機との接続には次の方法があります。

❶ COMPONENT VIDEO IN 端子

アナログ映像接続です。映像信号を色成分別に 3 つの信号に分けて伝送するため、信号の劣化が少なく、アナログ映像接続の中では最も高品位な映像が再生できる接続方法です。
この接続をおこなう場合は、本機の設定を変更する必要があります
(☞ 入力端子の設定)。

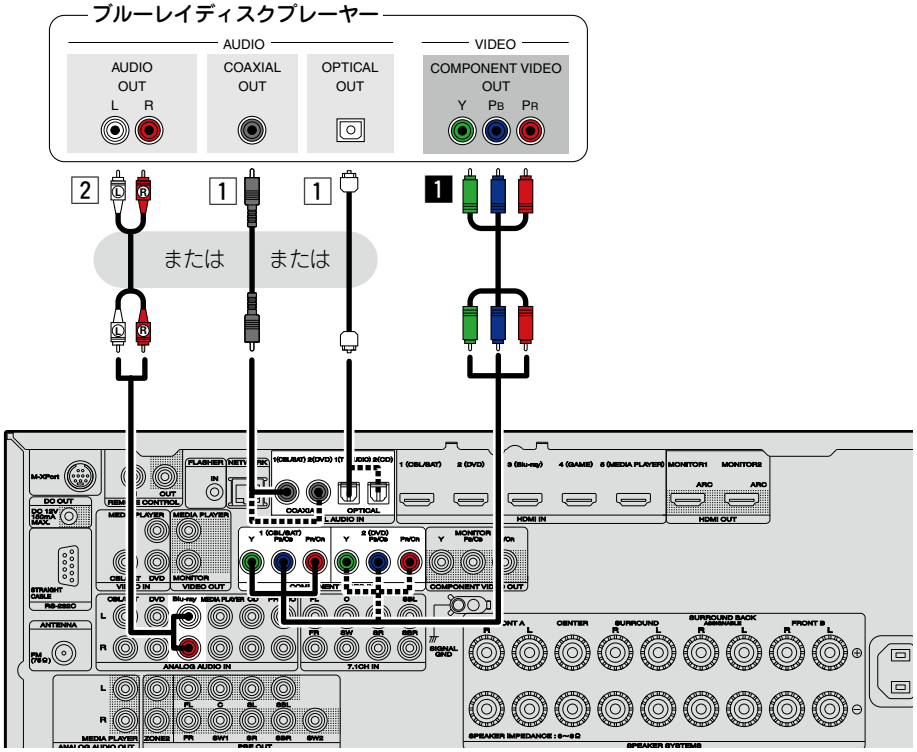
入力端子の設定

次の接続をするときは、入力端子の設定を変更する必要があります。

1 DIGITAL AUDIO COAXIAL 端子
1 の端子に接続する場合は、"CBL/SAT" を "Blu-ray" に変更してください。
DIGITAL AUDIO OPTICAL 端子
1 の端子に接続する場合は、"TV AUDIO" を "Blu-ray" に変更してください。

❶ COMPONENT VIDEO IN 端子
❶ の端子に接続する場合は、"CBL/SAT" を "Blu-ray" に変更してください。

変更のしかたは、「入力端子の割り当て」(☞123 ページ) をご覧ください。



HD オーディオ (Dolby TrueHD、DTS-HD、Dolby Digital Plus および DTS Express) およびマルチチャンネル PCM 信号を再生する場合は、HDMI 接続をしてください (☞10 ページ「HDMI 接続に対応している機器を接続する」)。

ビデオカメラを接続する

ここではお手持ちのビデオカメラが HDMI 接続に対応していない場合の接続方法を説明します。HDMI 接続のしかたは、「HDMI 接続に対応している機器を接続する」(☞10 ページ) をご覧ください。

❏音声の接続

本機との接続には次の方法があります。**いずれか 1 つの接続を選んでおこなってください。**
それぞれの端子名の先頭番号は推奨順です。良質な再生品質が得られる順番です。

1 DIGITAL AUDIO COAXIAL 端子
DIGITAL AUDIO OPTICAL 端子
マルチチャンネル音声 (デジタルビットストリーム音声) を入力すると、本機でデコードし、サラウンド再生をします。
この接続をおこなう場合は、本機の設定を変更する必要があります
(☞ 入力端子の設定)。

2 AUDIO IN (AUX) 端子
アナログ音声接続です。この接続ではデジタル音声をアナログ音声に変換するため、1 の接続に比べ、出力される音声に劣化が生じる場合があります。

❏映像の接続

本機との接続には次の方法があります。**いずれか 1 つの接続を選んでおこなってください。**
それぞれの端子名の先頭番号は推奨順です。良質な再生品質が得られる順番です。

1 COMPONENT VIDEO IN 端子
アナログ映像接続です。映像信号を色成分別に 3 つの信号に分けて伝送するため、信号の劣化が少なく、アナログ映像接続の中では最も高品位な映像が再生できる接続方法です。
この接続をおこなう場合は、本機の設定を変更する必要があります
(☞ 入力端子の設定)。

2 VIDEO IN (AUX) 端子
アナログ映像接続です。

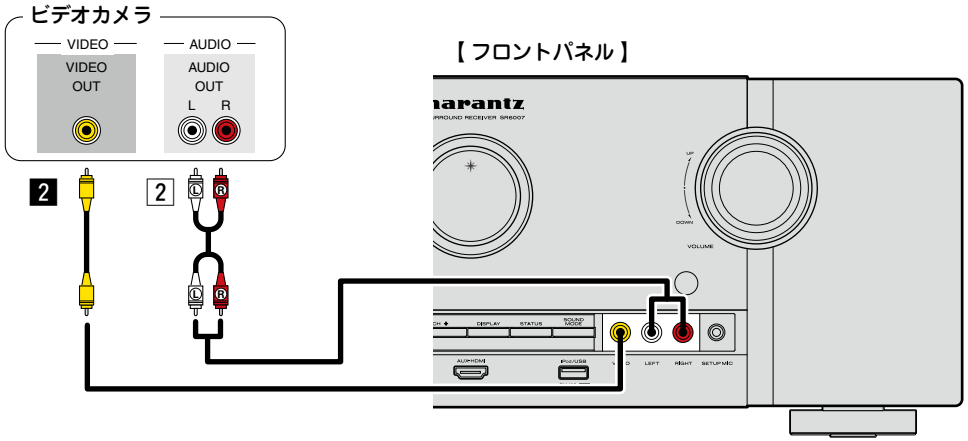
入力端子の設定

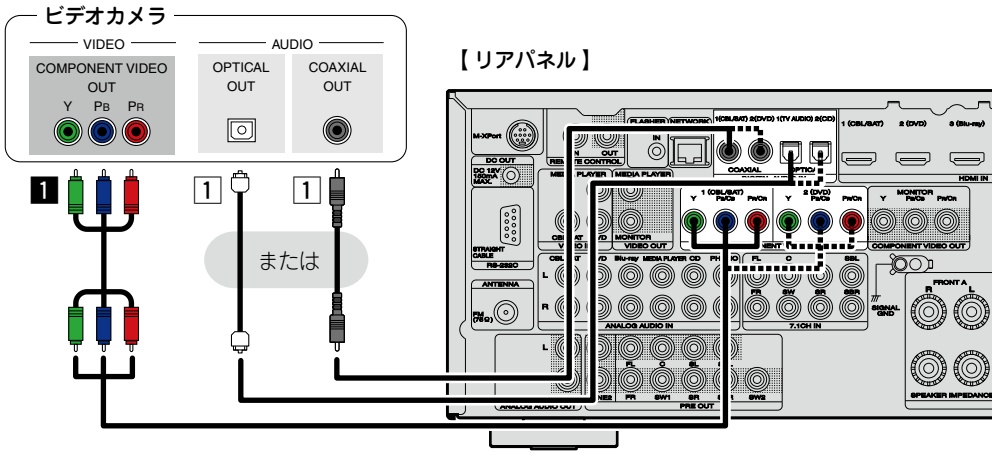
次の接続をするときは、入力端子の設定を変更する必要があります。

1 DIGITAL AUDIO COAXIAL 端子
1 の端子に接続する場合は、"CBL/SAT" を "AUX" に変更してください。
DIGITAL AUDIO OPTICAL 端子
1 の端子に接続する場合は、"TV AUDIO" を "AUX" に変更してください。

1 COMPONENT VIDEO IN 端子
1 の端子に接続する場合は、"CBL/SAT" を "AUX" に変更してください。

変更のしかたは、「入力端子の割り当て」(☞123 ページ) をご覧ください。





本機の AUX 入力端子にゲーム機を接続してもゲームを楽しむことができます。この場合は、入力ソースを "AUX" に設定してください。

ご注意

ゲーム機など特殊な映像信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能 (☞9 ページ) が動作しない場合があります。この場合は、入力と同じモニター出力端子に接続してください。

メディアプレーヤーを接続する

ここではお手持ちのメディアプレーヤーが HDMI 接続に対応していない場合の接続方法を説明します。
HDMI 接続のしかたは、「HDMI 接続に対応している機器を接続する」(☞10 ページ) をご覧ください。

❏音声の接続

本機との接続には次の方法があります。**いずれか 1 つの接続を選んでおこなってください。**
それぞれの端子名の先頭番号は推奨順です。良質な再生品質が得られる順番です。

1 DIGITAL AUDIO COAXIAL 端子
DIGITAL AUDIO OPTICAL 端子
マルチチャンネル音声 (デジタルビットストリーム音声) を入力すると、本機でデコードし、サラウンド再生をします。
この接続をおこなう場合は、本機の設定を変更する必要があります
(☞ 入力端子の設定)。

2 AUDIO IN / OUT (MEDIA PLAYER) 端子
アナログ音声接続です。選択している入力ソースがアナログ信号の場合のみ、MEDIA PLAYER OUT 端子から音声を出力します。

❏映像の接続

本機との接続には次の方法があります。**いずれか 1 つの接続を選んでおこなってください。**
それぞれの端子名の先頭番号は推奨順です。良質な再生品質が得られる順番です。

1 COMPONENT VIDEO IN 端子
アナログ映像接続です。映像信号を色成分別に 3 つの信号に分けて伝送するため、信号の劣化が少なく、アナログ映像接続の中では最も高品位な映像が再生できる接続方法です。
この接続をおこなう場合は、本機の設定を変更する必要があります
(☞ 入力端子の設定)。

2 VIDEO IN / OUT (MEDIA PLAYER) 端子
アナログ映像接続です。

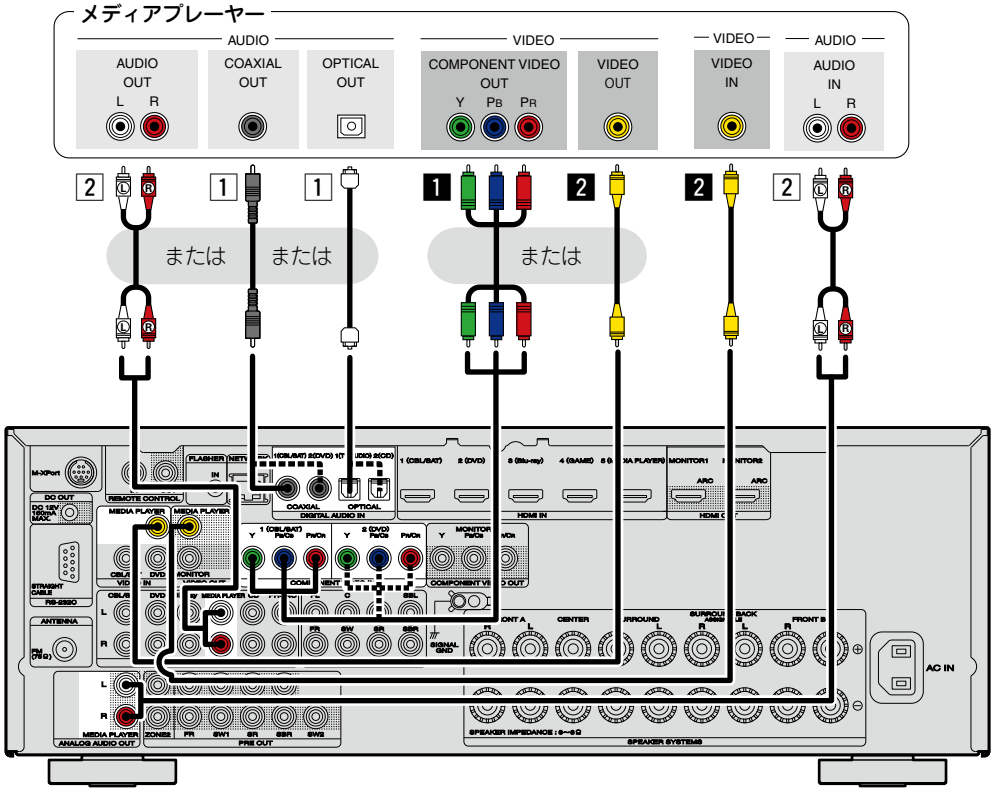
入力端子の設定

次の接続をするときは、入力端子の設定を変更する必要があります。

1 DIGITAL AUDIO COAXIAL 端子
1 の端子に接続する場合は、"CBL/SAT" を "MEDIA PLAYER" に変更してください。
DIGITAL AUDIO OPTICAL 端子
1 の端子に接続する場合は、"TV AUDIO" を "MEDIA PLAYER" に変更してください。

1 COMPONENT VIDEO IN 端子
1 の端子に接続する場合は、"CBL/SAT" を "MEDIA PLAYER" に変更してください。

変更のしかたは、「入力端子の割り当て」(☞123 ページ) をご覧ください。



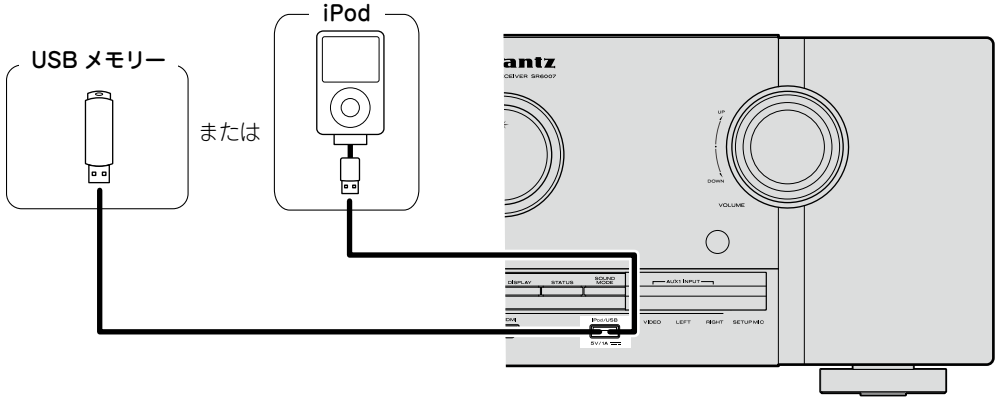
ご注意
本機を通して映像信号および音声信号を録画する場合は、本機とプレーヤーをビデオケーブルおよびオーディオケーブルで接続してください。

iPod/USB 端子に iPod または USB メモリーを接続する

- iPod や USB メモリー内の音楽を楽しむことができます。
- 操作のしかたは、「iPod を再生する」(☞43 ページ) または「USB メモリーを再生する」(☞46 ページ) をご覧ください。

接続に使用するケーブル

本機と iPod を接続するときは、iPod に付属の USB ケーブルをお使いください。



すべての USB メモリーに対して、動作および電源の供給を保証するものではありません。USB 接続タイプのポータブル HDD で、AC アダプターを接続して電源が供給できるタイプのものをお使いになる場合は、AC アダプターのご使用をおすすめします。

ご注意

- USB メモリーは USB ハブ経由では動作しません。
- 本機の iPod/USB 端子とパソコンを USB ケーブルで接続して使用することはできません。
- USB メモリーを接続するときに、延長ケーブルを使用しないでください。他の機器に電波障害を引き起こす場合があります。
- 本機に iPhone を接続するときは、iPhone を本機から 20cm 以上離してください。iPhone を本機に近づけると、iPhone が電話を受信したときに、本機の音声出力にノイズが入ることがあります。
- iPod の接続に 2m 以上の USB ケーブル(別売り)を使用すると、音声が正しく再生できない場合があります。その場合は、純正の USB ケーブルまたは 1m 以下のケーブルをお使いください。

対応している iPod/iPhone

- iPod classic

iPod classic 80GB　iPod classic 160GB (2007)　iPod classic 160GB (2009)

- iPod nano

iPod nano 3rd generation (video) 4GB 8GB　iPod nano 4th generation (video) 8GB 16GB　iPod nano 5th generation (video camera) 8GB 16GB　iPod nano 6th generation 8GB 16GB

- iPod touch

iPod touch 1st generation 8GB 16GB 32GB　iPod touch 2nd generation 8GB 16GB 32GB　iPod touch 3rd generation 32GB 64GB　iPod touch 4th generation 8GB 32GB 64GB

- iPhone

iPhone 4GB 8GB 16GB　iPhone 3G 8GB 16GB　iPhone 3GS 8GB 16GB 32GB　iPhone 4 8GB 16GB 32GB　iPhone 4S 16GB 32GB 64GB

(2012 年 7 月現在)

CD プレーヤーを接続する

CD の音声を楽しむことができます。

❏音声の接続

本機との接続には次の方法があります。**いずれか 1 つの接続を選んでおこなってください。**
それぞれの端子名の先頭番号は推奨順です。良質な再生品質が得られる順番です。

1 DIGITAL AUDIO OPTICAL 端子
DIGITAL AUDIO COAXIAL 端子 ＊
マルチチャンネル音声 (デジタルビットストリーム音声) を入力すると、本機でデコードし、サラウンド再生をします。
＊ この接続をおこなう場合は、本機の設定を変更する必要があります
(☞ 入力端子の設定)。

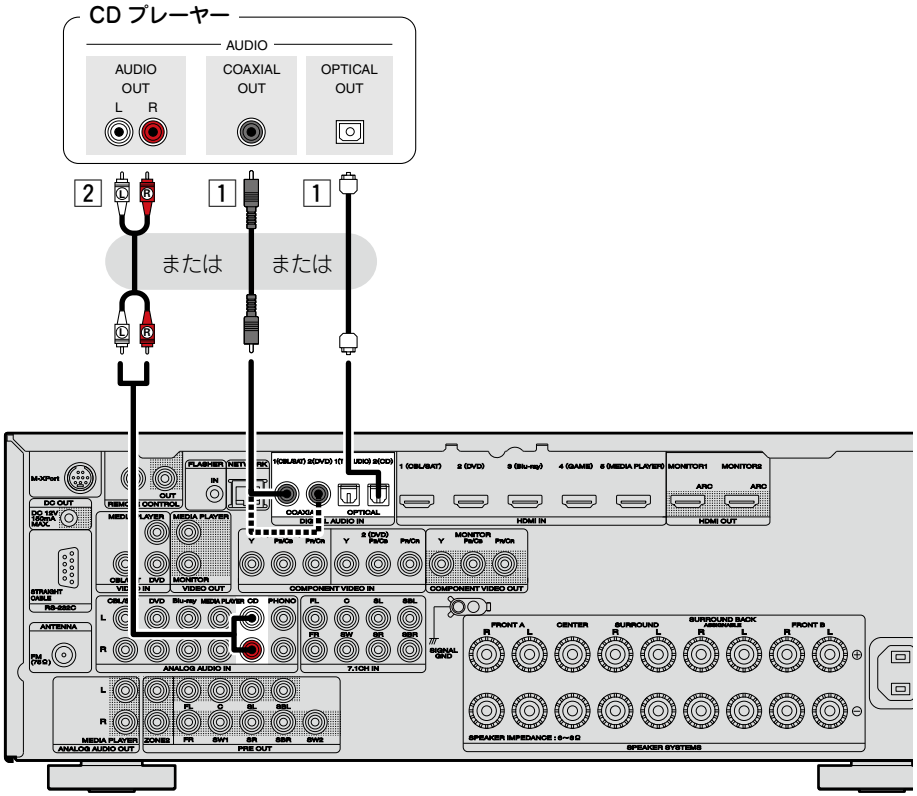
2 AUDIO IN (CD) 端子
アナログ音声接続です。この接続ではデジタル音声をアナログ音声に変換するため、1 の接続に比べ、出力される音声に劣化が生じる場合があります。

入力端子の設定

次の接続をするときは、入力端子の設定を変更する必要があります。

1 DIGITAL AUDIO OPTICAL 端子
1 の端子に接続する場合は、“CBL/SAT”を“CD”に変更してください。

変更のしかたは、「入力端子の割り当て」(☞123 ページ) をご覧ください。



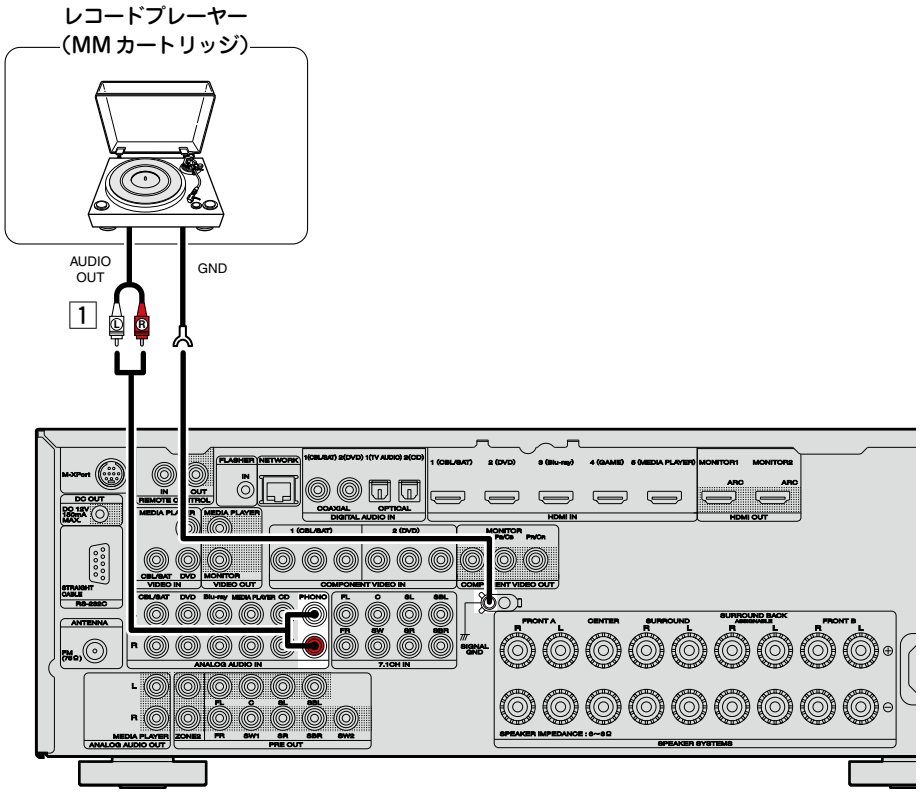
レコードプレーヤーを接続する

レコードの音声を楽しむことができます。

❑音声の接続

本機との接続には次の方法があります。

1 AUDIO IN(PHONO) 端子
アナログ音声接続です。



- 本機は、MM カートリッジ付きのレコードプレーヤーに対応しています。MC カートリッジ付きのレコードプレーヤーを接続される場合は、市販の MC ヘッドアンプまたは昇圧トランスをご使用ください。
- 本機の入力ソースを“PHONO”にし、レコードプレーヤーを接続せずに音量を上げると、“ブーン”という雑音がスピーカーから出力される場合があります。

ご注意

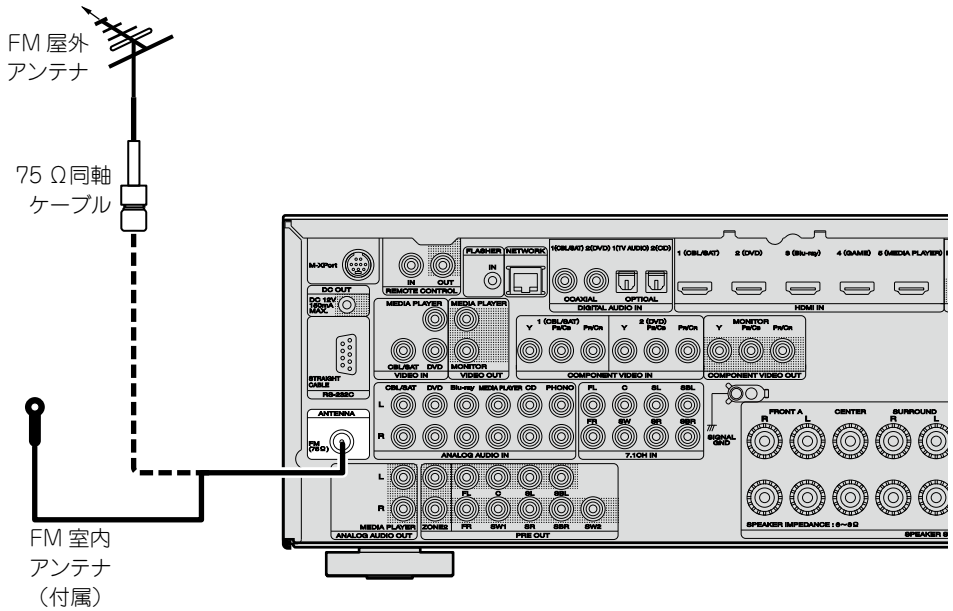
本機の SIGNAL GND 端子は、安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減できます。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆に雑音が大きくなることがあります。このような場合は、アース線を接続する必要はありません。

FM アンテナを接続する

- 本機に付属の FM 室内アンテナを接続すると、FM 放送を楽しむことができます。
- アンテナを接続したあとに放送を受信し（☞49 ページ「FM 放送を聴く」）、雑音の少ない位置にテープなどで固定してください。

ご注意

- 2 つの FM アンテナを同時に接続しないでください。
- 放送を良好に受信できない場合は、屋外アンテナの設置をおすすめします。詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

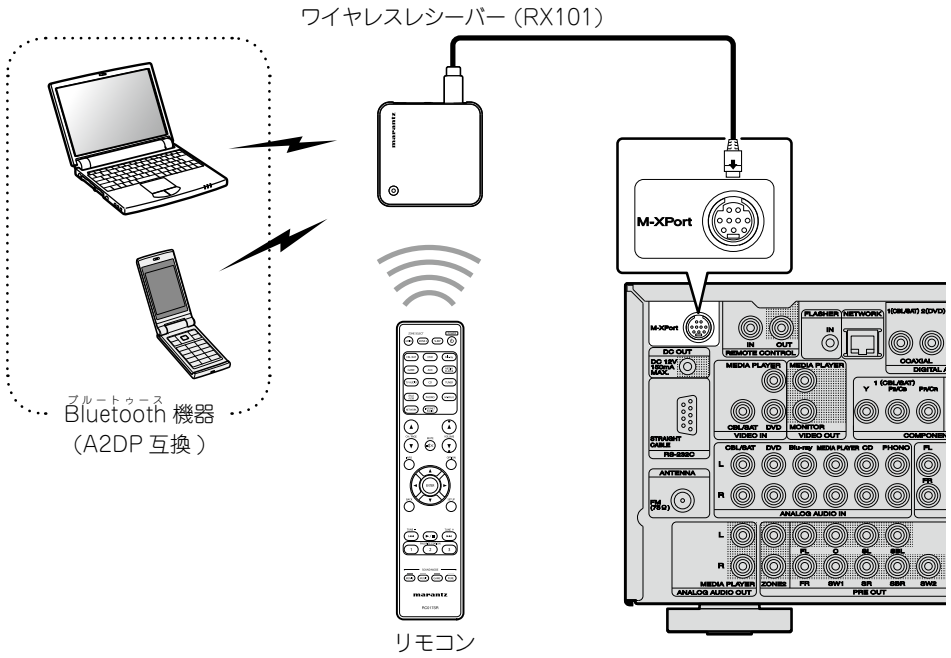


ワイヤレスレシーバー(RX101)を接続する

- 本機にワイヤレスレシーバー(RX101、別売り)を接続することにより、Bluetooth(ブルートゥース)機器の曲を本機で再生できます。
- この操作をおこなう場合は、入力ソースを“M-XPort”に切り替えてください(☞40 ページ「入力ソースを選ぶ」)。
- 本機は Bluetooth(ブルートゥース)プロファイルの A2DP 規格に対応しています。
- ワイヤレスレシーバーやお使いの Bluetooth(ブルートゥース)機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

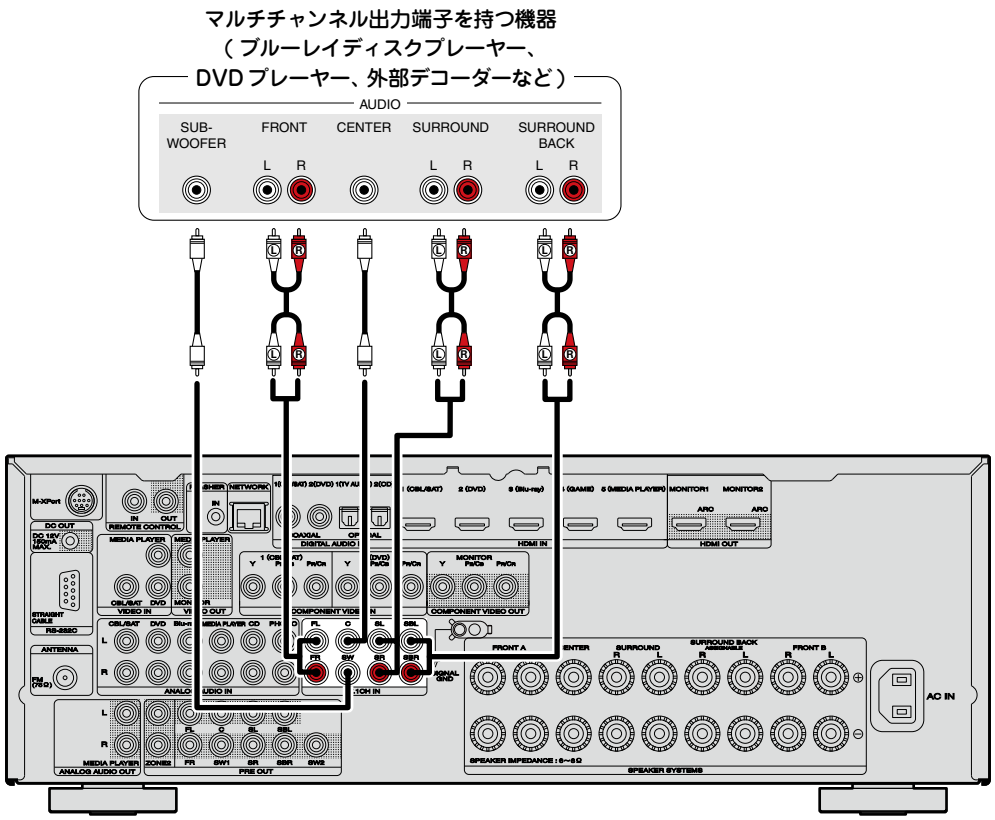
ご注意

- お使いの Bluetooth(ブルートゥース)機器を初めてワイヤレスレシーバーに接続する場合は、ペアリングをおこなう必要があります。一度ペアリングが完了すると、接続操作をおこなうだけで Bluetooth(ブルートゥース)機器とワイヤレスレシーバー間の通信が確立されます。ペアリングは Bluetooth(ブルートゥース)機器ごとに必要です。
- ワイヤレスレシーバーを赤外線受信機として使用することもできます。この場合、「リモートロック機能」(☞101 ページ)でリモコン信号の受信機能を無効に設定してください。



マルチチャンネル出力に対応している機器と接続する

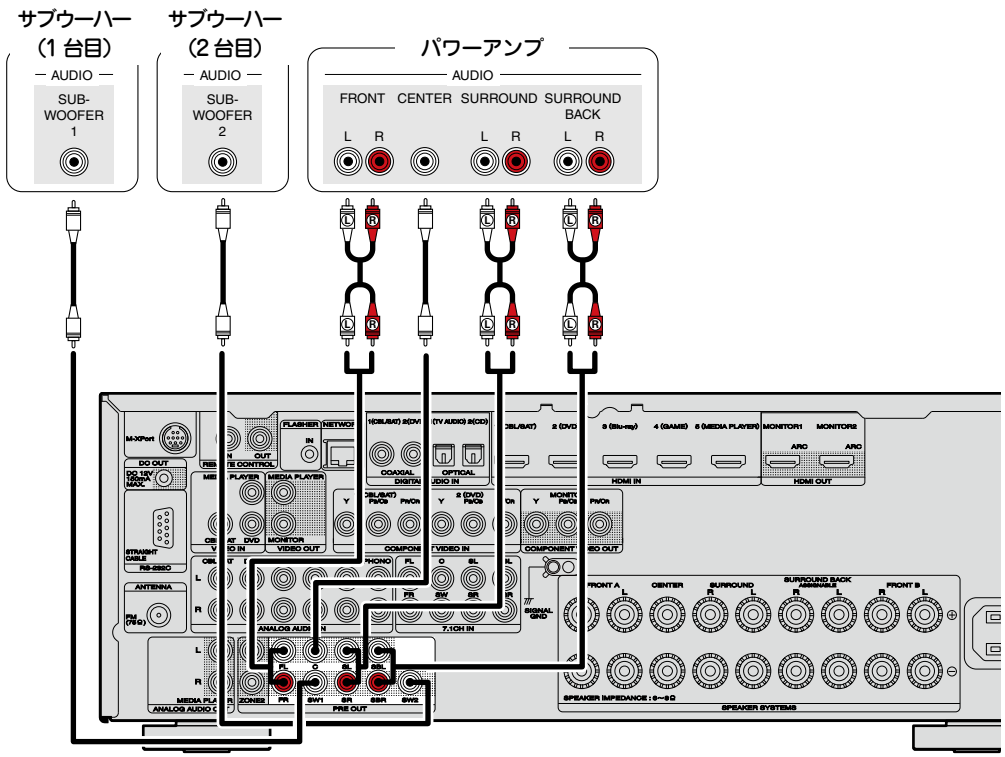
- マルチチャンネル音声出力端子を持つ機器を接続して、音楽や動画を楽しむことができます。
- 7.1CH IN 端子に入力したアナログ信号を再生する場合は、“入力モード”（☞125 ページ）を“7.1CH IN”に設定してください。
- 映像信号はブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーと同じ方法で接続することができます（☞19 ページ“DVD プレーヤーを接続する”または☞20 ページ“ブルーレイディスクプレーヤーを接続する”）。
- 7.1CH IN の SBL/SBR 端子に接続する場合は、“アサインモード”（☞127 ページ）を“Surround Back”に設定してください。



外部のパワーアンプと接続する

- 市販のパワーアンプを本機の PRE OUT 端子に接続すると、本機をプリアンプとして使用することができます。各チャンネルにパワーアンプを追加することで、さらにサウンドの臨場感を高めることができます。
- ご使用になる端子を選んで接続してください。

- サラウンドバックスピーカーを 1 本のみご使用になる場合は、左チャンネル(L)に接続してください。
- サブウーハーの音量は、ご使用のサブウーハー側で調節してください。
- サブウーハーの音量が小さく感じられる場合は、サブウーハーに装備されている音量調節機能を使用して音量を調節してください。



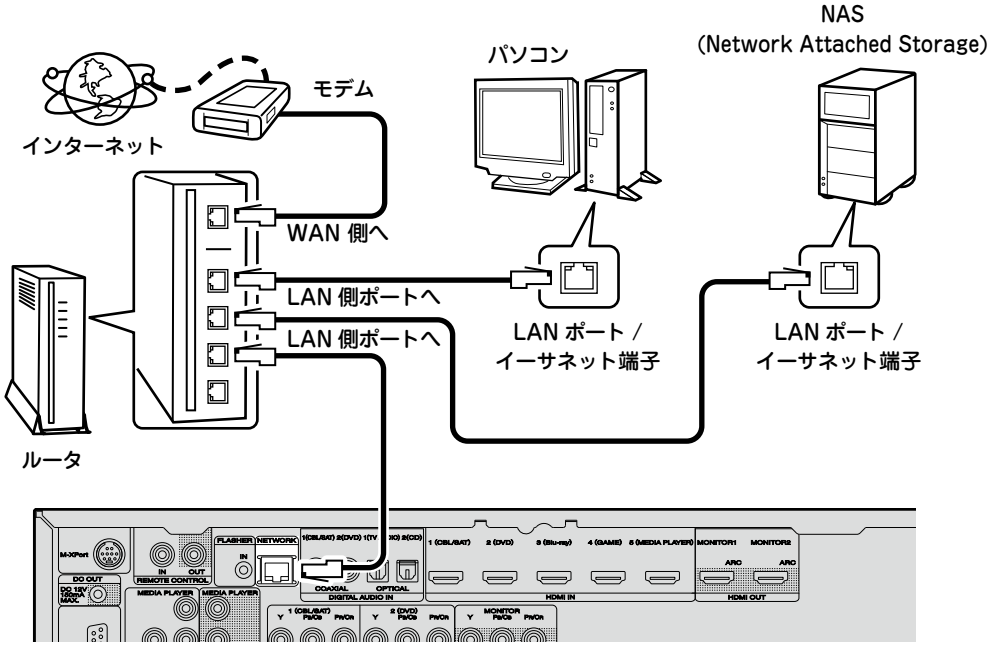
ホームネットワーク(LAN)に接続する

本機はホームネットワーク(LAN)に接続して、次のさまざまな再生や操作をおこなうことができます。本機のネットワークの接続については、このページの説明をよく読んでおこなってください。

- インターネットラジオやミュージックサーバーなどのネットワークオーディオの再生
- 各種オンラインサービスからの楽曲の再生
- AirPlay
- ネットワークを経由した本機の操作

また、本機の改良などのためにファームウェアがアップデートしたときは、当社からネットワークを経由してアップデートをお知らせする情報を配信します。それにより最新版のファームウェアをダウンロードすることができます。
詳しくは、メニューの"アップデート"(☞138 ページ)をご覧ください。

ホームネットワーク(LAN)の接続が完了したら、ネットワーク設定が必要です。詳しくは、メニューの"ネットワーク"(☞130 ページ)をご覧ください。



インターネットの接続については、ISP(インターネット・サービスプロバイダ)またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。

必要なシステム

❏ブロードバンド回線による インターネット接続

❏モデム

ブロードバンド回線と接続して、インターネットと通信をおこなうための機器です。ルータと一体型のものもあります。

❏ルータ

本機を使用するにあたって、次の機能が装備されているルータをおすすめします。

- DHCP サーバー内蔵
  LAN 上の IP アドレスを自動的に割り振る機能です。
- 100BASE-TX スイッチ内蔵
  複数の機器を接続するために、100Mbps 以上の速度のスイッチングハブを内蔵していることをおすすめします。

❏イーサネットケーブル (CAT-5 以上を推奨)

- STP タイプまたは ScTP タイプのシールド LAN ケーブルをお使いください。
- イーサネットケーブルは、シールド付きのノーマルタイプをおすすめします。フラットタイプのケーブルやシールドされていないケーブルをご使用になると、ノイズが他の機器に影響を及ぼす可能性があります。

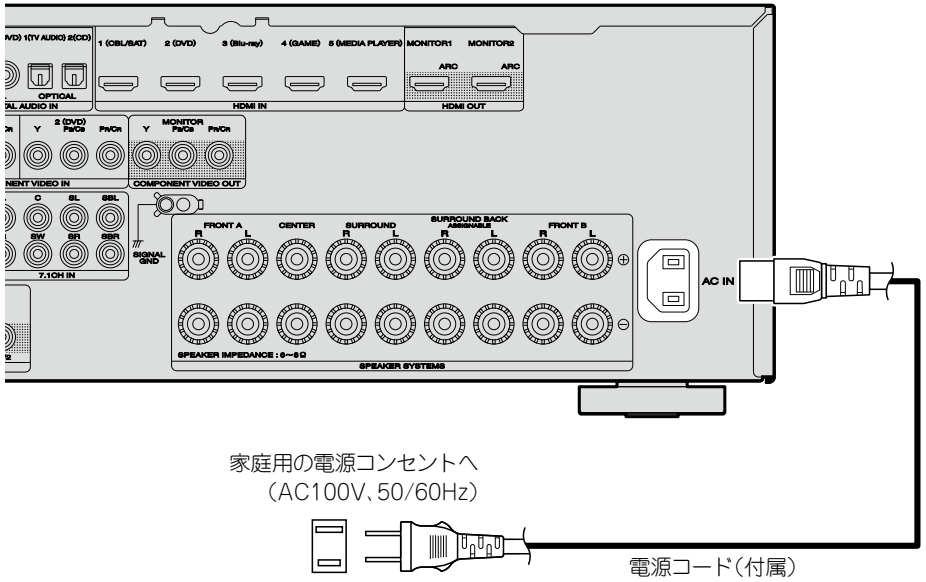
- ネットワークの設定を手動でおこなうタイプの回線で、プロバイダ契約を結んでいる場合は、メニューの"ネットワーク"(☞130 ページ)の設定をおこなってください。
- ブロードバンドルータ(DHCP 機能)をお使いの場合は、本機が自動的に IP アドレスなどの設定をおこないます。
- DHCP 機能のないネットワークに本機を接続してお使いになる場合は、メニューの"ネットワーク"(☞130 ページ)で、IP アドレスなどの設定をおこなってください。
- 手動で設定する場合は、設定内容をネットワーク管理者に確認してください。

ご注意

- インターネットに接続するには、ISP と契約する必要があります。
  すでにブロードバンド回線を利用してインターネットに接続されている場合は、新たに契約する必要はありません。
- ISP 業者によって使用できるルータの種類が異なります。詳しくは、ISP 業者またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。
- 当社では、お客様のネットワーク環境および接続機器に関する通信エラーや不具合については一切責任を負いません。
- 本機は PPPoE に対応していません。PPPoE で設定するタイプの回線契約を結んでいる場合は、PPPoE 対応のルータが必要です。
- NETWORK 端子は、直接パソコンの LAN ポート / イーサネット端子と接続しないでください。
- オーディオ再生をおこなう場合は、オーディオ再生対応のルータをお使いください。

電源コードを接続する

すべての接続が完了したら、電源プラグをコンセントに差し込みます。



ご注意

- **すべての接続が終わるまで電源プラグをコンセントに差し込まないでください。ただし、“セットアップアシスタント”（8 ページ）メニューを操作中は“セットアップアシスタント”メニューの指示に従って接続してください。（“セットアップアシスタント”メニューを操作中、入出力端子は通電しません。）**
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。ハム音や雑音の原因となることがあります。

設定のしかた

ここではお使いになるスピーカーに最適な設定を自動的におこなう“Audyssey® セットアップ”と、本機をホームネットワーク（LAN）に接続して使用できるようにする“ネットワーク”について説明します。
本機はホームネットワーク（LAN）を介して、パソコンに保存している音楽ファイルやインターネットラジオの再生をお楽しみいただけます。

❏ スピーカーを接続する（☞82 ページ）

❏ Audyssey® セットアップ（☞32 ページ）

❏ ネットワークの設定をする（ネットワーク）（☞39 ページ）

再生のしかた（基本操作）（☞40 ページ）

リスニングモードを選ぶ（サウンドモード）（☞72 ページ）

再生のしかた（応用操作）（☞96 ページ）

Audyssey® セットアップ

GUI

接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的におこないます。この機能を“Audyssey® セットアップ”と呼びます。
測定は、リスニングエリア全体の複数の位置にセットアップマイクを設置しておこないます。最善の結果を得るためには、6 箇所以上（最大で 8 箇所）の測定をすることをおすすめします。

- “Audyssey® セットアップ”をおこなうと、Audyssey MultEQ® XT/Audyssey Dynamic EQ®/Audyssey Dynamic Volume® の機能（☞114 ページ）が有効になります。
- 手動でスピーカーの設定をしたい場合は、メニューの“スピーカー”（☞126 ページ）でおこなってください。

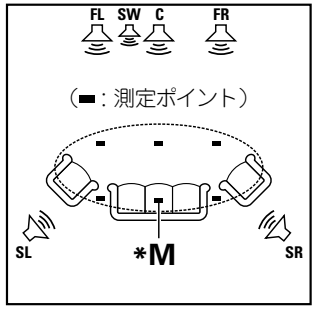
ご注意

- できるだけ部屋を静かにしてください。騒音は測定の妨げとなります。窓を閉め、電化製品（テレビ、ラジオ、エアコン、蛍光灯など）の電源を切ってください。測定の際、これらの製品による騒音の影響を受ける場合があります。
- 測定中、携帯電話はリスニングルーム以外の場所に置いてください。携帯電話の電波が測定を妨げる原因になることがあります。
- セットアップマイクは、“Audyssey® セットアップ”が完了するまで、絶対に抜かないでください。
- 測定中は、スピーカーとセットアップマイクの間に立ったり、障害物を置いたりしないでください。正しい測定ができません。
- 測定中に大きなテストトーンを出力しますが、これは正常な動作です。リスニングルーム内の騒音が大きいほどテストトーンの音量が大きくなります。
- 測定中にリモコンの **VOLUME ▲▼** または本機の **VOLUME** を操作すると、測定を中止します。
- ヘッドホンを接続している場合、測定はできません。“Audyssey® セットアップ”をおこなう前に、ヘッドホンのプラグを抜いてください。

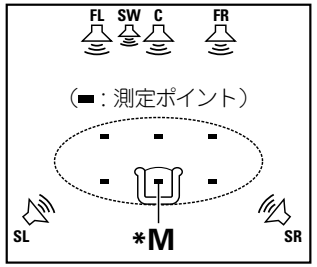
セットアップマイクの設置場所について

- 測定は、【例 ①】に示すようにリスニングエリア全体の複数の位置に付属のセットアップマイクを設置しておこないます。最善の結果を得るため、図のように 6 箇所またはそれ以上（最大で 8 箇所）で測定することをおすすめします。
- リスニング環境が【例 ②】に示すように狭い場合でも、リスニングエリア全体の複数の位置で測定すると、より精度が高い設定ができます。

【例 ①】



【例 ②】



FL	フロントスピーカー（左）	SW	サブウーハー
FR	フロントスピーカー（右）	SL	サラウンドスピーカー（左）
C	センタースピーカー	SR	サラウンドスピーカー（右）

メインリスニングポイント（* M）について

メインリスニングポイントとは、最もリスナーが座る位置または一人で視聴するときに座る位置です。“Audyssey® セットアップ”をはじめる前に、セットアップマイクをメインリスニングポイントに設置してください。Audyssey MultEQ® XT は、この位置から測定した値を用いて、スピーカーの距離、レベル、極性およびサブウーハーの最適なクロスオーバー周波数を計算します。

1 付属のセットアップマイクを準備する

セットアップマイクを三脚またはスタンドに取り付けて、メインリスニングポイントに設置する。

セットアップマイクを設置する場合は、受音部をリスニング時の耳の高さにあわせて調節してください。

三脚やスタンドがない場合は、背もたれのない椅子などに設置してください。

ご注意

- セットアップマイクを手で持ちながら測定しないでください。
- セットアップマイクを座席の背もたれや壁の近くに置くと、音の反響で正しい測定ができない場合があります。

2 サブウーハーの設定をする

次の設定ができるサブウーハーをお使いの場合のみ、この設定をおこなってください。

詳しくは、お使いのサブウーハーの取扱説明書をご覧ください。

❑ ダイレクトモード機能があるサブウーハーをお使いの場合

ダイレクトモード機能を“オン”にして、音量とクロスオーバー周波数の設定を無効にしてください。

❑ ダイレクトモード機能がないサブウーハーをお使いの場合

次のように設定してください。

- **音量の設定**：“12 時”の位置
- **クロスオーバー周波数の設定**：“最大 / 最高周波数”
- **ローパスフィルターの設定**：“オフ”
- **スタンバイモードの設定**：“オフ”

ご注意

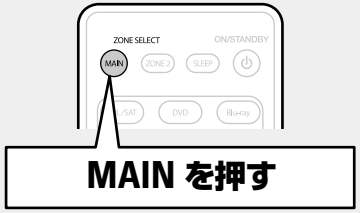
サブウーハーを同時に 2 本使用する場合は、“Audyssey® セットアップ”をはじめる前に、メニューの“サブウーハーレベル”（☞128 ページ）でサブウーハーの音量を調節してください。サブウーハーの音量は個別に設定できません。

3 リモコンの設定をする

❑ リモコンを使用するゾーンを設定する（リモコン操作モード）

MAIN を押して、リモコン操作モードをメインゾーンに切り替える。

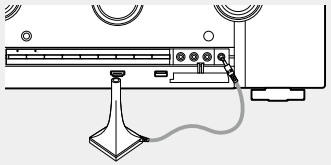
MAIN が点灯します。



☞ 次のページへ

準備

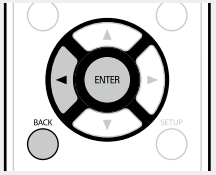
4 セットアップマイクを本体の SETUP MIC 端子に接続する。



セットアップマイクを接続すると、テレビに次のセットアップ画面を表示します。

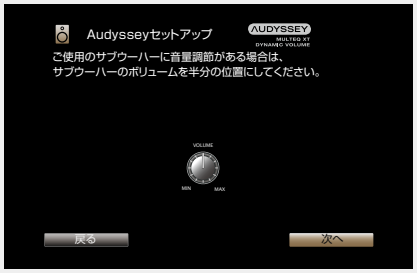
- ここでは、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル再生の設定方法について説明しています。
  サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル以外の設定のしかたは、「“アンプの割り当て” の設定」（☞92 ページ）の手順 3～6 をおこなってください。
  また、“チャンネルセレクト” で、測定しないチャンネルをあらかじめ設定すると、測定時間を短縮することができます。操作のしかたは、「“チャンネルセレクト” の設定」（☞93 ページ）の手順 7～11 をおこなってください。

5 “スタート”を選び、ENTER を押す。



6 “次へ”を選び、ENTER を押す。

サブウーハーの音量設定画面を表示します。



スピーカー検出と測定（メイン）

このステップでは、スピーカー接続の有無や大きさ、チャンネルレベル、距離およびクロスオーバー周波数を自動的に計算します。また、リスニングエリア内の音響歪みを補正します。

7 “テスト開始”を選び、ENTER を押す。

各スピーカーからテストトーンを出力し、測定を開始します。

- 測定には数分間かかります。

8 検出されたスピーカーを表示します。

- 次の図は、フロントスピーカー / センタースピーカー / サブウーハー / サラウンドスピーカー / サラウンドバックスピーカーを検出したときの表示例です。

ご注意

接続しているスピーカーが表示されない場合は、スピーカーが正しく接続されていないことが考えられます。スピーカーの接続を確認してください。

9 “次のページ”を選び、ENTER を押す。

☞ 次のページへ

スピーカー検出と測定（メイン）（つづき）

ご注意

テレビ画面に“注意！”が表示された場合

「エラーメッセージについて」（☞38 ページ）をご覧ください。関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。

エラーが解決したら、再び“Audyssey® セットアップ”をはじめからおこなってください。

1 つ前の画面に戻るとき

“戻る”を選び、**ENTER** を押す。

測定を中止するとき

① **BACK**を押して、ポップアップ画面を表示させる。
② ◁を押して“はい”を選び、**ENTER**を押す。

再度スピーカーを設定するとき

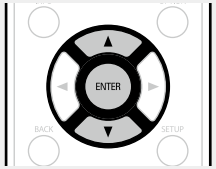
手順 4 以降の操作をおこなってください。

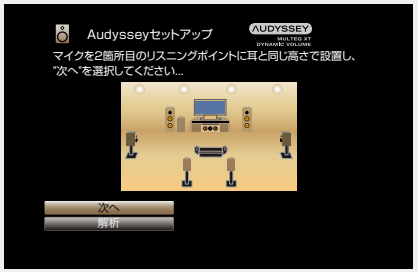
測定（2～8 箇所目）

- このステップでは、メインリスニングポイント以外の複数の箇所（2～8 箇所）を測定します。
- メインリスニングポイントの 1 箇所のみでも測定可能ですが、複数の箇所を測定すると、リスニングエリア内の音響歪みの補正精度をより高くすることができます。

10 **2 箇所目にセットアップマイクを移動させ、“次へ”を選び、ENTER を押す。**

2 箇所目の測定をはじめます。
最大 8 箇所まで測定できます。





- 3 箇所目以降のリスニングポイントの測定を省略する場合は、△▽ で“解析”を選んで **ENTER** を押し、手順 13 へ進んでください。
- 2 箇所目を再測定したい場合は、△▽ で“再検出”を選び、**ENTER** を押してください。

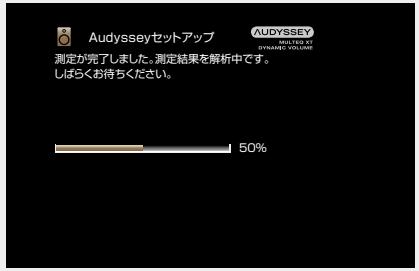
11 **手順 10 をくり返して 3～8 箇所を測定する。**

8 箇所目の測定が完了すると、“測定が完了しました。”を表示します。

☞ 次のページへ

解析

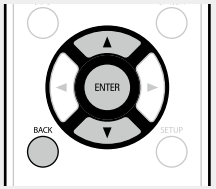
12 **“解析”を選び、ENTER を押す。**
測定結果を自動的に解析し、リスニングルームにおける各スピーカーの特性を決定します。



- 解析には数分間かかります。
  接続するスピーカーの数と測定箇所が多くなるほど、解析に要する時間は長くなります。

解析結果の確認

13 **△▽ を押して確認したい項目を選び、ENTER を押す。**



- サブウーハーなどでは、実際の距離と異なる値に設定される場合があります。
- 他の項目を確認したいときは、**BACK** を押してください。

ご注意

- 接続している状態と異なる結果や“注意！”が表示された場合は、「エラーメッセージについて」（☞38 ページ）をご覧ください。エラーが解決したら、再度“Audyssey® セットアップ”をはじめからおこなってください。
- スピーカーの位置や向きを変えた場合は、最適なイコライザーの補正を得るために、再び“Audyssey® セットアップ”をおこなってください。

保存

14 **“保存”を選び、ENTER を押す。**
測定結果を保存します。

- 保存には 10 秒程度かかります。
- 測定結果の保存中は“保存中です。しばらくお待ちください。”を表示します。保存が終了すると、“保存しました。これで、“Audyssey セットアップ”は完了です。マイクを抜いてください。”を表示します。

ご注意

測定結果の保存中は、絶対に電源を切らないでください。

☞ 次のページへ

終了

15 本体の SETUP MIC 端子からセットアップマイクを抜く。

16 Audyssey Dynamic Volume® の設定をする。

- Dynamic Volume は、本機に入力した音声レベルを常にモニタリングしながら最適な出力音量に調節する機能です。テレビ番組の再生中にコマーシャルの音が急に大きく再生される場合などに、音のダイナミック感や明瞭感を損なうことなく適切な音量調節を自動的におこないます。

❑ Dynamic Volume の設定をするとき

- △ を押して“はい”を選び、**ENTER** を押す。
  自動的に“Medium”モードになります（☞115 ページ）。

❑ Dynamic Volume の設定をしないとき

- ▽ を押して“いいえ”を選び、**ENTER** を押す。

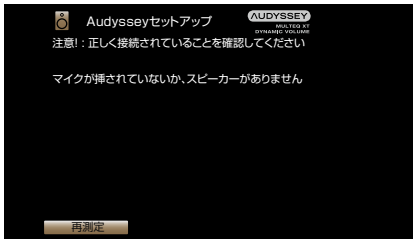
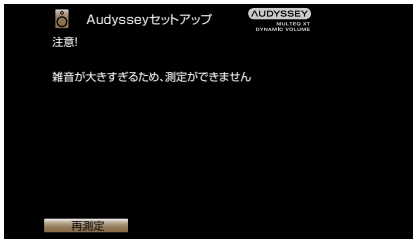
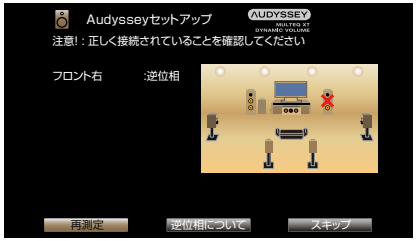
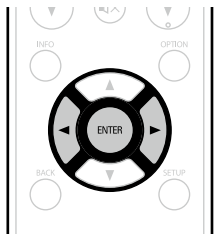
ご注意

“Audyssey® セットアップ”をおこなったあとに、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。変更した場合は、最適なイコライザーの補正効果を得るために、再び“Audyssey® セットアップ”をおこなってください。

エラーメッセージについて

ご注意

- スピーカーの設置や測定環境などにより“Audyssey® セットアップ”を完了できなかった場合に、エラーメッセージを表示します。エラーメッセージが表示された場合は、関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。エラーが解決したら、再び“Audyssey® セットアップ”をはじめからおこなってください。
- 再測定後も、接続している状態と異なる結果やエラーメッセージが表示された場合は、接続を間違えている可能性があります。必ず本機の電源を切り、スピーカーの接続を確かめ、最初から測定をやり直してください。
- スピーカーの接続を確認するときは、必ず電源を切ってください。

エラーメッセージ（例）	エラーの内容	エラーの処理方法
	• 接続しているセットアップマイクが壊れているか、付属以外のセットアップマイクを接続している。 • 接続しているすべてのスピーカーが検出されない。	• 付属のセットアップマイクを、本体の SETUP MIC 端子に接続してください。 • スピーカーの接続を確認してください。
	• 部屋の騒音が大きいため、正しい測定ができない。 • スピーカーやサブウーハーの音量が小さいため、正しい測定ができない。	• 騒音を発生する機器の電源を切るか、機器を遠ざけてください。 • 周囲がより静かなときに再度おこなってください。 • スピーカーの設置や向きを確認してください。 • サブウーハーの音量を調節してください。
	• 表示されたスピーカーが検出されない。 （左の画面は、フロント右スピーカーが検出できないことをあらわします。）	• 表示されたスピーカーの接続を確認してください。
	• 表示されたスピーカーの位相が逆である。 （左の画面は、フロント右スピーカーの位相が逆になっていることをあらわします。）	• 表示されたスピーカーの極性を確認してください。 • スピーカーや部屋の環境によっては、正しく接続してもエラーメッセージが表示される場合があります。このような場合は、◁ ▷ を押して“スキップ”を選び、**ENTER** を押してください。 

パラメーターを確認する

“Audyssey® セットアップ” をおこなったあとに、測定結果やイコライザーの種類を確認できます。

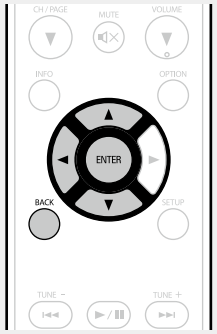
1 **SETUP を押して、テレビ画面にメニューを表示させる。**

2 **△▽ を押して“スピーカー”⇨“Audyssey® セットアップ”を選び、ENTER または ▷ を押す。**

3 **△▽ を押して“パラメーター確認”を選び、ENTER を押す。**

4 **△▽ を押して確認したい項目を選び、ENTER を押す。**
スピーカーごとに測定結果を表示します。

スピーカー構成	スピーカーの構成を確認します。
距離	スピーカーの距離を確認します。
レベル	スピーカーのチャンネルレベルを確認します。
クロスオーバー周波数	スピーカーのクロスオーバー周波数を確認します。
イコライザー	イコライザーの補正カーブを確認します。



- “イコライザー” を選んだ場合は、△▽ を押して確認したい補正カーブ（“Audyssey” または “Audyssey Flat”）を選んでください。
△▽ を押すと、各スピーカーの表示を切り替えることができます。

5 **◁ または BACK を押す。**
確認画面に戻ります。手順 2 をくり返しおこなってください。

“Audyssey® セットアップ”の設定値に戻すとき

“再設定” で “はい” を選ぶと、各設定を手動で変更した場合でも “Audyssey® セットアップ” の測定結果（MultEQ® XT が当初計算した値）に戻すことができます。

ネットワークの設定をする（ネットワーク）

GUI

本機をホームネットワーク（LAN）に接続して、インターネットラジオやパソコンに保存されている音楽ファイルや静止画像（JPEG）ファイルを再生することができます。

1 **イーサネットケーブルを接続する（☞30 ページ「ホームネットワーク（LAN）に接続する」）。**

2 **本機の電源を入れる（☞40 ページ）。**
本機は DHCP 機能によって自動的にネットワークの設定をおこないます。
DHCP 機能がないネットワークに接続するときは、メニューの “接続の設定”（☞132 ページ）をおこなってください。

設定のしかた（☞32 ページ）

❑ 本機の電源を入れる（☞40 ページ）
❑ 入力ソースを選ぶ（☞40 ページ）
❑ 主音量を調節する（☞41 ページ）
❑ 一時的に音を消す（ミューティング）（☞41 ページ）

❑ ブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーを再生する（☞41 ページ）
❑ Super Audio CD を再生する（☞41 ページ）
❑ CD プレーヤーを再生する（☞42 ページ）
❑ iPod を再生する（☞43 ページ）
❑ USB メモリーを再生する（☞46 ページ）
❑ FM 放送を聴く（☞49 ページ）

❑ インターネットラジオを聴く（☞57 ページ）
❑ パソコンや NAS に保存されているファイルを再生する（☞60 ページ）
❑ オンラインサービスを利用する（☞64 ページ）
❑ 便利な機能（☞66 ページ）
❑ AirPlay 機能（☞70 ページ）

リスニングモードを選ぶ（サウンドモード）（☞72 ページ）

再生のしかた（応用操作）（☞96 ページ）

知っておいてほしいこと

再生する前に、あらかじめ各機器との接続や本機の設定をおこなってください。

再生するときは、接続した機器の取扱説明書もご覧ください。

本機の電源を入れる

ON/STANDBY ⏻ を押して、本機の電源を入れる。
電源表示が緑色に点滅し、電源が入ります。

本体の ⏻ **ON/STANDBY** を押しても電源を入れることができます。

❑本機の電源をスタンバイにする

ON/STANDBY ⏻ を押す。

【スタンバイ時の本体の電源表示】
- 通常のスタンバイ時：赤色
- メニューの“HDMI コントロール”（☞119 ページ）の設定が“オン”のとき：オレンジ色
- メニューの“IP コントロール”（☞131 ページ）の設定が“常時オン”のとき：オレンジ色

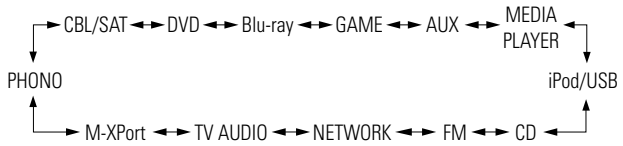
入力ソースを選ぶ

再生する入力ソース選択ボタン（CBL/SAT、DVD、Blu-ray、GAME、AUX、MEDIA PLAYER、TV AUDIO、CD、TUNER、iPod/USB、PHONO、M-XPort、NETWORK または INTERNET RADIO）を押す。
入力ソースをダイレクトに選べます。

次の操作方法でも入力ソースを選ぶことができます。

❑本体の操作で入力ソースを選ぶ

INPUT SELECTOR を回す。
- **INPUT SELECTOR** を回すと、入力ソースが次の順序で切り替わります。



主音量を調節する

VOLUME ▲▼ を押して、音量を調節する。

- メニューの“表示方法”（☞114 ページ）の設定により、音量の表示方式が異なります。

❑ **“表示方法”の設定（☞114 ページ）が“0～98”のとき**

【調節できる範囲】 0.0　0.5 ~98.0

❑ **“表示方法”の設定（☞114 ページ）が“-79.5dB～18.0dB”のとき**

【調節できる範囲】 - - -.-　-79.5dB ~18.0dB

- 入力信号やチャンネルレベルの設定などにより、調節できる範囲が異なります。

本体の **VOLUME** を回しても、主音量を調節できます。

一時的に音を消す（ミューティング）

MUTE 🔇 を押す。

- ディスプレイに“MUTE”が表示されます。
- テレビ画面に 🔇 を表示します。

- メニューの“ミューティングレベル”（☞135 ページ）で設定したレベルまで音量が減衰します。
- ミューティングを解除するときは、再度 **MUTE** 🔇 を押してください。ミューティング中に主音量を調節しても解除します。

ブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーを再生する

ブルーレイディスクプレーヤーと DVD プレーヤーの再生のしかたを説明します。

1 再生の準備をする。

① テレビやサブウーハー、プレーヤーの電源を入れる。
② テレビの入力を、本機の入力に設定する。
③ プレーヤーにディスクを入れる。

2 ON/STANDBY ⏻ を押して、本機の電源を入れる。

3 Blu-ray または DVD を押して、再生するプレーヤーの入力ソースに切り替える。

4 ブルーレイディスクプレーヤーまたは DVD プレーヤーを再生する。

- あらかじめプレーヤーの設定（言語設定や字幕設定など）をおこなってください。

Super Audio CD を再生する

Super Audio CD の再生のしかたを説明します。

1 再生の準備をする。

① サブウーハー、プレーヤーの電源を入れる。
② プレーヤーにディスクを入れる。

2 ON/STANDBY ⏻ を押して、本機の電源を入れる。

3 メニューの“入力端子の割り当て”（☞123 ページ）の設定をする。

再生する入力ソースに、HDMI 端子を割り当てる。
（例：DVD）

4 入力ソース選択ボタン（例：DVD）を押して、手順 3 で割り当てた入力ソースに切り替える。

5 メニューの“入力モード”（☞125 ページ）で、入力モードを“オート”に設定する。

- “入力モード”のお買い上げ時の設定は、“オート”です。

6 本機に接続した機器を再生する。

Super Audio CD を再生する場合は、DSD 信号を PCM 信号に変換してからアナログ信号に変換します。

CD プレーヤーを再生する

CD プレーヤーの再生のしかたを説明します。

1 **再生の準備をする。**

① サブウーハー、プレーヤーの電源を入れる。

② プレーヤーにディスクを入れる。

2 **ON/STANDBY ⏻ を押して、本機の電源を入れる。**

3 **CD を押して、入力ソースを“CD”に切り替える。**

4 **CD プレーヤーを再生する。**

iPod を再生する

iPod に付属の iPod ケーブルを使用して、iPod を本機の iPod/USB 端子に接続すると、iPod の音楽を楽しむことができます。
本機で再生できる iPod は、「iPod/USB 端子に iPod または USB メモリーを接続する」(☞23 ページ) をご覧ください。

iPod の音楽を聴く

iPod の表示モードには、“ダイレクトモード” と“リモートモード” があります。
お買い上げ時の設定は、iPod の画面を見ながら直接 iPod 本体を操作する“ダイレクトモード” です。
iPod の情報をテレビ画面に表示させて操作する“リモートモード” に変更したい場合は、「リモートモードの設定(オペレーションモード)」(☞44 ページ) をご覧ください。

1 iPod ケーブルを使って iPod を接続する場合は本機の iPod/USB 端子に接続する (☞23 ページ)。

2 **ON/STANDBY ⏻ を押して、本機の電源を入れる。**

3 **iPod/USB を押して、入力ソースを“iPod/USB” に切り替える。**
本体のディスプレイに“Direct Mode”を表示します。
• テレビの画面には何も表示しません。

4 iPod の画面を見ながら直接 iPod 本体を操作して音楽を再生する。

❏iPhone、iPod touch、iPad の音楽ファイルを本機で再生する (☞70 ページ)

❏iTunes の音楽を本機で再生する (☞70 ページ)

オプションメニューでできる操作

OPTION ボタンを押すと、現在操作できる機能のメニューをテレビ画面に表示します。この中から操作したい機能を選んで操作してください。簡単に目的の機能を探して操作できます。

- ❏ **リモートモードの設定 (オペレーションモード) (☞44 ページ)**
- ❏ **リピート再生をする(リピート) (☞45 ページ)**
- ❏ **ランダム再生をする(ランダム) (☞45 ページ)**

☞ 次のページへ

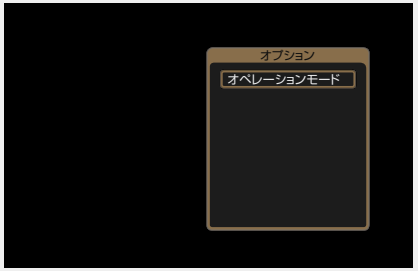
❏リモートモードの設定（オペレーションモード）

iPod の各種リストや再生中の表示をテレビ画面に表示します。
ここでは、リモートモードで iPod の曲を再生するまでの手順を説明します。

1 iPod/USB を押して、入力ソースを“iPod/USB”に切り替える。

2 OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

3 “オペレーションモード”を選び、ENTER を押す。
オペレーションモード画面を表示します。



4 ◁ ▷ を押して“ブラウズモード”を選び、ENTER を押す。
iPod 画面を表示します。

- 本体のディスプレイには、半角英数字と一部の記号のみ表示することができます。対応していない文字は、“.（ピリオド）”に置き換えて表示します。
- ダイレクトモードとリモートモードの操作一覧は次のとおりです。

表示モード		ダイレクトモード	リモートモード
再生できるファイル	音楽ファイル	✓	✓
	映像ファイル	＊	
操作できるボタン	リモコン（本機）	✓	✓
	iPod	✓	

＊音声のみ再生します。

5 △▽ を押して項目を選び、ENTER または ▷ を押して再生したいファイルを選ぶ。

6 ENTER、▷ または ►/❚❚ を押す。
再生をはじめます。

❏音質を調節する（M-DAX）

メニューの“M-DAX”（☞113 ページ）で設定してください。
“M-DAX”機能を使用すると、圧縮前の音に近い状態に復元し、同時に低音域の量感の補正もおこなうため、より豊かな再生ができます。お買い上げ時の設定は、“オフ”です。

❏画面の表示時間を変更する

メニューの“再生画面の表示”（☞121 ページ）で設定してください。お買い上げ時の設定は、“30s”です。
画面表示が消えているときに △▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。

❏ディスプレイ表示を切り替える

リモートモードで再生中に本体の **STATUS** を押します。
ボタンを押すたびにタイトル名、アーティスト名、アルバム名などを切り替えて表示します。

ご注意

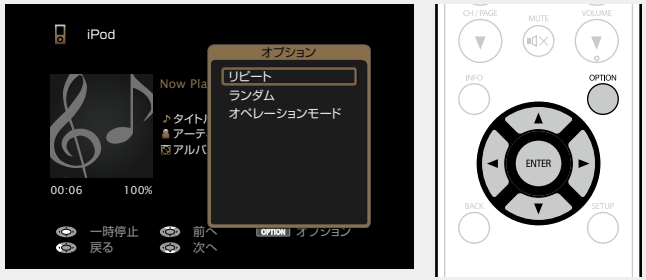
- iPod の種類またはソフトウェアのバージョンによっては、機能の一部が動作しない場合があります。
- 万一 iPod のデータが消失または損傷しても、当社は一切責任を負いません。

☞ 次のページへ

❏リピート再生をする（リピート）

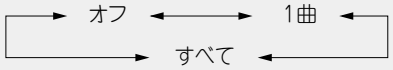
1 リモートモード中に **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

2 △▽ を押して“リピート”を選び、**ENTER** を押す。



3 ◁ ▷ を押して、リピート再生モードを選ぶ。

•◁ ▷ を押すたびに、次の順序でリピート再生モードが切り替わります。



オフ リピート再生モードを解除します。

1曲 再生中の曲をリピート再生します。

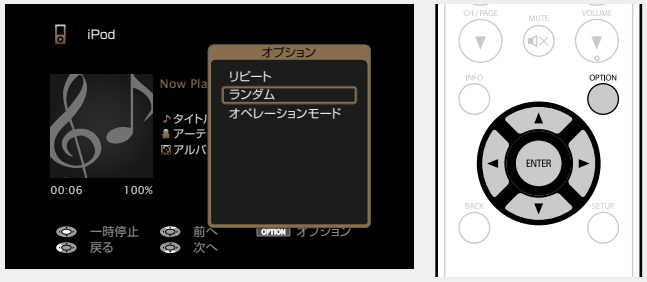
すべて 現在再生中のフォルダにあるすべての曲をリピート再生します。

4 **ENTER** を押す。
再生画面に戻ります。

❏ランダム再生をする（ランダム）

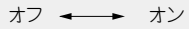
1 リモートモード中に **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

2 △▽ を押して“ランダム”を選び、**ENTER** を押す。



3 ◁ ▷ を押して、ランダム再生モードを選ぶ。

•◁ ▷ を押すたびに、次の順序でランダム再生モードが切り替わります。



オフ ランダム再生モードを解除します。

オン ランダム再生モードを有効にします。

4 **ENTER** を押す。
再生画面に戻ります。

ランダム再生は、曲の再生が終わるたびにすべての曲からランダムに再生する曲を選びます。そのため、同じ曲を続けて再生する場合があります。

❏iPod 再生時に使用できるボタン

操作ボタン	機能
CH/PAGE ▲▼	ページ検索
INFO	入力ソース名 / 音量 / サウンドモード名などの情報表示
OPTION	ダイレクトモードとリモートモードの切り替え / リピート再生 / ランダム再生
△▽◁ ▷	カーソル操作 / オートサーチ（頭出し、△▽）/ マニュアルサーチ（長押し、△▽）
ENTER（短押し）	確定
ENTER（長押し）	停止
BACK	リターン
SETUP	セットアップメニュー
⏮ ⏭	オートサーチ（頭出し）
▶/❚❚	再生 / 一時停止

USB メモリーを再生する

USB メモリーに保存されている音楽ファイルや静止画像を再生できます。

知っておいてほしいこと

- 本機は、マスストレージクラスおよび MTP（Media Transfer Protocol）に対応している USB メモリーのみ再生できます。
- USB メモリーは、FAT16 または FAT32 フォーマットに対応しています。
- 本機で対応している MP3 ファイルの規格は、MPEG-1 Audio Layer-3 です。
- 本機で再生できるファイルの種類や仕様は、次のとおりです。

【再生できるファイルの種類】

再生できるファイルの種類	USB メモリー *1
WMA (Windows Media Audio)	✓*2
MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3)	✓
WAV	✓
MPEG-4 AAC	✓*3
FLAC (Free Lossless Audio Codec)	✓
JPEG	✓
ALAC (Apple Lossless Audio Codec)	✓

*1 USB メモリーについて
- MP3 ID3 タグ（バージョン 2）に対応しています。
- 本機では、MP3 ID3 タグのバージョン 2.3 または 2.4 を使用して、アートワークを表示できます。
- WMA META タグに対応しています。
- アルバムアートの画素サイズ（ピクセル）が 500 × 500（WMA/MP3/WAV/FLAC）または 349 × 349（MPEG-4 AAC）を超えている場合は、正しく再生できないことがあります。
- WAV フォーマットの量子化ビット数は、16 ビットです。
- FLAC フォーマットの量子化ビット数は、16 または 24 ビットです。

*2 MTP に対応した一部のポータブルプレーヤーでは、著作権保護のあるファイルを再生できます。

*3 著作権保護のないファイルのみ再生できます。
インターネット上の有料音楽サイトからダウンロードしたコンテンツには著作権保護がかかっています。また、パソコンで CD などからリッピングする際に WMA でエンコードすると、パソコンの設定により著作権保護がかかる場合があります。

ご注意

本機が対応していない形式のファイルは表示しません。

【再生できるファイルの仕様】

	サンプリング周波数	ビットレート	拡張子
WMA (Windows Media Audio)	32/44.1/48kHz	48～192kbps	.wma
MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3)	32/44.1/48kHz	32～320kbps	.mp3
WAV	32/44.1/48/88.2/96/176.4/192 kHz	–	.wav
MPEG-4 AAC	32/44.1/48kHz	16～320kbps	.aac/ .m4a/ .mp4
FLAC (Free Lossless Audio Codec)	32/44.1/48/88.2/96/176.4/192 kHz	–	.flac
ALAC (Apple Lossless Audio Codec)*	32/44.1/48/88.2/96kHz	–	.m4a

* Copyright [2012] [D&M Holdings. Inc.]
Apache License Version 2.0（「本ライセンス」）に基づいてライセンスされます。このファイルを使用するためには、本ライセンスに従わなければなりません。本ライセンスのコピーは下記の URL から入手できます。
http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0

❑再生可能な最大ファイル数とフォルダ数

本機で表示できるフォルダやファイルの制限数は次のとおりです。

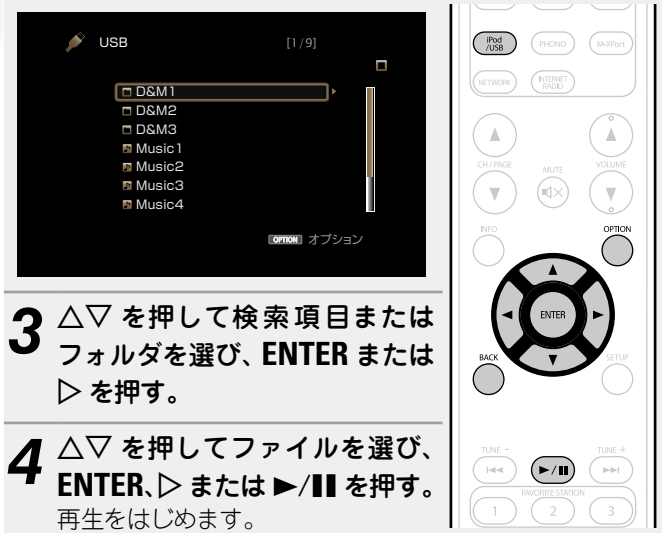
項目 ＼ メディア	USB メモリー
メモリーの容量	FAT16：2GB、FAT32：2TB
フォルダの階層数 *1	8 階層
フォルダ数	500
ファイル数 *2	5000

*1 制限数にはルートフォルダを含みます。
*2 USB メモリーの容量やファイルサイズにより、許容ファイル数が変わる場合があります。

USB メモリーに保存されているファイルを再生する

1 USB メモリーを iPod/USB 端子に接続する（☞23 ページ）。

2 **iPod/USB** を押して、入力ソースを“iPod/USB”に切り替える。



3 △▽ を押して検索項目またはフォルダを選び、**ENTER** または ▷ を押す。

4 △▽ を押してファイルを選び、**ENTER**、▷ または ►/❚❚ を押す。
再生をはじめます。

❑音質を調節する（M-DAX）

メニューの“M-DAX”（☞113 ページ）で設定してください。
“M-DAX”機能を使用すると、圧縮前の音に近い状態に復元し、同時に低音域の量感の補正もおこなうため、より豊かな再生ができます。お買い上げ時の設定は、“オフ”です。

❑1 つ前の画面に戻る

◁ または **BACK** を押す。

❑画面の表示時間を変更する

メニューの“再生画面の表示”（☞121 ページ）で設定してください。お買い上げ時の設定は、“30s”です。
画面表示が消えているときに △▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。

- MP3 形式の音楽ファイルで、アルバムアートのデータを持っている場合は、音楽ファイルを再生中に、アルバムアートを表示させることができます。
- USB メモリーが複数のパーティーションに分かれている場合は、先頭のパーティーションのみ再生します。

ご注意

- USB メモリーを本機と接続して使用しているときに、万一 USB メモリーのデータが消失または損傷した場合、当社は一切責任を負いません。
- USB メモリーは USB ハブ経由では動作しません。
- すべての USB メモリーに対して、動作および電源の供給を保証するものではありません。USB 接続タイプのポータブル HDD で、AC アダプターを接続して電源が供給できるタイプのものをお使いになる場合は、AC アダプターのご使用をおすすめします。
- 本機の iPod/USB 端子とパソコンを USB ケーブルで接続して使用することはできません。

オプションメニューでできる操作

OPTION ボタンを押すと、現在操作できる機能のメニューをテレビ画面に表示します。この中から操作したい機能を選んで操作してください。簡単に目的の機能を探して操作することができます。

- ❑ **キーワードでコンテンツを検索する（テキスト検索）**（☞66 ページ）
- ❑ **リピート再生をする（リピート）**（☞67 ページ）
- ❑ **ランダム再生をする（ランダム）**（☞67 ページ）
- ❑ **音楽とお好みの写真を同時に再生する（写真表示）**（☞69 ページ）
- ❑ **静止画像を順番に再生する（スライドショー）**（☞69 ページ）

☞ 次のページへ

❏USB メモリー再生時に使用できるボタン

操作ボタン	機能
CH/PAGE ▲▼	ページ検索
INFO	入力ソース名 / 音量 / サウンドモード名などの情報表示
OPTION	テキスト検索 / リピート再生 / ランダム再生 / 写真表示 / スライドショー
△▽◁▷	カーソル操作 / オートサーチ（頭出し、△▽）
ENTER（短押し）	確定
ENTER（長押し）	停止
BACK	リターン
SETUP	セットアップメニュー
⏮ ⏭	オートサーチ（頭出し）
▶/❚❚	再生 / 一時停止

FM 放送を聴く

アンテナの接続については、「FM アンテナを接続する」(☞26 ページ)をご覧ください。

受信のしかた

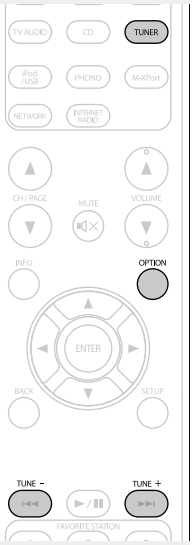
FM 放送局を受信するモードには、本機が自動的に受信できる放送局を探して受信する“オート”モードと、ボタン操作で周波数を切り替えて受信する“マニュアル”モードがあります。お買い上げ時の設定は“オート”モードです。そのほかにも受信周波数の数字を入力して受信する“ダイレクトチューニング”があります。
“オート”モードでは、受信状態が良くない放送局は受信できません。その場合は“マニュアル”モードまたは“ダイレクトチューニング”で受信してください。

FM 放送を聴く

1 **TUNER を押して、入力ソースを“FM”に切り替える。**

【テレビ画面】

【本体のディスプレイ】



2 **TUNE + または TUNE – を押して、聴きたい放送局を選ぶ。**

受信可能な放送局が見つかるまでスキャンします。放送局が見つかると自動的にスキャンを停止して受信します。

❏FAVORITE STATION ボタンに登録する (☞68 ページ)

オプションメニューでできる操作

OPTION ボタンを押すと、現在操作できる機能のメニューをテレビ画面に表示します。この中から操作したい機能を選んで操作してください。簡単に目的の機能を探して操作することができます。

- ❏ **受信周波数を入力して受信する(ダイレクトチューニング)(☞51 ページ)**
- ❏ **聴いている放送局をプリセットする(プリセットメモリー)(☞53 ページ)**
- ❏ **受信モードを変更する(チューニングモード)(☞50 ページ)**
- ❏ **自動でラジオ放送を選局し自動でプリセットする(オートプリセットメモリー)(☞52 ページ)**
- ❏ **プリセットした放送局に名前をつける(プリセットネーム)(☞54 ページ)**
- ❏ **プリセットした放送局をスキップする(プリセットスキップ)(☞55 ページ)**

☞ 次のページへ

❏受信モードを変更する(チューニングモード)

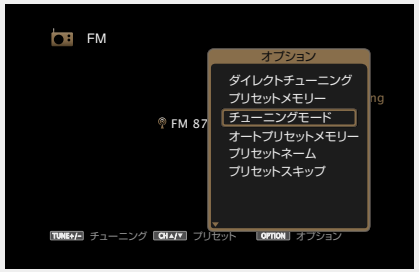
FM 放送局の受信モードを変更します。“オート” モードで自動的に放送局を受信できないときは、“マニュアル” モードに変更し、手動で放送局を受信してください。

1 **TUNER を押して、入力ソースを“FM” に切り替える。**

2 **OPTION を押す。**
オプションメニュー画面を表示します。

3 **△▽ を押して“チューニングモード”を選び、ENTER を押す。**

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】

TuneMode

4 **◁ ▷ を押してチューニングモードを選び、ENTER を押す。**

【テレビ画面】

【本体のディスプレイ】

Mode:
◀ Auto ▶

オート	自動で放送局を受信します。
マニュアル	手動で放送局を受信します。

5 **TUNE + または TUNE – を押して、聴きたい放送局を選ぶ。**
ボタンを押すたびに、周波数が段階的に切り替わります。

マニュアルチューニング中に **TUNE +** または **TUNE –** を押し続けると、連続的に受信周波数が変わります。

❏画面の表示時間を変更する

メニューの“再生画面の表示”（☞121 ページ）で設定してください。お買い上げ時の設定は、“30s” です。
画面表示が消えているときに △▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。

☞ 次のページへ

❏受信周波数を入力して受信する（ダイレクトチューニング）

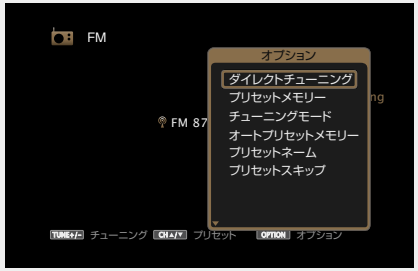
ダイレクトに周波数を入力し、放送局を受信します。

1 **TUNER を押して、入力ソースを“FM”に切り替える。**

2 **OPTION を押す。**
オプションメニュー画面を表示します。

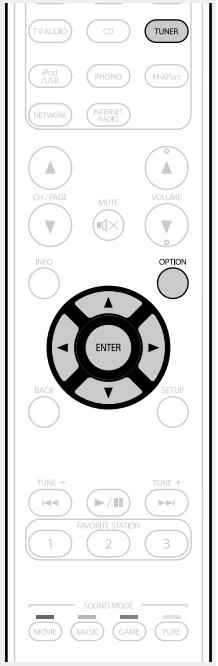
3 **△▽ を押して“ダイレクトチューニング”を選び、ENTER を押す。**
ダイレクトチューニング画面を表示し、ディスプレイの“-”が点滅します。

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】

Direct
Tune



4 **△▽ を押して数字を選び、▷ を押す。**
周波数入力画面を表示します。

【テレビ画面】

【本体のディスプレイ】

Direct
Tune

⇩

FM
---- MHz

- ◁ を押すと、1 つ前に入力した周波数を取り消すことができます。

5 **手順 4 をくり返し、聴きたい放送局の周波数を入力する。**

6 **入力が完了したら、ENTER を押す。**
放送局を受信します。

☞ 次のページへ

放送局をプリセットする

❑自動でラジオ放送を選局し自動でプリセットする（オートプリセットメモリー）

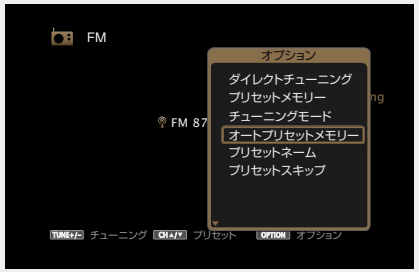
最大 56 局までプリセットできます。
ただし、“プリセットメモリー” 後に“オートプリセットメモリー” をおこなった場合、“プリセットメモリー” で設定していた放送局に上書きします。

1 **TUNER を押して、入力ソースを“FM” に切り替える。**

2 **OPTION を押す。**
オプションメニュー画面を表示します。

3 **△▽ を押して“オートプリセットメモリー” を選び、ENTER を押す。**

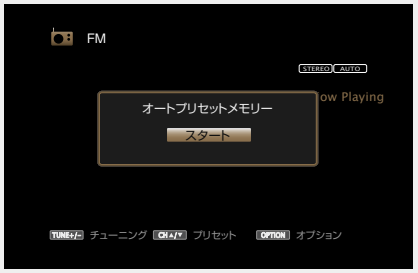
【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】

4 **ENTER を押す。**
自動で放送局を受信し、プリセットをはじめます。

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】

- プリセットが完了すると“完了しました” を約 5 秒間表示し、オプションメニュー画面が消灯します。

次のページへ

❏聴いている放送局をプリセットする（プリセットメモリー）

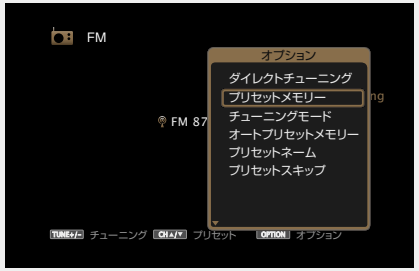
手動でお好みの放送を選局し、プリセットします。
最大 56 局までプリセットできます。

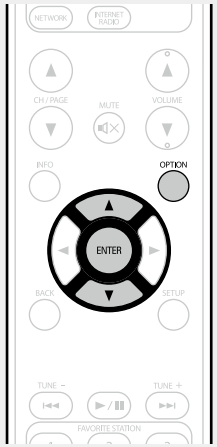
1 プリセットしたい放送局を受信する。

2 **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

3 △▽ を押して“プリセットメモリー”を選び、**ENTER** を押す。
すでにプリセットされているチャンネルリストを表示します。

【テレビ画面】





【本体のディスプレイ】

Preset
Memory

4 △▽ を押してプリセットしたいチャンネルを選び、**ENTER** を押す。
現在受信している放送局をプリセットします。

- 続けて他の放送局をプリセットする場合は、手順 1～4 をおこなってください。

【テレビ画面】

【本体のディスプレイ】

01- FM
76.00MHz

Stored

“プリセットスキップ”（☞55 ページ）に設定した放送局はチャンネル番号がグレー表示になっていますが、放送局はプリセットできます。
グレー表示のチャンネル番号にプリセットをすると、ハイライト表示に変わり、“プリセットスキップ”が“オン”になります。

チャンネル	お買い上げ時の設定
1～8	76.00 / 83.00 / 89.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
9～16	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
17～24	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
25～32	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
33～40	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
41～48	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
49～56	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz

プリセットした放送局を聴く

CH/PAGE ▲▼ を押して、プリセットしたチャンネルを選ぶ。

【本体のディスプレイ】

01 FM
76.00MHz

本体の **PRESET CH +** または **PRESET CH −** を押しても、プリセットした放送局を選べます。

☞ 次のページへ

❏プリセットした放送局に名前をつける（プリセットネーム）

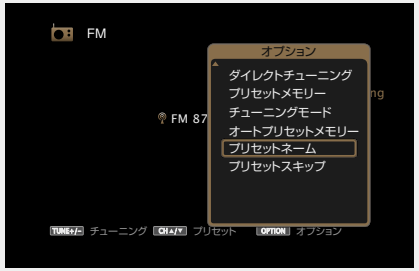
プリセットした放送局に名前をつけたり、変更したりできます。
8 文字まで入力できます。

1 **TUNER を押して、入力ソースを“FM”に切り替える。**

2 **OPTION を押す。**
オプションメニュー画面を表示します。

3 **△▽ を押して“プリセットネーム”を選び、ENTER を押す。**
プリセットネーム画面を表示します。

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】

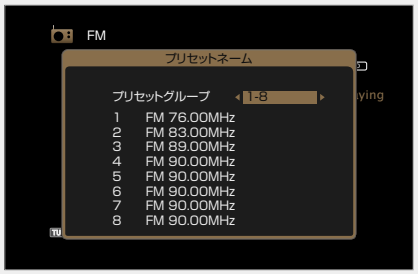
Preset
Name

4 **◁ ▷ を押して名前をつけたい放送局のグループを選び、ENTER を押す。**
プリセットネームの編集画面を表示します。

- ◁ ▷ を押すたびに、次の順序でグループが切り替わります。

→ 1 – 8 ↔ 9 – 16 ↔ 17 – 24 ↔ 25 – 32 ←
→ 49 – 56 ↔ 41 – 48 ↔ 33 – 40 ←

【テレビ画面】

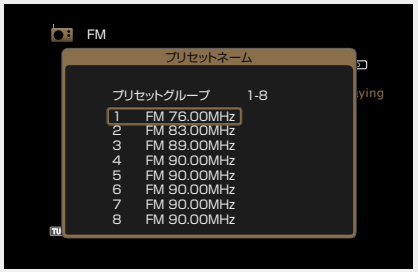


【本体のディスプレイ】

Group
1- 8

5 **△▽ を押して名前をつけたい放送局を選び、ENTER を押す。**

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】

1 FM
76.00MHz

6 **◁ ▷ を押してネームラベルを選び、ENTER を押す。**
プリセットネームの編集画面を表示します。

- “初期化”を選ぶと周波数表示に戻ります。

7 **文字を入力して、 OK を押す。**

- 文字の入力方法については、109 ページをご覧ください。

8 **BACK を 2 回押す。**
再生画面に戻ります。

次のページへ

❏プリセットした放送局をスキップする（プリセットスキップ）

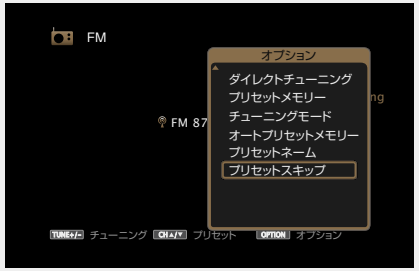
選局するとき、表示させない放送局をグループごとまたは放送局ごとにあらかじめ設定できます。
プリセットスキップを設定すると、お好みの放送局だけの表示になりますので選局するときに便利です。

1 **TUNER を押して、入力ソースを“FM”に切り替える。**

2 **OPTION を押す。**
オプションメニュー画面を表示します。

3 **△▽ を押して“プリセットスキップ”を選び、ENTER を押す。**
プリセットスキップ画面を表示します。

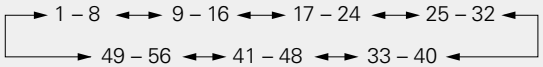
【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】

4-1 **【スキップしたい放送局をグループごとに設定するとき】**

①◁ ▷ を押してスキップしたい放送局のグループを選ぶ。
- ◁ ▷ を押すたびに、次の順序でグループが切り替わります。

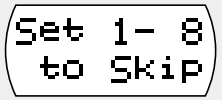


②△ を押して“No.＊ – ＊ をスキップ設定にします”を選び、ENTER を押す。
選択したグループ“＊ – ＊”に含まれるすべての放送局を表示しません。
（＊ は選択しているグループ番号です。）

③BACK を押す。

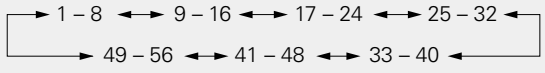
【テレビ画面】

【本体のディスプレイ】



4-2 **【スキップしたい放送局を放送局ごとに設定するとき】**

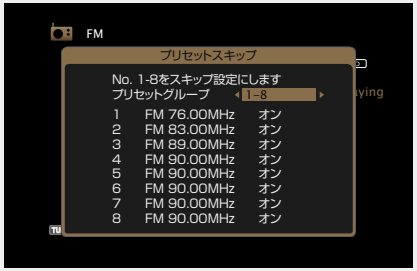
①◁ ▷ を押してスキップしたい放送局のグループを選ぶ。
- ◁ ▷ を押すたびに、次の順序でグループが切り替わります。



②△▽ を押して、スキップしたい放送局を選ぶ。

③◁ ▷ を押して、“スキップ”を選ぶ。
選択した放送局を表示しません。

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】

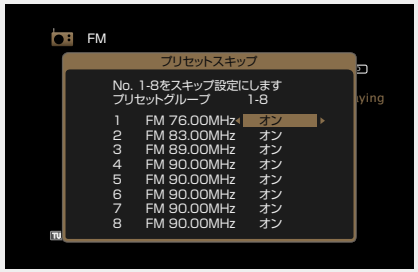
次のページへ

プリセットスキップを解除する

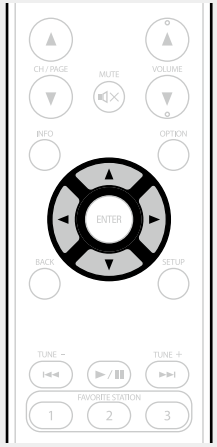
1 プリセットスキップ画面を表示中、◁ ▷ を押してスキップを解除したい放送局を含むグループを選ぶ。

2 △▽ を押して、スキップを解除したい放送局を選ぶ。

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】



3 ◁ ▷ を押して、“オン”を選ぶ。
スキップを解除します。

ご注意
グループごとのスキップ解除はできません。

❏FM 放送を受信時に使用できるボタン

操作ボタン	機能
CH/PAGE ▲▼	プリセットチャンネルの選択
INFO	入力ソース名 / 音量 / サウンドモード名などの情報表示
OPTION	チューニングモードの切り替え / 受信周波数の入力 / プリセットメモリー / オートプリセットメモリー / プリセットネーム / プリセットスキップ
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER	確定
BACK	リターン
SETUP	セットアップメニュー
TUNE +、–	選局(アップ / ダウン)
FAVORITE STATION 1～3	お気に入りコンテンツの登録 / 呼び出し(☞68 ページ)

インターネットラジオを聴く

インターネットラジオとは、インターネット上に配信されているラジオ放送です。世界中のインターネットラジオ放送を聴くことができます。

知っておいてほしいこと

本機で再生できる放送局の種類や仕様は、次のとおりです。

【再生できる放送局の種類】

再生できるファイルの種類	インターネットラジオ
WMA (Windows Media Audio)	✓
MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3)	✓

【再生できる放送局の仕様】

	サンプリング周波数	ビットレート	拡張子
WMA (Windows Media Audio)	32/44.1/48kHz	48～192kbps	.wma
MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3)	32/44.1/48kHz	32～320kbps	.mp3

インターネットラジオを聴く

1 再生の準備をする。

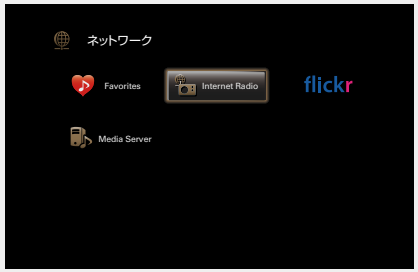
① ネットワーク環境を確認してから、本機の電源を入れる（☞30 ページ「ホームネットワーク(LAN) に接続する」）。

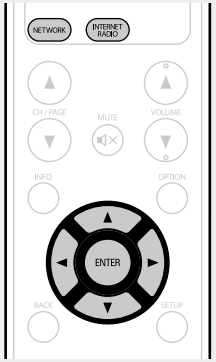
② 設定が必要な場合は、“接続の設定”（☞132 ページ）をおこなう。

2 NETWORK を押す。

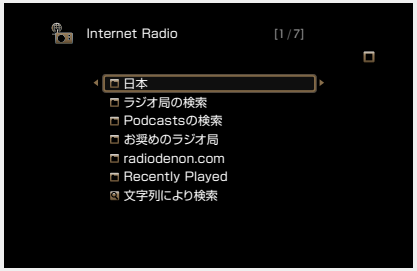
•**INTERNET RADIO** を押すと、入力ソースの“Internet Radio”をダイレクトに選択できます。

3 △▽◁ ▷ を押して“Internet Radio”を選び、ENTER を押す。





4 △▽ を押して再生したい項目を選び、ENTER または ▷ を押す。



日本	日本の一般的なインターネットラジオ局を表示します。
ラジオ局の検索	本機で受信できるすべてのインターネットラジオ局を表示します。
Podcastsの検索	本機で受信できるポッドキャスト内のインターネットラジオ局を表示します。
お奨めのラジオ局	おすすめのインターネットラジオ局を表示します。
radiomarantz.com	vTuner でお気に入りに登録しているインターネットラジオ局を表示します。vTuner でのお気に入り登録のしかたは、「vTuner でインターネットラジオ局をお気に入り登録する」（☞59 ページ）をご覧ください。
Recently Played	最近再生したインターネットラジオ局を表示します。最大 20 局まで“Recently Played”へ自動的に記憶します。
文字列により検索	キーワード検索したインターネットラジオ局を表示します。文字の入力方法については、109 ページをご覧ください。

5 インターネットラジオ局リストが表示されるまで、手順 4 をくり返す。

6 △▽ を押してラジオ局を選び、ENTER または ▷ を押す。

バッファリングが“100%”表示になると、再生がはじまります。

☞ 次のページへ

❑音質を調節する（M-DAX）

メニューの“M-DAX”（☞113 ページ）で設定してください。
“M-DAX”機能を使用すると、圧縮前の音に近い状態に復元し、同時に低音域の量感の補正もおこなうため、より豊かな再生ができます。お買い上げ時の設定は“オフ”です。

❑ディスプレイ表示を切り替える

本体の **STATUS** を押す。
ボタンを押すたびにタイトル名、放送局名などを切り替えて表示します。

❑1 つ前の画面に戻る

◁ または **BACK** を押す。

❑画面の表示時間を変更する

メニューの“再生画面の表示”（☞121 ページ）で設定してください。お買い上げ時の設定は“30s”です。
△▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。

- インターネット上には数多くのインターネットラジオ局があり、各ラジオ局から配信される放送や楽曲のビットレートには高低さまざまなものがあります。
  一般的に、ビットレートが高いほど高音質になりますが、通信回線やサーバーの混雑具合によってはストリーミングしている音楽や音声が途切れやすくなります。逆にビットレートが低ければ音質は低下しますが、途切れにくくなります。
- 放送局が混雑している場合や放送されていないときには、“ラジオステーションのサーバーが混雑しています”または“接続が途切れました”を表示します。
- 本機ではフォルダ名とファイル名をタイトルのように表示することができます。ディスプレイ表示に対応していない文字は、“.（ピリオド）”に置き換えて表示します。

ご注意

ラジオ局データベースサービスは、予告なく停止する場合があります。

オプションメニューでできる操作

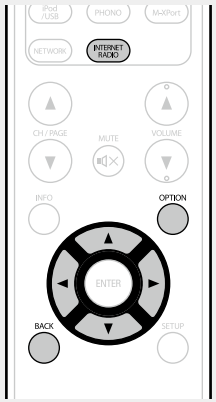
OPTION ボタンを押すと、現在操作できる機能のメニューをテレビ画面に表示します。この中から操作したい機能を選んで操作してください。簡単に目的の機能を探して操作することができます。

- ❑ **キーワードでコンテンツを検索する（テキスト検索）**（☞66 ページ）
- ❑ **オプションメニューからお気に入りに登録する（お気に入りに登録）**（☞68 ページ）
- ❑ **音楽とお好みの写真を同時に再生する（写真表示）**（☞69 ページ）

❑前回再生していたインターネットラジオ局を再生する

本機は最後に再生していたインターネットラジオ局を記憶します。他の入力ソースから **INTERNET RADIO** を押してインターネットラジオの入力ソースに切り替えると、前回聴いていたインターネットラジオの放送局を再生します。

INTERNET RADIO を押す。
入力ソースを“Internet Radio”に切り替え、前回再生していたインターネットラジオ局を再生します。



☞ 次のページへ

❑vTuner でインターネットラジオ局をお気に入り登録する

世界中にはたくさんのインターネットラジオ局があり、本機はそれらを受信できます。しかし、ラジオ局が多すぎるために聴きたい放送を探すのは大変です。そこで本機専用のインターネットラジオ局検索ウェブサイト vTuner をお使いください。お手持ちのパソコンを使用して、インターネットラジオ局の検索と登録ができます。本機では vTuner に登録したラジオ局を再生できます。

1 本機の MAC アドレスを確認する (☞131 ページ)。

プリセットネームの編集画面を表示します。

MAC アドレス：

- MAC アドレスは、vTuner のアカウント作成の際に必要になります。

2 お手持ちのパソコンから vTuner のサイト (http://www.radiomarantz.com) にアクセスする。

vTuner のログイン画面を表示します。

3 本機の MAC アドレスを入力し、“Go” をクリックする。

アカウント作成画面を表示します。

4 パソコンの E-mail アドレスと任意のパスワードを入力する。

アカウントが登録され、ログインが可能になります。

5 アカウント情報 (E-mail アドレスとパスワード) を入力し、ログインする。

vTuner のトップメニューを表示します。

6 お好みで検索条件 (ジャンル / 地域 / 言語など) を選ぶ。

条件に合わせたラジオ局リストを表示します。

- キーワードを入力し、聴きたい曲を探すこともできます。

7 表示されたリストからお好みのラジオ局を選び、お気に入り登録アイコンをクリックする。

お気に入りグループの作成画面を表示します。

8 お気に入りグループ名を入力し、“Go”をクリックする。

選択されたラジオ局が入ったお気に入りグループを新たに作成します。

- vTuner のお気に入りに登録したインターネットラジオ局は、本機の“radiomarantz.com”(☞57 ページ) から再生できます。

❑インターネットラジオ受信時に使用できるボタン

操作ボタン	機能
INTERNET RADIO	前回再生したラジオ局の再生
CH/PAGE ▲▼	ページ検索
INFO	入力ソース名 / 音量 / サウンドモード名などの情報表示
OPTION	テキスト検索 / お気に入りに登録 / 写真表示
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER（短押し）	確定
ENTER（長押し）	停止
BACK	リターン
SETUP	セットアップメニュー
FAVORITE STATION 1～3	お気に入りコンテンツの登録 / 呼び出し(☞68 ページ)

パソコンや NAS に保存されているファイルを再生する

本機では、パソコンや DLNA 対応のネットワーク接続ストレージ(NAS)に保存されている音楽ファイルやプレイリスト (m3u、wpl) を再生できます。

知っておいてほしいこと

- 本機のネットワークオーディオ再生機能では、次の技術を利用してサーバーに接続します。
  - Windows Media Player Network Sharing Service
  - Windows Media DRM10
- 本機で再生できるファイルの種類や仕様は、次のとおりです。

【再生できるファイルの種類】

再生できるファイルの種類	メディアサーバー *1
WMA (Windows Media Audio)	✓
MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3)	✓
WAV	✓
MPEG-4 AAC	✓*2
FLAC (Free Lossless Audio Codec)	✓
JPEG	✓
ALAC (Apple Lossless Audio Codec)	✓

ネットワーク経由での音楽ファイルの再生には、そのフォーマットの配信に対応したサーバーまたはサーバーソフトウェアが必要です。

*1 メディアサーバーについて
- MP3 ID3 タグ(バージョン 2)に対応しています。
- 本機では、MP3 ID3 タグのバージョン 2.3 または 2.4 を使用して、アートワークを表示させることができます。
- WMA META タグに対応しています。
- アルバムアートの画素サイズ(ピクセル)が 500 × 500(WMA/MP3/WAV/FLAC)または 349 × 349(MPEG-4 AAC)を超えている場合は、正しく再生できないことがあります。
- WAV フォーマットの量子化ビット数は、16 ビットです。
- FLAC フォーマットの量子化ビット数は、16 または 24 ビットです。

*2 著作権保護のないファイルのみ再生できます。
インターネット上の有料音楽サイトからダウンロードしたコンテンツには著作権保護がかかっています。また、パソコンで CD などからリッピングする際に WMA でエンコードすると、パソコンの設定により著作権保護がかかる場合があります。

ご注意

本機が対応していない形式のファイルは表示されません。

【再生できるファイルの仕様】

	サンプリング周波数	ビットレート	拡張子
WMA (Windows Media Audio)	32/44.1/48kHz	48～192kbps	.wma
MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3)	32/44.1/48kHz	32～320kbps	.mp3
WAV	32/44.1/48/88.2/96/176.4/192 kHz	–	.wav
MPEG-4 AAC	32/44.1/48kHz	16～320kbps	.aac/ .m4a/ .mp4
FLAC (Free Lossless Audio Codec)	32/44.1/48/88.2/96/176.4/192 kHz	–	.flac
ALAC (Apple Lossless Audio Codec)*	32/44.1/48/88.2/96kHz	–	.m4a

* Copyright [2012] [D&M Holdings. Inc.]
Apache License Version 2.0(「本ライセンス」)に基づいてライセンスされます。このファイルを使用するためには、本ライセンスに従わなければなりません。本ライセンスのコピーは下記の URL から入手できます。
http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0

メディアの共有設定をおこなう

パソコンや NAS に保存されている音楽ファイルをネットワーク上で共有するための設定をおこないます。

❑パソコンに保存したメディアを共有する

メディアサーバーを使用する場合には、事前に必ずこの設定をおこなってください。

Windows Media Player 12 (Windows 7) を使用する場合

ご注意

次の手順は、コントロールパネルの表示方法を“カテゴリ”にしてからおこなってください。

1. パソコン上の“コントロールパネル”から“ネットワークとインターネット”⇨“ホームグループと共有に関するオプションの選択”を選ぶ。
2. “ピクチャ、ミュージック、およびビデオを同じホームネットワーク上にあるすべてのデバイスにストリーム配信する”をチェックし、“メディアストリーミングオプションの選択”を選ぶ。
3. “SR6007”のドロップダウンリストで“許可”を選ぶ。
4. “この PC とリモート接続のメディアプログラム”のドロップダウンリストで“許可”を選ぶ。
5. “OK”をクリックして終了する。

Windows Media Player 11 を使用する場合

1. パソコンで Windows Media Player 11 を起動する。
2. “ライブラリ”から“メディアの共有”を選ぶ。
3. “メディアを共有する”をチェックして“SR6007”を選び、“許可”をクリックする。
4. 手順 3 と同様に、メディアコントローラーとして使用したい機器（他のパソコンやモバイル端末）のアイコンを選び、“許可”をクリックする。
5. “OK”をクリックして終了する。

NAS に保存したメディアを共有する

本機およびメディアコントローラーとして使用したい機器（他のパソコンやモバイル端末）が NAS にアクセスできるよう、NAS の設定を変更してください。詳しくは、お使いの NAS に付属の取扱説明書をご覧ください。

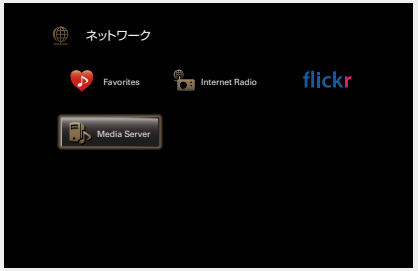
パソコンや NAS に保存されているファイルを再生する

音楽ファイル、画像ファイルおよびプレイリストを再生できます。

1 **再生の準備をする。**
① ネットワーク環境を確認してから、本機の電源を入れる（☞30ページ「ホームネットワーク(LAN)に接続する」）。
② 設定が必要な場合は、“接続の設定”（☞132ページ）をおこなう。
③ パソコンの準備をする（☞パソコンの取扱説明書）。

2 **NETWORK を押す。**

3 **△▽◁ ▷ を押して“Media Server”を選び、ENTER を押す。**



4 **△▽ を押して再生したいファイルのあるサーバーを選び、ENTER または ▷ を押す。**

5 **△▽ を押して検索項目またはフォルダを選び、ENTER または ▷ を押す。**

6 **ファイルが表示されるまで、手順 4 をくり返す。**

7 **△▽ を押してファイルを選び、ENTER または ▷ を押す。**
バッファリングが“100％”表示になると、再生がはじまります。

❑音質を調節する（M-DAX）

メニューの“M-DAX”（☞113 ページ）で設定してください。
“M-DAX”機能を使用すると、圧縮前の音に近い状態に復元し、同時に低音域の量感の補正もおこなうため、より豊かな再生ができます。お買い上げ時の設定は、“オフ”です。

❑ディスプレイ表示を切り替える

本体の **STATUS** を押す。
ボタンを押すたびにタイトル名、アーティスト名およびアルバム名を切り替えて表示します。

❑1 つ前の画面に戻る

◁ または **BACK** を押す。

❑画面の表示時間を変更する

メニューの“再生画面の表示”（☞121 ページ）で設定してください。お買い上げ時の設定は“30s”です。
△▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。

- WMA（Windows Media Audio）、MP3、MPEG-4AAC のファイルで、アルバムアートのデータを持っている場合は、音楽ファイルを再生中にアルバムアートを表示させることができます。
- WMA ファイルのアルバムアートは、Windows Media Player（バージョン 11 以上）を使用することで表示できます。
- Windows Media Player（バージョン 11 以上）などのトランスコードに対応したサーバーをご使用になる場合は、WMA Lossless ファイルを再生できます。

ご注意

- 静止画像（JPEG）ファイルのサイズによっては、画像が表示されるまでに時間がかかる場合があります。
- 曲の表示順は、サーバーの仕様によって異なります。サーバーの仕様によって、曲の表示順がアルファベット順にならない場合は、頭文字での検索が正しく動作しないことがあります。

☞ 次のページへ

オプションメニューでできる操作

OPTION ボタンを押すと、現在操作できる機能のメニューをテレビ画面に表示します。この中から操作したい機能を選んで操作してください。簡単に目的の機能を探して操作することができます。

- ❏ **キーワードでコンテンツを検索する（テキスト検索）**（☞66 ページ）
- ❏ **リピート再生をする（リピート）**（☞67 ページ）
- ❏ **ランダム再生をする（ランダム）**（☞67 ページ）
- ❏ **オプションメニューからお気に入りに登録する（お気に入りに登録）**（☞68 ページ）
- ❏ **音楽とお好みの写真を同時に再生する（写真表示）**（☞69 ページ）
- ❏ **静止画像を順番に再生する（スライドショー）**（☞69 ページ）

❏メディアサーバー内のファイルを再生時に使用できるボタン

操作ボタン	機能
CH/PAGE ▲▼	ページ検索
INFO	入力ソース名 / 音量 / サウンドモード名などの情報表示
OPTION	テキスト検索 / リピート再生 / ランダム再生 / お気に入りに登録 / 写真表示 / スライドショー
△▽◁▷	カーソル操作 / オートサーチ（頭出し、△▽）
ENTER（短押し）	確定
ENTER（長押し）	停止
BACK	リターン
SETUP	セットアップメニュー
⏮ ⏭	オートサーチ（頭出し）
▶/❚❚	再生 / 一時停止
FAVORITE STATION 1～3	お気に入りコンテンツの登録 / 呼び出し（☞68 ページ）

オンラインサービスを利用する

本機は、次のオンラインサービスの再生に対応しています。

❑Flickr について（☞64 ページ）

2004 年に開始されたオンラインの写真共有サービスです。本機では、Flickr ユーザーが公開した写真を閲覧することができます。アカウントは必要ありません。
自分で撮影した写真を Flickr のサーバーにアップロードするためにはアカウントが必要です。
詳しくは、Flickr のホームページをご覧ください。
http://www.flickr.com/

Flickr サイト上の写真を閲覧する

任意のユーザーが共有している写真や Flickr 上のすべての写真を閲覧することができます。

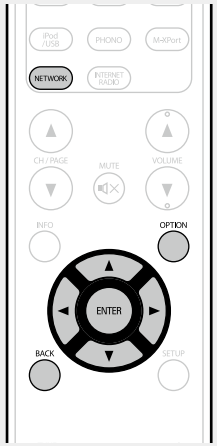
❑任意のユーザーが共有している写真を閲覧する

1 再生の準備をする。

① ネットワーク環境を確認してから、本機の電源を入れる（☞30ページ「ホームネットワーク(LAN)に接続する」）。
② 設定が必要な場合は、“接続の設定”（☞132ページ）をおこなう。

2 NETWORK を押す。

3 △▽◁ ▷ を押して“Flickr” を選び、ENTER を押す。



4 △▽ を押して“Add Flickr Contact” を選び、ENTER または ▷ を押す。

5 “Contact” に追加したい screen name（閲覧したいユーザー名）を入力する。

• 文字の入力方法については、109 ページをご覧ください。

6 “Contact”を入力後、 OK を押す。

screen name が“Contact”に登録され、Flickr のトップ画面に手順 5 で入力した screen name を表示します。

• 存在しない screen name を入力すると、“入力したコンタクトが見つかりませんでした”を表示します。screen name を確認し、正しく入力してください。

7 △▽ を押してフォルダを選び、ENTER または ▷ を押す。

Favorites	ご指定のユーザーのお気に入り写真を表示します。
Photostream	公開している写真一覧を表示します。
PhotoSets	フォルダ（写真アルバム）リストを表示します。
Contacts	ご指定のユーザーがコンタクト登録している screen name を表示します。
Remove this Contact	ご指定のユーザーをコンタクトから削除します。
Add this Contact	ご指定のユーザーをコンタクトに追加します。

8 △▽ を押してファイルを選び、ENTER または ▷ を押す。

選択したファイルを表示します。

❑1 つ前の画面に戻る

◁ または **BACK** を押す。

オプションメニューでできる操作

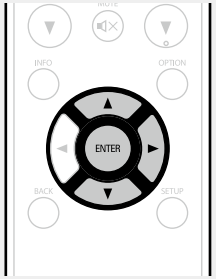
OPTION ボタンを押すと、現在操作できる機能のメニューをテレビ画面に表示します。この中から操作したい機能を選んで操作してください。簡単に目的の機能を探して操作することができます。

❑ 静止画像を順番に再生する（スライドショー）（☞69 ページ）

☞ 次のページへ

❏Flickr 上のすべての写真を閲覧する

1 △▽ を押して“All Content”を選び、**ENTER** または ▷ を押す。



2 △▽ を押してフォルダを選び、**ENTER** または ▷ を押す。

Interestingness	コメントやお気に入り登録の履歴から、人気のある写真を表示します。
Recent	最近投稿された写真を表示します。
Search by text	キーワードで写真を検索します。

3 △▽ を押してファイルを選び、**ENTER** または ▷ を押す。

選択したファイルを表示します。

ご注意

写真のファイルフォーマットによっては、閲覧できないものがあります。

❏Flickr 再生時に使用できるボタン

操作ボタン	機能
CH/PAGE ▲▼	ページ検索
INFO	入力ソース名 / 音量 / サウンドモード名などの情報表示
OPTION	スライドショー
△▽◁▷	カーソル操作 / オートサーチ（頭出し、△▽）
ENTER（短押し）	確定
ENTER（長押し）	停止
BACK	リターン
SETUP	セットアップメニュー

便利な機能

ここでは NETWORK ソースや USB ソースの便利な機能の操作方法を説明します。各機能説明のタイトルの下にあるソース名は、その機能が有効なソースをあらわします。

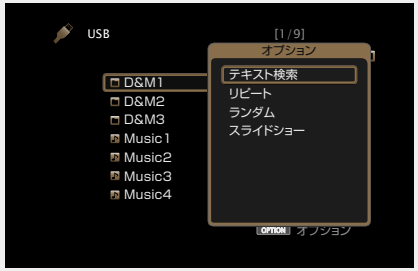
- ❑ キーワードでコンテンツを検索する（テキスト検索）（☞66 ページ）
- ❑ リピート再生をする（リピート）（☞67 ページ）
- ❑ ランダム再生をする（ランダム）（☞67 ページ）
- ❑ お気に入り機能（☞68 ページ）
- ❑ 音楽とお好みの写真を同時に再生する（写真表示）（☞69 ページ）
- ❑ 静止画像を順番に再生する（スライドショー）（☞69 ページ）

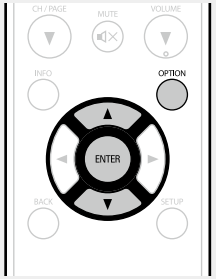
キーワードでコンテンツを検索する（テキスト検索）

USB | Internet Radio | Media Server

1 **リスト画面を表示中に OPTION を押す。**
オプションメニュー画面を表示します。

2 **△▽ を押して“テキスト検索”を選び、ENTER を押す。**
キーボード入力画面を表示します。





3 **検索したいインターネットラジオ局またはファイルの頭文字を入力して、 OK を押す。**

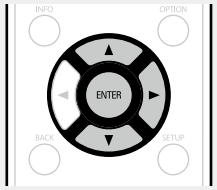
- 文字の入力方法については、109 ページをご覧ください。

“テキスト検索”では表示されているリストの中からインターネットラジオ局またはファイルを検索します。

ご注意
リストによっては、“テキスト検索”できない場合があります。

❑検索したコンテンツを再生する

△▽ を押して再生したいコンテンツを選び、ENTER または ▷ を押す。
再生をはじめます。

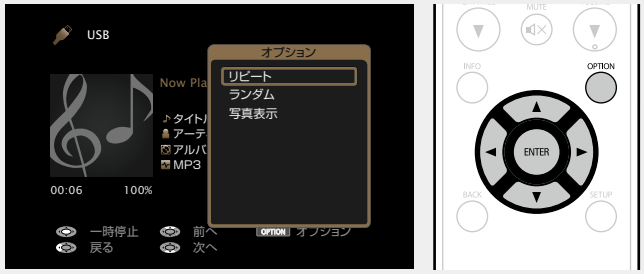


リピート再生をする(リピート)

USB | Media Server

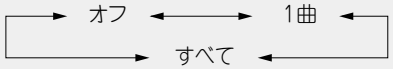
1 **コンテンツの再生中に OPTION を押す。**
オプションメニュー画面を表示します。

2 **△▽ を押して“リピート”を選び、ENTER を押す。**



3 **◁ ▷ を押してリピート再生モードを選ぶ。**

- ◁ ▷ を押すたびに、次の順序でリピート再生モードが切り替わります。



オフ	リピート再生モードを解除します。
1曲	再生中の曲をリピート再生します。
すべて	現在再生中のフォルダにあるすべての曲をリピート再生します。

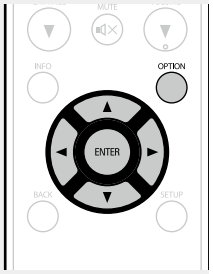
4 **ENTER を押す。**
再生画面に戻ります。

ランダム再生をする(ランダム)

USB | Media Server

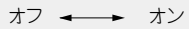
1 **コンテンツの再生中に OPTION を押す。**
オプションメニュー画面を表示します。

2 **△▽ を押して“ランダム”を選び、ENTER を押す。**



3 **◁ ▷ を押してランダム再生モードを選ぶ。**

- ◁ ▷ を押すたびに、次の順序でランダム再生モードが切り替わります。



オフ	ランダム再生モードを解除します。
オン	ランダム再生モードを有効にします。

4 **ENTER を押す。**
再生画面に戻ります。

ランダム再生は、曲の再生が終わるたびにすべての曲からランダムに再生する曲を選びます。そのため、同じ曲を続けて再生する場合があります。

お気に入り機能

お気に入りコンテンツの登録には、次の２つの方法があります。
① オプションメニューからお気に入りに登録する
② **FAVORITE STATION**ボタンに登録する

❏オプションメニューからお気に入りに登録する（お気に入りに登録）

Internet Radio | Media Server

お気に入りのコンテンツは“Internet Radio”や“Media Server”のソースから合計 100 件まで登録できます。

1 **コンテンツの再生中に OPTION を押す。**
オプションメニュー画面を表示します。

2 **△▽ を押して“お気に入りに登録”を選び、ENTER を押す。**
“お気に入りに登録しました”を表示し、再生中のコンテンツをお気に入りに登録します。

- 登録が完了すると再生画面に戻ります。

“お気に入りに登録”に登録したコンテンツを再生する

1 **NETWORK を押す。**

2 **△▽◁ ▷を押して“Favorites”を選び、ENTER を押す。**

3 **△▽ を押して再生したいコンテンツを選び、ENTER または ▷ を押す。**
再生をはじめます。

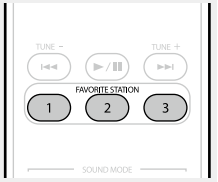
❏FAVORITE STATION ボタンに登録する

最大 3 種類のコンテンツを登録できます。

ご注意

- すでに登録済みの番号に登録すると、前に登録されていた内容は消去されますのでご注意ください。
- 次の操作をおこなうと、メディアサーバーのデータベースが更新され、登録された音楽ファイルが再生できなくなる場合があります。
  - メディアサーバーを停止し、再起動した場合
  - メディアサーバーで音楽ファイルを削除または追加した場合

コンテンツの再生中に、FAVORITE STATION 1～3 のいずれかのボタンを 3 秒以上長押しする。
押されたボタンにコンテンツを登録します。



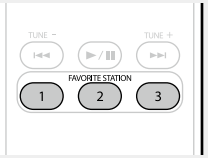
FAVORITE STATION ボタンに登録できる内容は、入力ソースによって異なります。

入力ソース	登録できる内容
FM	入力ソース / ラジオ局
Internet Radio	入力ソース / インターネットラジオ局
Media Server	入力ソース / 曲
Flickr	入力ソース
Favorites	入力ソース

FAVORITE STATION ボタンに登録したコンテンツを再生する

FAVORITE STATION ボタンを押すだけでコンテンツを簡単に呼び出せます。

コンテンツを登録した FAVORITE STATION 1～3 のいずれかのボタンを押す。
再生をはじめます。



次のページへ

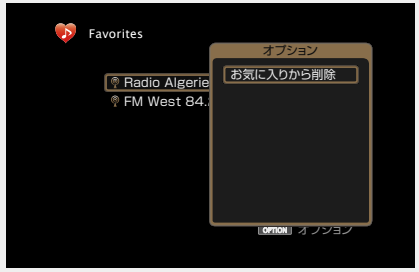
❏お気に入りに登録したコンテンツを削除する（お気に入りから削除）

1 **NETWORK を押す。**

2 **△▽◁ ▷を押して“Favorites”を選び、ENTER を押す。**

3 **△▽ を押してお気に入りから削除したいコンテンツを選び、OPTION を押す。**
オプションメニュー画面を表示します。

4 **△▽ を押して“お気に入りから削除”を選び、ENTER を押す。**
“お気に入りから削除しました”を表示し、選択したコンテンツをお気に入りから削除します。



- 登録が完了すると、元の画面に戻ります。

音楽とお好みの写真を同時に再生する（写真表示）

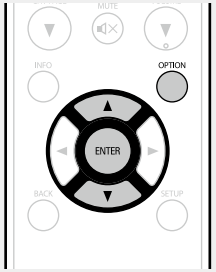
USB | Internet Radio | Media Server

1 **静止画像を再生する。**
- USB メモリーの静止画像を再生する（☞47ページ）。
- Flickr の静止画像を再生する（☞64 ページ）。

2 **音楽ファイルを再生するか、インターネットラジオ局を受信する（☞57、62 ページ）。**

3 **OPTION を押す。**
オプションメニュー画面を表示します。

4 **△▽ を押して“写真表示”を選び、ENTER を押す。**
オプションメニュー画面が消灯し、再生していた写真を表示します。



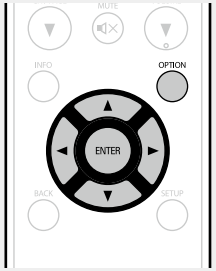
静止画像を順番に再生する（スライドショー）

USB メモリーやメディアサーバーに保存された静止画像（JPEG）ファイル、および Flickr サイト上の写真のスライドショー再生ができます。また、表示時間を設定することもできます。

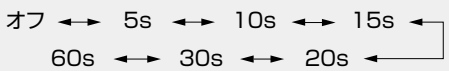
USB | Media Server | Flickr

1 **リスト画面を表示中に OPTION を押す。**
オプションメニュー画面を表示します。

2 **△▽ を押して“スライドショー”を選び、ENTER を押す。**



3 **◁ ▷ を押して、表示時間を設定する。**
- ◁ ▷ を押すたびに、次の順序で表示時間が切り替わります。



オフ	スライドショーの再生をしません。
5s~60s	スライドショーで再生するときの画像 1 枚あたりの表示時間を設定します。

4 **ENTER を押す。**
スライドショーの再生画面になります。

本機では、フォルダに保存されている画像の向きで静止画像（JPEG）ファイルを再生します。

AirPlay 機能

iTunes のミュージックライブラリを本機で再生することができます。
また、iPhone、iPod touch、iPad の Apple Remote アプリ * を使って、どの部屋からでも iTunes のミュージックライブラリをコントロールすることができます。

* App Store から無料でダウンロードできます。

❑iPhone、iPod touch、iPad の音楽ファイルを本機で再生する

iPhone、iPod touch、iPad を iOS 4.2.1 以上にアップデートすると、iPhone、iPod touch、iPad の曲を本機へダイレクトにストリーミングすることができます。

1 **iPhone、iPod touch または iPad の Wi-Fi 設定をする。**

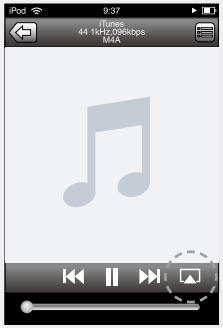
• 詳しくは、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

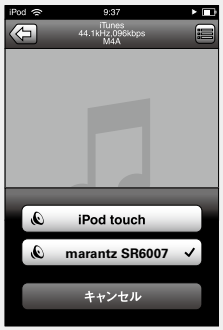
2 **iPhone、iPod touch、iPad のミュージックまたは iPod アプリを起動する。**

iPhone、iPod touch または iPad の画面に を表示します。

3 **AirPlay アイコン をタップする。**

4 **再生したいスピーカー(機器)をクリックする。**





ご注意

AirPlay 機能を使用して再生する場合は、iPhone、iPod touch、iPad または iTunes で設定している音量レベルで出力します。
再生する前に、iPhone、iPod touch、iPad または iTunes の音量を最小にしてから適切な音量に調節してください。

❑iTunes の音楽を本機で再生する

1 **本機と同じネットワークに接続しているパソコンに、iTunes10 以降をインストールする。**

2 **本機の電源を入れる。**

あらかじめ、本機の“IP コントロール”(☞131 ページ)設定を“常時オン”にしてください。

ご注意

“IP コントロール”を“常時オン”に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。

3 **iTunes を起動し、画面右下の AirPlay アイコン をクリックして、本機を選ぶ。**

4 **iTunes で曲を選んで再生する。**

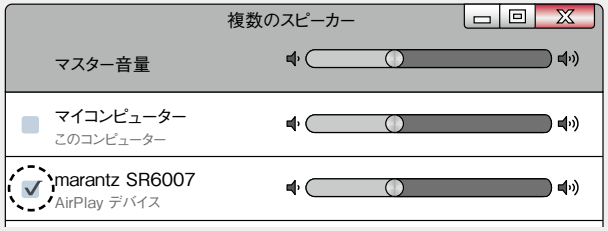
本機で再生をはじめます。

複数のスピーカー(機器)を選択する

ご家庭にある本機以外の AirPlay 対応のスピーカー(機器)で iTunes の曲を再生することができます。

1 **AirPlay アイコン をクリックして、“複数のスピーカー”を選ぶ。**

2 **再生したいスピーカー(機器)をクリックする。**



☞ 次のページへ

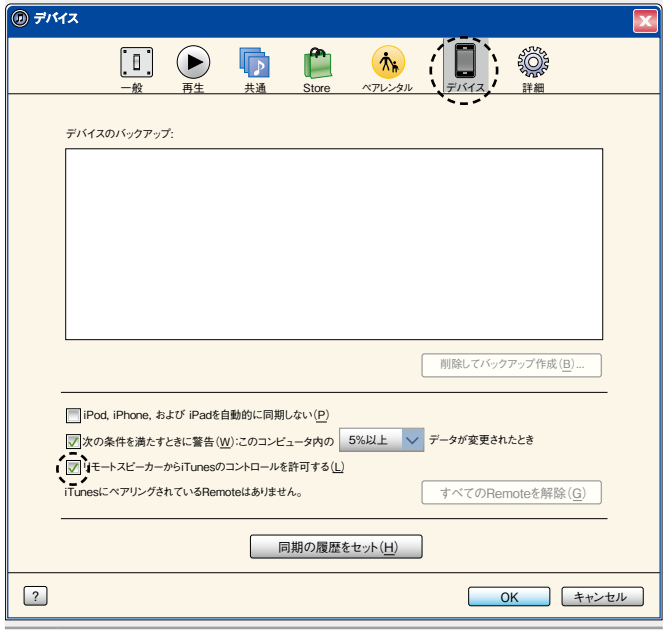
❏本機のリモコンで iTunes の再生操作をおこなう

本機のリモコンで、iTunes の曲の再生や一時停止、頭出し操作ができます。

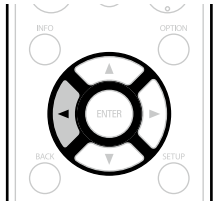
1 メニューの“編集”⇨“設定”を選ぶ。

2 iTunes の設定のウィンドウで“デバイス”を選ぶ。

3 “リモートスピーカーから iTunes のコントロールを許可する”にチェックを入れ、“OK”をクリックする。



- AirPlay の操作中は、メニュー画面に を表示します。
- AirPlay の再生を開始すると、本機の入力ソースは自動的に“NETWORK”に切り替わります。
- 本機の ◁ を押すか他の入力ソースに切り替えると、AirPlay の再生が停止します。
- 本体の **STATUS** を押すと、曲名とアーティスト名を確認することができます。
- iTunes の使用方法は、iTunes の“ヘルプ”をご覧ください。
- 画面は、OS やソフトのバージョンによって異なる場合があります。



リスニングモードを選ぶ（サウンドモード）

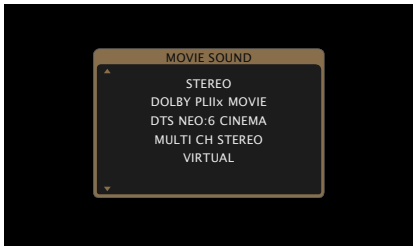
GUI

本機ではさまざまなサラウンド再生やステレオ再生をお楽しみいただけます。

ブルーレイディスクや DVD はもちろん、デジタル放送やネット配信の映画や音楽の多くのコンテンツには、マルチチャンネルの音声フォーマットが採用されています。
本機では、それらのほとんどがマルチチャンネル音声フォーマットの再生に対応しています。また、2チャンネルステレオ音声などのマルチチャンネル音声以外の音声フォーマットもサラウンド再生がおこなえます。

本機では入力された音声フォーマットと現在のスピーカーの設置環境から、再生できるすべてのサウンドモードを自動的にリストアップして画面に表示します。そのため、サウンドモードを選ぶための専門的な知識がなくても正しいサラウンドモードを選ぶことができます。さまざまなサラウンド再生をお試しいただいた中から、最もお好みのサラウンド再生をお楽しみください。

【例】**MOVIE** を長押ししたとき



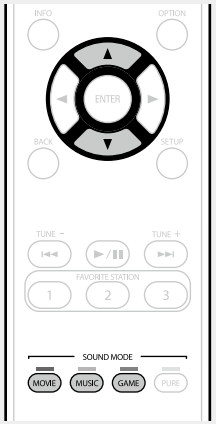
表示するサウンドモードには、2チャンネル再生のステレオモードも含んでいます。

ディスクに収録されている音声フォーマットはディスクのジャケットをご覧ください。

リスニングモードを選ぶ

1 **機器を再生する（☞41～62 ページ）。**

2 **MOVIE、MUSIC または GAME を長押しして、リスニングモードを選ぶ。**
それぞれのモードに合わせて選択できるサウンドモードを自動的にリストアップして表示します。



- **MOVIE**、**MUSIC** または **GAME** を長押しするたびに、リスニングモードが切り替わります。

MOVIE　リスニングモードを映画やテレビ番組の再生に適したモードに切り替えます。

MUSIC　リスニングモードを音楽の再生に適したモードに切り替えます。

GAME　リスニングモードをゲームの再生に適したモードに切り替えます。

- **MOVIE**、**MUSIC** または **GAME** を押すと、それぞれのモードの選択できるリスニングモードを表示します。**MOVIE**、**MUSIC** または **GAME** を押すたびに、リスニングモードが切り替わります。
- この一覧を表示中に △▽ でリスニングモードを選択することもできます。

- **MOVIE**、**MUSIC** または **GAME** のボタンは、それぞれのボタンで最後に選んだサウンドモードを記憶します。**MOVIE**、**MUSIC** または **GAME** を押すと、前回再生したときと同じサウンドモードを呼び出します。
- 前回選んだサウンドモードに対応していないコンテンツを再生した場合は、そのコンテンツにとって最もスタンダードなサウンドモードを自動的に選びます。
- 本体の **SOUND MODE** を押しても、リスニングモードを選べます。

ダイレクト再生

ソースに収録されている音声のまま再生するモードです。

1 **機器を再生する（☞41～62 ページ）。**

2 **PURE を押して“DIRECT”を選ぶ。**
ダイレクト再生をはじめます。

ピュアダイレクト再生

ダイレクト再生モードよりもさらに高音質の再生をおこなうモードです。
本体のディスプレイをオフにして、アナログビデオ回路を停止します。これにより、音質に影響を与えるノイズ源を抑えます。

1 機器を再生する（☞41～62 ページ）。

2 **PURE を押して、“PURE DIRECT On”を選ぶ。**
ディスプレイが消灯し、ピュアダイレクト再生をはじめます。

- ダイレクト再生モードおよびピュアダイレクト再生モードのとき、次の設定はできません。
  - トーンコントロール（☞112 ページ）
  - M-DAX（☞113 ページ）
  - MultEQ® XT（☞114 ページ）
  - Dynamic EQ（☞115 ページ）
  - Dynamic Volume（☞115 ページ）
- 本体の **PURE DIRECT** を押しても、ピュアダイレクト再生モードを選べます。

ご注意

- HDMI 信号を再生しているときは、ピュアダイレクト再生モードでも映像を出力します。
- ピュアダイレクト再生モード中は、メニュー画面を表示しません。
- ピュアダイレクト再生モード中は、ディスプレイが消灯し、通電されていない状態と同様になります。

オートサラウンド再生

このモードでは、入力されるデジタル信号の種類を検出し、自動的にそれぞれに対応した再生モードに切り替えます。
入力信号がアナログや PCM(2 チャンネル) の場合は、ステレオ再生をおこないます。

1 機器を再生する（☞41～62 ページ）。

2 **PURE を押して、“AUTO” を選ぶ。**
オートサラウンド再生をはじめます。

❑リスニングモード

- **MOVIE**、**MUSIC**、**GAME** または **PURE** ボタンで、下記のリスニングモードが選べます。
- メニューの“サラウンドパラメーター”（☞111 ページ）で音場効果を調節すると、よりお好みのサウンドでお楽しみいただけます。

操作ボタン	入力信号		リスニングモード
MOVIE	2 チャンネル *1		STEREO
			AUTO *2
			DOLBY PLIIx Movie *3
			DOLBY PLII Movie*3/ DOLBY PLII Movie A-DSX*5
			DOLBY Pro Logic*3/ DOLBY Pro Logic A-DSX*5
			DTS NEO:6 Cinema*3/ DTS NEO:6 Cinema A-DSX*5
			DOLBY PLIIz Height *3
			MULTI CH STEREO
			VIRTUAL
	マルチチャンネル *4		STEREO
			AUTO *2
		Dolby Digital	DOLBY DIGITAL/ DOLBY DIGITAL A-DSX*5
			DOLBY DIGITAL EX
			DOLBY DIGITAL + PLIIx Movie
			DOLBY DIGITAL + PLIIz
		Dolby TrueHD	DOLBY TrueHD/ OLBY TrueHD A-DSX*5
			DOLBY TrueHD + EX
			DOLBY TrueHD + PLIIx Movie
			DOLBY TrueHD + PLIIz
		Dolby Digital Plus	DOLBY DIGITAL Plus/ DOLBY DIGITAL Plus A-DSX*5
			DOLBY DIGITAL Plus + EX
			DOLBY DIGITAL Plus + PLIIx Movie
			DOLBY DIGITAL Plus + PLIIz
		DTS	DTS SURROUND/ DTS SURROUND A-DSX*5
			DTS ES DSCRT 6.1
			DTS ES MTRX 6.1
			DTS 96/24
			DTS + NEO:6
			DTS + PLIIx Movie
			DTS + PLIIz

操作ボタン	入力信号		リスニングモード
MOVIE		DTS-HD / DTS Express	DTS-HD HI RES/ DTS-HD HI RES A-DSX*5
			DTS-HD MSTR/ DTS-HD MSTR A-DSX*5
			DTS Express/ DTS Express A-DSX*5
			DTS-HD + NEO:6
			DTS-HD + PLIIx Movie
			DTS-HD + PLIIz
		PCM / DSD マルチチャンネル	MULTI CH IN/ MULTI CH IN A-DSX*5
			MULTI CH IN 7.1
			MULTI IN + Dolby EX
			MULTI IN + PLIIx Movie
			MULTI IN + PLIIz
		MPEG-2 AAC	MPEG2 AAC
	マルチチャンネル *4		MULTI CH STEREO
			VIRTUAL

*1 2 チャンネルには、アナログ入力も含みます。
*2 AUTO モードを選択した場合、入力信号に対応したサウンドモードで再生します。
*3 2 チャンネルソースを 5.1 または 7.1 チャンネルで再生するモードです。ヘッドホン使用時や、フロントスピーカーのみのスピーカー構成のときには選択できません。
*4 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できないリスニングモードがあります。詳しくは、「入力信号の種類と対応するサウンドモード」（☞150 ページ）をご覧ください。
*5 このモードは Audyssey DSX® 処理により、5.1 チャンネルのサラウンドにフロントハイトまたはフロントワイドチャンネルを追加して再生します（☞115 ページ）。

☞ 次のページへ

操作ボタン	入力信号		リスニングモード
MUSIC	2 チャンネル *1		STEREO
			AUTO *2
			DOLBY PLIIx Music *3
			DOLBY PLII Music *3/ DOLBY PLII Music A-DSX*5
			DTS NEO:6 Music *3/ DTS NEO:6 Music A-DSX*5
			DOLBY PLIIz Height *3
			MULTI CH STEREO
			VIRTUAL
	マルチチャンネル *4		STEREO
			AUTO *2
		Dolby Digital	DOLBY DIGITAL/ DOLBY DIGITAL A-DSX*5
			DOLBY DIGITAL EX
			DOLBY DIGITAL + PLIIx Music
			DOLBY DIGITAL + PLIIz
		Dolby TrueHD	DOLBY TrueHD/ DOLBY TrueHD A-DSX*5
			DOLBY TrueHD + EX
			DOLBY TrueHD + PLIIx Music
			DOLBY TrueHD + PLIIz
		Dolby Digital Plus	DOLBY DIGITAL Plus/ DOLBY DIGITAL Plus A-DSX*5
			DOLBY DIGITAL Plus + EX
			DOLBY DIGITAL Plus + PLIIx Music
			DOLBY DIGITAL Plus + PLIIz
		DTS	DTS SURROUND/ DTS SURROUND A-DSX*5
			DTS ES DSCRT 6.1
			DTS ES MTRX 6.1
			DTS 96/24
			DTS + NEO:6
			DTS + PLIIx Music
			DTS + PLIIz

操作ボタン	入力信号		リスニングモード
MUSIC		DTS-HD / DTS Express	DTS-HD HI RES/ DTS-HD HI RES A-DSX*5
			DTS-HD MSTR / DTS-HD MSTR A-DSX*5
			DTS Express / DTS Express A-DSX*5
			DTS-HD + NEO:6
			DTS-HD + PLIIx Music
			DTS-HD + PLIIz
		PCM / DSD マルチチャンネル	MULTI CH IN/ MULTI CH IN A-DSX*5
			MULTI CH IN 7.1
			MULTI IN + Dolby EX
			MULTI IN + PLIIx Music
			MULTI IN + PLIIz
		MPEG-2 AAC	MPEG2 AAC
	マルチチャンネル *4		MULTI CH STEREO
			VIRTUAL

*1 2 チャンネルには、アナログ入力も含みます。
*2 AUTO モードを選択した場合、入力信号に対応したサウンドモードで再生します。
*3 2 チャンネルソースを 5.1 または 7.1 チャンネルで再生するモードです。ヘッドホン使用時や、フロントスピーカーのみのスピーカー構成のときには選択できません。
*4 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できないリスニングモードがあります。詳しくは、「入力信号の種類と対応するサウンドモード」(☞150 ページ) をご覧ください。
*5 このモードは Audyssey DSX® 処理により、5.1 チャンネルのサラウンドにフロントハイトまたはフロントワイドチャンネルを追加して再生します (☞115 ページ)。

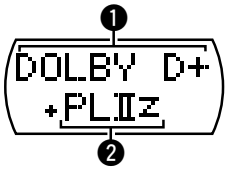
☞ 次のページへ

操作ボタン	入力信号		リスニングモード
GAME	2 チャンネル *1		STEREO
			AUTO *2
			DOLBY PLIIx Game *3
			DOLBY PLII Game *3/ DOLBY PLII Game A-DSX*5
			DOLBY PLIIz Height *3
			MULTI CH STEREO
			VIRTUAL
	マルチチャンネル *4		STEREO
			AUTO *2
		Dolby Digital	DOLBY DIGITAL/ DOLBY DIGITAL A-DSX*5
			DOLBY DIGITAL EX
			DOLBY DIGITAL + PLIIz
		Dolby TrueHD	DOLBY TrueHD/ DOLBY TrueHD A-DSX*5
			DOLBY TrueHD + EX
			DOLBY TrueHD + PLIIz
		Dolby Digital Plus	DOLBY DIGITAL Plus/ DOLBY DIGITAL Plus A-DSX*5
			DOLBY DIGITAL Plus + EX
			DOLBY DIGITAL Plus + PLIIz
		DTS	DTS SURROUND/ DTS SURROUND A-DSX*5
			DTS ES DSCRT 6.1
			DTS ES MTRX 6.1
			DTS 96/24
			DTS + NEO:6
			DTS + PLIIz

操作ボタン	入力信号		リスニングモード
GAME		DTS-HD / DTS Express	DTS-HD HI RES/ DTS-HD HI RES A-DSX*5
			DTS-HD MSTR/ DTS-HD MSTR A-DSX*5
			DTS Express/ DTS Express A-DSX*5
			DTS-HD + NEO:6
			DTS-HD + PLIIz
		PCM / DSD マルチチャンネル	MULTI CH IN/ MULTI CH IN A-DSX*5
			MULTI CH IN 7.1
			MULTI IN + Dolby EX
			MULTI IN + PLIIz
		MPEG-2 AAC	MPEG2 AAC
	マルチチャンネル *4		MULTI CH STEREO
			VIRTUAL
PURE	すべて		DIRECT
			PURE DIRECT
			AUTO *2

*1 2 チャンネルには、アナログ入力も含みます。
*2 AUTO モードを選択した場合、入力信号に対応したサウンドモードで再生します。
*3 2 チャンネルソースを 5.1 または 7.1 チャンネルで再生するモードです。ヘッドホン使用時や、フロントスピーカーのみのスピーカー構成のときには選択できません。
*4 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できないリスニングモードがあります。詳しくは、「入力信号の種類と対応するサウンドモード」(☞150 ページ) をご覧ください。
*5 このモードは Audyssey DSX® 処理により、5.1 チャンネルのサラウンドにフロントハイトまたはフロントワイドチャンネルを追加して再生します (☞115 ページ)。

テレビ画面およびディスプレイの表示について



❶使用するデコーダーをあらわします。
- DOLBY DIGITAL Plus デコーダーは“DOLBY D+” と表示します。

❷サラウンドバックスピーカーから出力する音声を生成するデコーダーをあらわします。
- “+ PLIIz” はフロントハイトスピーカーからのフロントハイト音声をあらわします。

AAC ソースの再生について

- AAC 放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声が途中で途切れる場合があります。
- テレビやデジタルチューナーなどによっては、AAC 出力が“オフ” になっていたり、AAC 信号を PCM 信号に変換する設定になっていたりする場合があります。テレビやデジタルチューナーなどの設定画面で、デジタル音声や AAC 出力の設定をご確認ください。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

❑リスニングモードの種類について

ドルビーリスニングモード

リスニングモードの種類	説明
DOLBY PLIIx*1	Dolby PLIIx デコーダーを使用して、2 チャンネルソースをサラウンドバックチャンネルを加えた 6.1/7.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。 サラウンドバックチャンネルによって、Dolby Pro Logic II に比べ、より包囲感が向上します。 映画再生に適した“Movie” モード、音楽再生に適した“Music” モードおよびゲームに最適な“Game” モードがあります。
DOLBY PLII	Dolby PLII デコーダーを使用して、2 チャンネルソースを自然で臨場感のある 5.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。
DOLBY Pro Logic	Dolby Pro Logic デコーダーを使用して、2 チャンネルソースを 4.1 チャンネル(フロント左 / センター / フロント右 / サラウンドモノ)のサラウンドサウンドで再生するモードです。
DOLBY PLIIz*2	Dolby PLIIz デコーダーを使用して、2 チャンネルソースをフロントハイトチャンネルを加えた 7.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。 フロントハイトチャンネルの追加によって、垂直方向の表現が豊かになり、立体感が向上します。
DOLBY DIGITAL	Dolby Digital で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DOLBY DIGITAL EX*1	Dolby Digital EX デコーダーを使用して、Dolby Digital ソースをサラウンドバックチャンネルを加えた 6.1/7.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。 サラウンドバックチャンネルが加わることにより、空間表現力や定位感が向上します。
DOLBY TrueHD	Dolby TrueHD で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DOLBY DIGITAL Plus	Dolby Digital Plus で収録されたディスクの再生に適したモードです。

*1 メニューの“スピーカー構成”⇨“S. バック”設定が“無し”以外のときに選べます。
*2 メニューの“スピーカー構成”⇨“フロントハイト”設定が“無し”以外のときに選べます。

DTS リスニングモード

リスニングモードの種類	説明
DTS NEO:6	DTS NEO:6 デコーダーを使用して、2 チャンネルソースを、サラウンドバックチャンネルを含んだ 6.1/7.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。 映画再生に適した“Cinema” モードと、音楽再生に適した“Music” モードがあります。
DTS SURROUND	DTS で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS ES DSCRT 6.1*	DTS-ES で収録されたディスクの再生に適したモードです。 ディスクリート方式で追加されたサラウンドバックチャンネルを独立したチャンネルとして再生します。 すべてのチャンネルが独立しているため、360 度の空間表現力や定位感が拡大します。
DTS ES MTRX6.1*	DTS-ES で収録されたディスクの再生に適したモードです。 ソフトを収録時、マトリクスエンコードにより、サラウンド左 / サラウンド右チャンネルに追加されたサラウンドバックチャンネルを、本機のマトリクスデコーダーによってサラウンド左 / サラウンド右 / サラウンドバックの各チャンネルにデコードして再生します。
DTS 96/24	DTS 96/24 で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS-HD	DTS-HD で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS Express	DTS Express で収録されたディスクの再生に適したモードです。

* メニューの“スピーカー構成”⇨“S. バック”の設定が“無し”以外のときに選べます。

PCM マルチチャンネルリスニングモード

リスニングモードの種類	説明
MULTI CH IN	このモードは、マルチチャンネルの PCM ソースを入力しているときに選べます。

AAC リスニングモード

リスニングモードの種類	説明
MPEG2 AAC	このモードは、地上デジタル放送や BS デジタル放送などで MPEG-2 AAC が配信されているときに選べます。 MPEG-2 AAC により高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

次のページへ

Audyssey DSX® リスニングモード

リスニングモードの種類	説明
Audyssey DSX® (A-DSX)*	このモードは、5.1 チャンネルシステムに新しいチャンネル (フロントワイドまたはフロントハイト) を作り出して再生します。フロントワイド、フロントハイトチャンネルの追加により、より立体感や臨場感のあるサラウンド効果を体感できます。

* このモードは“スピーカー構成”(☞127、128 ページ) で“フロントハイト” または“フロントワイド” を“無し”以外に設定し、“センター”を“無し”以外に設定しているときに選べます。

オリジナルリスニングモード

リスニングモードの種類	説明
MULTI CH STEREO	ステレオサウンドをすべてのスピーカーで楽しむモードです。 フロントスピーカー(左 / 右)と同じ音声を、サラウンドスピーカー(左 / 右)およびサラウンドバックスピーカー(左 / 右)から同じレベルでそれぞれ再生します。
VIRTUAL	フロントスピーカーやヘッドホンでサラウンド効果を楽しむモードです。

AUTO リスニングモード

リスニングモードの種類	説明
AUTO	このモードでは、Dolby Digital、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DolbyDigital EX、DTS、DTS-HD、DTS-ES、PCM(マルチチャンネル) など、入力されるデジタル信号の種類を検出し、自動的にそれぞれに対応した再生モードに切り替えます。 入力信号がアナログや PCM(2 チャンネル) の場合は、ステレオ再生をおこないます。

ステレオリスニングモード

リスニングモードの種類	説明
STEREO	音質調節ができるステレオ再生用のモードです。トーンを調節できます。 • フロントスピーカー(左 / 右)とサブウーハーから音声を出力します。 • マルチチャンネル信号を入力しているときは、2 チャンネルの音声にダウンミックスして再生します。

ダイレクトリスニングモード

リスニングモードの種類	説明
DIRECT	ソースに収録されている音声のまま再生するモードです。
PURE DIRECT	”DIRECT”モードよりもさらに高音質の再生をおこなうモードです。 本体のディスプレイをオフにして、アナログビデオ回路を停止します。これにより、音質に影響を与えるノイズ源を抑えます。

Advanced version

応用編

ここでは、本機をより使いこなすことができる機能や操作について説明しています。

- スピーカーの設置 / 接続 / 設定をする(応用) ☞80 ページ
- 接続のしかた(応用接続) ☞94 ページ
- 再生のしかた(応用操作) ☞96 ページ
- ゾーン 2(別の部屋)での再生 ☞103 ページ
- 詳細設定のしかた ☞105 ページ

スピーカーの設置 / 接続 / 設定をする（応用）

スピーカー設定の流れ

スピーカーを設置する

↓

スピーカーを接続する（☞82 ページ）

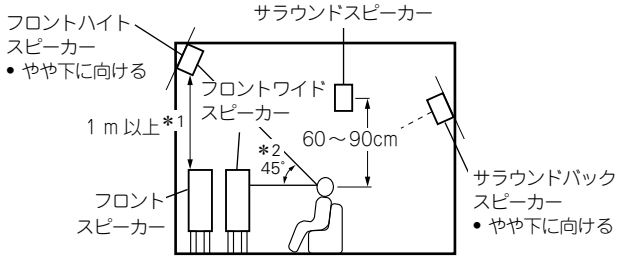
↓

スピーカーを設定する（☞92 ページ）

スピーカーを設置する

- お使いになるスピーカーの本数に応じて、スピーカーシステムを決定し、各スピーカーおよびサブウーハーを部屋に設置します。本書では例として、代表的な設置方法を説明します。
- スピーカーはインピーダンスが 6～8 Ωのものを使用してください。

各スピーカーを設置する高さは、次のイラストを目安にしてください。ただし、正確に合わせる必要はありません。



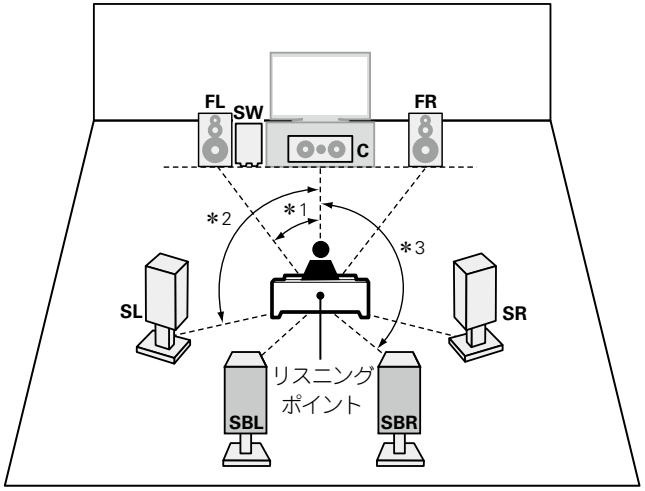
【 側面から見た図 】

＊1 Dolby Pro Logic IIz 推奨
＊2 Audyssey DSX® 推奨

ご注意

音声は、サラウンドバックスピーカー、フロントハイトスピーカー、フロントワイドスピーカーから同時に出力されません。

サラウンドバックスピーカーを使用して 7.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき



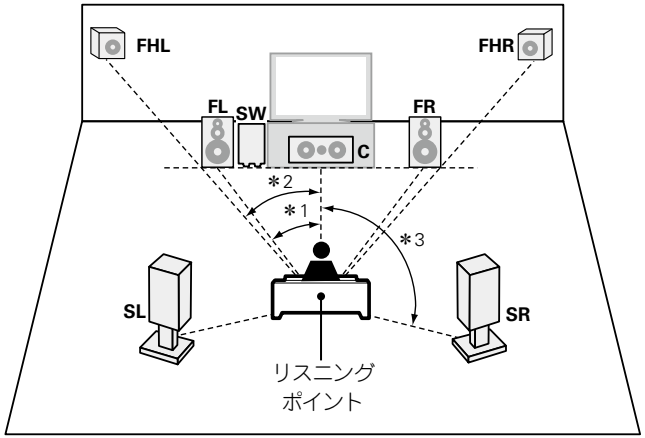
＊1 22°~30°　＊2 90°～110°　＊3 135°～150°

【 各スピーカーの呼称について 】

FL	フロントスピーカー（左）	**SL**	サラウンドスピーカー（左）
FR	フロントスピーカー（右）	**SR**	サラウンドスピーカー（右）
C	センタースピーカー	**SBL**	サラウンドバックスピーカー（左）
SW	サブウーハー	**SBR**	サラウンドバックスピーカー（右）

フロントハイトスピーカーを使用して 7.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき

Dolby Pro Logic IIz または Audyssey DSX® をご使用になる場合は、フロントハイトスピーカーを設置してください。



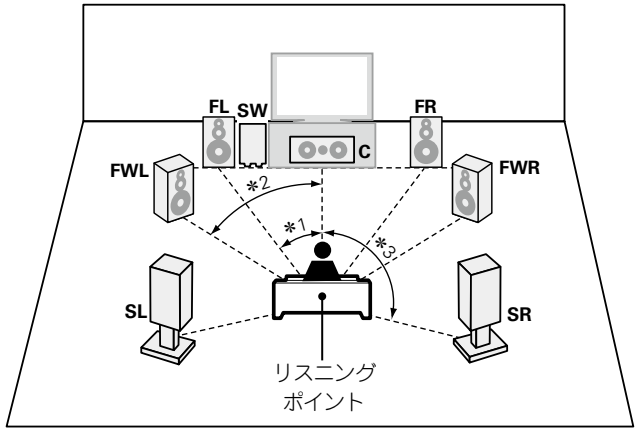
＊1 22°~30°　＊2 22°~45°　＊3 90°~110°

【各スピーカーの呼称について】

FL	フロントスピーカー（左）	**SB**	サラウンドバックスピーカー
FR	フロントスピーカー（右）	**FHL**	フロントハイトスピーカー（左）
C	センタースピーカー	**FHR**	フロントハイトスピーカー（右）
SW	サブウーハー	**FWL**	フロントワイドスピーカー（左）
SL	サラウンドスピーカー（左）	**FWR**	フロントワイドスピーカー（右）
SR	サラウンドスピーカー（右）		

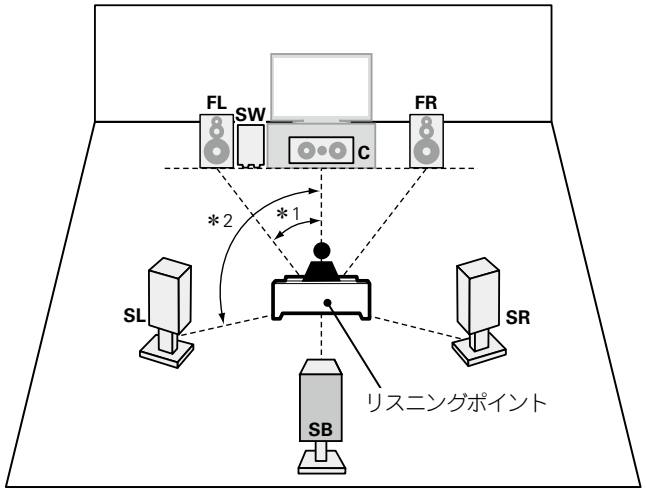
フロントワイドスピーカーを使用して 7.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき

Audyssey DSX® をご使用になる場合は、フロントワイドスピーカーを設置してください。



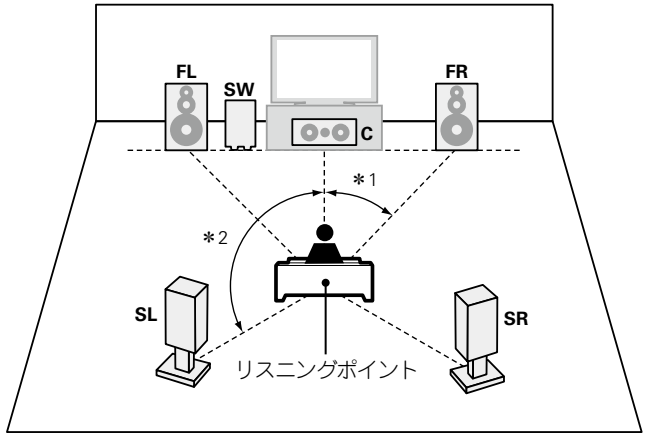
＊1 22°~30°　＊2 55°~60°　＊3 90°~110°

6.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき



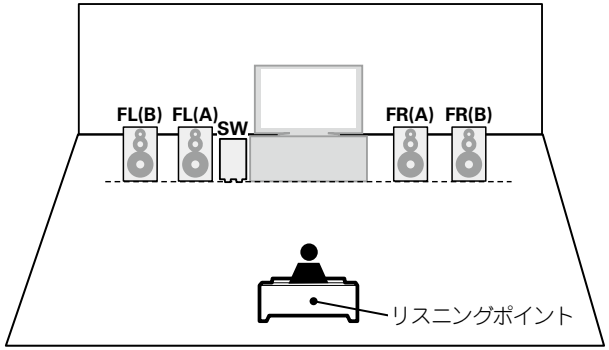
＊1 22°~30°　＊2 90°~110°

5.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき



＊1 22°~30°　＊2 120°

フロント A/B のスピーカーを設置するとき



スピーカーを接続する

部屋に設置したスピーカーを本機に接続します。
ここでは例として、代表的な接続方法を説明しています。

- ❏ サラウンドバックスピーカーを使用して 7.1 チャンネルのスピーカーを接続する (☞84 ページ)
- ❏ フロントハイトスピーカーを使用して 7.1 チャンネルのスピーカーを接続する (☞85 ページ)
- ❏ フロントワイドスピーカーを使用して 7.1 チャンネルのスピーカーを接続する (☞86 ページ)
- ❏ 1 本のサラウンドバックスピーカーを使用して 6.1 チャンネルのスピーカーを接続する (☞87 ページ)
- ❏ 5.1 チャンネルのスピーカーを接続する (☞88 ページ)
- ❏ フロント A/B のスピーカーを接続する (☞89 ページ)
- ❏ 2.1 チャンネルのスピーカーを接続する (☞90 ページ)
- ❏ フロントスピーカーをバイアンプ接続して使用する (☞91 ページ)

ご注意

- スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。また、サブウーハーの電源を切ってください。
- スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやねじに接触したり、＋側と－側が接触したりすると、保護回路が動作します（☞157 ページ「保護回路」）。
- 通電中は、絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。ただし、“セットアップアシスタント”（📖 8 ページ）メニューを操作中は“セットアップアシスタント”メニューの指示に従って接続してください。（“セットアップアシスタント”メニューを操作中、スピーカー端子は通電しません。）
- スピーカーは次のインピーダンスのものをお使いください。

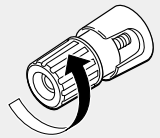
ご使用になるスピーカー端子	スピーカーインピーダンス
FRONT	6～8 Ω
CENTER	
SURROUND	
SURROUND BACK	
FRONT B	

スピーカーケーブルを接続する

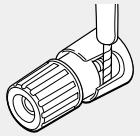
本機と接続するスピーカーの左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、＋(赤)、－(黒)をよく確認して、同じ極性を接続してください。

1 スピーカーケーブル先端の被覆を 10mm 程度はがし、芯線をしっかりよじるか、端末処理をおこなう。

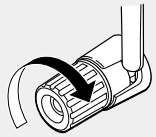
2 スピーカー端子を左に回してゆるめる。



3 スピーカーケーブルの芯線をスピーカー端子の根元に差し込む。

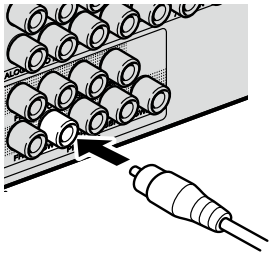


4 スピーカー端子を右に回して締める。



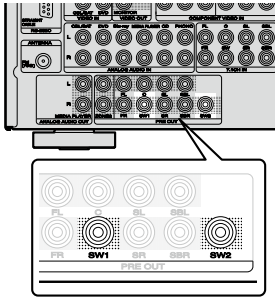
サブウーハーを接続する

サブウーハーケーブルを使用してサブウーハーと接続します。



❑サブウーハーを 2 台接続する場合

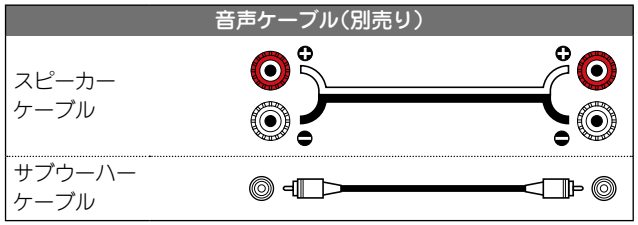
本機にはサブウーハーを 2 台接続することができます。
それぞれのサブウーハー端子からは、同じ信号を出力します。



サラウンドバックスピーカーを使用して 7.1 チャンネルのスピーカーを接続する

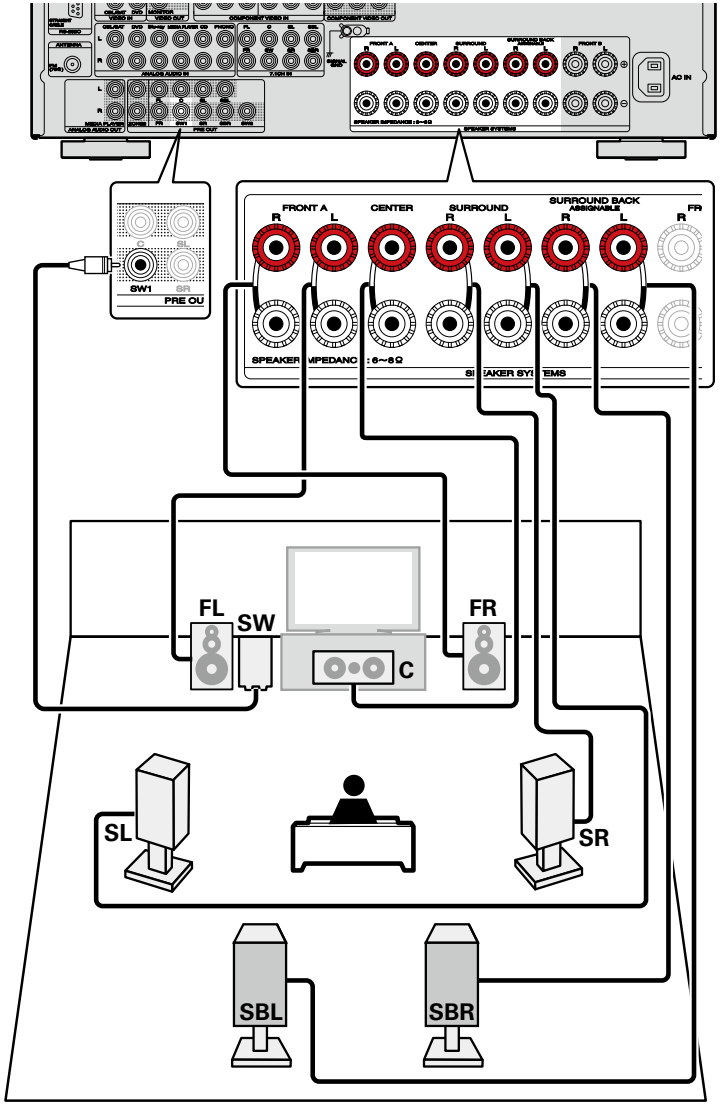
右図は、サラウンドバックスピーカーを使用して、7.1 チャンネルの再生をおこなうときの接続例です。
このときのスピーカー設置については、「サラウンドバックスピーカーを使用して 7.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき」(☞80 ページ) をご覧ください。
この接続をおこなう場合は、「“アンプの割り当て” の設定」(☞92 ページ) の手順 3～5 で、“アサインモード” を “Surround Back” に設定してください。

接続に使用するケーブル



ご注意

スピーカーケーブルの接続方法およびスピーカーインピーダンスについては、82 ページをご覧ください。



フロントハイトスピーカーを使用して 7.1 チャンネルのスピーカーを接続する

右図は、フロントハイトスピーカーを使用して、7.1 チャンネルの再生をおこなうときの接続例です。
このときのスピーカー設置については、「フロントハイトスピーカーを使用して 7.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき」(☞81 ページ) をご覧ください。
この接続をおこなう場合は、「"アンプの割り当て" の設定」(☞92 ページ) の手順 3～5 で、"アサインモード" を "Front Height" に設定してください。

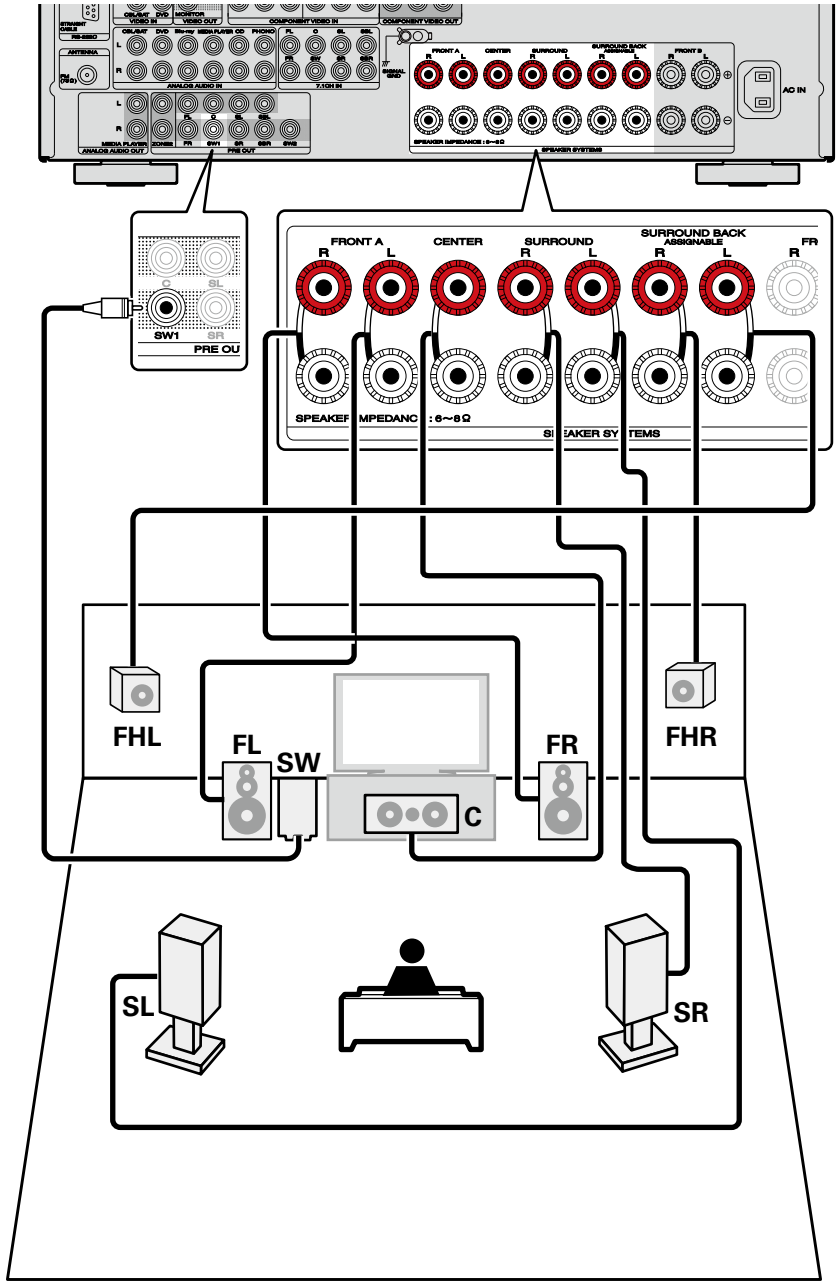
接続に使用するケーブル

音声ケーブル(別売り)	
スピーカーケーブル	
サブウーハーケーブル	

Dolby Pro Logic IIz または Audyssey DSX® をご使用になる場合は、フロントハイトスピーカーを設置してください。

ご注意

スピーカーケーブルの接続方法およびスピーカーインピーダンスについては、82 ページをご覧ください。



フロントワイドスピーカーを使用して 7.1 チャンネルのスピーカーを接続する

右図は、フロントワイドスピーカーを使用して、7.1 チャンネルの再生をおこなうときの接続例です。
このときのスピーカー設置については、「フロントワイドスピーカーを使用して 7.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき」(☞81 ページ) をご覧ください。
この接続をおこなう場合は、「"アンプの割り当て" の設定」(☞92 ページ) の手順 3～5 で、"アサインモード" を "Front Wide" に設定してください。

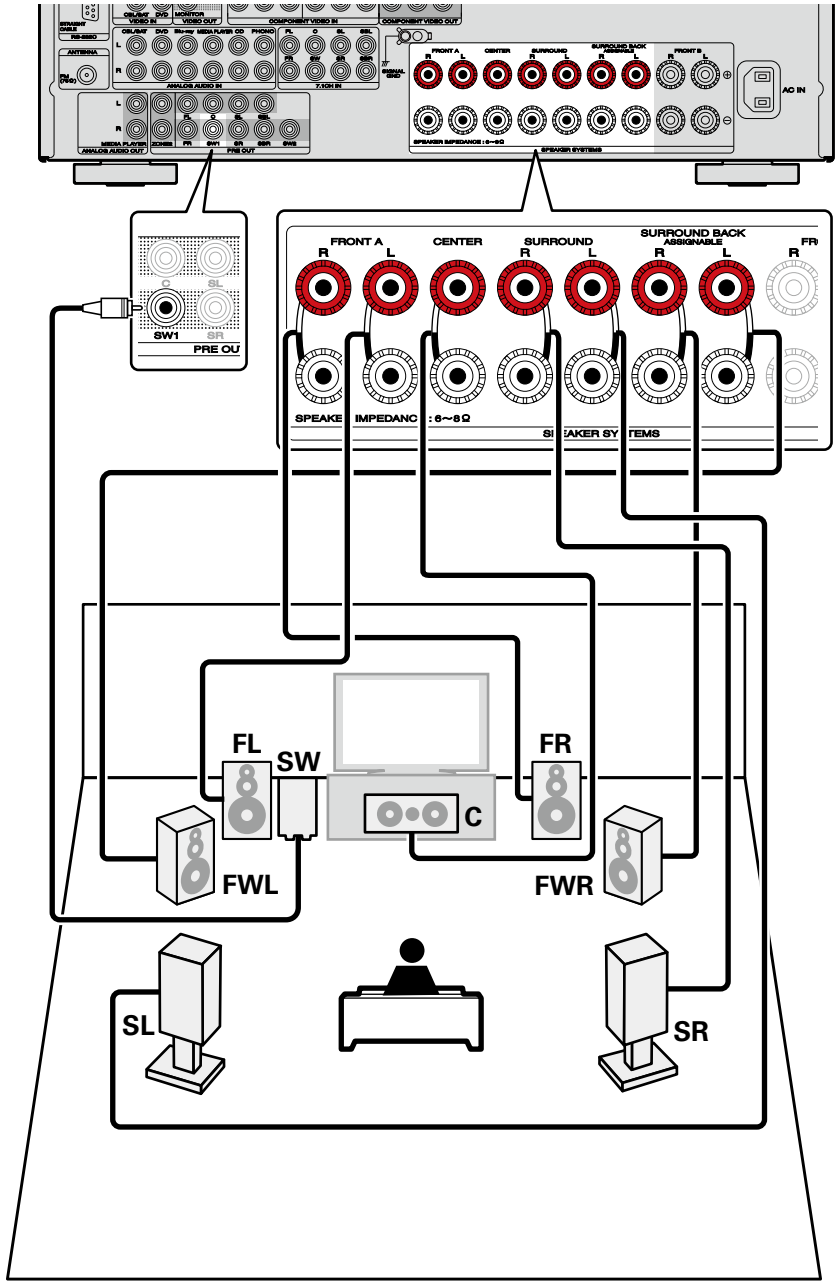
接続に使用するケーブル

音声ケーブル(別売り)	
スピーカーケーブル	
サブウーハーケーブル	

Audyssey DSX® をご使用になる場合は、フロントワイドスピーカーを設置してください。

ご注意

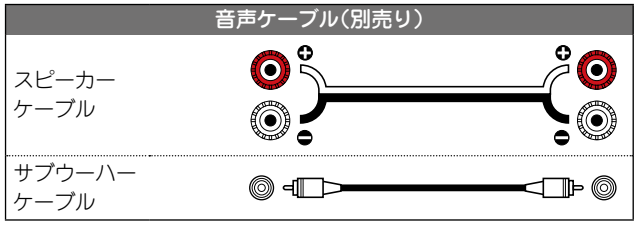
スピーカーケーブルの接続方法およびスピーカーインピーダンスについては、82 ページをご覧ください。



1 本のサラウンドバックスピーカーを使用して 6.1 チャンネルのスピーカーを接続する

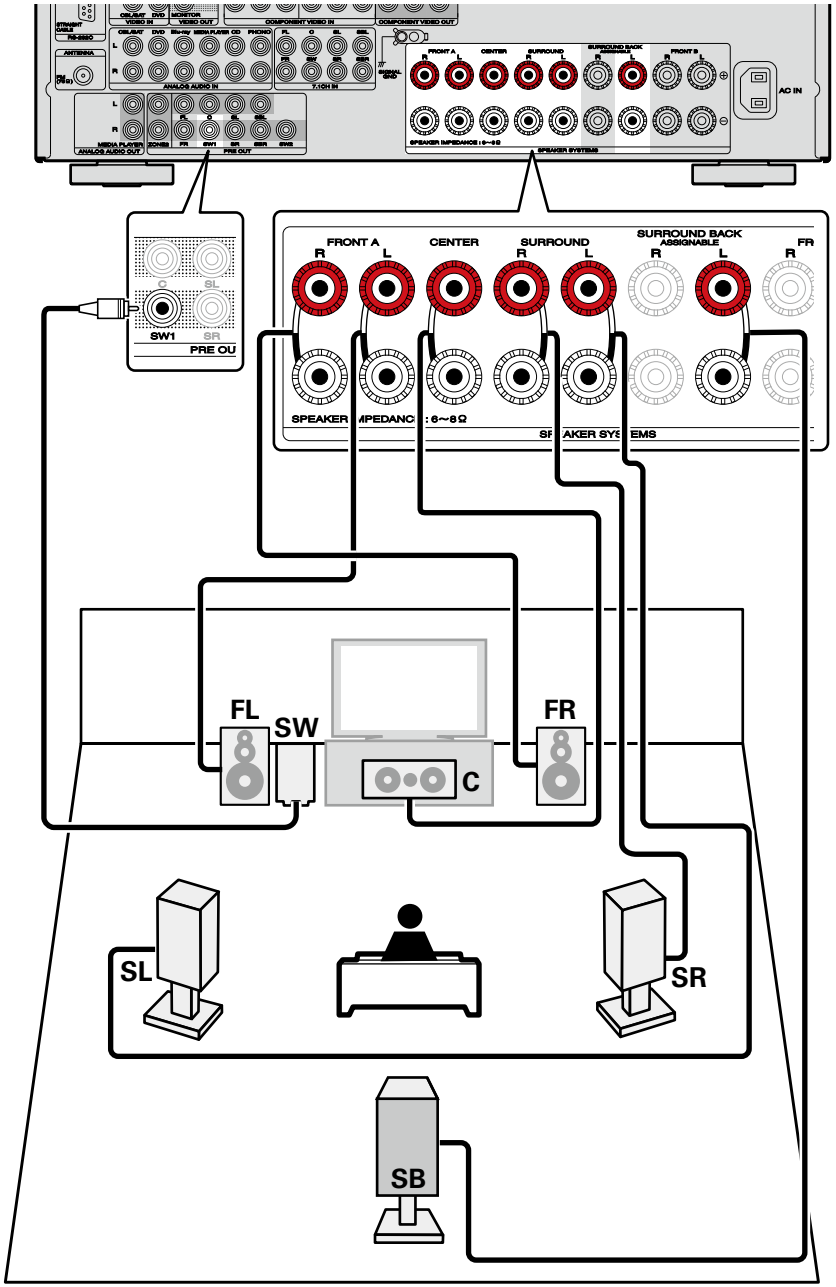
サラウンドバックスピーカーを 1 本だけ使用する場合は、SURROUND BACK 端子の“L”側に接続してください。
このときのスピーカー設置については、「6.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき」(☞81 ページ)をご覧ください。
この接続をおこなう場合は、「“アンプの割り当て”の設定」(☞92 ページ)の手順 3～5 で、“アサインモード”を“Surround Back”に設定してください。
また、メニューの“スピーカー構成”(☞127 ページ)の設定で“S. バック”を“1 台”に設定してください。

接続に使用するケーブル



ご注意

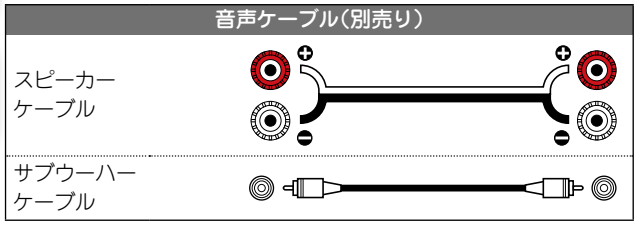
スピーカーケーブルの接続方法およびスピーカーインピーダンスについては、82 ページをご覧ください。



5.1 チャンネルのスピーカーを接続する

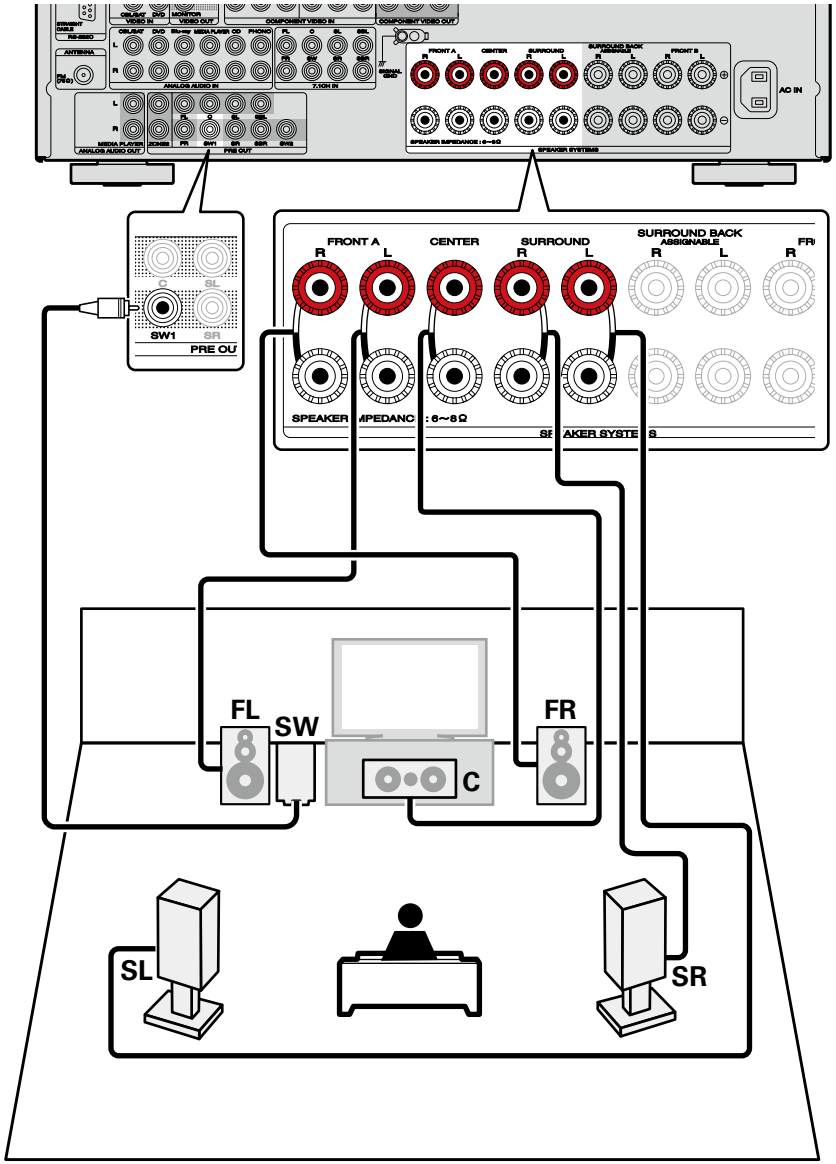
このときのスピーカー設置については、「5.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき」（☞81 ページ）をご覧ください。

接続に使用するケーブル



ご注意

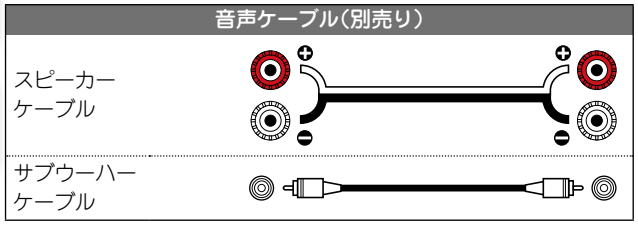
スピーカーケーブルの接続方法およびスピーカーインピーダンスについては、82 ページをご覧ください。



フロント A/B のスピーカーを接続する

本機に 2 組目のフロントスピーカーを接続して使用することができます。

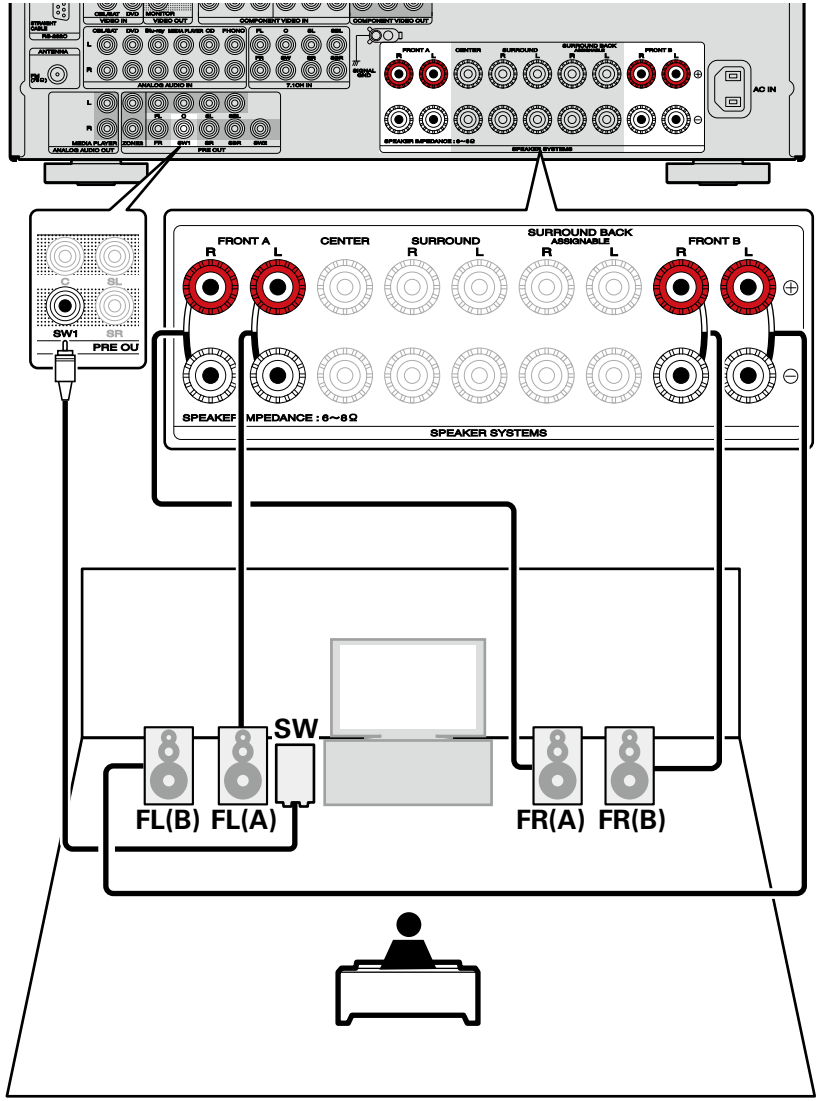
接続に使用するケーブル



- マルチチャンネル再生をおこなう場合は、フロント、センター、サラウンド、サラウンドバックスピーカーおよびサブウーハーを接続してください。
- マルチチャンネル再生にはフロントスピーカー（A）を、2 チャンネル再生にはフロントスピーカー（B）を使用するなど、スピーカーの仕様や再生するソースによってフロントスピーカーを使い分けることができます（☞129 ページ「フロントスピーカーの設定」）。

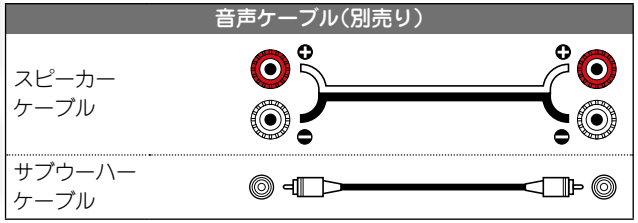
ご注意

スピーカーケーブルの接続方法およびスピーカーインピーダンスについては、82 ページをご覧ください。



2.1 チャンネルのスピーカーを接続する

接続に使用するケーブル

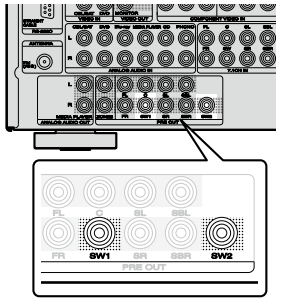


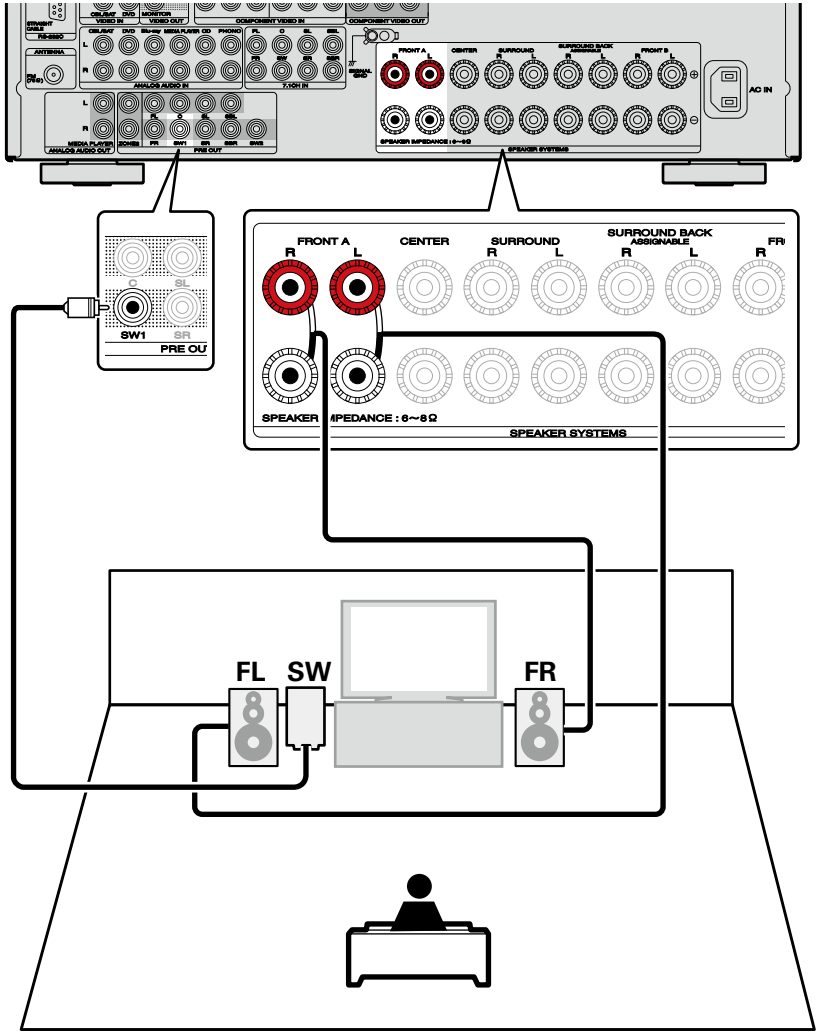
ご注意

スピーカーケーブルの接続方法およびスピーカーインピーダンスについては、82 ページをご覧ください。

❑サブウーハーを 2 台接続する場合

本機にはサブウーハーを 2 台接続することができます。それぞれのサブウーハー端子からは、同じ信号を出力します。

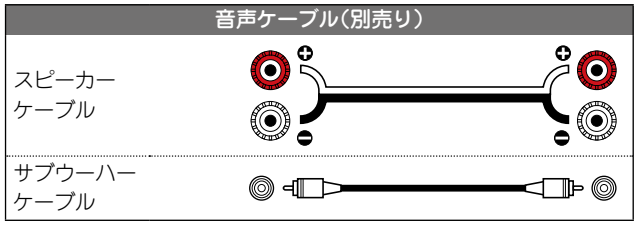




フロントスピーカーをバイアンプ接続して使用する

- フロントスピーカーをバイアンプ接続して使用する場合、サラウンドバックスピーカーは使用できません。バイアンプ接続に対応したフロントスピーカーを使用して、スピーカーを本機の FRONT スピーカー端子および SURROUND BACK スピーカー端子に接続します。
  この接続をおこなう場合は、「“アンプの割り当て” の設定」(☞ 92 ページ) の手順 3～5 で、“アサインモード” を “Bi-AMP” に設定してください。
- バイアンプ接続は、バイアンプ対応スピーカーのツィーター用端子とウーハー用端子に、別々のアンプを接続する方法です。これによりウーハーの逆起電力(出力されずに戻ってくる電力)がツィーターに流れ込んでツィーターの音質に影響を及ぼすことがないため、より高音質な再生をお楽しみいただくことができます。

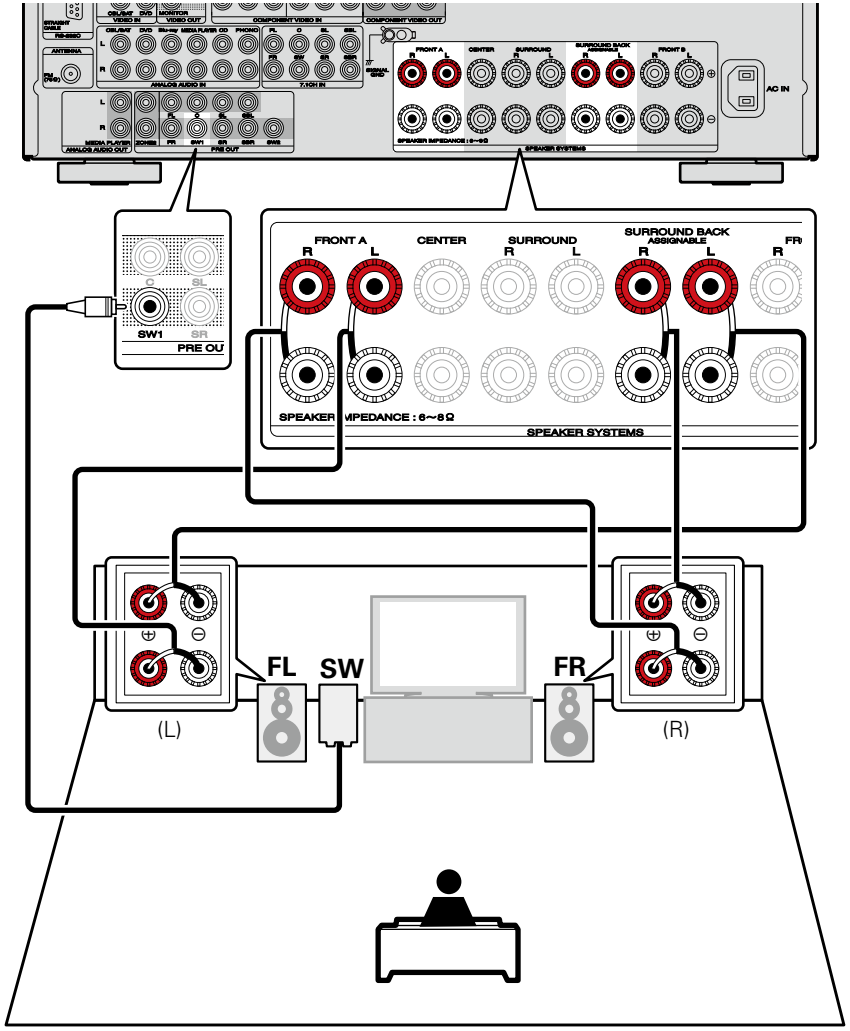
接続に使用するケーブル



マルチチャンネル再生をおこなう場合は、フロント、センター、サラウンドスピーカーおよびサブウーハーを接続してください。

ご注意

- **スピーカーケーブルの接続方法およびスピーカーインピーダンスについては、82 ページをご覧ください。**
- バイアンプ接続ではスピーカーのウーハー端子とツィーター端子を接続している短絡板または短絡用ワイヤーを必ず外してください。



スピーカーを設定する

あらかじめスピーカーを設置し、本機とスピーカーを接続してください。

“Audyssey® セットアップ”の測定前に、次の設定をおこなうことができます。

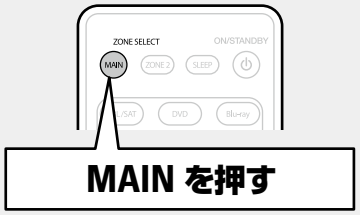
- アンプの割り当てを変更する（アンプの割り当て）
  本機の SURROUND BACK スピーカー端子から出力する信号を、お使いになるスピーカー環境に合わせて切り替えて出力することができます（☞92 ページ「“アンプの割り当て”の設定」）。
- 使用するチャンネルを設定する（チャンネルセレクト）
  使用しないチャンネルをあらかじめ設定すると、設定したチャンネルの測定をスキップして、測定時間を短縮することができます。また、サブウーハーやサラウンドバックスピーカーの本数を変更することもできます（☞93 ページ「“チャンネルセレクト”の設定」）。

1 リモコンの設定をする

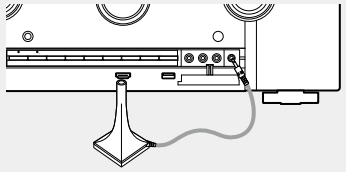
❏ **リモコンを使用するゾーンを設定する（リモコン操作モード）**

MAIN を押して、リモコン操作モードをメインゾーンに切り替える。

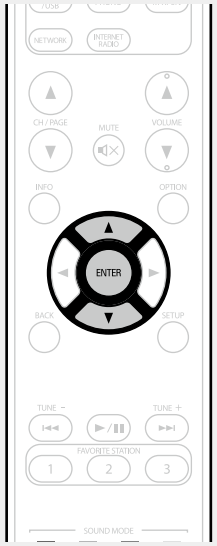
MAIN が点灯します。



2 セットアップマイクを接続する。



セットアップマイクを接続すると、テレビに次のセットアップ画面を表示します。



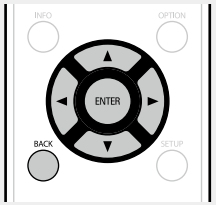
3 “アンプの割り当て”の設定

△▽ を押して“アンプの割り当て”を選び、ENTER を押す。

4 “アサインモード”を選び、ENTER を押す。

☞ 次のページへ

5 ◁ ▷ を押して接続したスピーカーの構成を選び、ENTER を押す。

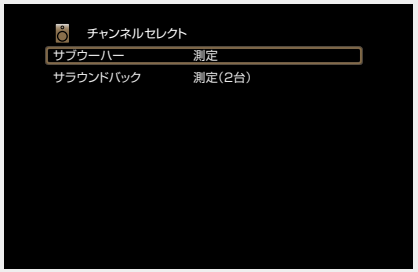


Surround Back	サラウンドバック、フロントハイトおよびフロントワイドスピーカーを使用して、7.1 チャンネルで再生するときに設定します。
ZONE2	本機内部のパワーアンプをゾーン 2 用に割り当て、ステレオ音声で出力するときに設定します。
Bi-AMP	フロントスピーカーをバイアンプ接続で使用するときに設定します。
Front Height	フロントハイトスピーカーを使用して、7.1 チャンネル再生をおこなうときに設定します。
Front Wide	フロントワイドスピーカーを使用して、7.1 チャンネル再生をおこなうときに設定します。

6 ◁ または BACK を押して、“アンプの割り当て” の設定を終了する。

7 **“チャンネルセレクト”の設定**

△▽ を押して“ チャンネルセレクト ” を選び、ENTER を押す。



8 △▽ を押してチャンネルを選び、ENTER を押す。

サブウーハー	使用するサブウーハーを測定するかしないかを選びます。この場合、手順 9 へ進んでください。
サラウンドバック	測定するサラウンドバックスピーカーの本数を選択します。この場合、手順 10 へ進んでください。 • “サラウンドバック” は、メニューの “アサインモード” の設定が “Surround Back” のときに設定できます。

9 ◁ ▷ を押してサブウーハーを測定するか測定しないかを選び、ENTER を押す。

測定	サブウーハーを測定するときに設定します。
スキップ	サブウーハーを測定しないときに設定します。

10 ◁ ▷ を押して、測定するサラウンドバックスピーカーの本数を選び、ENTER を押す。

測定（2台）	サラウンドバックスピーカーを 2 台測定するときに設定します。
測定（1台）	サラウンドバックスピーカーを 1 台測定するときに設定します。
スキップ	サラウンドバックスピーカーを測定しないときに設定します。

11 ◁ または BACK を押す。

34 ページの 準備 の手順 5 へ進む。

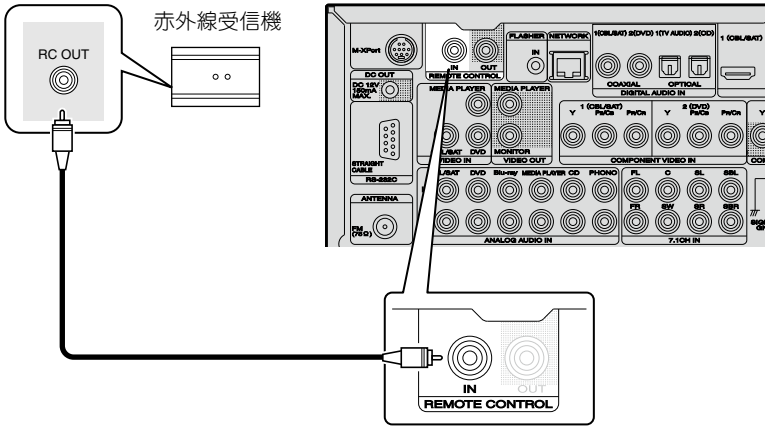
ご注意

“Audyssey® セットアップ” をおこなったあとに、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。もし変更した場合には、再び“Audyssey® セットアップ”をおこなってください。

リモートコントロール端子に接続する

本機や外部機器を操作する

- 赤外線受信機を本機に接続すると、付属のリモコンで本機や外部機器を操作できます。
- この操作をおこなう場合、「リモートロック機能」（☞101 ページ）でリモコン信号の受信機能を無効に設定してください。

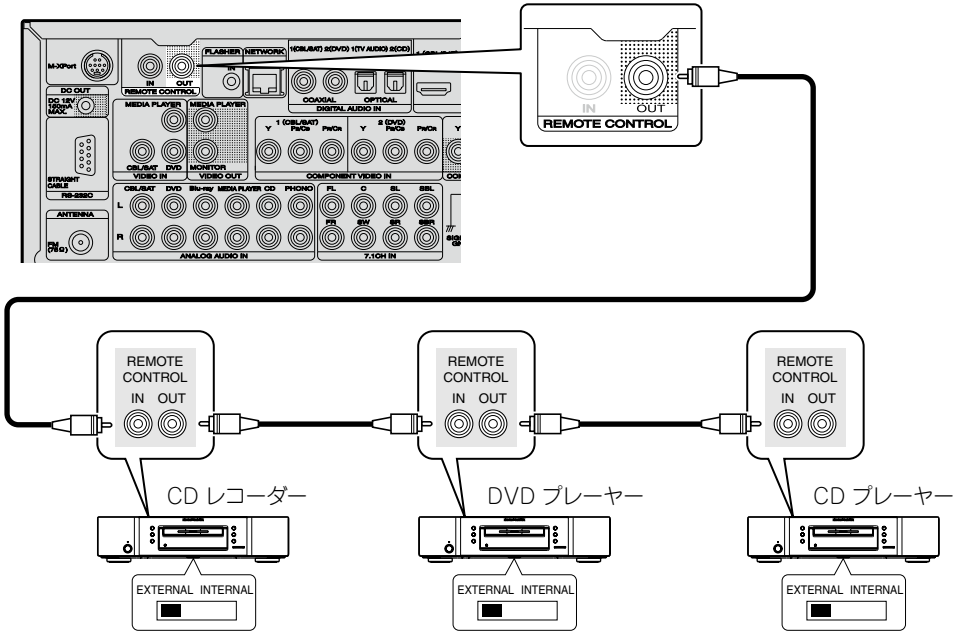


ご注意

赤外線送受信機を接続しない場合は、必ずリモコン信号の受信機能を有効に設定してください。無効に設定すると、リモコンの操作ができなくなります。

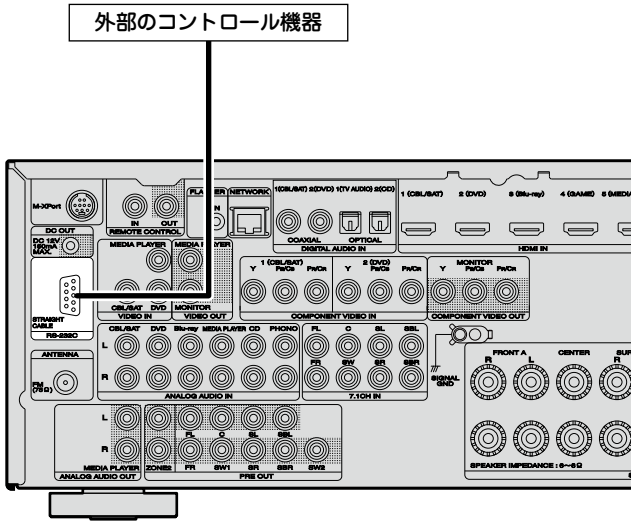
マランツ製機器をリモート接続する

- リモート接続に対応しているマランツ製機器をお使いの場合は、赤外線受信機は必要ありません。
- モノラルケーブルを使用して REMOTE CONTROL IN/OUT 端子に機器を接続するだけでリモコン信号を転送できます。
- この接続をおこなう場合は、本機と接続する機器の背面に装備されているリモートコントロールスイッチを“EXTERNAL”または“EXT.”に設定してください。
- マランツ製パワーアンプ（一部のモデルを除く）をこれらのいずれかの端子に接続すると、本機の ⏻ **ON STANDBY** ボタンに連動して、パワーアンプの電源がオン / スタンバイします。



RS-232C 端子

外部のコントロール機器を接続すると、外部のコントロール機器から本機をコントロールできます。



あらかじめ次の確認をしてください。

① 本機の電源を入れる。

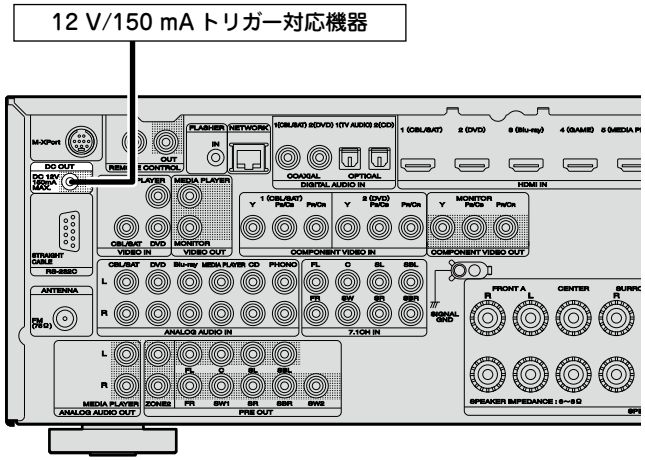
② 外部のコントロール機器で、本機の電源を切る。

③ 本機がスタンバイ状態になる。

DC OUT 端子

DC IN 端子を持っている機器を本機に接続すると、その機器の電源を本機の操作に連動させてオン / スタンバイすることができます。

本機の DC OUT 端子からは、最大 12V/150mA の電気信号を出力します。



ご注意

- DC OUT 端子の接続には、モノラルのミニプラグケーブルを使用してください。ステレオミニプラグケーブルは使用しないでください。
- 接続する機器のトリガー許容入力レベルが 12V/150mA よりも大きいときや短絡状態のときは、DC OUT 端子を使用できません。このような場合は、本機の電源を切ってから DC OUT 端子の接続を外してください。

設定のしかた（☞32 ページ）
再生のしかた（基本操作）（☞40 ページ）
リスニングモードを選ぶ（サウンドモード）（☞72 ページ）
接続のしかた（応用接続）（☞94 ページ）
❑ HDMI コントロール機能（☞96 ページ）
❑ スリープタイマー機能（☞97 ページ）
❑ ウェブコントロール機能（☞98 ページ）
❑ デュアルバックアップメモリー機能（☞100 ページ）
❑ フロントキーロック機能（☞100 ページ）
❑ リモートロック機能（☞101 ページ）
❑ 各種メモリー機能（☞102 ページ）

HDMI コントロール機能

本機と HDMI コントロール機能対応のテレビやプレーヤーを HDMI ケーブルで接続し、それぞれの機器の HDMI コントロール機能の設定を有効にすると、機器間で相互に制御することができます。

❑HDMI コントロール機能でできること

- **テレビの電源オフ操作に連動して、本機の電源をオフにできます。**
- **テレビの操作で、音声を出力する機器の切り替えができます。**
  テレビの音声出力の設定操作にて「アンプから音声を出力する」の設定操作をおこなうと、アンプの電源をオンにすることができます。
- **テレビの音量調節操作で、本機の音量の調節ができます。**
- **テレビの入力の切り替え操作に連動して、本機の入力ソースの切り替えができます。**
- **プレーヤーを再生すると、本機の入力ソースがそのプレーヤーの入力ソースに切り替わります。**
- **本機の入力ソースを“TV AUDIO”にすると、テレビの音声を本機で再生できます（☞11 ページ「ARC（Audio Return Channel）機能について」）。**
- **メニューの“HDMI コントロール”（☞119 ページ）を“オン”に設定している場合、本機の電源がスタンバイ状態のときでも HDMI 入力端子から入力された信号を、HDMI 出力端子に接続されたテレビや他の機器に出力します（パススルー機能）。**

- ARC 機能に対応していないテレビの音声を本機で再生する場合は、光デジタルまたはアナログ接続をしてください（☞11 ページ）。
- パススルー機能を使用するには、HDMI コントロール対応の HDMI 機器を接続してください。

❑設定のしかた

1 **本機の HDMI コントロール機能を有効にする。**
メニューの“HDMI コントロール”（☞119 ページ）を“オン”に設定してください。

2 **HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の電源を入れる。**

3 **HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能を有効にする。**
- 接続している機器の設定については、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- いずれかの機器の電源プラグを抜いた場合は、手順 2、3 をおこなってください。

4 **テレビの入力を、本機に接続した HDMI 入力に切り替える。**

5 **本機の入力を HDMI 入力のソースに切り替えて、プレーヤーの映像が正しく映るかを確認する。**

6 **テレビの電源をスタンバイにすると、本機とプレーヤーの電源もスタンバイになることを確認する。**

☞ 次のページへ

HDMI コントロール機能が正しく動作しない場合は、次の点をご確認ください。

- テレビやプレーヤーが HDMI コントロール機能に対応しているか。
- メニューの“HDMI コントロール”（☞119 ページ）の設定が“オン”になっているか。
- メニューの“パワーオフコントロール”（☞119 ページ）の設定が“すべて”または“ビデオ”になっているか。
- メニューの“コントロールモニター”設定（☞119 ページ）がテレビを接続したモニター出力になっているか。
- HDMI 対応テレビを 2 台接続しているときに、メニューの“コントロールモニター”（☞119 ページ）の設定が HDMI コントロールをおこなうテレビに設定されているか。
- 本機に接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能の設定は正しいか。

ご注意

- **メニューの“HDMI コントロール”（☞119 ページ）を“オン”に設定しているときは、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。**
- HDMI コントロール機能は、HDMI コントロール機能対応のテレビが動作の制御をおこないます。HDMI コントロール機能を使用するときは、必ずテレビを接続してください。
- 接続しているテレビやプレーヤーによっては、動作しない機能があります。あらかじめ各機器の取扱説明書をご覧ください。
- メニューの“パワーオフコントロール”（☞119 ページ）を“オフ”に設定している場合は、接続しているテレビの電源がスタンバイになっても、本機の電源はスタンバイになりません。
- HDMI 機器の接続を追加するなど、接続に関する変更をおこなうと、連動操作が初期化される場合があります。このような場合は設定をやり直してください。
- メニューの“HDMI コントロール”（☞119 ページ）を“オン”に設定している場合は、“入力端子の割り当て”（☞123 ページ）の設定で“TV AUDIO”に HDMI 端子を割り当てることはできません。
- 次の操作をおこなうと、連動操作が初期化される場合があります。その場合には、手順 2、3 をおこなってください。
  - メニューの“入力端子の割り当て”⇨“HDMI”設定（☞123 ページ）の変更
  - メニューの“ビデオ出力”（☞118 ページ）の設定変更
  - HDMI で接続している機器の接続変更や機器の増加

スリープタイマー機能

- 設定した時間が経過すると、自動的に電源をスタンバイにすることができます。視聴しながら、おやすみになるときに便利です。
- スリープタイマー機能は、ゾーンごとに設定できます（☞104 ページ「スリープタイマー機能」）。（ここではメインゾーンの設定のしかたを説明します。）

1 MAIN を押して、リモコン操作モードをメインゾーンに切り替える。
MAIN が点灯します。

2 SLEEP を押して、スリープ時間を設定する。
ディスプレイに“Sleep”を表示し、スリープタイマー表示が点灯します（☞142 ページ）。

- **SLEEP** を押すたびに、スリープ時間が次の順序で切り替わります。

Off → 10 min → 20 → 30 → 40 → 50 → 60 → 70 → 80 → 90 → 100 → 110 → 120 → Off

スリープタイマーの残り時間を確認する

SLEEP を押す。
ディスプレイに“Sleep：∗min”を表示します。
∗ 残り時間

スリープタイマーを解除するとき

SLEEP を押して、“Off”を選ぶ。
ディスプレイの“Sleep：∗min”が消灯します。

本機の電源がスタンバイになると、スリープタイマーの設定を解除します。

ご注意

スリープタイマー機能では、本機に接続した機器の電源は切れません。接続した機器の電源を切る場合は、接続した機器側でスリープタイマーの設定をおこなってください。

ウェブコントロール機能

ブラウザに表示されるウェブコントロール画面を使用して、本機を操作できます。

- ウェブコントロール機能をお使いになるには、本機と PC がネットワークに正しく接続されている必要があります（☞30 ページ「ホームネットワーク(LAN)に接続する」）。
- セキュリティソフトなどの設定により、パソコンから本機にアクセスできないことがあります。そのような場合には、セキュリティソフトの設定を変更してください。

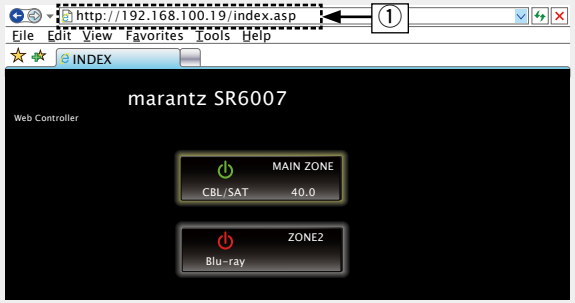
1 **メニューの“IP コントロール”（☞131 ページ）の設定を“常時オン”にする。**

2 **メニューの“情報”（☞137 ページ）で、本機の IP アドレスを確認する。**

3 **ブラウザを起動する。**

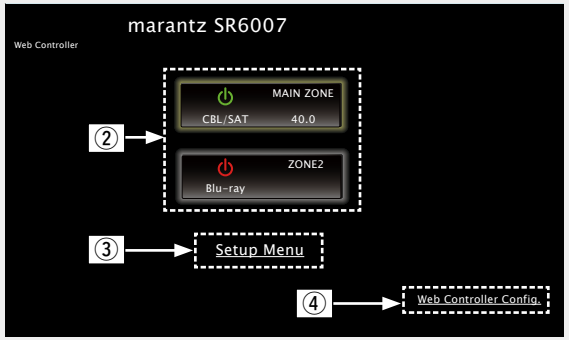
4 **ブラウザのアドレスに、本機の IP アドレスを入力する。**

例えば、本機の IP アドレスが“192.168.100.19”の場合は、“http://192.168.100.19/”と入力してください。



① IP アドレスを入力します。
- ブラウザのブックマーク機能で本機の IP アドレスを登録しておくと、次回からブックマーク機能を使用してウェブコントロール画面を表示できます。ただし、DHCP サーバーをご使用の場合は、“IP コントロール”（☞131 ページ）の設定が“スタンバイ時オフ”のときに電源をオン / オフすると、IP アドレスが変更になりますのでご注意ください。

5 **トップメニューが表示されたら、操作したいメニューをクリックする。**

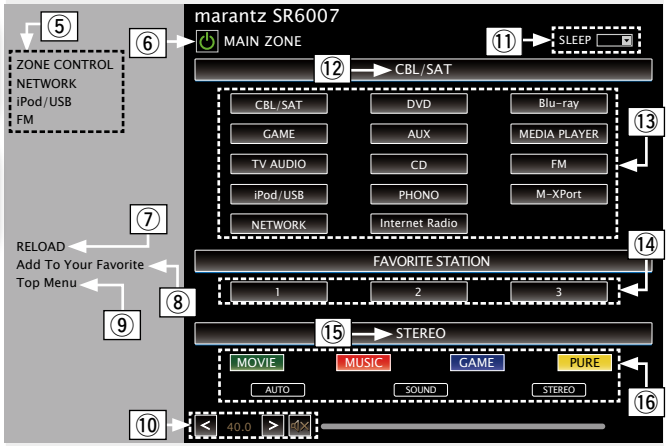


② 操作するゾーンを選択するときにクリックします（☞【例 1】）。
③ セットアップメニューを操作するときにクリックします。
④ ウェブコントロール画面の設定を変更するときにクリックします（☞【例 3】）。

☞ 次のページへ

6 操作する。

【例 1】メインゾーンコントロール画面



⑤ 各操作をおこなうときにクリックします。
各操作画面になります（☞【例 4】）。

⑥ 本機の電源操作時にクリックします。

⑦ 最新の情報に更新するときにクリックします。
通常は操作するたびに、最新の情報に切り替わります。本体側で操作された場合は、画面は更新されませんので、クリックしてください。

⑧ ブラウザの“Favorites”に登録するときにクリックします。
誤って、操作していないゾーンのメニュー操作をおこなわないように、ゾーンごとに設定画面をブラウザのお気に入りなどに登録することをおすすめします。

⑨ トップメニューに戻るときにクリックします。
【例 3】で“Top Menu Link Setup”を“ON”に設定したときに表示します。

⑩ 主音量を調節するときに“<”、“>”または音量表示をクリックします。

⑪ “v”をクリックし、スリープタイマー機能を設定します。

⑫ 選択中の入力ソース名を表示します。

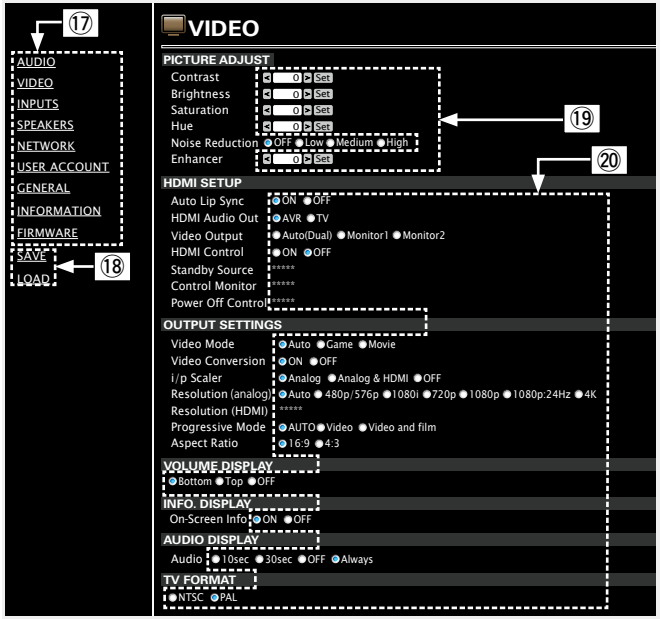
⑬ ボタンをクリックすると、入力ソースが切り替わります。

⑭ お気に入りのコンテンツを登録します。

⑮ サウンドモードを表示します。

⑯ ボタンをクリックするたびにサウンドモードが切り替わります。

【例 2】セットアップメニュー画面



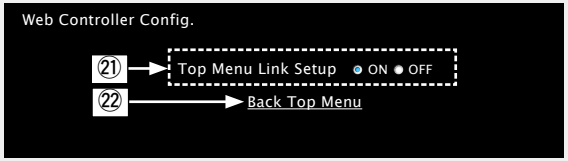
⑰ 設定したいメニューをクリックします。
右側の表示が各設定画面になります。

⑱ 設定を保存するときには“SAVE”、設定を呼び出すときには“LOAD”をクリックします。

⑲ 数値を入力するか、“<”または“>”をクリックして設定後、“Set”をクリックします。

⑳ 設定項目をクリックして確定します。

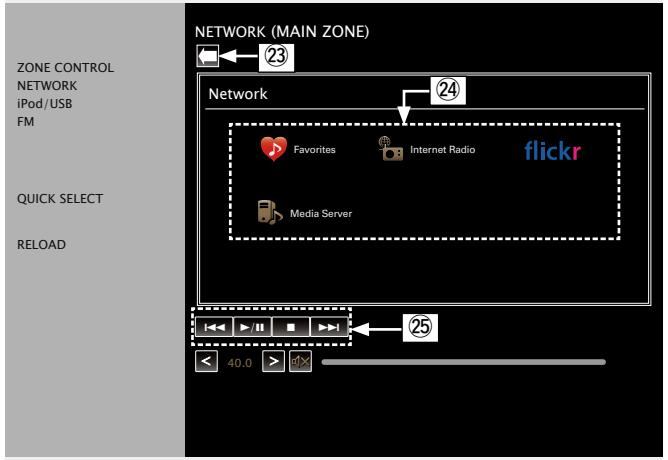
【例 3】ウェブコントロール画面



㉑ トップメニューのリンク設定をするときに“ON”をクリックします。
設定すると、各操作画面からトップメニューに戻ります。
（お買い上げ時の設定：“OFF”）

㉒ トップメニューに戻るときに、クリックします。

【例 4】ネットワークオーディオ操作画面



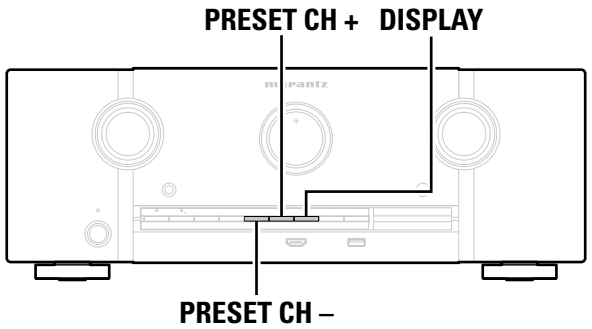
㉓ 前の画面に戻るときにクリックします。

㉔ 操作したいコンテンツをクリックします。

㉕ コンテンツの操作に使用します。

デュアルバックアップメモリー機能

- 本機は電源を切った状態でも設定した各種内容を記憶し、いつでもその設定を呼び出せます。
- デュアルバックアップメモリー機能は、記憶した内容をさらに別のメモリーエリアに書き込み、バックアップしていつでもその設定を呼び出せます(バックアップ)。



❑設定した内容を記憶させる（バックアップ）

本機を記憶させたい状態に設定し、PRESET CH + と PRESET CH – を同時に 3 秒以上押す。
ディスプレイに“MEMORY SAVING”を表示し、設定した内容を記憶します。

ご注意
- 音量は記憶できません。
- 記憶させた内容に上書きすると、前に記憶させた内容は消去されます。

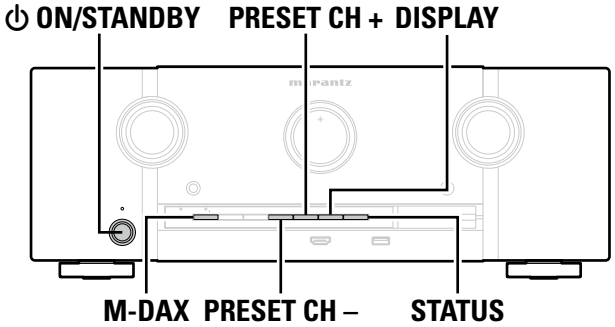
❑記憶させた内容を呼び出す（リカバリー）

PRESET CH + と DISPLAY を同時に 3 秒以上押す。
ディスプレイに“MEMORY LOAD”を表示し、記憶させた内容を呼び出します。

ご注意
- 記憶させたデータが存在しない場合は、“NO BACKUP”を表示し、記憶させた内容を呼び出せません。
- 音量は記憶できないため、お買い上げ時の設定になります。

フロントキーロック機能

本機を誤って操作してしまうことを防ぐために、フロントパネルのボタン操作を無効にすることができます。



❑すべてのボタン操作を無効にする

1 **本機の電源がスタンバイ状態のときに、M-DAX と DISPLAY を押しながら、⏻ ON/STANDBY を押す。**

2 **PRESET CH + または PRESET CH – を押して、“P/V LOCK On”を選ぶ。**

3 **STATUS を押して、設定を確定する。**
⏻ ON/STANDBY 以外のボタン操作が無効になります。

❑VOLUME 以外のすべてのボタン操作を無効にする

1 **本機の電源がスタンバイ状態のときに、M-DAX と DISPLAY を押しながら、⏻ ON/STANDBY を押す。**

2 **PRESET CH + または PRESET CH – を押して、“FP LOCK On”を選ぶ。**

3 **STATUS を押して、設定を確定する。**
⏻ ON/STANDBY および VOLUME 以外のボタン操作が無効になります。

次のページへ

❑フロントキーロック機能を解除する

1 **本機の電源がスタンバイ状態のときに、M-DAX と DISPLAY を押しながら、⏻ ON/STANDBY を押す。**

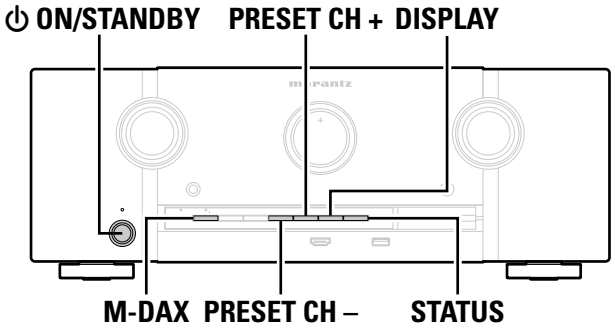
2 **PRESET CH + または PRESET CH – を押して、“FP LOCK ∗Off”を選ぶ。**
（∗ は現在の設定モードです。）

3 **STATUS を押して、設定を確定する。**
フロントキーロック機能を解除します。

フロントキーロック機能の設定が有効でも、リモコンによる操作は可能です。

リモートロック機能

- 本機に赤外線受信機を接続しない場合は、リモートロック機能を無効に設定してください。有効に設定すると、リモコンの操作ができなくなります。
- お買い上げ時は無効に設定されています。



❑リモコンの受信機能を無効にする

1 **本機の電源がスタンバイ状態のときに、M-DAX と DISPLAY を押しながら、⏻ ON/STANDBY を押す。**

2 **PRESET CH + または PRESET CH – を押して、“RC LOCK On”を選ぶ。**
（∗ は現在の設定モードです。）

3 **STATUS を押して、設定を確定する。**
リモコン信号の受信機能が無効になります。

❑リモコンの受信機能を有効にする

1 **本機の電源がスタンバイ状態のときに、M-DAX と DISPLAY を押しながら、⏻ ON/STANDBY を押す。**

2 **PRESET CH + または PRESET CH - を押して、“RC LOCK ∗Off”を選ぶ。**
（∗ は現在の設定モードです。）

3 **STATUS を押して、設定を確定する。**
リモコン信号の受信機能が有効になります。

各種メモリー機能

パーソナルメモリープラス機能

前回使用していたときの設定内容(入力モード、HDMI 出力モード、サウンドモード、MultEQ® XT、Dynamic EQ、Dynamic Volume やオーディオディレイなど)を入力ソースごとに記憶します。

サラウンドパラメーター、トーンコントロールの設定および各スピーカーの音量は、サウンドモードごとに記憶します。

ラストファンクションメモリー

スタンバイにする直前の各種設定を記憶します。
再び電源を入れると、スタンバイにする直前の設定になります。

ゾーン 2(別の部屋)での再生

- 本機を操作してメインゾーン(本機のある部屋)以外の部屋(ゾーン 2)で、音声を楽しむことができます。
- メインゾーンおよびゾーン 2 で同時に同じソースを再生することはもちろん、別々のソースを再生することもできます。

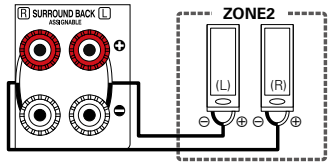
音声出力

マルチチャンネル再生をおこなうメインゾーン以外の他の部屋で 2 チャンネルの音声を再生することができます。次の 2 通りの方法があります。いずれかを選んでください。
① スピーカー出力によるゾーン再生
② 音声出力によるゾーン再生(PRE OUT)
外部アンプを使用します。

① スピーカー出力によるゾーン再生

- メニューの“アサインモード”(☞127 ページ)を“ZONE2”に設定すると、SURROUND BACK スピーカー端子からゾーン 2 の音声を出力します。(お買い上げ時の設定は、“Surround Back”です。)
- メニューの“アサインモード”(☞127 ページ)を“ZONE2”に設定すると、メインゾーンで 5.1 チャンネルのホームシアターを楽しむことができます。また、6.1 チャンネルまたは 7.1 チャンネルで録音された音声は、自動的に 5.1 チャンネルにダウンミックスして再生します。

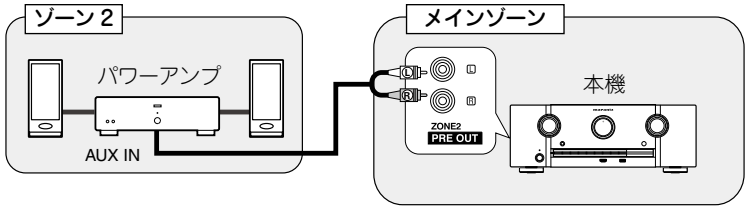
❑スピーカーの設定と接続

	“アンプの割り当て”の設定(☞127 ページ)と出力する音声信号	スピーカーを接続する
ゾーン 2	ZONE2　出力信号：ステレオ(左 / 右)	

② 音声出力によるゾーン再生 (PRE OUT)

❑音声接続(ゾーン 2)

本機のゾーン 2 の音声出力端子の音声をゾーン 2 のアンプに出力し、そのアンプで再生します。



音声の接続については、雑音が発生しないように高品質のピンプラグケーブルのご使用をおすすめします。

ご注意

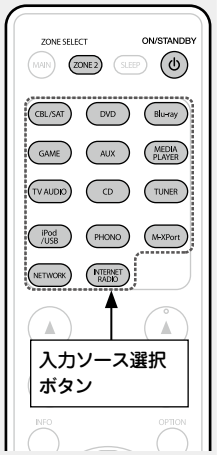
ゾーン 2 では、HDMI 端子から入力されたデジタル音声信号の再生はできません。
ゾーン 2 の再生をおこなう場合は、音声信号をアナログ接続してください。

再生

1 **ZONE2 を押して、ゾーンモードを切り替える。**
ZONE2 が点灯します。

2 **ON STANDBY ⏻ を押して、ゾーン 2 の電源を入れる。**

- ディスプレイに“ZONE2 ON”を表示し、ゾーン 2 の電源表示が点灯します（☞142 ページ）。
- **ON/STANDBY ⏻** を押すと、ゾーン 2 の電源がオフになります。
- 本体の **ZONE2 ON/OFF** を押しても、ゾーン 2 の電源をオン / オフすることができます。



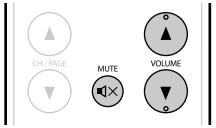
3 **入力ソース選択ボタンを押して、再生する入力ソースを選ぶ。**
選択した入力ソースの音声を、ゾーン 2 のスピーカーに出力します。

- 本体の **ZONE2 SOURCE** を押したあとに **INPUT SELECTOR** を回しても、入力ソースを選ぶことができます。

メインゾーンとゾーン 2 の両方の電源がオンのときにメインゾーンの電源だけをオフにすることができます。手順 1 の操作で **MAIN** と **ON/STANDBY ⏻** を押してください。

音量の調節

VOLUME ▲▼ を押して、音量を調節する。



【調節できる範囲】 **0 – 40 – 98**
（メニューの“表示方法”の設定（☞114 ページ）が“0 – 98”のとき）

【調節できる範囲】 **– – –** **–79dB – –40dB – 18dB**
（メニューの“表示方法”の設定（☞114 ページ）が“-79.5dB - 18.0dB”のとき）

- お買い上げ時は、“音量の上限”（☞114 ページ）を“70（–10dB）”に設定しています。

本体の **ZONE2 ON/OFF** を押したあとに **VOLUME** を回しても、ゾーン 2 の音量を調節することができます。

一時的に音を消す（ミューティング）

MUTE 🔇 を押す。
メニューの“ミューティングレベル”（☞135 ページ）で設定したレベルまで音量が減衰します。
ミューティングを解除するときは、もう一度 **MUTE 🔇** を押してください。

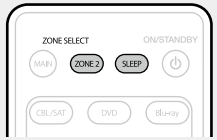
- 音量の調節やゾーン 2 の電源をオフにしても、ミューティングを解除できます。

メニューの“ゾーン 2 の設定”（☞135 ページ）でゾーン 2 のトーンや音量を調節することができます。

スリープタイマー機能

- 設定した時間が経過すると、自動的に電源をスタンバイにすることができます。ゾーン 2 で視聴しながら、おやすみになるときに便利です。
- スリープタイマー機能は、ゾーンごとに設定できます。

1 **ZONE2 を押して、リモコン操作モードをゾーン 2 に切り替える。**
ZONE2 が点灯します。



2 **SLEEP を押して、スリープ時間を設定する。**

- **SLEEP** を押すたびに、スリープ時間が次の順序で切り替わります。

Off → 10 min → 20 → 30 → 40 → 50 → 60 → 70 → 80 → 90 → 100 → 110 → 120 → Off

スリープタイマーの残り時間を確認する

SLEEP を押す。
ディスプレイに“Z2 Sleep : ∗min”を表示します。
∗ 残り時間

スリープタイマーを解除するとき

SLEEP を押して、“Off”を選ぶ。

本機をスタンバイにしたり、ゾーン 2 の電源をオフにしてもスリープタイマーを解除します。

ご注意
スリープタイマー機能では、本機に接続した機器の電源は切れません。接続した機器の電源を切る場合は、接続した機器側でスリープタイマーの設定をおこなってください。

詳細設定のしかた

メニュー 一覧

メニューの操作をおこなうときは、本機にテレビを接続し、テレビ画面にメニューを表示させてから操作してください。
本機はお買い上げ時の設定をおすすめの設定にしてあります。お使いのシステムやお好みに合わせて本機をカスタマイズすることができます。

設定項目	詳細項目	内　容	参照ページ
オーディオ	サラウンドパラメーター	音場効果を調節します。	111
	トーンコントロール	トーンを調節します。	112
	ダイアローグレベル	センターチャンネルから出力されるせりふを聞きやすくするために出力レベルを設定します。	113
	サブウーハーレベル	サブウーハー出力のオン / オフおよび出力レベルを設定します。	113
	M-DAX	MP3、WMA(Windows Media Audio)やMPEG-4 AAC などの圧縮オーディオを再生するときに、低域や高域を拡張して、より豊かな再生をします。	113
	オーディオディレイ	映像と音声のタイミングがずれているときに、音声の出力タイミングを調節します。	113
	音量	メインゾーン(本機のある部屋)の音量に関する設定をします。	114
	バイリンガルモード	AAC ソースやドルビーデジタルの二重音声の出力内容を設定します。	114
	Audyssey	Audyssey MultEQ® XT、Audyssey Dynamic EQ® と Audyssey Dynamic Volume® の設定をします。	114
	グラフィック EQ	グラフィックイコライザーを使用して、各スピーカーの音色を調節します。	116
ビデオ	画質調整	映像の画質を調節します。	118
	HDMI 設定	HDMI の映像 / 音声出力に関する設定をします。	118
	ビデオ出力の設定	画面に関する設定をします。	119
	音量の表示	主音量レベルの表示位置を設定します。	121
	情報の表示	サウンドモードの変更や入力ソースの切り替え、または音量調節時に一時的に操作の状態を表示します。これらの各状態表示をするかしないかの設定をします。	121
	再生画面の表示	入力ソースが“NETWORK”、“iPod/USB”または“FM”のとき、各メニューの表示時間を設定します。	121
	TV フォーマット	お使いになるテレビに合わせて出力する映像信号方式を設定します。	121

設定項目	詳細項目	内　容	参照ページ
入力ソース	入力端子の割り当て	入力端子の割り当てを変更します。	123
	入力ソース名の変更	選択した入力ソースの表示名を変更します。	124
	使用ソースの選択	使用しない入力ソースを表示しないように設定します。	124
	ソースレベル	音声入力の再生レベルを補正します。	125
	オーディオ入力の選択	入力モードとデコードモードを設定します。	125
	映像の選択	今聴いている音声に好きな映像を組み合わせて再生します。	125
スピーカー	Audyssey® セットアップ	接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的におこないます。	32、92
	マニュアルセットアップ	スピーカーを手動で設定する場合や“Audyssey® セットアップ”で測定した内容を変更するときにおこなってください。	127
ネットワーク	情報	ネットワークの情報を表示します。	131
	IP コントロール	スタンバイ時のネットワーク機能のオン / オフを設定します。	131
	フレンドリーネームの編集	“フレンドリーネーム”とは、ネットワーク上に表示される本機の名称です。フレンドリーネームをお好みによって変更できます。	131
	接続の設定	有線 LAN の設定をします。	132
	メンテナンスモード	当社のサービスエンジニアやカスタムインストーラーからメンテナンスを受けるときに使用します。	133

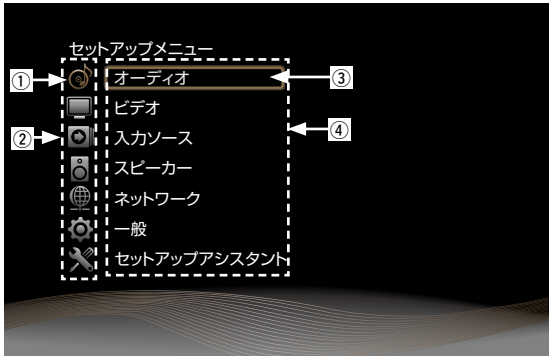
次のページへ

設定項目	詳細項目	内　容	参照ページ
一般	言語	テレビ画面に表示する言語を設定します。	135
	ゾーン 2 の設定	ゾーン 2 で再生する音声の設定をします。	135
	ゾーン名の変更	画面に表示されるゾーンの表示名を、お好みの名前に変更します。	135
	トリガーアウト	トリガーアウトを動作させる条件を選びます。	136
	オートスタンバイ	音声や映像の入力がない状態で本機を設定した時間操作しないと、自動的にスタンバイ状態になります。スタンバイ状態になる前には、本体のディスプレイとメニュー画面に“オートスタンバイ”を表示します。	136
	フロントディスプレイ	本体のディスプレイの明るさを調節します。	136
	情報	本機の設定状態や入力信号などの情報を表示します。	137
	ファームウェア	ファームウェアの最新アップデート情報の確認や更新の実施、およびアップデートとアップグレードの通知メッセージを表示するかしないかの設定をします。	138
	セットアップロック	設定した内容を変更できないようにロックします。	139
セットアップアシスタント	テレビ画面の案内に沿って基本的な設置 / 接続 / 設定をおこないます。		8

メニュー画面の表示例

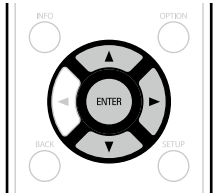
代表例を説明します。

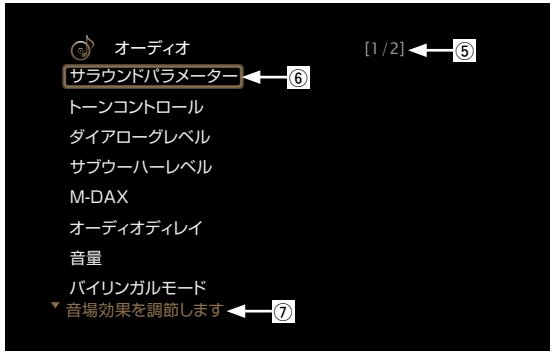
【例 1】
メニュー選択画面（トップメニュー）



① 選択中の設定アイコン
② GUI メニューの設定アイコン一覧
③ 選択中の設定項目名
④ GUI メニューの設定項目一覧

△▽ を押して“オーディオ”を選び、▷ を押す。
（または、ENTER を押す。）





⑤ 続きのページがあることを意味します。
⑥ 選択中の設定項目名
⑦ 選択中の設定項目のガイドテキスト

【例 2】
“Audyssey® セットアップ”画面（イラスト付き）

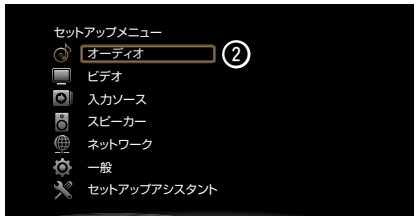
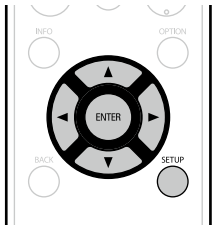
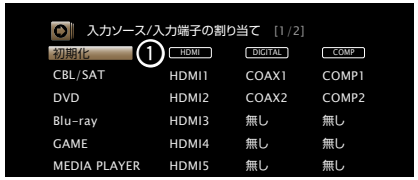
⑧ 選択中の設定アイコン
⑨ 操作ガイドテキスト
⑩ イラスト
⑪ 設定項目名

ご注意

コンピューター解像度（例：VGA）の映像または一部の 3D ビデオコンテンツを再生中にメニューを操作すると、再生映像はメニュー画面の映像に切り替わります。

テレビ画面の表示について

テレビ画面の表示について、代表的な例を説明します。

	テレビ画面	説　明
トップメニューの表示		❶ **SETUP**を押して、メニュー画面を表示します。 ❷ 選択中の行を表示します。 • 設定したい項目に移動するときは、△▽ を押します。 
設定を変更するときの表示	 **ENTER** を押す。 	❶ 選択中の行を表示します。 • 設定したい項目に移動するときは、△▽ を押します。 ❷ **ENTER**を押して、設定したい項目を選びます。 ❸ 設定を変更できる項目には、項目名の両端に ◀ ▶ を表示します。◁ ▷を押して、設定を変更します。
お買い上げ時の設定に戻すときの表示	 **ENTER** を押す。 	❶ △を押して“初期化”を選び、**ENTER**を押して設定します。 ❷ ◁を押して“はい”を選び、**ENTER**を押します。

文字入力について

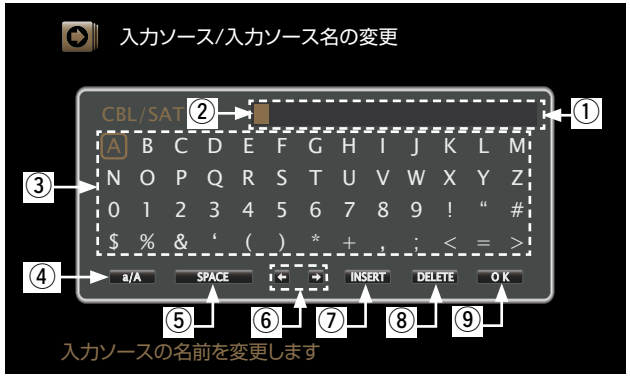
本機は、次の画面に表示する名前をお好みに合わせて変更できます。

- テキスト検索（☞66 ページ）
- プリセットネーム（☞54 ページ）
- 入力ソース名の変更（☞124 ページ）
- フレンドリーネームの編集（☞131 ページ）
- ゾーン名の変更（☞135 ページ）
- ネットワーク機能に関する文字入力（☞57、64、133 ページ）

キーボード画面で名前を入力する

テレビ画面に表示される文字を選んで、文字を入力します。

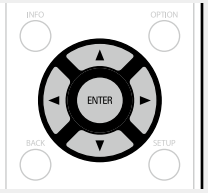
❑キーボード入力画面



① 文字入力部
② カーソル
③ キーボード部
④ 大文字/小文字の切り替え
⑤ スペース入力キー
⑥ カーソル移動キー
⑦ 挿入キー
⑧ 削除キー
⑨ OKキー

❑入力のしかた

1 文字の入力をおこなう画面を表示する（☞105 ページ「メニュー一覧」）。



2 変更したい文字を選ぶ。
①△▽◁ ▷ を押して ⬅ または ➡ を選ぶ。
②**ENTER** を押して、変更したい文字にカーソルを合わせる。
ENTER を押すたびに、カーソルが 1 文字ずつ移動します。

3 △▽◁ ▷ を押して入力したい文字を選び、**ENTER** を押す。

- 入力できる文字の種類は、次のとおりです。

【英大文字 / 数字 / 記号】
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789
! " # $ % & ' ( ) * + , ; < = >
【英小文字 / 数字 / 記号】
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
0123456789
. @ - _ / : ~ ? [\ ] ^ ' { | }

4 手順 2、3 をくり返して、名前を変更する。

5 △▽◁ ▷ を押して OK を選び、**ENTER** を押す。

オーディオ

音声に関する設定をします。

メニューの操作のしかた

1 **MAIN** を押して、リモコン操作モードをメインゾーンに切り替える。
MAIN が点灯します。

2 **SETUP** を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。

3 △▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。

4 **ENTER** または ▷ を押して、設定を確定する。

- 前の項目に戻るときは、◁ または **BACK** を押してください。
- メニューを終了するときは、メニュー表示中に **SETUP** を押してください。メニュー表示が消えます。

“オーディオ”メニューでできること

- サラウンドパラメーター (☞111 ページ)
- トーンコントロール (☞112 ページ)
- ダイアローグレベル (☞113 ページ)
- サブウーハーレベル (☞113 ページ)
- M-DAX (☞113 ページ)
- オーディオディレイ (☞113 ページ)
- 音量 (☞114 ページ)
- バイリンガルモード (☞114 ページ)
- Audyssey (☞114 ページ)
- グラフィック EQ (☞116 ページ)

サラウンドパラメーター

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

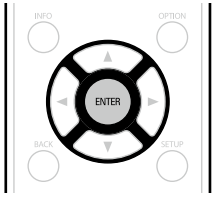
サラウンド音声の音場効果をお好みにあわせて調節できます。
調節できる項目(パラメーター)は、再生している信号や選択しているサウンドモードによって異なります。調節できる各項目については、「サウンドモードとパラメーター一覧表」(☞147 ページ)をご覧ください。

ご注意

- 設定項目の中には再生停止中に設定できないものがあります。設定は再生中におこなってください。
- サウンドモードが"PURE DIRECT"のとき、サラウンドパラメーターは設定できません。

設定項目	設定内容
ホームシアターEQ 映画のせりふの高域成分をやわらげ、聴きやすくします。	**オン**:"ホームシアターEQ"を使用します。 **オフ**:"ホームシアターEQ"を使用しません。
ラウドネスマネージメント Dolby TrueHD ソースのときに設定できます。"ダイナミックレンジ圧縮"で設定した内容で出力するか、ディスクに記録されている音声のダイナミックレンジを圧縮せずにそのまま出力するかを設定します。	**オン**:"ダイナミックレンジ圧縮"で設定した内容で出力します。 **オフ**:"ダイナミックレンジ圧縮"の設定および"ダイアログノーマライゼーション"(☞137 ページ)が無効になり、ディスクに記録されている信号をそのまま出力します。
ダイナミックレンジ圧縮 ダイナミックレンジ(静かな音と大きな音のレベル差)を圧縮します。	**オート**:再生するソースによってダイナミックレンジの圧縮を自動でオン/オフします。 **弱** / **中** / **強**:ダイナミックレンジの圧縮量を設定します。 **オフ**:ダイナミックレンジを圧縮しません。 "オート"は Dolby TrueHD ソースのときのみ設定できます。
LFE 低域信号(LFE)レベルを調節します。	❑ **"入力モード"(☞125 ページ)が"7.1CH IN"以外の場合** **-10dB～0dB** ❑ **"入力モード"(☞125 ページ)が"7.1CH IN"の場合** **0dB / +5dB / +10dB / +15dB** 各ソースを正しく再生するために、次の値に設定することをおすすめします。 • Dolby Digital ソース:0dB • DTS の映画ソース:0dB • DTS の音楽ソース:-10dB
センターイメージ センターチャンネルから出力されるせりふをフロント左右のチャンネルに振り分け、前方の音場イメージを広げます。サウンドモードが DTS NEO:6 の"Music"モードのときに設定できます。	**0.0～1.0 (0.3)** 数値が小さくなるほど、せりふはセンターチャンネルに集中します。数値が大きくなるほど、フロント左右チャンネルに振り分けられ、前方の音場イメージが広がります。
パノラマ フロント左右チャンネルの音場をサラウンドチャンネルまで拡大し、前方の音場イメージを広げます。サウンドモードが Dolby PLII の"Music"モードのときに設定できます。	**オン**:設定します。 **オフ**:設定しません。
ディメンション 音場イメージの中心を前方または後方にシフトし、再生バランスを調節します。サウンドモードが Dolby PLII の"Music"モードのときに設定できます。	**0～6 (3)** 数値が小さくなるほど、サラウンド音場は後方に移動し、数値が大きくなるほど、サラウンド音場は前方に移動します。
センター幅 センターチャンネルから出力されるせりふをフロント左右のチャンネルに振り分け、前方の音場イメージを広げます。サウンドモードが Dolby PLIIx の"Music"モードのときに設定できます。	**0～7 (3)** 数値が小さくなるほど、せりふはセンターチャンネル集中します。数値が大きくなるほど、フロント左右チャンネルに振り分けられ、前方の音場イメージが広がります。

☞ 次のページへ

設定項目	設定内容
Height ゲイン フロントハイトチャンネルの音量をコントロールします。	**弱**：フロントハイトチャンネルの音量を小さくします。 **通常**：フロントハイトチャンネルを標準音量で出力します。 **強**：フロントハイトチャンネルの音量を大きくします。 ご注意 “Height ゲイン”は、次の設定のときに表示します。 • メニューの“アサインモード”の設定（☞127 ページ）が“Front Height”のとき • メニューの“スピーカー構成”⇨“フロントハイト”の設定（☞128 ページ）が“無し”以外のとき • サウンドモードが“PLIIz”または PLIIz のデコーダーを使用しているとき
初期化 “サラウンドパラメーター”の設定をお買い上げ時の設定に戻します。	**はい**：お買い上げ時の設定に戻します。 **いいえ**：お買い上げ時の設定に戻しません。 “初期化”を選んで **ENTER** を押すと、“設定を初期値に戻しますか？”というメッセージが表示されますので、“はい”または“いいえ”を選び、**ENTER** を押してください。 

トーンコントロール

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

トーンを調節します。

設定項目	設定内容
トーンコントロール トーンコントロール機能の“オン”と“オフ”の設定をします。	**オン**：低音や高音のトーンを調節できます。 **オフ**：トーンを調節せずに再生します。 メニューの“Dynamic EQ”（☞115 ページ）の設定が“オフ”のときに設定できます。 ご注意 • “トーンコントロール”の設定は、ゾーン 2 には反映しません。 • サウンドモードが“DIRECT”または“PURE DIRECT”モードのとき、トーンの調節はできません。
低音 低音を調節します。	**-6dB～+6dB (0dB)** メニューの“トーンコントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。
高音 高音を調節します。	**-6dB～+6dB (0dB)** メニューの“トーンコントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。

ダイアローグレベル

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

センターチャンネルから出力されるせりふを聞きやすくするために出力レベルを設定します。

設定項目	設定内容
ダイアローグ	**-12.0dB～+12.0dB (0dB)**

サブウーハーレベル

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

サブウーハー出力のオン / オフおよび出力レベルを設定します。

設定項目	設定内容
サブウーハー サブウーハー出力のオン / オフを設定します。	**オン**：出力します。 **オフ**：出力しません。 サウンドモードが“DIRECT” または“PURE DIRECT” モード（☞72 ページ）で、メニューの“サブウーハーモード”（☞128 ページ）の設定が“LFE+ メイン”のときに設定できます。
サブウーハーレベル サブウーハーの出力レベルを設定します。	**-12dB～+12dB (0dB)**

M-DAX

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

MP3、WMA（Windows Media Audio）や MPEG-4 AAC などの圧縮オーディオフォーマットは、人間の耳には聞こえにくい部分の信号を省いてデータ量を減らしています。“M-DAX” は、圧縮処理をするときに省かれた信号を生成し、圧縮する前の音に近い状態に復元する機能です。同時に低音域の量感の補正もおこないますので、圧縮オーディオ信号をより豊かに再生することができます。

設定項目	設定内容
M-DAX “M-DAX”のモードを設定します。	**オフ**：“M-DAX”を使用しません。 **強**：高域が極端に少ない圧縮音声ソースに対して、最適なモードです（64kbps 以下）。 **中**：圧縮音声全般に対して、低域と高域を適切に補正します（96kbps 以下）。 **弱**：高域が十分にある圧縮音声ソースに対して、最適なモードです（96kbps 以上）。 • アナログ入力や PCM 信号（サンプリング周波数 = 44.1/48 kHz）が入力されたときに設定できます。 • “M-DAX”の設定は、入力ソースごとに記憶します。 • “オフ”以外に設定すると、ディスプレイの M-DAX 表示が点灯します。 • サウンドモードが“DIRECT” または“PURE DIRECT” のときは設定できません。 • 本体の **M-DAX** を押しても、M-DAX の設定ができます。 本体の **M-DAX** を押すたびに、M-DAX のモードが次の順序で切り替わります。 → オフ → 弱 → 中 → 強 →

オーディオディレイ

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

映像を見ながら、音声の出力を遅らせる時間を調節します。

設定内容
0ms～200ms

- メニューの“オートリップシンク”（☞118 ページ）の設定が“オン” のとき、およびオートリップシンク対応のテレビを接続しているときは、0 ～ 100ms の範囲で設定できます。
- “オーディオディレイ”の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- メニューの“ビデオモード”（☞119 ページ）が“オート” または“ゲーム” のときは、ゲームモード用のオーディオディレイ値を設定できます。

音量

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

メインゾーン(本機のある部屋)の音量に関する設定をします。

設定項目	設定内容
表示方法 音量の表示方法を設定します。	**0～98**：0（最小）～98 の範囲で表示します。 **-79.5dB～18.0dB**：---dB(最小)、-79.5dB～18.0dB の範囲で表示します。 • "表示方法" を設定すると、"音量の上限" や"電源オン時の音量" の表示方法も切り替わります。 • "表示方法"の設定は、ゾーン 2 にも適用します。
音量の上限 音量の上限を設定します。	**オフ**：音量の上限を設定しません。 **60 (-20dB)** / **70 (-10dB)** / **80 (0dB)**
電源オン時の音量 電源をオンにしたときの音量を設定します。	**前回の音量**：前回使用したときの音量になります。 **消音**：常に消音状態になります。 **1～98 (-79dB～18dB)**：設定した音量になります。
ミューティングレベル ミューティング時の音量の減衰量を設定します。	**消音**：消音状態になります。 **-40dB**：現在の音量から 40dB 下げて再生します。 **-20dB**：現在の音量から 20dB 下げて再生します。

バイリンガルモード

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

AAC ソースやドルビーデジタルの二重音声の出力内容を設定します。

設定内容
主音声：主音声のみ出力します。 **副音声**：副音声のみ出力します。 **主 / 副**：主音声は左チャンネルから、副音声は右チャンネルから出力します。 **主＋副**：主音声と副音声をミックスして出力します。 このモードは、二重音声のソースを再生中のみ有効です。

Audyssey

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

Audyssey MultEQ® XT、Audyssey Dynamic EQ® および Audyssey Dynamic Volume® の設定をします。これらの設定は、"Audyssey® セットアップ"をおこなったあとに設定できます。

Audyssey 技術に関する詳細な情報については、155 ページをご覧ください。

ご注意

- "Audyssey® セットアップ" をおこなっていない場合、または"Audyssey® セットアップ" をおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、Dynamic EQ や Dynamic Volume を選択できません。
  この場合は、再度"Audyssey® セットアップ" をおこなうか、"再設定"（☞39 ページ）をおこなって"Audyssey® セットアップ"後の設定に戻してください。
- サンプリング周波数が 96kHz を越える HD オーディオを再生している場合、"Audyssey" は設定できません。

設定項目	設定内容
MultEQ® XT MultEQ® XT は、Audyssey® セットアップの測定結果に基づき、リスニング環境における時間特性と周波数特性の両方を補正します。 3 種類の補正カーブから選択します。"Audyssey" に設定することをおすすめします。 MultEQ® XT の設定は、Dynamic EQ や Dynamic Volume を動作させるために必要です。	**Audyssey**：すべてのスピーカーの周波数特性を最適に補正します。 **Audyssey Byp.L/R**：フロントスピーカー以外のスピーカーの周波数特性を最適に補正します。 **Audyssey Flat**：すべてのスピーカーの周波数特性が均一になるように補正します。 **グラフィック EQ**：メニューの"グラフィック EQ"（☞116 ページ）で調節された周波数特性を適用します。 **オフ**："MultEQ® XT"を使用しません。 • Audyssey® セットアップをおこなうと、"Audyssey"、"Audyssey Byp. L/R"および"Audyssey Flat"が選択できます。 • Audyssey® セットアップ後は自動的に"Audyssey"になります。 **ご注意** ヘッドホン使用時、"MultEQ® XT"の設定は自動的に"オフ"になります。

"MultEQ® XT"、"Dynamic EQ"および"Dynamic Volume"の設定は、入力ソースごとに記憶します。

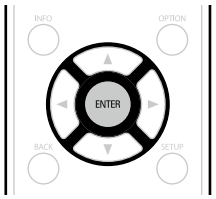
設定項目	設定内容
Dynamic EQ 人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぎます。 Dynamic EQ は MultEQ® XT と連動して動作します。	**オン**：Dynamic EQ を使用します。 **オフ**：Dynamic EQ を使用しません。 ご注意 メニューの“Dynamic EQ”の設定が“オン”のときは、“トーンコントロール”（☞112 ページ）の調節はできません。
リファレンスオフセット Audyssey Dynamic EQ® は、一般的なフィルム（映画など）のミキシングレベルをリファレンスとしています。音量レベルが 0dB から下げられた際にミキシング特性・サラウンド効果を常にコンテンツが作成された本来の特性に自動的に維持します。しかし、フィルムのリファレンスはミュージックやテレビ番組などフィルム以外のコンテンツの作成には使用されていない場合もあります。Dynamic EQ は、フィルム作成時に使用される標準のリファレンスレベルを使用せずに作成されたコンテンツに対してオフセットレベルの設定（5dB/10dB/15dB）が可能です。右記が推奨の設定レベルになります。	**0dB**（フィルムリファレンス）：お買い上げ時の設定です。映画などのコンテンツに最適です。 **5dB**：クラッシック音楽のような非常に広いダイナミックレンジを持ったコンテンツに適しています。 **10dB**：ジャズなどの広めのダイナミックレンジを持ったミュージックコンテンツやテレビ番組に適しています。 **15dB**：ポップやロックなどの非常に高い音量レベルのコンテンツや、圧縮されたダイナミックレンジを持つコンテンツに適しています。 メニューの“Dynamic EQ”（☞115 ページ）の設定が“オン”のときに設定できます。
Dynamic Volume テレビや映画などで再生するコンテンツ内における音量レベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をお好みの音量設定値に自動的に調節します。	**Heavy**：音量レベルを最大に設定します。すべての音を一定の大きさにします。 **Medium**：音量レベルを中間に設定します。平均的な音より大きな音と小さな音を調節します。 **Light**：音量レベルを最小に設定します。非常に大きな音と非常に小さな音を調節します。 **オフ**：“Dynamic Volume”を使用しません。 “Audyssey® セットアップ”（☞32 ページ）で“Dynamic Volume”を“はい”に設定した場合は、自動的に“Medium”になります。

設定項目	設定内容
Audyssey DSX® フロントハイトまたはフロントワイドチャンネルを追加し、包み込むようなサラウンドサウンドを提供します。	**オン**：フロントハイトまたはフロントワイドチャンネルを生成する Audyssey DSX® を設定します。 **オフ**：Audyssey DSX® を設定しません。 ご注意 再生する HD オーディオソースに、フロントハイトチャンネルやフロントワイドチャンネルが含まれている場合は、“Audyssey DSX®”は使用できません。この場合、入力信号のままそれぞれのチャンネルを再生します。
ステージハイト フロントハイトスピーカー使用時サウンドステージの高さを調節します。	**-10～+10（0）** • “Audyssey DSX®”は、フロントハイトスピーカーまたはフロントワイドスピーカーをご使用のときに設定できます。 • “Audyssey DSX®”は、センタースピーカーを使用しているときに有効です。 • “Audyssey DSX®”はサラウンドモードが PLIIz Height 以外のスタンダードモードのときに有効です。 **Audyssey Dynamic Surround Expansion（A-DSX）について** Audyssey DSX® は、既存の 5.1ch システムに新しいチャンネルを加えることによりサラウンド効果・印象を高め、より大きなサラウンド空間を実現する新しいサラウンド拡張技術です。人間の聴覚特性の研究で、サラウンド効果を高める要素として大きく 2 つのポイントがあげられます。最も重要なポイントは臨場感のあるサラウンド空間の構成にはフロント（前方向）部分に横の広がり（ワイドチャンネル）を作ることです。次に重要なポイントとしてはサラウンド空間に奥行き感を作る為には認知（聴くことが）出来る音響信号でフロント（前方向）部分に高さの広がり（ハイトチャンネル）を作ることとされています。 Audyssey DSX® はこの 2 つの重要な要素からワイドチャンネル（Wide channel）、ハイトチャンネル（Height channel）それぞれペアで作り出します。また Audyssey DSX® は単純にチャンネルを追加するだけではなく、既存のフロントやサラウンド、サラウンドバックとの組み合わせることで更に効果を高める“Surround Envelopment Processing（サラウンド・エンベロープメント・プロセッシング）”という技術を開発し Audyssey DSX® の中に取り入れています。
ステージウィドス フロントワイドスピーカー使用時にサウンドステージの広がりを調節します。	**-10～+10（0）**

グラフィック EQ

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

グラフィックイコライザーを使用して、各スピーカーの音色を調節します。
“グラフィック EQ” は、“MultEQ® XT” (☞114 ページ) の設定が“グラフィック EQ” のときに設定できます。

設定項目	設定内容
スピーカーの選択方法 スピーカーの音色の調節を個々におこなうか、まとめておこなうかを選びます。	**すべて**：すべてのスピーカーの音色を一緒に調節します。 **左 / 右**：左右のスピーカーの音色を一緒に調節します。 **各スピーカー**：スピーカーごとに音色を調節します。
EQ の調節 周波数帯域ごとの音色を調節します。“スピーカーの選択方法” で選んだスピーカーを調節します。	① スピーカーを選択する。 ② 調節する周波数帯を選択する。 **63Hz** / **125Hz** / **250Hz** / **500Hz** / **1kHz** / **2kHz** / **4kHz** / **8kHz** / **16kHz** • “左 / 右” や“各スピーカー” を選んだときは、調節するスピーカーを選んでください。 ③ レベルを調節する。 **-20.0dB～+6.0dB** (**0.0dB**)
カーブコピー MultEQ® XT の“Audyssey Flat” (☞114 ページ) の補正カーブをコピーします。	**はい**：コピーをします。 **いいえ**：コピーをしません。 • “カーブコピー” は、“Audyssey® セットアップ” をおこなったあとに表示します。 • “カーブコピー” を選んで **ENTER** を押すと、““Audyssey Flat” の補正カーブをコピーしますか ?” というメッセージが表示されますので、“はい” または“いいえ” を選び、**ENTER** を押してください。
初期化 “グラフィック EQ” で設定した内容をお買い上げ時の設定に戻します。	**はい**：お買い上げ時の設定に戻します。 **いいえ**：お買い上げ時の設定に戻しません。 “初期化” を選んで **ENTER** を押すと、“設定を初期値に戻しますか ?” というメッセージが表示されますので、“はい” または“いいえ” を選び、**ENTER** を押してください。 

ビデオ

映像に関する設定をします。

メニューの操作のしかた

1 **MAIN を押して、リモコン操作モードをメインゾーンに切り替える。**
MAIN が点灯します。

2 **SETUP を押す。**
テレビ画面にメニューを表示します。

3 **△▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。**

4 **ENTER または ▷ を押して、設定を確定する。**

- 前の項目に戻るときは、◁ または **BACK** を押してください。
- メニューを終了するときは、メニュー表示中に **SETUP** を押してください。メニュー表示が消えます。

“ビデオ”メニューでできること

- 画質調整（☞118 ページ）
- HDMI 設定（☞118 ページ）
- ビデオ出力の設定（☞119 ページ）
- 音量の表示（☞121 ページ）
- 情報の表示（☞121 ページ）
- 再生画面の表示（☞121 ページ）
- TV フォーマット（☞121 ページ）

画質調整

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

映像の画質を調節します。
設定はお買い上げ時のままにしておくことをおすすめします。まずは、テレビ側でディスプレイの画質調整をおこない、微調整をおこないたい場合のみ、このメニューを使用してください。
入力ソースが CBL/SAT DVD Blu-ray GAME AUX MEDIA PLAYER CD NETWORK TV AUDIO のときに設定できます。

- 上記以外の入力ソースでは、メニューの“ビデオセレクト”を選択しているときに設定できます。この場合、元の入力ソースの設定を呼び出します。
- メニューの“ビデオコンバージョン”(☞119 ページ)の設定が“オン”のときに設定できます。
- “Blu-ray”、“GAME”、“TV AUDIO”および“CD”は、各入力ソースに“HDMI”(☞123 ページ)または“COMP”(☞124 ページ)を割り当てているときに設定できます。

設定項目	設定内容
コントラスト 映像の明暗の差を調節します。	**-6 - +6 (0)**
ブライトネス 映像の明るさを調節します。	**0 - +12**
色の濃さ 色の濃さを調節します。	**-6 - +6 (0)**
色合い 緑色と赤色のバランスを調節します。	**-6 - +6 (0)**
ノイズ除去 映像全体のノイズを軽減します。	**オフ** / **弱** / **中** / **強**
エンハンサー 映像の輪郭を強調します。	**0 - +12**

ご注意

- ビデオ信号およびコンポーネントビデオ信号出力時、“画質調整”の設定はできません。
- “画質調整”は、4K のビデオ信号入力時は設定できません。

HDMI 設定

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

HDMI の映像出力や音声出力に関する設定をします。

設定項目	設定内容
オートリップシンク 出力する音声と映像の時間のずれを自動的に補正します。	**オン**：補正します。 **オフ**：補正しません。
HDMI オーディオ出力 HDMI の音声の出力先を設定します。	**AV アンプ**：本機に接続したスピーカーで再生します。 **TV**：本機に接続したテレビで再生します。 • HDMI 音声出力を“TV”に設定することで、HDMI 入力端子からの音声信号を HDMI 出力端子に出力することができます。 アナログ入力端子やデジタル入力端子(OPTICAL)から入力される音声信号を、HDMI 出力端子に出力することはできません。 • HDMI コントロール機能が動作しているときは、本機に接続したテレビの音声設定を優先します(☞96 ページ「HDMI コントロール機能」)。
ビデオ出力 HDMI のモニター出力を設定します。	**オート(デュアル)**：HDMI MONITOR 1 または HDMI MONITOR 2 端子に接続されたテレビを自動的に認識して使用します。 **モニター 1**：HDMI MONITOR 1 端子に接続されたテレビを常に使用します。HDMI MONITOR 2 端子に接続されたテレビからは映像を出力しません。 **モニター 2**：HDMI MONITOR 2 端子に接続されたテレビを常に使用します。HDMI MONITOR 1 端子に接続されたテレビからは映像を出力しません。 • HDMI MONITOR 1 および HDMI MONITOR 2 端子にテレビを接続した場合、“解像度”の設定(☞120 ページ)が“オート”のときは、両方のテレビが対応している解像度で出力します。 • メニューの“解像度”設定(☞120 ページ)が“オート”以外のときは、“ビデオ”⇨“モニター 1”または“モニター 2”(☞137 ページ)で、ご使用のテレビが対応している解像度を確認してください。 **ご注意** 接続しているモニターによっては、“オート(デュアル)”に設定すると正しく表示されない場合があります。このようなときは、“モニター 1”または“モニター 2”を選んでください。

☞ 次のページへ

設定項目	設定内容
HDMI コントロール HDMI 接続した HDMI コントロール対応機器と連動して操作できます。	**オン**：HDMI コントロール機能を使用します。 **オフ**：HDMI コントロール機能を使用しません。 • HDMI コントロール機能に対応していない機器と接続した場合は、"HDMI コントロール"を"オフ"に設定してください。 • 接続した機器の設定方法は、各機器の取扱説明書をご覧ください。 • HDMI コントロール機能については、「HDMI コントロール機能」(☞96 ページ)をご覧ください。 ご注意 • **"HDMI コントロール"を"オン"に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。**長期間本機を使用しない場合は、電源コードをコンセントから抜くことをおすすめします。 • HDMI コントロール機能は、HDMI コントロール機能対応のテレビが動作の制御をおこないます。HDMI コントロール機能を使用するときは、必ずテレビを接続してください。 • "HDMI コントロール"の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。
スタンバイ時の HDMI 入力 本機がスタンバイのときに、HDMI 出力にパススルーする HDMI 入力を選びます。	**最後のソース**：前回使用していた入力ソースのままスタンバイします。 **CBL/SAT** / **DVD** / **Blu-ray** / **GAME** / **AUX** / **MEDIA PLAYER** / **CD**：本機がスタンバイ状態のときに、HDMI 出力にパススルーする HDMI 入力を選びます。 "スタンバイ時の HDMI 入力"は、メニューの"HDMI コントロール"設定が"オン"のときに設定できます。
コントロールモニター HDMI コントロールで連動するテレビと接続する端子を設定します。	**モニター 1**：HDMI MONITOR 1 端子に接続したテレビと連動します。 **モニター 2**：HDMI MONITOR 2 端子に接続したテレビと連動します。 • "コントロールモニター"は、メニューの"HDMI コントロール"の設定(☞119 ページ)が"オン"のときに設定できます。 • ARC 機能は、"コントロールモニター"で設定された端子のみ対応します。
パワーオフコントロール 本機と外部機器の電源オフを連動します。	**すべて**：本機の入力ソースに関わらず、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。 **ビデオ**：本機の入力ソースが CBL/SAT、DVD、Blu-ray、GAME、AUX、MEDIA PLAYER または CD のときに、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。 **オフ**：本機はテレビの電源に連動しません。 "パワーオフコントロール"は、メニューの"HDMI コントロール"が"オン"のときに設定できます。

ビデオ出力の設定

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

画面に関する設定をします。

＊ "Blu-ray"、"GAME"、"TV AUDIO" および "CD" は、各入力ソースに "HDMI"(☞123 ページ)または "COMP"(☞124 ページ)を割り当てているときに設定できます。

"ビデオ出力の設定"は、4K のビデオ信号が入力されている場合は設定できません。

設定項目	設定内容
ビデオモード 映像コンテンツの種類に合わせて映像処理のしかたを設定します。 CBL/SAT DVD Blu-ray＊ GAME＊ AUX MEDIA PLAYER CD＊ TV AUDIO＊	**オート**：HDMI のコンテンツ情報に基づく映像処理を自動でおこないます。 **ゲーム**：ゲームコンテンツに適した映像処理をおこないます。 **ムービー**：通常の映像処理をおこないます。 • "ビデオモード"の設定が"オート"の場合は、入力されたコンテンツに応じてモードが切り替わります。 • 同じソースを同じ部屋で、メインゾーン(音声と映像)とゾーン 2(音声のみ)の両方を使用して再生すると、メインゾーンの音声とゾーン 2 の音声がずれて聞こえることがありますが、故障ではありません。このような場合は、"ゲーム"モードに設定すると、タイミングのずれを少なく抑えることができます。
ビデオコンバージョン 入力された映像信号を接続されたテレビに合わせて自動的に変換します(☞9 ページ「入力された映像信号を変換して出力する(ビデオコンバージョン機能)」)。 CBL/SAT DVD Blu-ray＊ GAME＊ AUX MEDIA PLAYER CD＊ TV AUDIO＊	**オン**：入力された映像信号を変換します。 **オフ**：入力された映像信号を変換しません。 • ゲーム機などの非標準ビデオ信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が動作しない場合があります。このような場合は、"ビデオコンバージョン"を"オフ"に設定してください。 • "ビデオコンバージョン"を"オフ"に設定すると、ビデオコンバージョン機能は動作しませんので、本機とテレビの接続に同じ種類の映像ケーブルを使用してください。

☞ 次のページへ

設定項目	設定内容
i/p スケーラー 入力ソースの解像度を設定した解像度に変換します。 CBL/SAT DVD Blu-ray* GAME* AUX MEDIA PLAYER CD* NETWORK TV AUDIO*	**アナログ**：アナログ映像入力信号に対して、i/p スケーラー機能を使用します。 **アナログ & HDMI**：アナログ映像入力信号と HDMI 入力信号に対して、i/p スケーラー機能を使用します。 **HDMI**：HDMI 映像入力信号に対して i/p スケーラー機能を使用します。 **オフ**：i/p スケーラー機能を使用しません。 • “アナログ &HDMI” および “HDMI” は、HDMI 入力端子を割り当てている入力ソースに対して設定できます。 • 各入力端子が割り当てられている入力ソースによって、設定項目が異なります。 • i/p スケーラー機能は、入力された信号が “x.v.Color”、3D、sYCC601 color、Adobe RGB color、Adobe YCC601 color およびコンピュータ解像度のときは効果がありません。
解像度 出力する解像度を設定します。 “解像度” の設定は、アナログビデオ入力時と HDMI 入力時にそれぞれの HDMI 出力に対しておこなえます。 CBL/SAT DVD Blu-ray* GAME* AUX MEDIA PLAYER CD* NETWORK TV AUDIO*	**オート**：HDMI MONITOR 出力端子に接続しているテレビのパネル画素数を自動的に検出し、適切な解像度で出力します。 **480p/576p** / **1080i** / **720p** / **1080p** / **1080p:24Hz** / **4K**：出力したい解像度を選びます。 • “i/p スケーラー”（☞120 ページ）の設定が “オフ” 以外のときに設定できます。 • “i/p スケーラー”（☞120 ページ）の設定が “アナログ &HDMI” のときは、アナログ映像入力信号と HDMI 映像入力信号の解像度をそれぞれ設定できます。 • 1080p/24Hz の映像をお楽しみいただくときは、1080p/24Hz の映像信号に対応しているテレビをお使いください。 • “1080p:24Hz” に設定すると、フィルムソース（24Hz）のときに、フィルムライクな映像を楽しむことができます。ビデオソースやミックスソースの場合は、“1080p” に設定することをおすすめします。 • 50Hz の信号を 1080p/24Hz へ変換することはできません。50Hz の信号は、1080p/50Hz の解像度で出力します。

設定項目	設定内容
プログレッシブモード 映像素材に最適なプログレッシブモードを選択します。 CBL/SAT DVD Blu-ray* GAME* AUX MEDIA PLAYER CD* TV AUDIO*	**オート**：映像の素材を自動的に検出し、適切なモードを設定します。 **ビデオ**：ビデオ素材の再生に適しています。 **ビデオ & フィルム**：ビデオ素材や 30 フレームのフィルム素材の再生に適しています。 “i/p スケーラー”（☞120 ページ）の設定が “オフ” 以外のときに設定できます。
アスペクト比 HDMI 端子へ出力する、映像信号のアスペクト比（縦横比）を設定します。 CBL/SAT DVD Blu-ray* GAME* AUX MEDIA PLAYER CD* NETWORK TV AUDIO*	**16:9**：16：9 のアスペクト比で出力します。 **4:3**：4：3 のアスペクト比で出力します。 “i/p スケーラー”（☞120 ページ）の設定が “オフ” 以外のときに設定できます。

* “Blu-ray”、“GAME”、“TV AUDIO” および “CD” は、各入力ソースに “HDMI”（☞123 ページ）または “COMP”（☞124 ページ）を割り当てているときに設定できます。

音量の表示

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

主音量レベルの表示位置を設定します。

設定項目	設定内容
音量	**下**：画面下に表示します。 **上**：画面上に表示します。 **オフ**：表示しません。 主音量表示が映画の字幕に重なって見づらい場合は、“上”に設定してください。

情報の表示

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

サウンドモードの変更や入力ソースの切り替え時に一時的に操作の状態を表示します。これらの各状態表示をするかしないかの設定をします。

設定項目	設定内容
情報	**オン**：表示します。 **オフ**：表示しません。

再生画面の表示

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

入力ソースが“NETWORK”、“iPod/USB”または“FM”のとき、各メニューの表示時間を設定します。

設定項目	設定内容
再生画面	**常に表示**：常に表示します。 **30s**：約 30 秒間表示します。 **10s**：約 10 秒間表示します。 **オフ**：表示しません。

TV フォーマット

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

お使いになるテレビに合わせて出力する映像信号方式を設定します。

設定項目	設定内容
フォーマット	**NTSC**：NTSC 方式で出力します。 **PAL**：PAL 方式で出力します。 “フォーマット”は、次の操作でも設定できます。このとき、メニュー画面は表示しません。ディスプレイの表示を見ながら設定してください。 1. 通常の画面を表示しているときに、本体の **STATUS** と **ZONE2 SOURCE** を同時に 3 秒以上長押しする。 ディスプレイに“V.Format:< NTSC >”を表示します。 2. 本体の **PRESET CH+, –** を押して、映像信号方式を選ぶ。 3. 本体の **STATUS** を押して、設定を終了する。 **ご注意** 接続されたテレビの映像方式と異なる方式に設定すると、映像は正しく表示されません。

入力ソース

GUI

現在選択している入力ソースに関する設定をします。
•設定を変更しなくてもお使いいただけます。必要に応じて設定してください。

メニューの操作のしかた

1 **MAIN を押して、リモコン操作モードをメインゾーンに切り替える。**
MAIN が点灯します。

2 **SETUP を押す。**
テレビ画面にメニューを表示します。

3 **△▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。**

4 **ENTER または ▷ を押して、設定を確定する。**

•前の項目に戻るときは、◁ または **BACK** を押してください。
•メニューを終了するときは、メニュー表示中に **SETUP** を押してください。メニュー表示が消えます。

知っておいてほしいこと

❑本書内の入力ソースの表示について

本書では、各項目で設定できる入力ソース名を次のようにあらわしています。

CBL/SAT | DVD | Blu-ray | GAME | AUX | MEDIA PLAYER | iPod/USB | CD | FM | NETWORK | TV AUDIO | M-XPort | PHONO

ご注意

メニューの“使用ソースの選択”（☞124 ページ）で、“使用しない”に設定した入力ソースは選べません。

“入力ソース”メニューでできること

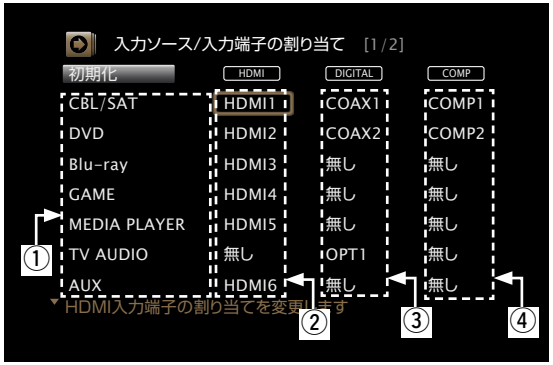
入力端子の割り当て（☞123 ページ）
入力ソース名の変更（☞124 ページ）
使用ソースの選択（☞124 ページ）
ソースレベル（☞125 ページ）
オーディオ入力の選択（☞125 ページ）
映像の選択（☞125 ページ）

入力端子の割り当て

本機の音声端子にはお買い上げ時の設定で“CBL/SAT”などの入力ソースが割り当てられています。お買い上げ時の設定どおりに接続をおこなうと、入力ソース切り替えボタンを押すだけで、接続した機器の音声や映像を簡単に再生できます。
お買い上げ時の設定と異なる接続をおこなう場合は、この項目で設定を変更する必要があります。

“入力端子の割り当て”メニュー画面の表示例

この画面は、メニューの“入力ソース”⇨“各入力ソース”⇨“入力端子の割り当て”を選択したときに表示します。
この“入力端子の割り当て”メニューでは、①各入力ソースに対して、お買い上げ時の設定で割り当てられている② HDMI 入力端子、③デジタル端子、④コンポーネント入力端子を変更できます。

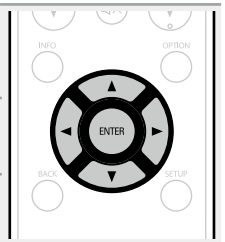


“入力端子の割り当て”メニューの操作のしかた

1 △▽◁ ▷ を押して、設定したい項目へカーソルを移動させ、**ENTER** を押す。

2 ◁ ▷ を押して、入力端子を割り当てる。

3 **ENTER** を押して、設定を確定する。



設定項目	設定内容
HDMI 入力ソースに割り当てられている HDMI 入力端子を変更するときに設定します。 CBL/SAT / DVD / Blu-ray / GAME / AUX / MEDIA PLAYER / CD / TV AUDIO	**HDMI 1 / HDMI 2 / HDMI 3 / HDMI 4 / HDMI 5 / HDMI 6**：選択した入力ソースに、いずれかの HDMI 入力端子を割り当てます。 **無し**：選択した入力ソースに HDMI 入力端子を割り当てません。 • 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、次のとおりです。

入力ソース	CBL/SAT	DVD	Blu-ray	GAME
お買い上げ時の設定	HDMI 1	HDMI 2	HDMI 3	HDMI 4

入力ソース	AUX	MEDIA PLAYER	CD	TV AUDIO
お買い上げ時の設定	HDMI 6	HDMI 5	無し	無し

- HDMI 入力端子の割り当てができない入力ソースには、“– – –”を表示します。
- “HDMI”で割り当てた映像信号と、メニューの“入力端子の割り当て”⇨“DIGITAL”で割り当てた音声信号を組み合わせて再生する場合は、“入力モード”（☞125 ページ）を“デジタル”に設定してください。
- テレビにはアナログ端子およびデジタル端子から入力された音声信号を出力できません。
- メニューの“HDMI コントロール”（☞119 ページ）を“オン”に設定している場合は、“TV AUDIO”に“HDMI”を割り当てることはできません。

☞ 次のページへ

設定項目	設定内容
DIGITAL 入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子を変更するときに設定します。 CBL/SAT / DVD / Blu-ray / GAME / AUX / MEDIA PLAYER / CD / TV AUDIO	**COAX (COAXIAL) 1, 2 / OPT (OPTICAL) 1, 2**：選択した入力ソースにデジタル入力端子を割り当てます。 **無し**：選択した入力ソースにデジタル入力端子を割り当てません。 • 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、次のとおりです。

入力ソース	CBL/SAT	DVD	Blu-ray	GAME
お買い上げ時の設定	COAX 1	COAX 2	無し	無し

入力ソース	AUX	MEDIA PLAYER	CD	TV AUDIO
お買い上げ時の設定	無し	無し	OPT 2	OPT 1

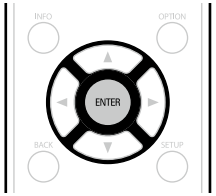
設定項目	設定内容
COMP （コンポーネントビデオ） 入力ソースに割り当てられているコンポーネントビデオ入力端子を変更するときに設定します。 CBL/SAT / DVD / Blu-ray / GAME / AUX / MEDIA PLAYER / CD / TV AUDIO	**COMP (COMPONENT VIDEO) 1, 2**：選択した入力ソースにコンポーネントビデオ入力端子を割り当てます。 **無し**：選択した入力ソースにコンポーネントビデオ入力端子を割り当てません。 • 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、次のとおりです。

入力ソース	CBL/SAT	DVD	Blu-ray	GAME
お買い上げ時の設定	COMP 1	COMP 2	無し	無し

入力ソース	AUX	MEDIA PLAYER	CD	TV AUDIO
お買い上げ時の設定	無し	無し	無し	無し

コンポーネントビデオ入力端子の割り当てができない入力ソースには、"– – –"を表示します。

初期化 変更した入力ソース名をお買い上げ時の設定に戻します。	**はい**：お買い上げ時の設定に戻します。 **いいえ**：お買い上げ時の設定に戻しません。 "初期化"を選んで **ENTER** を押すと、"設定を初期値に戻しますか？"というメッセージが表示されますので、"はい"または"いいえ"を選び、**ENTER** を押してください。



入力ソース名の変更

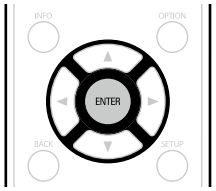
選択した入力ソースの表示名を変更します。
お使いの機器の入力ソース名と本機の入力ソース名が異なっている場合に便利です。お好みに合わせて変更できます。変更後は、本体のディスプレイとメニュー画面にその名前を表示します。

設定内容

CBL/SAT / **DVD** / **Blu-ray** / **GAME** / **AUX** / **MEDIA PLAYER** / **CD** / **TV AUDIO** / **M-XPort** / **PHONO**：選択した入力ソースの表示名を変更します。
• 12 文字まで入力できます。
• 文字の入力方法については、109 ページをご覧ください。

初期化：変更した入力ソース名をお買い上げ時の設定に戻します。
• **はい**：お買い上げ時の設定に戻します。
• **いいえ**：お買い上げ時の設定に戻しません。

"初期化"を選んで **ENTER** を押すと、"設定を初期値に戻しますか？"というメッセージが表示されますので、"はい"または"いいえ"を選び、**ENTER** を押してください。



使用ソースの選択

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

使用しない入力ソースを表示しないように設定します。

設定内容

CBL/SAT / **DVD** / **Blu-ray** / **GAME** / **AUX** / **MEDIA PLAYER** / **iPod/USB** / **CD** / **FM** / **NETWORK** / **TV AUDIO** / **M-XPort** / **PHONO**：使用しない入力ソースを選びます。
• **使用する**：選んだ入力ソースを使用します。
• **使用しない**：選んだ入力ソースを使用しません。

ご注意
• メインゾーンまたはゾーン 2 で使用している入力ソースは選べません。
• ゾーン 2 で使用している入力ソースの設定はできません。
• "使用しない"に設定した入力ソースは、入力ソース選択ボタンを操作しても選べません。

ソースレベル

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

選択した入力ソースの音声入力の再生レベルを補正します。
ソースによって再生レベルに差があるときなどに設定してください。

設定内容

-12dB～+12dB (0dB)

メニューの“入力端子の割り当て”（☞123 ページ）の設定で、“DIGITAL”を割り当てた入力ソースに対しては、アナログ入力レベルとデジタル入力レベルを別々に調節できます。

オーディオ入力の選択

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

各入力ソースの音声入力モードとデコードモードを設定します。
選択できる入力モードは、入力ソースによって異なります。

設定項目	設定内容
入力モード 各入力ソースの音声入力モードを設定します。 通常は、“オート”に設定することをおすすめします。	**オート**：本機に入力されている信号を自動的に検出して再生します。 **HDMI**：HDMI 入力端子からの入力信号のみを再生します。 **デジタル**：デジタル入力端子からの入力信号のみを再生します。 **アナログ**：アナログ入力端子からの入力信号のみを再生します。 **7.1CH IN**：7.1CH IN 端子からの入力信号のみを再生します。 • “デジタル”は、メニューの“入力端子の割り当て”（☞124 ページ）で“DIGITAL”を割り当てた入力ソースのときに選択できます。 • “アナログ”は、入力ソースが“CBL/SAT”、“DVD”、“Blu-ray”、“AUX”、“MEDIA PLAYER”、“CD”または“PHONO”のときに設定できます。 • “7.1CH IN”は、サラウンドモードを設定できません。 • メニューの“HDMI コントロール”（☞119 ページ）の設定が“オン”で、HDMI MONITOR 端子に ARC 対応テレビを接続している場合、入力ソースが“TV AUDIO”のときの入力モードは ARC 固定になります。
デコードモード 入力ソースの音声をデコードするモードを設定します。 CBL/SAT / DVD / Blu-ray / GAME / AUX / MEDIA PLAYER / CD / TV AUDIO	**オート**：デジタル入力信号の種類を識別し、自動的にデコードして再生します。 **PCM**：PCM 信号が入力されたときだけ、デコードして再生します。 **DTS**：DTS 信号が入力されたときだけ、デコードして再生します。 • メニューの“入力端子の割り当て”の設定（☞123 ページ）で“DIGITAL”に割り当てた入力ソースのときに選択できます。 • 通常は、“オート”に設定してください。“PCM”や“DTS”は、それぞれの入力信号を再生するときに設定してください。

映像の選択

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

今聴いている音声に好きな映像を組み合わせて再生します。

設定内容

入力ソース：入力ソースの映像と音声を再生します。
CBL/SAT / **DVD** / **Blu-ray** / **GAME** / **AUX** / **MEDIA PLAYER** / **TV AUDIO** / **CD**：見たい映像の入力ソースを選びます。今聴いている音声に、選択した入力ソースの映像を組み合わせて再生します。入力ソースごとに設定できます。

“Blu-ray”、“GAME”、“TV AUDIO”および“CD”は、各入力ソースに“COMP”を割り当てているときのみ選べます。

ご注意

- HDMI 入力信号は選べません。
- メニューの“使用ソースの選択”（☞124 ページ）で、“使用しない”に設定した入力ソースは選べません。

スピーカー

GUI

“Audyssey® セットアップ”の設定内容を変更するときに設定します。

- “Audyssey® セットアップ” をおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、Audyssey MultEQ® XT、Audyssey Dynamic EQ® および Audyssey Dynamic Volume® の選択ができなくなります (☞114 ページ)。
- 設定を変更しなくてもお使いいただけます。必要に応じて設定してください。

メニューの操作のしかた

1 **MAIN** を押して、リモコン操作モードをメインゾーンに切り替える。
MAIN が点灯します。

2 **SETUP** を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。

3 △▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。

4 **ENTER** または ▷ を押して、設定を確定する。

- 前の項目に戻るときは、◁ または **BACK** を押してください。
- メニューを終了するときは、メニュー表示中に **SETUP** を押してください。メニュー表示が消えます。

“スピーカー”メニューでできること

- Audyssey® セットアップ (☞32、92 ページ)
- マニュアルセットアップ (☞127 ページ)

マニュアルセットアップ

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

スピーカーを手動で設定する場合や“Audyssey® セットアップ”で測定した内容を変更するときにおこなってください。

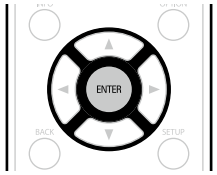
- “Audyssey® セットアップ”をおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、Audyssey MultEQ® XT、Audyssey Dynamic EQ® および Audyssey Dynamic Volume® の選択ができなくなります（☞114 ページ）。
- 設定を変更しなくてもお使いいただけます。必要に応じて設定してください。

設定項目	設定内容
アンプの割り当て ご使用のスピーカーシステムに合わせて、パワーアンプの割り当てを変更します。	**アサインモード**：本機のパワーアンプの使用方法を設定します。 • **Surround Back**：サラウンドバック、フロントハイトおよびフロントワイドスピーカーを使用して、7.1 チャンネルで再生するときに設定します。 • **ZONE2**：本機内部のパワーアンプをゾーン 2 用に割り当て、ステレオ音声で出力するときに設定します。 • **Bi-AMP**：フロントスピーカーをバイアンプ接続して使用するときに設定します。 • **Front Height**：フロントハイトスピーカーを使用して、7.1 チャンネル再生をおこなうときに設定します。 • **Front Wide**：フロントワイドスピーカーを使用して、7.1 チャンネル再生をおこなうときに設定します。
スピーカー構成 スピーカーのあり・なしや低音域再生能力によるスピーカーの大きさの分類を選びます。 **ご注意** “大”と“小”の選択は、スピーカーの外形で判断せずに、メニューの“クロスオーバー周波数”（☞129 ページ）で設定した周波数を基準とした低域再生能力で判断してください。	**フロント**：フロントスピーカーの大きさを設定します。 • **大**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **小**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • “サブウーハー”の設定が“無し”の場合、“フロント”の設定は自動的に“大”になります。 • “フロント”の設定が“小”の場合、“センター”、“サラウンド”、“S. バック”、“フロントハイト”および“フロントワイド”を“大”に設定することはできません。
	センター：センタースピーカーの有無や大きさを設定します。 • **大**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **小**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **無し**：センタースピーカーを使用しません。 “フロント”の設定が“小”の場合、“大”は表示しません。

設定項目	設定内容
スピーカー構成 （つづき）	**サブウーハー**：サブウーハーの有無を設定します。 • **有り**：サブウーハーを使用します。 • **無し**：サブウーハーを使用しません。 “フロント”の設定が“小”の場合、“サブウーハー”の設定は自動的に“有り”になります。
	サラウンド：サラウンドスピーカーの有無や大きさを設定します。 • **大**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **小**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **無し**：サラウンドスピーカーを使用しません。 • “サラウンド”の設定が“大”のとき“、“S. バック”、“フロントハイト”および“フロントワイド”を“大”に設定できます。 • “サラウンド”の設定が“無し”のとき“、“S. バック”、“フロントハイト”および“フロントワイド”の設定は自動的に“無し”になります。
	S. バック：サラウンドバックスピーカーの有無や大きさを設定します。 • **大**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **小**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **無し**：フロントハイトスピーカーを使用しません。 • **2 台**：サラウンドバックスピーカーを 2 本使用します。 • **1 台**：サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ使用します。この設定を選んだときは、サラウンドバックスピーカーを左（L）チャンネルに接続してください。 **ご注意** “S. バック”は、メニューの“アサインモード”（☞127 ページ）の設定が“Surround Back”のときに設定できます。

☞ 次のページへ

設定項目	設定内容
スピーカー構成 （つづき）	**フロントハイト**：フロントハイトスピーカーの有無や大きさを設定します。 • **大**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **小**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **無し**：フロントハイトスピーカーを使用しません。 ご注意 “フロントハイト”は、メニューの“アサインモード”の設定（☞127 ページ）が“Front Height”のときに設定できます。
	フロントワイド：フロントワイドスピーカーの有無や大きさを設定します。 • **大**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **小**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **無し**：フロントワイドスピーカーを使用しません。 ご注意 “フロントワイド”は、メニューの“アサインモード”の設定（☞127 ページ）が“Front Wide”のときに設定できます。
低音 サブウーハーや LFE 信号の低音域再生に関する設定をします。	**サブウーハーモード**：サブウーハーで再生する低音域信号を設定します。 • **LFE**：サブウーハー用の信号に、スピーカーの大きさを“小”に設定しているチャンネルの低音域信号を加えて出力します。 • **LFE+ メイン**：サブウーハー用の信号に、すべてのチャンネルの低音域信号を加えて出力します。 • “サブウーハーモード”は、メニューの“スピーカー構成”⇨“サブウーハー”（☞127 ページ）の設定が“有り”のときに設定できます。 • 音楽ソースや映画ソースを再生して、量感のある低音域が得られるモードを選んでください。 • 常にサブウーハーから低音域を出力したい場合は、“LFE+ メイン”に設定してください。 ご注意 メニューの“スピーカー構成”⇨“フロント”と“センター”の設定が“大”で、なおかつ“サブウーハーモード”の設定が“LFE”の場合は、入力信号やサウンドモードによってサブウーハーから音声が出力されない場合があります。
	LFE 用ローパスフィルター：LFE 信号の再生帯域を設定します。サブウーハーでの再生周波数を変更する場合に設定します。 • **80Hz** / **90Hz** / **100Hz** / **110Hz** / **120Hz** / **150Hz** / **200Hz** / **250Hz**

設定項目	設定内容
距離 リスニングポイントからスピーカーまでの距離を設定します。 あらかじめリスニングポイントから各スピーカーまでの距離を測定しておいてください。	**単位**：距離の単位を設定します。 • **メートル** / **フィート**
	ステップ：距離の最小可変幅を設定します。 • **0.1m** / **0.01m** • **1ft** / **0.1ft**
	初期化：“距離”で設定した内容をお買い上げ時の設定に戻します。 • **はい**：お買い上げ時の設定に戻します。 • **いいえ**：お買い上げ時の設定に戻しません。 “初期化”を選んで **ENTER** を押すと、“設定を初期値に戻しますか？”というメッセージが表示されますので、“はい”または“いいえ”を選び、**ENTER** を押してください。 
	フロント左 / **フロント右** / **F. ハイト左** / **F. ハイト右** / **センター** / **サブウーハー** / **サラウンド左** / **サラウンド右** / **S. バック左** * / **S. バック右** * / **F. ワイド左** / **F. ワイド右**：メニューの“スピーカー構成”⇨“S. バック”（☞127 ページ）の設定が“1 台”のときは、“S. バック”を表示します。 • **0.00m～18.00m** / **0.0ft～60.0ft**：距離を設定します。 • メニューの“アンプの割り当て”（☞127 ページ）および“スピーカー構成”（☞127 ページ）の設定により、選択できるスピーカーが異なります。 • お買い上げ時の設定： フロント左 / フロント右 / F. ハイト左 / F. ハイト右 / センター / サブウーハー / F. ワイド左 / F. ワイド右：3.60 メートル（12.6 フィート） サラウンド左 / サラウンド右 / S. バック左 / S. バック右：3.00 メートル（10.0 フィート） • 各スピーカーに設定した距離の差は、6.00 メートル（20.0 フィート）以下になるように設定してください。 ご注意 メニューの“スピーカー構成”（☞127 ページ）で、“無し”に設定したスピーカーは表示しません。

☞ 次のページへ

設定項目	設定内容
レベル 各スピーカーから出力されるテストトーンの音量が同じになるように設定します。	**テストトーン開始**：テストトーンを出力します。 • **フロント左** / **F. ハイト左** / **センター** / **F. ハイト右** / **フロント右** / **F. ワイド右** / **サラウンド右** / **S. バック右** * / **S. バック左** * / **サラウンド左** / **F. ワイド左** / **サブウーハー**：テストトーンを出力するスピーカーを選びます。 * メニューの"スピーカー構成" ⇨"S. バック" の設定(☞127 ページ) が"1 台"のときは、"S. バック"を表示します。 • **-12.0dB～+12.0dB (0.0dB)**：音量を調節します。 "レベル" の設定は、すべてのサウンドモードに対して調節した値を反映します。 **ご注意** • メニューの"スピーカー構成" (☞127 ページ) で、"無し" に設定したスピーカーは表示しません。 • 本体の PHONES 端子にヘッドホンを挿入している場合は、"レベル"を表示しません。
	初期化："レベル"で設定した内容をお買い上げ時の設定に戻します。 • **はい**：お買い上げ時の設定に戻します。 • **いいえ**：お買い上げ時の設定に戻しません。 "初期化" を選んで **ENTER** を押すと、"設定を初期値に戻しますか ?" というメッセージが表示されますので、"はい" または"いいえ" を選び、**ENTER** を押してください。

設定項目	設定内容

クロスオーバー周波数
各チャンネルからサブウーハーに出力する低音域信号の上限の周波数を設定します。クロスオーバー周波数は、スピーカーの低音域の再生能力に合わせて設定してください。
	クロスオーバー：クロスオーバー周波数を設定します。
	• **40Hz** / **60Hz** / **80Hz** / **90Hz** / **100Hz** / **110Hz** / **120Hz** / **150Hz** / **200Hz** / **250Hz** / **スピーカー別**：すべてのスピーカーのクロスオーバー周波数を設定します。スピーカーのクロスオーバー周波数については、スピーカーの取扱説明書をご覧ください。
	次の設定は"クロスオーバー" の設定が"スピーカー別" のときに設定できます。
	• **フロント** / **センター** / **サラウンド** / **S. バック** / **フロントハイト** / **フロントワイド**：スピーカーごとにクロスオーバー周波数を設定します。
	• **40Hz** / **60Hz** / **80Hz** / **90Hz / 100Hz** / **110Hz** / **120Hz** / **150Hz** / **200Hz** / **250Hz**：クロスオーバー周波数を設定します。
	• "クロスオーバー周波数" は、メニューの"低音" ⇨"サブウーハーモード" (☞128 ページ) の設定が"LFE+ メイン" のとき、または"小" に設定しているスピーカーがあるときに設定できます。
	• クロスオーバー周波数は、通常"80Hz"に設定してください。ただし、小型スピーカーをご使用になる場合は、より高い周波数に設定することをおすすめします。
	• "小" に設定しているスピーカーからは、クロスオーバー周波数以下の音声をカットして出力します。カットした低音域は、サブウーハーまたはフロントスピーカーから出力します。
	• メニューの"サブウーハーモード" の設定 (☞128 ページ) により、"スピーカー別" で設定できるスピーカーが異なります。
	  • "LFE" の場合は、"スピーカー構成" で"小" に設定しているスピーカーの設定ができます。"大" に設定しているスピーカーのときは、"フルバンド" が表示され、設定できません。
	  • "LFE+ メイン" の場合は、スピーカーの大きさに関係なく設定ができます。

フロントスピーカーの設定 使用するフロントスピーカーを設定します。	• **A**：フロントスピーカー A を使用します。 • **B**：フロントスピーカー B を使用します。

ネットワーク

GUI

本機をホームネットワーク（LAN）に接続して使用できるようにするためには、ネットワークの設定をおこなう必要があります。
DHCP でホームネットワーク（LAN）を構築している場合は、“DHCP”を“オン”に設定します（お買い上げ時の設定のまま使用してください）。これにより、ホームネットワーク（LAN）を使用できるようになります。
各機器に IP アドレスを割り当てている場合は、“IP アドレス”の設定で本機に IP アドレスを割り当て、ゲートウェイアドレスやサブネットマスクなど、お使いのホームネットワーク（LAN）に関する情報を入力する必要があります。

メニューの操作のしかた

1 **MAIN** を押して、リモコン操作モードをメインゾーンに切り替える。
MAIN が点灯します。

2 **SETUP** を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。

3 △▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。

4 **ENTER** または ▷ を押して、設定を確定する。

- 前の項目に戻るときは、◁ または **BACK** を押してください。
- メニューを終了するときは、メニュー表示中に **SETUP** を押してください。メニュー表示が消えます。

“ネットワーク”メニューでできること

- 情報（☞131 ページ）
- IP コントロール（☞131 ページ）
- フレンドリーネームの編集（☞131 ページ）
- 接続の設定（☞132 ページ）
- メンテナンスモード（☞133 ページ）

情報

ネットワークの情報を表示します。

設定内容
フレンドリーネーム / **DHCP= オン**または**オフ** / **IP アドレス** / **MAC アドレス**

MAC アドレスは、vTuner のアカウント作成の際に必要になります。

IP コントロール

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

スタンバイ時のネットワーク機能のオン / オフを設定します。

設定内容
常時オン：スタンバイ時でも、ネットワーク機能を停止しません。ネットワーク対応のコントローラーを使用して本機を操作できます。 **スタンバイ時オフ**：スタンバイ時に、ネットワーク機能を停止します。

ウェブコントロール機能は、"IP コントロール"の設定が"常時オン"のときに使用できます。

ご注意

"IP コントロール"を"常時オン"に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。

フレンドリーネームの編集

フレンドリーネームとは、ネットワーク上に表示される本機の名称です。フレンドリーネームをお好みによって変更できます。

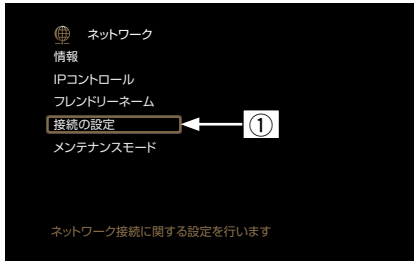
設定項目	設定内容
編集 フレンドリーネームを編集します。	• お買い上げ時のフレンドリーネームは、"marantz SR6007"です。 • 63 文字まで入力できます。 • 文字の入力方法については、109 ページをご覧ください。
初期化 編集したフレンドリーネームをお買い上げ時の設定に戻します。	**はい**：設定をお買い上げ時の設定に戻します。 **いいえ**：設定をお買い上げ時の設定に戻しません。 "初期化"を選んで **ENTER** を押すと、"設定を初期値に戻しますか ?" というメッセージが表示されますので、"はい" または"いいえ" を選び、**ENTER** を押してください。

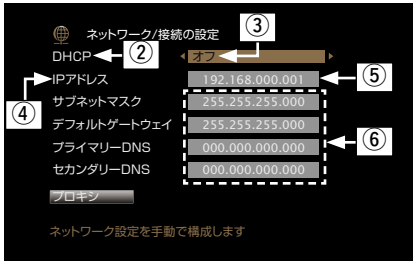
接続の設定

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

有線 LAN の設定をします。
“接続の設定”は、DHCP 機能のないネットワークに接続する場合のみ設定してください。

設定内容





① メニューの“ネットワーク”で“接続の設定”を選び、**ENTER** を押す。
② △▽を押して“DHCP”を選び、**ENTER**を押す。
③ ◁ ▷を押して“オフ”を選び、**ENTER**を押す。
④ △▽を押して“IPアドレス”を選び、**ENTER**を押す。
- **IP アドレス**：入力する IP アドレスは下記の範囲で設定してください。下記以外の IP アドレスではネットワークオーディオ機能を使用することができません。
  CLASS A: 10.0.0.1 – 10.255.255.254
  CLASS B: 172.16.0.1 – 172.31.255.254
  CLASS C: 192.168.0.1 – 192.168.255.254

⑤ △▽◁ ▷を押してアドレスを入力し、**ENTER** を押す。
⑥ △▽を押して設定する項目を選び、**ENTER** を押す。
- **サブネットマスク**：xDSL モデムやターミナルアダプターを直接本機に接続している場合は、プロバイダから書面などで通知されたサブネットマスクを入力します。通常は 255.255.255.0 が入ります。
- **デフォルトゲートウェイ**：ゲートウェイ（ルータ）に接続している場合は、その IP アドレスを入力します。
- **プライマリーDNS、セカンダリーDNS**：プロバイダから書面などで通知された DNS アドレスが 1 つの場合は、“プライマリーDNS”に入力してください。2 つ以上の場合は、1 つを“セカンダリーDNS”に入力してください。

⑦ ◁または**BACK**を押す。
再生画面に戻ります。
- プロキシ経由でネットワークに接続している場合は、“プロキシ”を選び、**ENTER** を押してください（☞133 ページ「プロキシの設定」）。

設定内容

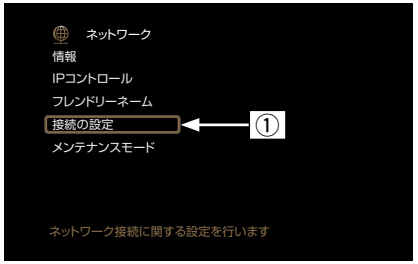
- ブロードバンドルータ（DHCP 機能）をお使いの方は、本機の初期設定で DHCP 機能が“オン”になっていますので、“IP アドレス”と“プロキシ”の設定は必要ありません。
- DHCP 機能のないネットワークに本機を接続してお使いになるときには、ネットワークの設定をおこなう必要があります。この場合、ネットワークに関する知識が必要となります。詳しくは、ネットワーク管理者などにお問い合わせください。
- インターネットに接続できない場合は、再度接続や設定を確認してください（☞30 ページ）。
- インターネットの接続についてわからない場合は、ISP（インターネット・サービスプロバイダ）またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。
- IP アドレスの入力中に設定をキャンセルしたいときは、◁ または **BACK** を押してください。

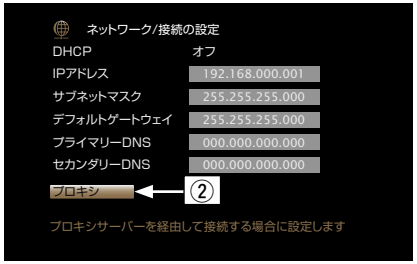
☞ 次のページへ

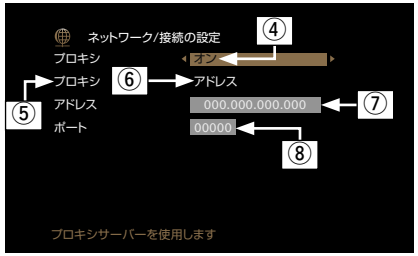
設定内容

❑ **プロキシの設定**

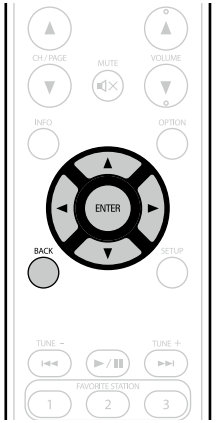
インターネットにプロキシサーバーを経由して接続する場合に設定します。
プロキシの設定は、契約しているプロバイダや社内のネットワークなどプロキシサーバーを経由してインターネットに接続している場合のみおこなってください。







① メニューの“ネットワーク”で“接続の設定”を選び、**ENTER** を押す。
② △▽を押して“プロキシ”を選び、**ENTER** を押す。
③ 再度 **ENTER** を押す。
④ ◁ ▷を押して“オン”を選び、**ENTER** を押す。
⑤ ▽ を押して“プロキシ”を選び、**ENTER** を押す。
⑥ ◁ ▷を押して“アドレス”または“ネーム”を選び、**ENTER**を押す。
アドレス：アドレスで入力する場合に選びます。
ネーム：ドメイン名で入力する場合に選びます。
⑦ ▽ を押して“アドレス”または“ネーム”を選び、**ENTER** を押す。
手順 ⑥ で“アドレス”を選んだ場合：△▽◁ ▷を押してプロキシサーバーのアドレスを入力し、**ENTER** を押す。
手順 ⑥ で“ネーム”を選んだ場合：キーボード入力画面（☞109 ページ）でドメイン名を入力し、OK を選ぶ。
• 文字の入力方法については、109 ページをご覧ください。
⑧ ▽を押して“ポート”を選び、**ENTER**を押す。△▽◁ ▷を押してプロキシサーバーのポート番号を入力し、**ENTER** を押す。
設定が完了します。
⑨ ◁または**BACK**を押す。
再生画面に戻ります。



メンテナンスモード

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

当社のサービスエンジニアやカスタムインストーラーからメンテナンスを受けるときに使用します。

設定内容

ご注意

当社のサービスエンジニアやカスタムインストーラーから指示があった場合のみご使用ください。

一般

GUI

その他の設定をします。

メニューの操作のしかた

1 **MAIN** を押して、リモコン操作モードをメインゾーンに切り替える。
MAIN が点灯します。

2 **SETUP** を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。

3 △▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。

4 **ENTER** または ▷ を押して、設定を確定する。

- 前の項目に戻るときは、◁ または **BACK** を押してください。
- メニューを終了するときは、メニュー表示中に **SETUP** を押してください。メニュー表示が消えます。

“一般”メニューでできること

言語（☞135 ページ）

ゾーン 2 の設定（☞135 ページ）

ゾーン名の変更（☞135 ページ）

トリガーアウト（☞136 ページ）

オートスタンバイ（☞136 ページ）

フロントディスプレイ（☞136 ページ）

情報（☞137 ページ）

ファームウェア（☞138 ページ）

セットアップロック（☞139 ページ）

言語

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

テレビ画面に表示する言語を設定します。

設定内容
日本語 / **English**

"言語"は、次の操作でも設定できます。この設定中は、メニュー画面を表示しません。ディスプレイの表示を見ながら設定してください。

1. 通常の画面を表示しているときに、本体の **STATUS** と **ZONE2 SOURCE** を同時に3秒以上長押しする。
   ディスプレイに"V.Format:< NTSC >"を表示します。
2. 本体の **DISPLAY** を押して、"Lang.:<JAPANESE>"を選ぶ。
3. 本体の **PRESET CH+, –** を押して、言語を設定する。
4. 本体の **STATUS** を押して、設定を終了する。

ゾーン 2 の設定

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

ゾーン 2 で再生する音声の設定をします。

- メニューの"アサインモード"の設定(☞127 ページ)が"ZONE2"のときに、"ゾーン 2 の設定"を表示します。

設定項目	設定内容
低音 低音のトーンを調節します。	**-10dB～+10dB (0dB)**
高音 高音のトーンを調節します。	**-10dB～+10dB (0dB)**
ハイパスフィルター 低音が歪んで聞こえるときに、低域成分をカットして出力します。	**オン**：低域成分をカットして出力します。 **オフ**：低域成分をカットしません。
左レベル 左チャンネルの出力レベルを調節します。	**-12dB - +12dB (0dB)**
右レベル 右チャンネルの出力レベルを調節します。	**-12dB - +12dB (0dB)**
チャンネル マルチゾーンから出力する信号を設定します。	**ステレオ**：ステレオ信号を出力します。 **モノラル**：モノラル信号を出力します。
音量レベル 音量出力レベルを設定します。	**可変**：本機やリモコンで音量の調節ができます。 **40 (-40dB)**：音量は常に -40dB になります。外部のアンプで音量を調節する場合に設定します。 **80 (0dB)**：音量は常に 0dB になります。外部のアンプで音量を調節する場合に設定します。 メニューの"アサインモード"(☞127 ページ)が"ZONE2"のとき、"音量レベル"は"可変"になります。
音量の上限 音量の上限を設定します。	**オフ**：音量の上限を設定しません。 **60 (-20dB)** / **70 (-10dB)** / **80 (0dB)** メニューの"表示方法"(☞114 ページ)の設定が"-79.5dB - 18.0dB"のときは、-79dB～18dB の範囲で表示します。
電源オン時の音量 ゾーン 2 の電源を入れたときの音量を設定します。	**前回の音量**：記憶している音量になります。 **消音**：常に電源を入れたときは消音状態になります。 **1 - 98 (-79dB - 18dB)**：設定した音量になります。 メニューの"表示方法"(☞114 ページ)の設定が"-79.5dB - 18.0dB"のときは、-79dB～18dB の範囲で表示します。
ミューティングレベル ミューティング時の音量の減衰量を設定します。	**消音**：消音状態になります。 **-40dB**：現在の音量から 40dB 下げて再生します。 **-20dB**：現在の音量から 20dB 下げて再生します。

ゾーン名の変更

画面に表示されるゾーンの表示名を、お好みの名前に変更します。

設定内容
メインゾーン / ゾーン 2 • 10 文字まで入力できます • 文字の入力方法については、109 ページをご覧ください。

トリガーアウト

トリガーアウトを動作させる条件を選びます。
トリガーアウトの接続方法については、「DC OUT 端子」(☞95 ページ) をご覧ください。

設定内容

❑ **ゾーン(メインゾーン / ゾーン 2)に対して設定するとき**
"オン"に設定されたゾーンの電源に連動して、トリガーアウトが動作します。

❑ **入力ソースに対して設定するとき**
"オン"に設定された入力ソースが選ばれたときに、トリガーアウトが動作します。

「ゾーンに対して設定するとき」で"オン"に設定されたゾーンに対して有効です。

- **オン**：出力の条件にします。
- - - -：条件にしません。

オートスタンバイ

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

音声や映像の入力がない状態で本機を設定した時間操作しないと、自動的にスタンバイ状態になります。スタンバイ状態になる前には、本体のディスプレイとメニュー画面に"オートスタンバイ"を表示します。

設定内容

30 分：約 30 分後に本機をスタンバイ状態にします。
60 分：約 60 分後に本機をスタンバイ状態にします。
オフ：自動的に本機をスタンバイ状態にしません。

フロントディスプレイ

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

本機のディスプレイに関する設定をします。

設定項目	設定内容
表示	**オン**：ディスプレイを常に点灯します。 **オートオフ**：状態表示以外はディスプレイを消灯します。 **オフ**：ディスプレイを消灯します。 ディスプレイの明るさは、本体の **DISPLAY** を押しても調節できます。**DISPLAY** を押すたびに、ディスプレイの明るさが次の順序で切り替わります。 → オン → オートオフ → オフ → **ご注意** "表示"を"オフ"に設定すると、ディスプレイが消灯し、通電されていない状態と同様になります。

情報

本機の設定状態や入力信号などの情報を表示します。

設定項目	設定内容
オーディオ 現在の設定状態を表示します。	**サウンドモード**：設定しているサウンドモード **入力信号**：入力信号の種類 **フォーマット**：入力信号のチャンネル数（フロント / サラウンド /LFE の有無） **サンプリング周波数**：入力信号のサンプリング周波数 **オフセット**：ダイアログノーマライゼーションの補正値 **フラグ**：サラウンドバックチャンネルを含む信号を入力しているときに表示します。入力信号が Dolby Digital EX、DTS-ES Matrix のときは“MATRIX”、DTS-ES Discrete 信号などのときは“DISCRETE”を表示します。 **ダイアログノーマライゼーション機能について** Dolby Digital ソースの再生中、自動的に動作します。 この機能は、プログラムソースごとに異なる標準信号レベルを自動的に補正します。 補正値は、本体の **STATUS** を押しても確認できます。 Offset - 4dB 数字は補正値です。変更できません。
ビデオ HDMI 入出力信号や HDMI モニターの情報を表示します。	**ビデオ信号** • **解像度** / **カラースペース** / **ビット数** **モニター** • **インターフェース** / **対応解像度**
ゾーン 各ゾーンの現在の設定状態を表示します。	**メインゾーン**：メインゾーンの設定状態を表示します。表示する内容は、入力ソースによって異なります。 • **ゾーン名** / **選択ソース** / **ネーム** / **サウンドモード** / **入力モード** / **デコードモード** / **HDMI** / **デジタル** / **コンポーネント** / **ビデオセレクト** / **ビデオモード / Content Type** / **ビデオコンバージョン** / **i/p スケーラー** / **解像度** / **プログレッシブモード** / **アスペクト**など **ゾーン 2**：ゾーン 2 の設定状態を表示します。 • **ゾーン名 / 電源 / 選択ソース / 音量レベル** ゾーン 2 の“音量レベル”は“アサインモード”（☞127 ページ）の設定が“ZONE2”のときに表示します。
ファームウェア	**バージョン**：現在のファームウェアの状況を表示します。

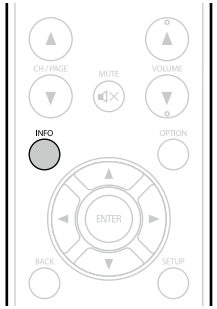
INFO を押すと、現在のソース名、音量およびサウンドモード名などを画面下側に表示します。

画面表示の例

• 状態表示画面

入力ソース切り替え時

音量調節時



状態表示：入力ソースの切り替えや音量調節時に、一時的に操作の状態を表示します。

ご注意

コンピューター解像度（例：VGA）の映像または一部の 3D ビデオコンテンツの再生中は、状態表示画面を表示できません。

ファームウェア

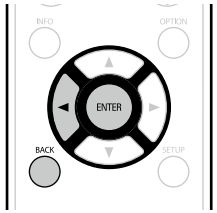
お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

ファームウェアの最新アップデート情報の確認や更新の実施、およびアップデートとアップグレードの通知メッセージを表示するかしないかの設定をします。

設定項目	設定内容
アップデート ファームウェアをアップデートします。 ご注意 ファームウェアのアップデートをおこなったあと、ネットワークに接続できない場合は、“ネットワーク”（☞130 ページ）の設定でネットワークに接続し直してください。	**アップデートの確認**：ファームアップウェアが最新かどうかの確認ができます。また、アップデートする場合のおよそのアップデート時間を確認できます。 **アップデート開始**：アップデートを実行します。 アップデートを開始すると、電源表示が赤色に点灯し、メニュー画面はシャットダウンします。 アップデート中は、ディスプレイに経過時間を表示します。 • アップデートに失敗しても、本機は自動的にアップデートを再試行します。それでもアップデートできない場合は、下記のいずれかのメッセージをディスプレイに表示します。このような場合は、設定やネットワーク環境の確認をおこなった上で、再度アップデートしてください。

ディスプレイ表示	説　明
Updating fail	アップデートに失敗しました。
Login failed	サーバーへのログインに失敗しました。
Server is busy	サーバーが混雑しています。しばらく時間をおいてから、やり直してください。
Connection fail	サーバーへの接続に失敗しました。
Download fail	ファームウェアのダウンロードに失敗しました。

設定項目	設定内容
お知らせ POPUP “アップデート”で最新のファームウェアがリリースされている場合に、本機のメニュー画面に通知メッセージを表示します。 “新機能の追加”でダウンロード可能なファームウェアがリリースされている場合に、本機のメニュー画面に通知メッセージを表示します。	**アップデート**：通知メッセージは、電源オン時に約 20 秒間表示します。この機能をご使用になるときは、インターネットブロードバンドに接続してください（☞30 ページ）。 • **オン**：アップデートの通知を表示します。 • **オフ**：アップデートの通知を表示しません。 • 通知メッセージが表示されている間に **ENTER** を押すと、“アップデートの確認”画面が表示されます。（“アップデート”の詳細は、138 ページをご覧ください。） • 通知メッセージを閉じるには、◁ または **BACK** を押してください。 **アップグレード**：通知メッセージは、電源オン時に約 20 秒間表示します。この機能をご使用になるときは、インターネットブロードバンドに接続してください（☞30 ページ）。 • **オン**：アップグレードの通知を表示します。 • **オフ**：アップグレードの通知を表示しません。 • 通知メッセージが表示されている間に **ENTER** を押すと、“新機能の追加”画面が表示されます。（“新機能の追加”の詳細は、139 ページをご覧ください。） • 通知メッセージを閉じるには、◁ または **BACK** を押してください。



☞ 次のページへ

設定項目	設定内容
新機能の追加 本機にダウンロード可能な新機能を表示し、アップグレードします。 ご注意 新機能の追加をおこなったあと、ネットワークに接続できない場合は、“ネットワーク”（☞130 ページ）の設定でネットワークに接続し直してください。	**アップグレードパッケージ**：アップグレードする項目を表示します。 **アップグレードステータス**：アップグレードによって追加された機能の一覧を表示します。 **アップグレード開始**：アップグレードを実行します。 アップグレードを開始すると、電源表示が赤色に点灯し、メニュー画面をシャットダウンします。アップグレード中は、ディスプレイに経過時間を表示します。 • アップグレードができなかった場合は、ディスプレイに“ファームウェア”⇨“アップデート”（☞138 ページ）と同様のメッセージを表示します。この場合は、ネットワーク環境を確認し、再度アップデートしてください。 アップグレードをご利用になる場合の詳細については、当社ホームページをご覧ください。 お手続きが完了すると、このメニューに“登録完了”と表示され、アップグレードすることができます。お手続きされていない場合は、“-------”を表示します。 お手続きの際には、この画面に表示されている ID 番号が必要になります。 本体の **SOUND MODE** と **STATUS** を 3 秒以上長押しすると、ID 番号をディスプレイに表示させることができます。

“アップデート”および“新機能の追加”をおこなったときのご注意

- これらの機能を使用するためには、インターネットブロードバンドに接続できる環境と設定が必要です（☞30 ページ）。
- アップデートやアップグレードが終わるまで、絶対に電源を切らないでください。
- アップデートやアップグレードが完了するまでに、ブロードバンド接続でも 1 時間程度の時間がかかります。
- 一旦アップデートやアップグレードを開始すると、本機は完了するまで通常の操作ができなくなります。また、本機に設定したパラメーターなどのバックアップデータを初期化する場合があります。
- アップデートやアップグレード中に更新が失敗した場合は、本体の ⏻ **ON/STANDBY** を 5 秒以上長押しするか、電源コードを挿入し直してください。ディスプレイに“Update Retry”を表示し、失敗したところから更新を再開します。それでも失敗が続く場合は、ネットワークの環境を確認してください。

- “アップデート”および“新機能の追加”に関する情報は、当社ホームページなどで告知する予定です。
- “アップデート”や“新機能の追加”で利用可能な新しいファームウェアがリリースされるとメニュー画面に通知メッセージを表示します。表示させたくない場合は、“お知らせ POPUP”⇨“アップデート”（☞138 ページ）および“お知らせ POPUP”⇨“アップグレード”（☞138 ページ）を“オフ”に設定してください。

セットアップロック

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

設定した内容を変更できないようにロックします。

設定項目	設定内容
セットアップロック	**オン**：設定した内容をロックします。 **オフ**：設定した内容をロックしません。 設定を解除するときは、“セットアップロック”を“オフ”に設定してください。 ご注意 “セットアップロック”を“オン”に設定すると、次の設定が変更できなくなります。また、次の設定に関連するボタンを操作すると、ディスプレイに“Setup Lock!”を表示します。 • セットアップメニュー操作

情報編

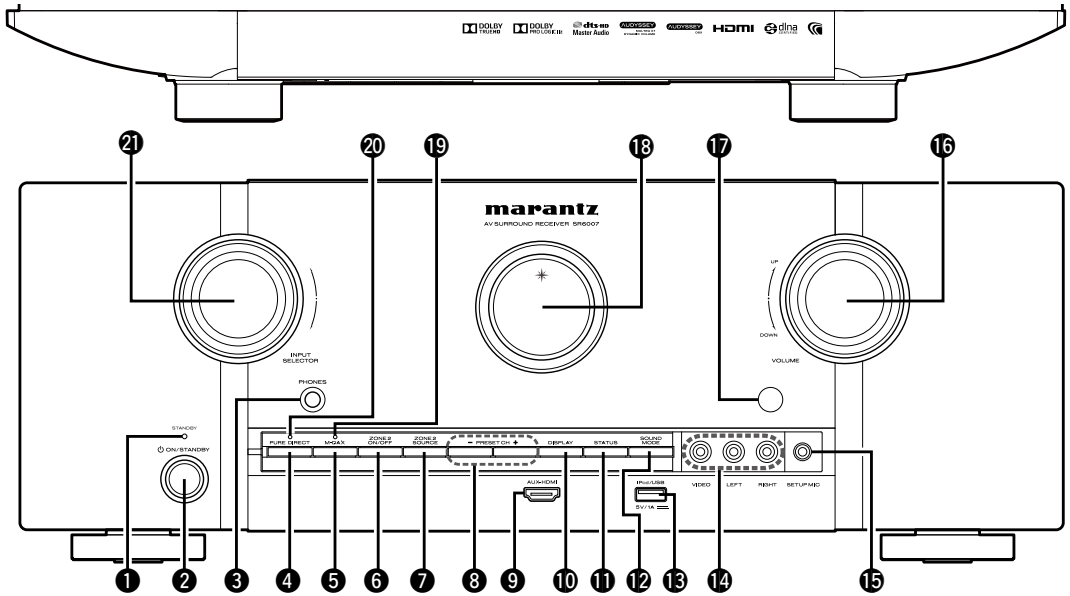
ここでは本機に関するさまざまな情報を記載しています。
必要に応じてご覧ください。

- 各部の名前 ☞141 ページ
- その他の情報 ☞146 ページ
- 故障かな？と思ったら ☞158 ページ
- 保証と修理について ☞163 ページ
- 主な仕様 ☞164 ページ
- 索引 ☞165 ページ

各部の名前

フロントパネル

各部のはたらきなど詳しい説明については、( )内のページをご覧ください。



❶ 電源表示 …… (40)

【電源表示の状態について】
- 電源オン：消灯
- 通常のスタンバイ時：赤色
- “HDMI コントロール”（☞119 ページ）の設定が“オン”のとき：オレンジ色
- “IP コントロール”（☞131 ページ）の設定が“常時オン”のとき：オレンジ色

❷ 電源ボタン（⏻ ON STANDBY） …… (40)
本機の電源をオン / スタンバイに切り替えます。

❸ ヘッドホン端子（PHONES）
ヘッドホンのプラグを差し込むと、スピーカーおよびプリアウト端子から音が出なくなります。

ご注意
ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

❹ ピュアダイレクトボタン（PURE DIRECT） …… (73)

❺ M-DAXボタン …… (113)

❻ ゾーン2用電源ボタン（ZONE2 ON/OFF） …… (104)

❼ ゾーン2用入力ソース切り替えボタン（ZONE2 SOURCE） …… (104)

❽ チューニングプリセットボタン（PRESET CH +, -） …… (53)

❾ AUX-HDMI入力端子 …… (13)

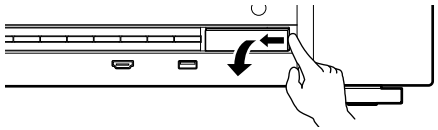
❿ ディスプレイボタン（DISPLAY） …… (136)

⓫ ステータスボタン（STATUS） …… (44、58、62、137)

⓬ サウンドモードボタン（SOUND MODE） …… (72)

⓭ iPod/USB端子 …… (23)

⓮ AUX1入力端子（AUX1 INPUT） …… (21)
AUX1 入力端子をお使いになるときは、カバーを取り外してください。



⓯ セットアップマイク端子（SETUP MIC） …… (34、92)

⓰ 主音量調節つまみ（VOLUME） …… (41、103)

⓱ リモコン受光部 …… (145)

⓲ ディスプレイ …… (142)

⓳ M-DAX表示 …… (113)

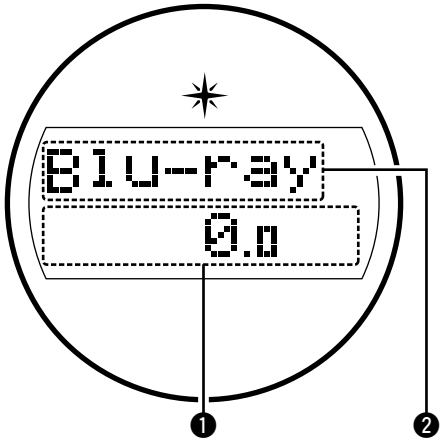
⓴ ピュアダイレクト表示（PURE DIRECT） …… (73)

㉑ 入力ソース切り替えつまみ（INPUT SELECTOR） …… (40)

ディスプレイ

入力ソース名、サウンドモード、設定値など、さまざまな情報を表示します。

❑通常表示



❶ **主音量表示**

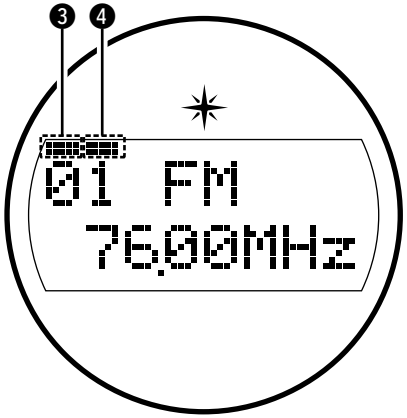
❷ **入力ソース表示**

現在選択されている入力ソース名を表示します。

メニューの“入力ソース名の変更”（☞124 ページ）で入力ソース名を変更した場合は、変更後の入力ソース名を表示します。

❑チューナー表示

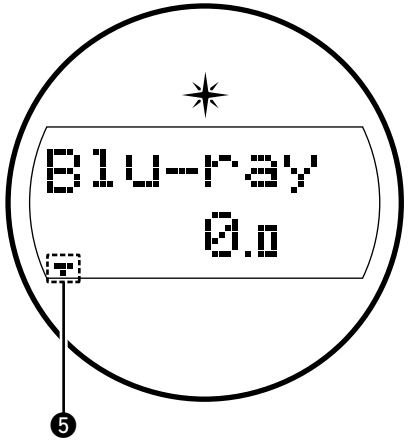
入力ソースが“FM”のとき、放送局の受信状態により点灯します。



❸ 放送を受信したときに点灯します。

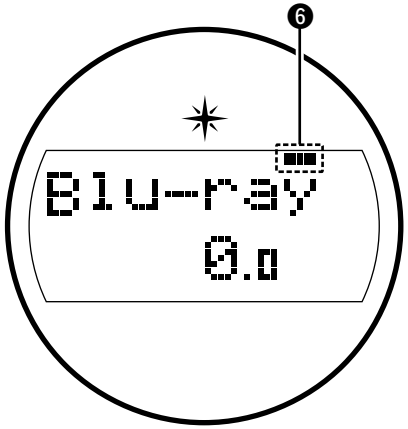
❹ FM モード時、ステレオ放送を受信したときに点灯します。

❑スリープタイマー表示



❺ スリープタイマーを設定しているときに点灯します（☞97 ページ）。

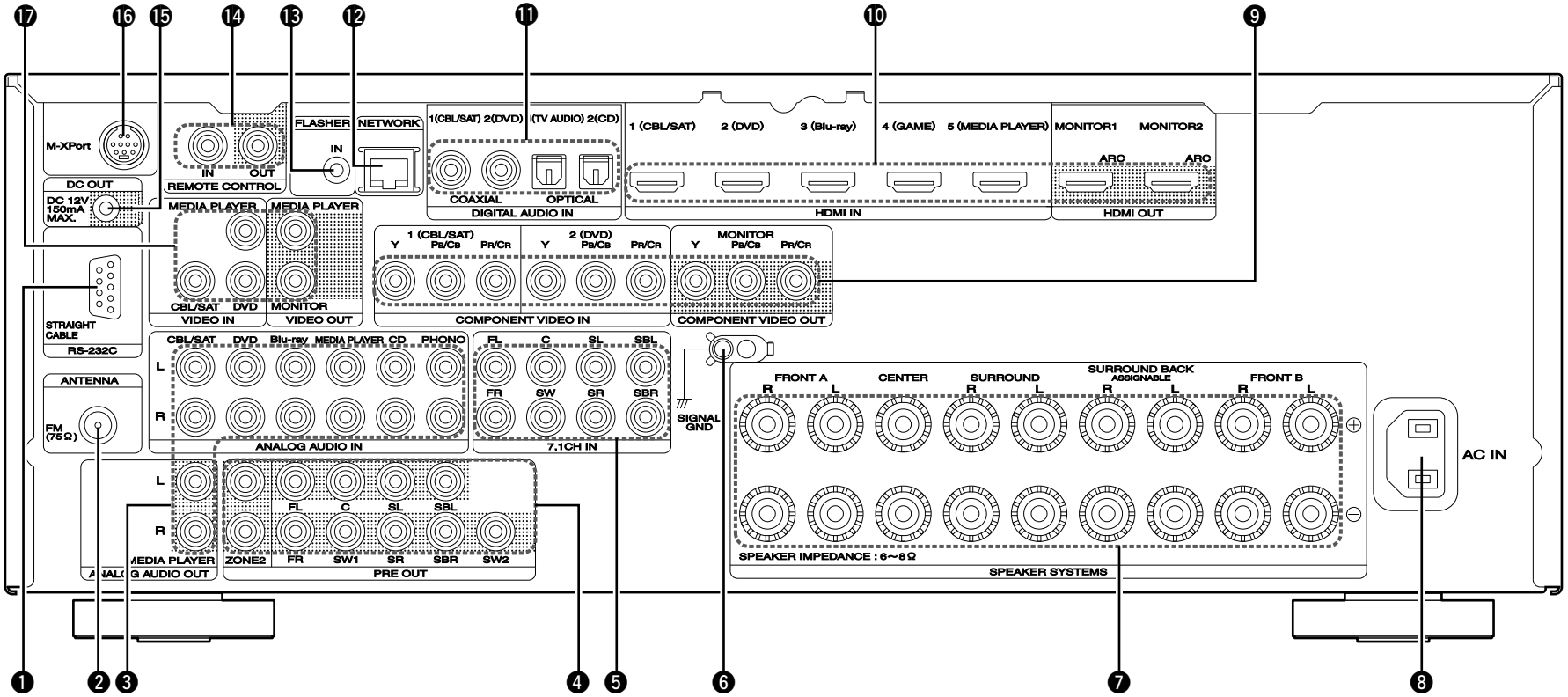
❑ゾーン 2 電源表示



❻ ゾーン 2（別の部屋）の電源が入っているときに点灯します（☞104 ページ）。

リアパネル

詳しい説明については、( )内のページをご覧ください。



❶ RS-232C端子 …… (95)

❷ FMアンテナ端子 (ANTENNA) …… (26)

❸ アナログ音声端子
(ANALOG AUDIO IN/ANALOG AUDIO OUT)
…… (18、19、20、22、24、25)

❹ プリアウト端子 (PRE OUT)
…… (29、84、85、86、87、88、89、90、91)

❺ 7.1チャンネル入力端子(7.1CH IN) …… (28)

❻ アース端子 (SIGNAL GND) …… (25)

❼ スピーカー端子 (SPEAKER SYSTEMS)
…… (84、85、86、87、88、89、90、91)

❽ ACインレット (AC IN) …… (31)

❾ コンポーネントビデオ端子(COMPONENT VIDEO)
…… (17、18、19、20、21、22)

❿ HDMI端子 …… (12、13)

⓫ デジタル音声端子 (DIGITAL AUDIO IN)
…… (17、18、19、20、21、22、24)

⓬ ネットワーク端子 (NETWORK) …… (30)

⓭ FLASHER IN端子
コントロール BOX やその他のコントロール機器を使用して、本機をコントロールするときに使用します。

⓮ リモートコントロール端子
(REMOTE CONTROL) …… (94)

⓯ DC OUT端子 …… (95)

⓰ M-XPort端子 …… (27)

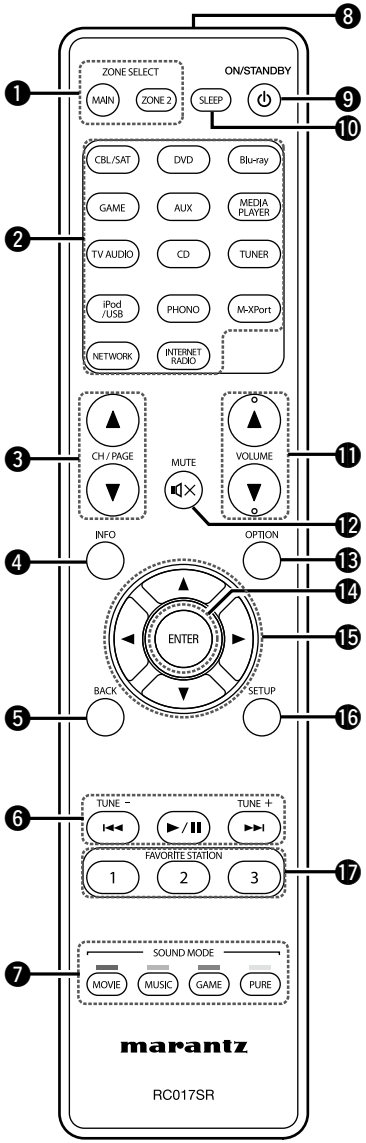
⓱ ビデオ端子 (VIDEO IN/VIDEO OUT)
…… (17、18、19、22)

ご注意

端子内部のピンには絶対に触れないでください。静電気を引き起こし、故障の原因になることがあります。

リモコン

各部のはたらきなど詳しい説明については、( )内のページをご覧ください。



❶ ゾーン選択ボタン (MAIN, ZONE2) ……(33、92)

❷ 入力ソース選択ボタン ……(40、103)

❸ チャンネル選択/ページ検索ボタン (CH/PAGE ▲▼) ……(45、48、56、59、63、65)

❹ インフォメーションボタン (INFO)……(137)

❺ バックボタン(BACK) ……(47、58、62、64)

❻ システムボタン……(45、48、63)
- スキップボタン (⏮、⏭)
- プレイ / ポーズボタン (▶/⏸)

選局ボタン(TUNE +, –) ……(49、50)

❼ サウンドモードボタン (SOUND MODE)……(72)
- ムービーボタン(MOVIE)
- ミュージックボタン(MUSIC)
- ゲームボタン(GAME)
- ピュアダイレクトボタン(PURE)

❽ リモコン信号送信窓……(145)

❾ 電源操作ボタン (ON/STANDBY ⏻)……(40)

❿ スリープタイマーボタン (SLEEP) ……(72)

⓫ 音量調節ボタン(VOLUME ▲▼) ……(41)

⓬ ミュートボタン(MUTE 🔇)……(41)

⓭ オプションボタン(OPTION) ……(43、47、49、58、63、64)

⓮ エンターボタン(ENTER) (108、110、117、122、126、130、134)

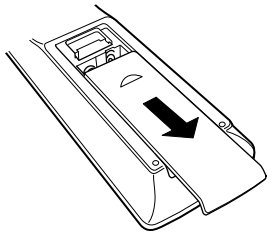
⓯ カーソルボタン(△▽◁ ▷) (108、110、117、122、126、130、134)

⓰ セットアップボタン(SETUP) ……(110、117、122、126、130、134)

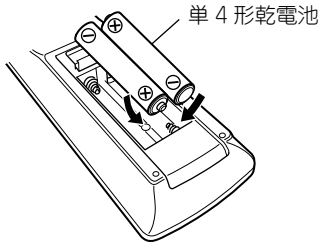
⓱ お気に入り登録ボタン (FAVORITE STATION 1～3)……(68)

乾電池の入れかた

① 裏ぶたを矢印の方向へ押し下げて取り外す。



② 乾電池(2 本)を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。



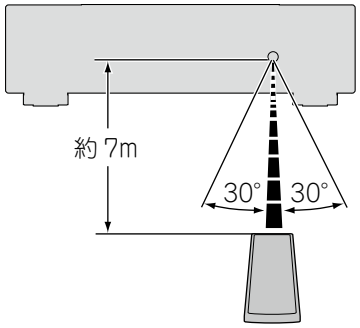
③ 裏ぶたを元どおりにする。

ご注意

- リモコンには単 4 形乾電池をご使用ください。
- リモコンを本機の近くで操作しても本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。(付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。)
- 乾電池は、リモコンの乾電池収納部の表示どおりに ⊕ 側・⊖ 側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用済みの乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入させたりしないでください。
  - 電池を直射日光のあたるところや暖房器具の近くなど高温になるところに置かないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 不要になった乾電池を廃棄するときは、お住まいの地域の条例に従って処理をしてください。
- 充電式電池をお使いの場合、正しく動作しない場合があります。

リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けてご使用ください。



ご注意

- リモコン受光部に、直射日光やインバーター式蛍光灯の強い光または赤外線があたると、誤動作をしたり、リモコンが操作できなくなったりする場合があります。
- 3D 映像機器を構成している各ユニット(モニター、3D 視聴用メガネ、3D 信号伝送ユニットなど)間の信号の伝送を無線通信(赤外線通信など)でおこなっている 3D 映像機器をお使いの場合、その無線通信の影響によって本機のリモコンが効かなくなることがあります。そのときは 3D 通信の各ユニットの向きと距離を調節して、本機のリモコンの動作に影響がないことを確認してください。

リモコンを使用するゾーンを設定する

誤動作防止のためにこの設定をすると、メインゾーンの操作のみリモコンでできるようになります。ゾーン 2 を使用しない場合などに便利です。

ZONE2 と SETUP を 3 秒以上長押しする。
MAIN と **ZONE2** が点滅します。

❏設定を解除するとき

ZONE2 と SETUP を 3 秒以上長押しする。
MAIN と **ZONE2** が点滅します。

- 登録商標について（☞146 ページ）
- サラウンド（☞147 ページ）
- 映像信号とモニター出力の関係（☞153 ページ）
- 用語の解説（☞155 ページ）

登録商標について

本製品は、次の技術を採用しています。（順不同）

AUDYSSEY MULTEQ XT DYNAMIC VOLUME　AUDYSSEY DSX

本機は、Audyssey Laboratories™ からのライセンス契約に基づき製造されています。米国共同で外国特許審議中。Audyssey MultEQ® XT、Audyssey Dynamic EQ®、Audyssey Dynamic Volume® および Audyssey DSX® は、Audyssey Laboratories の登録商標です

DOLBY TRUEHD　DOLBY PRO LOGIC IIz

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

dts-HD Master Audio

本機は DTS, Inc. からのライセンス契約に基づき製造されています。米国特許第 5,956,674 号、5,974,380 号、6,226,616 号、6,487,535 号、7,212,872 号、7,333,929 号、7,392,195 号、7,272,567 号その他、米国内および国外特許もしくは特許出願物。DTS-HD のロゴ、シンボル、DTS-HD は、DTS, Inc. の商標です。DTS, Inc. 製品にはソフトウェアが含まれています。© DTS, Inc. 版権所有。

HDMI

HDMI、HDMI ロゴおよび High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LCC の商標または登録商標です。

Made for iPod iPhone　AirPlay

"Made for iPod" and "Made for iPhone" mean that an electronic accessory has been designed to connect specifically to iPod, or iPhone, respectively, and has been certified by the developer to meet Apple performance standards.
Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards. Please note that the use of this accessory with iPod, or iPhone, may affect wireless performance.
AirPlay, the AirPlay logo, iPad, iPhone, iPod, iPod classic, iPod nano, iPod shuffle and iPod touch are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.

- iPhone、iPod、iPod classic、iPod nano、iPod shuffle および iPod touch は、著作権のないコンテンツまたは法的に複製、再生を許諾されたコンテンツを個人が私的に複製、再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。

Plays Windows Media™

Windows Media and the Windows logo are trademarks or registered trademarks of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries.

サラウンド

本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

サウンドモードとパラメーター一覧表

この表は、各サウンドモードのときに再生できるスピーカーと、各サウンドモードのときに調節できるサラウンドパラメーターを示したものです。

表の中の記号について

○ 音声を出力するチャンネル、または設定できるサラウンドパラメーターを示します。
◎ 音声を出力するチャンネルを示します。ただし、メニューの"スピーカー構成"（☞127 ページ）の設定により出力するチャンネルが異なります。

サウンドモード（☞72 ページ）	チャンネル出力							サラウンドパラメーター（☞111 ページ）	
	フロント 左 / 右	センター	サラウンド 左 / 右	サラウンド バック 左 / 右	フロント ハイト 左 / 右	フロント ワイド 左 / 右	サブウーハー	ホームシアターEQ *2（☞111 ページ）	ラウドネス マネージメント *3（☞111 ページ）
DIRECT/PURE DIRECT（2 チャンネル）*1	○						◎*4		○
DIRECT/PURE DIRECT（マルチチャンネル）*1	○	◎	◎	◎*5	◎*5	◎*5	◎		○
DSD DIRECT（2 チャンネル）*1	○						◎*4		○
DSD DIRECT（マルチチャンネル）*1	○	◎	◎	◎*5	◎*5	◎*5	◎		○
STEREO	○						◎		○
MULTI CH IN	○	◎	◎	◎	◎*6		◎	○*7	
DOLBY PRO LOGIC IIz	○	◎	◎		◎		◎	○	○
DOLBY PRO LOGIC IIx	○	◎	◎	◎			◎	○*8	○
DOLBY PRO LOGIC II	○	◎	◎				◎	○*9	○
DOLBY PRO LOGIC	○	◎	◎				◎	○*9	○
DOLBY PRO LOGIC II A-DSX	○	◎	◎		◎*10	◎*11	◎	○*9	○
DOLBY PRO LOGIC A-DSX	○	◎	◎		◎*10	◎*11	◎	○*9	○
DTS NEO:6	○	◎	◎	◎			◎	○*8	○
DTS NEO:6 A-DSX	○	◎	◎		◎*10	◎*11	◎	○*8	○
Audyssey DSX®	○	◎	◎		◎*10	◎*11	◎	○	○
DOLBY DIGITAL	○	◎	◎	◎	◎*6		◎	○*7	
DOLBY DIGITAL Plus	○	◎	◎	◎	◎*6		◎	○*7	
DOLBY TrueHD	○	◎	◎	◎	◎*6		◎	○*7	○
DTS SURROUND	○	◎	◎	◎	◎*6		◎	○*7	
DTS 96/24	○	◎	◎	◎	◎*6		◎	○*7	
DTS-HD	○	◎	◎	◎	◎*6		◎	○*7	
DTS Express	○	◎	◎	◎	◎*6		◎	○*7	
MULTI CH STEREO	○	◎	◎	◎*12	◎*13	◎*14	◎		○
VIRTUAL	○						◎		○

*1 PURE DIRECT モードで再生中、サラウンドパラメーターは DIRECT モードと同様になります。
*2 この項目は、DSD(SA-CD) 信号再生時には選択できません。
*3 この項目は、Dolby TrueHD 信号を再生時に選択できます。
*4 メニューの"サブウーハーモード"（☞128 ページ）の設定が、"LFE+メイン"のときに、サブウーハーから音声を出力します。
*5 各チャンネルの入力信号が含まれる場合に音声を出力します。
*6 設定しているサウンドモード名に"+PLIIz"が含まれているときに、フロントハイトスピーカーから音声を出力します。サウンドモードの確認のしかたは、72 ページをご覧ください。
*7 設定しているサウンドモード名に"+PLIIx Music"が含まれているときは、この設定はできません。サウンドモードの確認のしかたは、72 ページをご覧ください。
*8 サウンドモードが"PLIIx Movie"または"DTS NEO:6 Cinema"のときに設定できます。
*9 サウンドモードが"PLIIx Movie"または"Pro Logic"のときに設定できます。
*10 メニューの"アサインモード"（☞127 ページ）の設定が"Front Height"で、"Audyssey DSX®"（☞115 ページ）の設定が"オン"のときに、フロントハイトスピーカーから音声を出力します。
*11 メニューの"アサインモード"（☞127 ページ）の設定が"Front Wide"で、"Audyssey DSX®"（☞115 ページ）の設定が"オン"のときに、フロントワイドスピーカーから音声を出力します。
*12 メニューの"アサインモード"（☞127 ページ）の設定が"Surround Back"のときに、サラウンドバックスピーカーから音声を出力します。
*13 メニューの"アサインモード"（☞127 ページ）の設定が"Front Height"のときに、フロントハイトスピーカーから音声を出力します。
*14 メニューの"アサインモード"（☞127 ページ）の設定が"Front Wide"のときに、フロントワイドスピーカーから音声を出力します。

サウンドモード (☞72 ページ)	サラウンドパラメーター (☞111 ページ)						
	ダイナミックレンジ圧縮 ＊15 (☞111 ページ)	LFE ＊16 (☞111 ページ)	Height ゲイン ＊17 (☞112 ページ)	PRO LOGIC II/IIx Music モードのみ			NEO:6 Music モードのみ
				パノラマ (☞111 ページ)	ディメンション (☞111 ページ)	センター幅 (☞111 ページ)	センターイメージ (☞111 ページ)
DIRECT/PURE DIRECT(2 チャンネル)＊1	○						
DIRECT/PURE DIRECT (マルチチャンネル)＊1	○	○					
DSD DIRECT(2 チャンネル)＊1	○						
DSD DIRECT(マルチチャンネル)＊1	○	○					
STEREO	○	○					
MULTI CH IN		○	○				
DOLBY PRO LOGIC IIz	○		○				
DOLBY PRO LOGIC IIx	○			○	○	○	
DOLBY PRO LOGIC II	○			○	○	○	
DOLBY PRO LOGIC	○						
DOLBY PRO LOGIC II A-DSX	○			○	○	○	
DOLBY PRO LOGIC A-DSX	○			○	○	○	
DTS NEO:6	○						○
DTS NEO:6 A-DSX	○						○
Audyssey DSX®	○	○					
DOLBY DIGITAL	○	○	○				
DOLBY DIGITAL Plus	○	○	○				
DOLBY TrueHD	○	○	○				
DTS SURROUND	○	○	○				
DTS 96/24		○	○				
DTS-HD		○	○				
DTS Express		○	○				
MULTI CH STEREO	○	○					
VIRTUAL	○	○					

＊1 PURE DIRECT モードで再生中、サラウンドパラメーターは DIRECT モードと同様になります。
＊15 Dolby Digital または DTS 信号を再生時に選択できます。
＊16 この項目は、Dolby Digital、DTS または DVD オーディオを再生時に選択できます。
＊17 設定しているサウンドモード名に"+PLIIz"が含まれているときに設定できます。サウンドモードの確認のしかたについては、72 ページをご覧ください。

サウンドモード (☞72 ページ)	サブウーハー (☞113 ページ)	トーンコントロール *18 (☞112 ページ)	Audyssey (☞114 ページ)				M-DAX *21 (☞113 ページ)
			MultEQ® XT *19 (☞114 ページ)	Dynamic EQ *20 (☞115 ページ)	Dynamic Volume *20 (☞115 ページ)	Audyssey DSX® *19 (☞115 ページ)	
DIRECT/PURE DIRECT(2 チャンネル)*1	○*5						
DIRECT/PURE DIRECT (マルチチャンネル)*1							
DSD DIRECT(2 チャンネル)*1	○*5						
DSD DIRECT(マルチチャンネル)*1							
STEREO		○	○	○	○		○
MULTI CH IN	○	○	○	○	○	○	
DOLBY PRO LOGIC IIz	○	○	○	○	○		○
DOLBY PRO LOGIC IIx	○	○	○	○	○	○	○
DOLBY PRO LOGIC II	○	○	○	○	○	○	○
DOLBY PRO LOGIC	○	○	○	○	○	○	○
DOLBY PRO LOGIC II A-DSX	○	○	○	○	○	○	○
DOLBY PRO LOGIC A-DSX	○	○	○	○	○	○	○
DTS NEO:6	○	○	○	○	○	○	○
DTS NEO:6 A-DSX	○	○	○	○	○	○	○
Audyssey DSX®	○	○	○	○	○	○	
DOLBY DIGITAL	○	○	○	○	○	○	
DOLBY DIGITAL Plus	○	○	○	○	○	○	
DOLBY TrueHD	○	○	○	○	○	○	
DTS SURROUND	○	○	○	○	○	○	
DTS 96/24	○	○	○	○	○	○	
DTS-HD	○	○	○	○	○	○	
DTS Express	○	○	○	○	○	○	
MULTI CH STEREO	○	○	○	○	○		○
VIRTUAL	○	○	○	○	○		○

*1 PURE DIRECT モードで再生中、サラウンドパラメーターは DIRECT モードと同様になります。
*5 メニューの“サブウーハーモード”(☞128 ページ) の設定が、“LFE+メイン”のときに、サブウーハーから音声を出力します。
*18 メニューの“Dynamic EQ”(☞115 ページ) の設定が“オン”のときは、この項目を設定できません。
*19 入力信号のサンプリング周波数が 96kHz を超過する HD Audio の場合、このサラウンドパラメーターを設定できません。
*20 メニューの“MultEQ® XT”(☞114 ページ) の設定が“オフ”または“グラフィック EQ”のとき、この項目を設定できません。
*21 この項目は、入力信号がアナログ、PCM 48kHz または 44.1kHz のときに設定できます。

❑入力信号の種類と対応するサウンドモード

この表は、各サウンドモードのときに再生できる入力信号を示したものです。入力するソースの音声信号をご確認の上、サウンドモードを選んでください。

表の中の記号について

● お買い上げ時に設定されているサウンドモードを示します。
○ 選択できるサウンドモードを示します。

サウンドモード (☞72 ページ)	ご注意	入力信号の種類とフォーマット																	
			PCM		DTS-HD		DTS					DOLBY		DOLBY DIGITAL				Super Audio CD	
		ANALOG	PCM (マルチチャンネル)	PCM (2 チャンネル)	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS EXPRESS	DTS ES DSCRT (フラグあり)	DTS ES MTRX (フラグあり)	DTS (5.1 チャンネル)	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX (フラグあり)	DOLBY DIGITAL EX (フラグなし)	DOLBY DIGITAL (5.1 チャンネル)	DOLBY DIGITAL (2 チャンネル)	DSD (マルチチャンネル)	DSD (2 チャンネル)
DTS SURROUND																			
DTS-HD MSTR	＊1				●														
DTS-HD HI RES	＊1					●													
DTS ES DSCRT6.1	＊2＊3							●											
DTS ES MTRX6.1	＊2＊3								●										
DTS SURROUND	＊1							○	○	●									
DTS 96/24	＊1										●								
DTS (–HD) + PLIIx MOVIE	＊2＊4				○	○	○			○	○								
DTS (–HD) + PLIIx MUSIC	＊2＊3				○	○	○			○	○								
DTS (–HD) + PLIIz	＊5＊6				○	○	○	○	○	○	○								
DTS EXPRESS	＊1						●												
DTS (–HD) + NEO:6	＊2＊3				○	○	○			○	○								
DTS NEO:6 CINEMA	＊1	○		○													○		○
DTS NEO:6 MUSIC	＊1	○		○													○		○
DTS NEO:6 CINEMA A-DSX		○		○													○		
DTS NEO:6 MUSIC A-DSX		○		○													○		
Audyssey DSX®					○	○	○	○	○	○	○								

＊1 "Audyssey DSX®" (☞115 ページ) の設定が"オン"の場合は、＊1 が付いているサウンドモードに Audyssey DSX® の効果が加わります。
＊2 このサウンドモードは、"アサインモード"(☞127 ページ)の設定が"Surround Back"のときに選べます。
＊3 このサウンドモードは、メニューの"スピーカー構成"⇨"S. バック"(☞127 ページ)の設定が"無し"のときは選べません。
＊4 このサウンドモードは、メニューの"スピーカー構成"⇨"S. バック"(☞127 ページ)の設定が"1 台"または"無し"のときは選べません。
＊5 このサウンドモードは、メニューの"スピーカー構成"⇨"フロントハイト"(☞128 ページ)の設定が"無し"のときは選べません。
＊6 このサウンドモードは、"アサインモード"(☞127 ページ)の設定が"Front Height"のときに選べます。

サウンドモード（☞72 ページ）	ご注意	入力信号の種類とフォーマット																	
		ANALOG	PCM		DTS-HD		DTS					DOLBY		DOLBY DIGITAL				Super Audio CD	
			PCM（マルチチャンネル）	PCM（2 チャンネル）	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS EXPRESS	DTS ES DSCRT（フラグあり）	DTS ES MTRX（フラグあり）	DTS（5.1 チャンネル）	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX（フラグあり）	DOLBY DIGITAL EX（フラグなし）	DOLBY DIGITAL（5.1 チャンネル）	DOLBY DIGITAL（2 チャンネル）	DSD（マルチチャンネル）	DSD（2 チャンネル）
DOLBY SURROUND																			
DOLBY TrueHD	＊1											●							
DOLBY DIGITAL+	＊1												●						
DOLBY DIGITAL EX	＊2＊3													○	○	○			
DOLBY (D+) (HD) +EX	＊2＊3											○	○						
DOLBY DIGITAL	＊1													●	●	●			
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLIIx MOVIE	＊2＊4											○	○	○	○	○			
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLIIx MUSIC	＊2＊3											○	○	○	○	○			
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLIIz	＊5											○	○	○	○	○			
DOLBY PRO LOGIC IIx MOVIE	＊2＊3	○		○													○		○
DOLBY PRO LOGIC IIx MUSIC	＊2＊3	○		○													○		○
DOLBY PRO LOGIC IIx GAME	＊2＊3	○		○													○		○
DOLBY PRO LOGIC IIz	＊5＊6	○		○													○		○
DOLBY PRO LOGIC II MOVIE	＊1	○		○													○		○
DOLBY PRO LOGIC II MUSIC	＊1	○		○													○		○
DOLBY PRO LOGIC II GAME	＊1	○		○													○		○
DOLBY PRO LOGIC	＊1	○		○													○		○
DOLBY PRO LOGIC II MOVIE A-DSX		○		○													○		
DOLBY PRO LOGIC II MUSIC A-DSX		○		○													○		
DOLBY PRO LOGIC II GAME A-DSX		○		○													○		
DOLBY PRO LOGIC A-DSX		○		○													○		
Audyssey DSX®												○	○	○	○	○			

＊1　"Audyssey DSX®"（☞115 ページ）の設定が"オン"の場合は、＊1 が付いているサウンドモードに Audyssey DSX® の効果が加わります。
＊2　このサウンドモードは、"アサインモード"（☞127 ページ）の設定が"Surround Back"のときに選べます。
＊3　このサウンドモードは、メニューの"スピーカー構成"⇨"S. バック"（☞127 ページ）の設定が"無し"のときは選べません。
＊4　このサウンドモードは、メニューの"スピーカー構成"⇨"S. バック"（☞127 ページ）の設定が"1 台"または"無し"のときは選べません。
＊5　このサウンドモードは、メニューの"スピーカー構成"⇨"フロントハイト"（☞128 ページ）の設定が"無し"のときは選べません。
＊6　このサウンドモードは、"アサインモード"（☞127 ページ）の設定が"Front Height"のときに選べます。

サウンドモード (☞72 ページ)	ご注意	入力信号の種類とフォーマット																	
		ANALOG	PCM		DTS-HD		DTS					DOLBY		DOLBY DIGITAL				Super Audio CD	
			PCM (マルチチャンネル)	PCM (2 チャンネル)	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS EXPRESS	DTS ES DSCRT (フラグあり)	DTS ES MTRX (フラグあり)	DTS (5.1 チャンネル)	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX (フラグあり)	DOLBY DIGITAL EX (フラグなし)	DOLBY DIGITAL (5.1 チャンネル)	DOLBY DIGITAL (2 チャンネル)	DSD (マルチチャンネル)	DSD (2 チャンネル)
MULTI CH IN																			
MULTI CH IN	＊1		●															○	
MULTI CH IN + PLIIx MOVIE	＊2＊4		○															○	
MULTI CH IN + PLIIx MUSIC	＊2＊3		○															○	
MULTI CH IN + PLIIz	＊5＊6		○															○	
MULTI CH IN + Dolby EX	＊2＊3		○															○	
MULTI CH IN 7.1	＊2＊3		● (7.1)																
Audyssey DSX®			○																
DIRECT																			
DIRECT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
DSD DIRECT																		○	○
PURE DIRECT																			
PURE DIRECT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
DSP SIMULATION																			
MULTI CH STEREO		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
VIRTUAL		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
STEREO																			
STEREO		●	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

＊1 “Audyssey DSX®” (☞115 ページ) の設定が“オン”の場合は、＊1 が付いているサウンドモードに Audyssey DSX® の効果が加わります。
＊2 このサウンドモードは、“アサインモード”(☞127 ページ)の設定が“Surround Back”のときに選べます。
＊3 このサウンドモードは、メニューの“スピーカー構成”⇨“S. バック”(☞127 ページ)の設定が“無し”のときは選べません。
＊4 このサウンドモードは、メニューの“スピーカー構成”⇨“S. バック”(☞127 ページ)の設定が“1 台”または“無し”のときは選べません。
＊5 このサウンドモードは、メニューの“スピーカー構成”⇨“フロントハイト”(☞128 ページ)の設定が“無し”のときは選べません。
＊6 このサウンドモードは、“アサインモード”(☞127 ページ)の設定が“Front Height”のときに選べます。

映像信号とモニター出力の関係

メインゾーンのモニター出力									
“ビデオコンバージョン”の設定（☞119 ページ）	入力端子			出力端子			メニュー表示		
	HDMI	COMPONENT	VIDEO	HDMI	COMPONENT	VIDEO	HDMI	COMPONENT	VIDEO
オン	×	×	×	×	×	×	メニュー表示のみ	×	×
オン	×	×	○	○ <VIDEO>		○ <VIDEO>	○ (VIDEO)		× (VIDEO)
オン	×	○	×	○ <COMPONENT>	○ <COMPONENT>	×	○ (COMPONENT)	× (COMPONENT)	×
オン	×	○	○			○ <VIDEO>			× (VIDEO)
オン	○	×	×	○ <HDMI>	×	×	○ (HDMI)	×	×
オン	○	×	○			○ <VIDEO>			× (VIDEO)
オン	○	○	×		○ <COMPONENT>	×		× (COMPONENT)	×
オン	○	○	○			○ <VIDEO>			× (VIDEO)
オフ	×	×	×	×	×	×	メニュー表示のみ	×	×
オフ	×	×	○			○ <VIDEO>			× (VIDEO)
オフ	×	○	×		○ <COMPONENT>	×		× (COMPONENT)	×
オフ	×	○	○			○ <VIDEO>			× (VIDEO)
オフ	○	×	×	○ <HDMI>	×	×		×	×
オフ	○	×	○			○ <VIDEO>			× (VIDEO)
オフ	○	○	×		○ <COMPONENT>	×		× (COMPONENT)	×
オフ	○	○	○			○ <VIDEO>			× (VIDEO)

○　：映像入力あり
×　：映像入力なし

○ <>：< >の中の入力信号を出力します。
×　：映像出力なし

○ ( )：( ) 内の映像にスーパーインポーズ
× ( )：( )内の映像のみ出力
×　：映像またはメニューを出力します。

ビデオコンバージョン機能は、NTSC、PAL、SCAM、NTSC4.43、PAL-N、PAL-M および PAL-60 のフォーマットに準拠しています。

ご注意

- 本機は 3D ビデオコンテンツまたはコンピューター解像度（例：VGA）の映像を再生中は、状態表示画面を表示しません。
- 3D ビデオコンテンツまたはコンピューター解像度（例：VGA）の映像を再生中にメニューを操作すると、再生中の映像がメニュー画面に切り替わります。このとき、メニューの背景に再生映像を表示しません。

映像信号解像度変換表

メニューの“ビデオコンバージョン”（☞119 ページ）を“オン”、“i/p スケーラー”（☞120 ページ）を“アナログ”、“アナログ &HDMI”または“HDMI”に設定した場合は、入力された映像信号の解像度を別の解像度に変換して出力することができます（☞9 ページ「入力された映像信号を変換して出力する（ビデオコンバージョン機能）」）。
変換可能な映像信号の解像度と HDMI 出力解像度の関係は次の表のとおりです。

	出力解像度 / 入力解像度	HDMI 出力						
		480i/576i＊1	480p/576p	1080i	720p	1080p	1080p 24Hz	4K＊2
ビデオ入力	480i/576i	○	○	○	○	○	○	○
コンポーネントビデオ入力	480i/576i	○	○	○	○	○	○	○
	480p/576p	–	○	○	○	○	○	○
	1080i	–	–	○	○	○	○	○
	720p	–	–	○	○	○	○	○
	1080p	–	–	–	–	○	○	○
HDMI 入力	480i/576i	○	○	○	○	○	○	○
	480p/576p	–	○	○	○	○	○	○
	1080i	–	–	○	○	○	○	○
	720p	–	–	○	○	○	○	○
	1080p 24Hz	–	–	–	–	○＊3	○＊4	○
	1080p	–	–	–	–	○	○	○
	4K	–	–	–	–	–	–	○＊5

○　メニューの“解像度”（☞120 ページ）で設定された解像度で出力します。
–　入力された映像信号の解像度と同じ解像度で出力します。
＊1　メニューの“i/p スケーラー”（☞120 ページ）の設定が“オフ”のときのみ出力します。
＊2　3840 × 2160 ピクセル（24/25/30Hz）の解像度で出力します。
＊3　メニューの“解像度”（☞120 ページ）を“オート”に設定し、1080p 24Hz の映像信号に対応していないテレビを接続している場合。
＊4　メニューの“解像度”（☞120 ページ）を“オート”に設定し、1080p 24Hz の映像信号に対応しているテレビを接続している場合。
＊5　入力された映像信号の解像度と同じ解像度で出力します。

ご注意

- ビデオおよびコンポーネントビデオ出力信号には、入力された映像信号の解像度と同じ解像度で出力します。
- HDMI に入力される 4K ビデオ信号、3D ビデオ信号、コンピューター解像度、“ x.v.Color”、sYCC601 color、Adobe RGB color および Adobe YCC601 color の映像信号は、入力された映像信号の解像度と同じ解像度で出力します。
- メニューの“ビデオモード”（☞119 ページ）を“ゲーム”に設定している場合、または“オート”に設定しゲームコンテンツを再生している場合は、入力された映像信号の解像度と同じ解像度で出力します。
- メニューの“解像度”（☞120 ページ）を“オート”に設定している場合、HDMI 出力端子に接続しているテレビのパネル画素数を自動的に検出し、上の表に従い適切な解像度で出力します。
- HDMI 端子から入力された 1080p 24Hz の信号を 1080p 60Hz/1080p 50Hz に変換して出力した場合は、メニューの“TV フォーマット”（☞121 ページ）の設定に従って出力します。
  “NTSC”の場合 – 1080p 60Hz で出力します。
  “PAL”の場合 – 1080p 50Hz で出力します。
- 50Hz の HDMI 入力信号を 60Hz、または 60Hz の HDMI 入力信号を 50Hz に変換できません。
- 24Hz の HDMI 入力信号を 50Hz に変換できません。

A

A2DP 規格
A2DP は、ケーブルの代わりに無線通信を使用する Bluetooth の車載機器向けや AV 機器向けに定められたプロファイルの 1 つです。

Adobe RGB color、Adobe YCC601 color
Adobe システムズ社が定義した色空間（カラースペース）のことです。従来の RGB よりも広い色空間を持っているため、より鮮明で自然な映像を表現することができます。

AirPlay
iTunes または iPhone/iPod touch/iPad に収録されているコンテンツを、ネットワーク経由で対応する機器に転送（再生）する機能です。

ALAC (Apple Lossless Audio Codec)
Apple 社が開発した音声可逆圧縮方式のコーデックです。iTunes や iPod, iPhone で再生が可能です。約 60～70％に圧縮されたデータは完全に元通りのデータに再現できます。

App Store
アップル社が運営している iPhone や iPod touch 向けのアプリケーションソフトの販売サイトです。

Audyssey Dynamic EQ®
Audyssey Dynamic EQ® は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。
Audyssey Dynamic EQ® は、Audyssey MultEQ® XT 技術と連動することによりすべての音量レベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

Audyssey Dynamic Surround Expansion (A-DSX)
Audyssey DSX® は、既存の 5.1ch システムに新しいチャンネルを加えることによりサラウンド効果・印象を高め、より大きなサラウンド空間を実現する新しいサラウンド拡張技術です。
人間の聴覚特性の研究で、サラウンド効果を高める要素として大きく 2 つのポイントがあげられます。最も重要なポイントは臨場感のあるサラウンド空間の構成にはフロント（前方向）部分に横の広がり（ワイドチャンネル）を作ることです。次に重要なポイントとしてはサラウンド空間に奥行き感を作る為には認知（聴くことが）出来る音響信号でフロント（前方向）部分に高さの広がり（ハイトチャンネル）を作ることとされています。
Audyssey DSX® はこの２つの重要な要素からワイドチャンネル（Wide channel）、ハイトチャンネル（Height channel）それぞれペアで作り出します。また Audyssey DSX® は単純にチャンネルを追加するだけではなく、既存のフロントやサラウンド、サラウンドバックとの組み合わせることで更に効果を高める“Surround Envelopment Processing（サラウンド・エンベロープメント・プロセッシング）”という技術を開発し Audyssey DSX® の中に取り入れています。.

Audyssey Dynamic Volume®
Audyssey Dynamic Volume® は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内における音量レベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をユーザーの好みの音量設定値に自動的に調節する技術です。
ま た、Audyssey Dynamic Volume® は、Audyssey Dynamic EQ® の技術をアルゴリズムの中に取り込むことにより音量レベルの調節時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

Audyssey MultEQ® XT
Audyssey MultEQ® XT は、広いリスニングエリア内のどのリスナーにも最適なリスニング環境を提供する補正技術です。
Audyssey MultEQ® XT は、複数位置での測定に基づいて、時間特性と周波数特性の双方を補正すると共に、全自動でサラウンドシステムセットアップを実行します。

B

Bluetooth
携帯情報機器などで数 m 程度の機器間接続に使われる短距離無線通信技術の一つです。
ノートパソコンや PDA、携帯電話などをケーブルを使わずに接続し、音声やデータをやりとりすることができます。

D

Deep Color（ディープ・カラー）
HDMI がサポートしている映像技術です。通常、RGB の各色を 8 ビット（256 階調）ずつで表現するところを、10 ビット（1024 階調）、12 ビット（4096 階調）、16 ビット（65536 階調）で表現することができるため、より高精細な色の表現を可能にします。
HDMI 接続する機器の双方が Deep Color に対応している必要があります。

DLNA
DLNA および DLNA CERTIFIED は Digital Living Network Alliance（デジタル・リビング・ネットワーク・アライアンス）の商標／サービスマークです。コンテンツには DLNA CERTIFIED® 製品と適合しないものがある可能性があります。

Dolby Digital
Dolby Digital は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルは、フロント 3 チャンネル（FL、FR、C）とサラウンド 2 チャンネル（SL、SR）、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されています。
このため、チャンネル間のクロストークもなく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をリアルに再現することができます。AV ルームでの映画ソフト再生においても、リアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

Dolby Digital EX
Dolby Digital EX は、ドルビー研究所とルーカスフィルム社が共同で開発した音響フォーマット“DOLBY DIGITAL SURROUND EX”を、家庭で楽しむためにドルビー研究所が提案した 6.1 チャンネルのサラウンドフォーマットです。
サラウンドバックチャンネルを含めた 6.1 チャンネルでの音場再生により、空間表現力や定位感が向上します。

Dolby Digital Plus
Dolby Digital Plus は、Dolby Digital を改良した信号フォーマットで、最大 7.1 チャンネルのデジタルディスクリート音声対応とともに、データビットレートに余裕を持たせることにより音質の向上が図られています。従来の Dolby Digital に対して上位互換であるため、ソース信号や再生機器の状況に応じて、より柔軟性の高い運用が可能となっています。

Dolby Pro Logic II
Dolby Pro Logic II は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマトリクスデコード技術です。
CD のような通常の音楽は 5 チャンネルの信号にエンコードし、優れた立体音域効果を発揮します。
サラウンドチャンネルはステレオ化、フルバンド化（周波数特性 20Hz～20kHz 以上）し、あらゆるステレオ音源を臨場感豊かな立体音像でお楽しみいただけます。

Dolby Pro Logic IIx
Dolby Pro Logic IIx は、Dolby Pro Logic II をさらに改良したマトリクスデコード技術です。2 チャンネルで記録された音声をデコードし、自然な最大 7.1 チャンネルの音声を再生できます。音楽再生に適した“Music”モードと映画再生に適した“MOVIE”モード、ゲームをお楽しみになるときに最適な“Game”モードがあります。

Dolby Pro Logic IIz
Dolby Pro Logic IIz は、ソースに収録されている高いところで鳴っている「空間的な手がかり」を持った音響成分から、フロント・ハイトチャンネル信号を生成し出力するデコード技術です。2 チャンネルソースや 7.1/5.1 マルチチャンネルソースなどのあらゆるソースに対応します。
リスニング空間の前方上の左右にハイトスピーカーを加えることで、映画 / 音楽 / ゲームなどの再生により一層の空間の広がり感や奥行き感をお楽しみいただけます。
フロントハイトスピーカーは本棚などに設置できますので、サラウンドバックスピーカーのようにフロアスペースを使わずに、より簡単に理想的なサラウンド環境をつくることができます。

Dolby TrueHD
Dolby TrueHD は、ドルビーラボラトリーズの高精細音声技術で、ロスレス符号化技術を用いることによりマスター音声の忠実な再現を可能としています。
このフォーマットはサンプリング周波数 96kHz/24bit では最大 8 チャンネル、サンプリング周波数 192kHz/24bit では最大 6 チャンネルの音声に対応しており、特に音質を重視したアプリケーションに採用されています。

DTS
Digital Theater System の略で、DTS 社が開発した、デジタル音声システムです。DTS 対応アンプなどと接続して再生すると、映画館のような正確な音場定位と臨場感のある音響効果が得られます。

DTS 96/24
DTS 96/24 は、DVD-Video 上でサンプリング周波数 96kHz/ 量子化ビット数 24bit の高音質再生を可能としたデジタル音声フォーマットです。チャンネル数は 5.1 チャンネルとなります。

DTS Digital Surround
DTS™ Digital Surround は、DTS 社の標準デジタルサラウンドフォーマットで、サンプリング周波数が 44.1kHz または 48kHz、再生チャンネル数が最大 5.1 チャンネルのデジタルディスクリートサラウンド音声フォーマットです。

DTS-ES™ Discrete 6.1
DTS-ES™ Discrete 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に加えてサラウンドバックチャンネルを追加した 6.1 チャンネルのデジタルディスクリート音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1 チャンネル音声としてデコードすることも可能です。

DTS-ES™ Matrix 6.1
DTS-ES™ Matrix 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声にサラウンドバックチャンネルをマトリクスエンコードにて挿入した 6.1 チャンネル音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1 チャンネル音声としてコードすることも可能です。

DTS Express
DTS Express は、最大 5.1 チャンネルの 24kbps～256kbps までのロービットレートをサポートする音声フォーマットです。

DTS-HD
ブルーレイディスクのオプション音声として採用された、従来の DTS をさらに高音質・高機能化したデジタル音声技術です。多チャンネル、高データ転送速度、高サンプリング周波数や、ロスレス・オーディオ再生をサポートしています。ブルーレイディスクでは、最大 7.1 チャンネルまで対応しています。

DTS-HD High Resolution Audio
DTS-HD High Resolution Audio は、従来の DTS、DTS-ES、DTS 96/24 フォーマットを改良した信号フォーマットで、サンプリング周波数の 96kHz/48kHz 対応に加えて最大 7.1 チャンネルのデジタルディスクリート音声に対応しています。余裕あるデータビットレートによって高音質化を図るとともに、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1 チャンネルのデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS-HD Master Audio
DTS-HD Master Audio は、DTS 社のロスレス音声フォーマットで、サンプリング周波数 96kHz/24bit では最大 8 チャンネル、サンプリング周波数 192kHz/24bit では最大 6 チャンネルに対応しています。また、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1 チャンネルのデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS NEO:6™ Surround
DTS NEO:6™ は、2 チャンネルソースを 6.1 チャンネルのサラウンド再生するマトリクスデコード技術です。映画再生に適した“DTS NEO:6 Cinema”と、音楽再生に適した“DTS NEO:6 Music”があります。

F

FLAC
可逆圧縮方式のフリーの音声ファイルフォーマットです。可逆圧縮のため、原音からの音質の劣化がありません。
FLAC のライセンスについては、次のとおりです。

Copyright (C) 2000,2001,2002,2003,2004,2005,2006,2007,2008,2009 Josh Coalson

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of the Xiph.org Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

H

HDCP
機器間でデジタル信号を送受信する際に、信号を暗号化し、コンテンツが不正にコピーされるのを防止する著作権保護技術の 1 つです。

HDMI
High-Definition Multimedia Interface の略で、テレビやアンプなどと接続できる AV 用のデジタルインターフェースです。映像信号と音声信号を 1 本のケーブルで接続できます。

I

iTunes
アップル社が提供しているマルチメディアプレーヤーの名称です。
音楽をはじめとしてビデオなどのコンテンツを管理・再生することができます。AAC をはじめとして WAV や MP3 など主要なファイル形式に対応しています。

L

LFE
Low Frequency Effect の略で、低音部の効果音を強調するための出力チャンネルです。20Hz～120Hz の重低音を出力することで、サラウンド音声に迫力を加えることができます。

M

MP3 (MPEG Audio Layer-3)
音声データ圧縮方式の 1 つで、国際的な標準規格です。映像圧縮方式の「MPEG-1」に採用されています。音楽 CD 並の音質を保ったままデータ量を約 1/11 に圧縮できます。

MPEG (Moving Picture Experts Group)、MPEG-2、MPEG-4
デジタル圧縮形式として映像や音声を符号化するために使用される規格群の名前です。ビデオの規格には、「MPEG-1 Video」、「MPEG-2 Video」、「MPEG-4 Visual」、「MPEG-4 AVC」などがあります。音声の規格には、「MPEG-1 Audio」、「MPEG-2 Audio」、「MPEG-4 AAC」などがあります。

S

sYCC601 color
“x.v.Color”同様、これらのカラースペースは、従来の RGB よりも広い色空間を定義します。

V

vTuner
インターネットラジオの無料オンラインコンテンツサービスです。
本サービスに関するお問い合わせは、下記 vTuner のサイトまでお願い致します。
vTuner ホームページ：
http://www.radiomarantz.com
本製品は、Nothing Else Matters Software and BridgeCo の知的財産権により保護されています。当該技術の本製品以外での使用または配布は、Nothing Else MattersSoftwareand BridgeCo の許諾がない限り禁止されています。

W

Windows Media DRM
マイクロソフト社が開発した著作権保護技術です。
コンテンツプロバイダは、自らのコンテンツ（“セキュアコンテンツ”）の完全性を保護するために、本デバイス（“WMDRM”）に内蔵された Windows Media 用デジタル権管理技術を使用し、当該コンテンツに対する自らの知的財産権（著作権を含む）が悪用されないようにしています。
本デバイスは、セキュアコンテンツを再生するため、WMDRM ソフトウェア（“WM-DRM ソフトウェア”）を使用しています。本デバイス内の WM-DRM ソフトウェアのセキュリティがあやうくなった場合、セキュアコンテンツの所有者（“セキュアコンテンツオーナー”）は、マイクロソフト社が、セキュアコンテンツをコピー・表示・再生する新たなライセンスを得る WM-DRM ソフトウェアの権利を取り消すよう要請することができます。
この取り消しは、保護されていないコンテンツを再生する WM-DRM ソフトウェアの能力には影響がありません。インターネットまたはパソコンからセキュアコンテンツのライセンスをダウンロードするときはいつも、取り消された WM-DRM ソフトウェアのリストがデバイスに送られます。マイクロソフト社は、セキュアコンテンツオーナーに代わって、当該ライセンスとともに、取り消された WM-DRM ソフトウェアのリストをデバイスにダウンロードすることができます。
Windows Media Player Ver.11
マイクロソフト社が無料で提供しているメディアプレーヤーです。
Windows Media Player のバージョン 11 以降で作成されたプレイリストや WMA、DRM WMA、WAV ファイルなどが再生可能です。
WMA (Windows Media Audio)
米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。
WMA データは、Windows Media® Player Ver.7、7.1、Windows Media® Player for Windows® XP、または Windows Media® Player 9 Series を使用してエンコード（符号化）することができます。
WMA ファイルは、米国 Microsoft Corporation より認証を受けたアプリケーションを使用してエンコードしてください。もし、認証されていないアプリケーションを使用すると、正しく動作しないことがあります。

X

x.v.Color
色の表現がより正確になり、自然で生き生きとした映像を表現することが可能になります。
“x.v.Color”はソニーの登録商標です。

あ行

オートリップシンク
オートリップシンク機能対応のテレビと接続すると、映像と音声のずれを自動的に補正します。

さ行

サンプリング周波数
サンプリングとは、音の波（アナログ信号）を一定時間の間隔で刻み、刻まれた波の高さを数値化（デジタル信号化）することです。
1 秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、この数値が大きいほど原音に近い音を再現できます。
スピーカーインピーダンス
交流抵抗値のことでΩ（オーム）という単位であらわします。この値が小さいほど大きな電力が得られます。
ゾーン 2
本機は、本機が設置されている部屋（メインゾーン）以外の 1 つの部屋でも本機の再生をおこなうことができます（ゾーン 2 再生）。ゾーン 2 再生をおこなう部屋をゾーン 2 と呼びます。

た行

ダイナミックレンジ
機器が出すノイズに埋もれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差のことです。
ダウンミックス
サラウンド音声のチャンネル数を、より少ないチャンネル数に変換して再生する機能です。

は行

プログレッシブ（順次走査）
映像の 1 フレームを 1 つの画像として表示する映像信号の走査方式です。インターレース方式に比べ画像のちらつきやにじみが少ない映像を再生できます。
ペアリング
ペアリングとは、2 台の Bluetooth デバイスの接続設定に必要な操作です。ペアリングをおこなうことによって、Bluetooth 機器同士が互いにアクセスできるようになります。
保護回路
何らかの原因で過負荷や過電圧、高温状態などの異常が起きたときに、電源内部の部品が破損するのを防止する機能です。
本機では、異常発生時には電源表示が点滅し、スタンバイ状態になります。

ま行

メインゾーン
本機が設置されている部屋をメインゾーンと呼びます。

故障かな？と思ったら

❏ 各接続は正しいですか
❏ 取扱説明書に従って正しく操作していますか
❏ スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正しく動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、お買い上げの販売店でおわかりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

【共通】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
電源が入らない。 または、入れてもすぐに切れる。	• コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。 • 保護回路がはたらいています。このような場合、一度電源プラグをコンセントから抜き、5～10 秒後に再びコンセントに差し込んでください。	40 157
電源が自動的にスタンバイに切り替わる。	• スリープタイマーが設定されています。再度電源を入れるか、スリープタイマーの設定を変更してください。 • 操作がない状態で一定時間が経過すると、“オートスタンバイ” が動作します。“オートスタンバイ” を無効にするには、メニューの “オートスタンバイ” を “オフ” に設定してください。	97、104 136
ディスプレイの表示が消える。	• メニューの “ディスプレイの明るさ” を “消灯” 以外の設定にしてください。	136
本機を使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 2 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 機器内部の温度上昇により、保護回路がはたらいています。一度電源を切って、本体の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。 • 本機を風通しの良い場所に設置し直してください。	– –
本機を使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 指定されたインピーダンスのスピーカーを使用してください。 • スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路がはたらいています。電源コードを抜き、芯線をしっかりとよじり直すか、端末処理をするなどしたあとで、接続し直してください。	82 82
電源を入れても、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 本機のアンプ回路が故障しています。電源を切り、当社の修理相談窓口までご連絡ください。	–
本機が正しく動作しない。	• マイコンを初期化してください。	162

【HDMI】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
HDMI で接続したときに、音声が出力されない。	• HDMI 端子の接続を確認してください。 • HDMI の音声信号をスピーカーから出力するときは、メニューの “HDMI オーディオ出力” の設定を “AV アンプ” に設定してください。 • HDMI の音声信号をテレビから出力するときは、メニューの “HDMI オーディオ出力” の設定を “TV” に設定してください。	13 118 118
HDMI で接続したときに、映像が映らない。	• HDMI 端子の接続を確認してください。 • 接続した HDMI 端子に合わせて、入力ソースを設定してください。 • テレビが著作権保護（HDCP）に対応しているか確認してください。HDCP に対応していない機器を接続した場合、映像が正しく出力されません。	13 13、40 14
HDMI コントロール対応機器に次の操作をすると、本機も同じ動作をする。 • 電源のオン / オフ • 音声を出力する機器の切り替え • 音量の調節 • 入力ソースの切り替え	• メニューの “HDMI コントロール” を “オフ” に設定してください。また、本機の電源オフを HDMI コントロール対応機器と連動させない場合は、メニューの “パワーオフコントロール” を “オフ” に設定してください。	96、119

【映像】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
映像が映らない。	• 本機の映像出力端子とテレビの入力端子の接続を確認してください。 • 本機に接続したテレビの入力端子と入力設定を合わせてください。	12、17 –

【音声】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
音が出ない。	• すべての機器の接続を確認してください。	12、13、17、18、19、20、21、22、23、24、25、26、27、28、29、30
	• スピーカーの接続とスピーカー構成の設定を確認してください。	84、85、86、87、88、89、90、91
	• 音声の接続をしている機器の電源が入っているか確認してください。	–
	• 主音量を適切な大きさに調節してください。	41、104
	• ミューティング(消音)モードを解除してください。	41、104
	• 再生機器との接続を確認し、適切な入力ソースを選んでください。	40、104
	• デジタル入力端子を割り当てた端子と入力モードを合わせてください。	125
	• 本機の PHONES 端子からヘッドホンのプラグを取り外してください。ヘッドホンのプラグを挿入していると、スピーカー端子から音が出なくなります。	141
音量が上がらない。	• 音量の上限値が低く設定されています。メニューの“音量の上限”で上限値を設定してください。	114
	• 本機の出力端子に接続している外部機器の電源が切れている可能性があります。接続している外部機器の電源を確認してください。	–
サラウンドスピーカーから音が出ない。	• SURROUND 端子にサラウンドスピーカーを接続しているか確認してください。	–
サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	• メニューの“アサインモード”の設定で、サラウンドバックスピーカーを使用する設定になっているか確認してください。	127
	• メニューの“スピーカー構成”⇨“S. バック”設定が“無し”以外になっているか確認してください。	127
	• サウンドモードが“STEREO”および“VIRTUAL”以外になっているか確認してください。	72

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
フロントハイトスピーカーから音が出ない。	• メニューの“アサインモード”の設定で、フロントハイトスピーカーを使用する設定になっているか確認してください。	127
	• メニューの“スピーカー構成”⇨“フロントハイト”設定が“無し”以外になっているか確認してください。	128
フロントワイドスピーカーから音が出ない。	• メニューの“アサインモード”の設定で、フロントワイドスピーカーを使用する設定になっているか確認してください。	127
	• メニューの“スピーカー構成”⇨“フロントワイド”設定が“無し”以外になっているか確認してください。	128
サブウーハーから音が出ない。	• サブウーハーの接続を確認してください。	84、85、86、87、88、89、90、91
	• サブウーハーの電源を入れてください。	–
	• メニューの“スピーカー構成”⇨“サブウーハー”を“有り”に設定してください。	127
	• メニューの“スピーカー構成”⇨“フロント”と“センター”の設定が“大”で、なおかつ“サブウーハーモード”の設定が“LFE”の場合は、入力信号やサウンドモードによってサブウーハーから音声が出力されない場合があります。	127、128
DTS 音声が出力されない。	• メニューの“デコードモード”を“オート”または“DTS”にしてください。	125
Dolby TrueHD、DTS-HD、Dolby Digital Plus の音声が出力されない。	• HDMI で接続してください。	13
Dolby PLII モードや DTS NEO:6 モードが選択できない。	• メニューの“スピーカー構成”⇨“センター”または“サラウンド”を“無し”以外に設定しているか確認してください。スピーカーシステムが 2.0/2.1 チャンネルの場合は選択できません。	127
	• ヘッドホン使用時は、Dolby PLII または DTS NEO:6 を選択できません。	–

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
Audyssey DSX® が選択できない。	• メニューの“スピーカー構成” ⇨“フロントハイト” または“フロントワイド”を“無し”以外に設定しているか確認してください。 • メニューの“スピーカー構成” ⇨“センター” を“無し” 以外に設定しているか確認してください。 • サラウンドモードをドルビーリスニングモードまたは DTS リスニングモードに切り替えてください。 • ヘッドホン使用時は、Audyssey DSX® を選択できません。	128 127 72 –
Audyssey MultEQ® XT、Audyssey Dynamic EQ® および Audyssey Dynamic Volume® が選択できない。	• サラウンドモードを“DIRECT”、“PURE DIRECT”以外に切り替えてください。 • ヘッドホン使用時は、Audyssey MultEQ® XT、Audyssey Dynamic EQ® および Audyssey Dynamic Volume® を選択できません。	72 –
Audyssey Dynamic EQ® および Audyssey Dynamic Volume® が選択できない。	• Audyssey® セットアップを実行してください。	32、92
“M-DAX”が選択できない。	• アナログ信号または PCM 信号（サンプリング周波数 =44.1/48kHz）が入力されているか確認してください。Dolby Digital や DTS サラウンドなどのマルチチャンネル信号の再生は“M-DAX” を使用することができません。 • サウンドモードを“DIRECT” または“PURE DIRECT” 以外に切り替えてください。	113 72

【FM チューナー】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
受信できない。または、雑音や歪みが多い。	• アンテナの向きや位置を変えてください。 • FM 屋外アンテナを使用してください。 • アンテナと他の接続ケーブルを離してください。	26 26 26

【iPod/USB メモリー / インターネットラジオ / メディアサーバー /Flickr】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
iPod が再生できない。	• iPod/USB 端子に iPod を直接接続して使用する場合、対応していない iPod があります。	23
ファイル名が“. . . ”など、正しく表示されない。	• 本機で表示できない文字は、“.（ピリオド）”に置き換えて表示します。 • 本機に接続している USB メモリーを接続している USB メモリーケーブルのタグが不適切です。本機が対応しているタグの USB メモリーを使用してください。	– 46
USB メモリーを接続したとき、“接続されていません” が表示される。	• 接続不良などで、本機が USB メモリーを認識できない場合があります。接続を確認してください。 • 本機は、マスストレージクラスまたは MTP 対応の USB メモリーに対応しています。それ以外の USB メモリーは認識できません。 • 本機が認識できないデバイスを接続しています。すべての USB メモリーに対して、動作や電源の供給を保証するものではありません。 • USB ハブを経由した接続はできません。USB メモリーは iPod/USB 端子に直接接続してください。 • 本機が認識できるファイル構成は最大 8 階層、1 フォルダあたりのサブフォルダとファイルの合計は最大 5000 個です。必要に応じて USB メモリーのフォルダ構成を変更してください。	23 – – – 46
USB メモリーのファイルを再生できない。	• USB メモリーのフォーマットを FAT16 または FAT32 に設定してください。詳しくは、USB メモリーの取扱説明書をご覧ください。 • USB デバイス内が複数のパーティションに別れている場合は、第 1 パーティション以外は再生できません。 • ファイルが対応しているフォーマット以外で記録されています。対応しているフォーマットで記録してください。 • 本機では、著作権保護のかかったファイルを再生することはできません。	– – 46 46
インターネットラジオが再生できない。	• イーサネットケーブルが正しく接続されていないか、ネットワークが切断されています。接続状態を確認してください。 • 対応していないフォーマットで放送されています。本機で再生できるインターネットラジオのフォーマットは MP3 と WMA のみです。 • パソコンまたはルータのファイアウォールがはたらいています。接続しているパソコンまたはルータのファイアウォールの設定を確認してください。 • ラジオステーションが放送を停止しています。放送中のラジオステーションを選んでください。 • IP アドレスが違っています。本機の IP アドレスを確認してください。 • 時間帯により無音放送になっているラジオ局があります。この場合、受信していても音声は出力しません。しばらく経ってから再生するか、別のラジオ局を受信してください。	30 57 – 57 131 –

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
パソコンに保存してある音楽ファイルが再生できない。	• ファイルが対応しているフォーマット以外で記録されています。対応しているフォーマットで記録してください。 • 本機では、著作権保護のかかったファイルを再生することはできません。 • 本機の iPod/USB 端子は、パソコンと接続することはできません。 • メディアの共有設定が正しくありません。本機がパソコンのフォルダにアクセスできるようにメディアの共有設定を変更してください。	60 60 – 61
NAS に保存した曲が再生できない。	• DLNA 準拠の NAS をご使用の場合は、NAS の設定で DLNA サーバー機能を有効にしてください。 • DLNA に準拠していない NAS をご使用の場合は、パソコンを経由して再生してください。Windows Media Player のメディア共有機能設定をおこない、再生対象フォルダに NAS を追加してください。 • 接続を制限している場合は、オーディオ機器を接続対象にしてください。	– 61 –
サーバーが見つからないか、サーバーに接続できない。	• パソコンまたはルータのファイアウォールがはたらいています。接続しているパソコンまたはルータのファイアウォールの設定を確認してください。 • パソコンの電源が入っていません。電源を入れてください。 • サーバーが起動していません。サーバーを起動してください。 • 本機の IP アドレスが正しくありません。本機の IP アドレスを確認してください。	– – – 131
プリセットまたはお気に入りに登録したラジオステーションに接続できない。	• ラジオステーションが放送を休止しています。しばらく時間をおいてやり直してください。 • ラジオステーションがサービスを停止しています。放送中のラジオステーションを選んでください。	– –
放送局のリストが表示されない。	• ネットワークへの接続が不安定です。ネットワークへ接続し直すか、メニューの“ネットワーク”の設定を再度おこなってください。	30、132
“ラジオステーションサーバーが混雑しています”または“接続が途切れました”と表示され、接続できないラジオステーションがある。	• 放送局が混雑しているか、現在放送を休止しています。しばらく時間をおいてやり直してください。	–
再生中に、音が途切れることがある。	• ネットワークまたは USB メモリーの通信速度が遅いか、通信回線またはラジオステーションが混雑しています。ビットレートの高い放送データを再生している場合や、通信の状況によっては、音が途切れることがあります。	–
音質が良くない。または再生中にノイズが入る。	• 再生しているファイルのビットレートが低いです。	–

【AirPlay】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
iTunes または iPhone/iPod touch/iPad 上に AirPlay のアイコン が表示されない。	• 本機とパソコンまたは iPhone/iPod touch/iPad が同一のネットワーク(LAN)に接続されていません。パソコンまたは iPhone/iPod touch/iPad を本機と同一の LAN に接続してください。 • iTunes または iPhone/iPod touch/iPad が AirPlay 対応のファームウェアではありません。最新のファームウェアにアップデートしてください。	30 138
音が出ない。	• iTunes または iPhone/iPod touch/iPad の音量が最小になっています。音量を適切な値に設定してください。 • iTunes または iPhone/iPod touch/iPad を起動したあとに表示される画面で本機を選択していません。iTunes または iPhone/iPod touch/iPad を起動し、表示された画面で AirPlay アイコン をクリックして、本機を選択してください。 • AirPlay の再生をしていません。iTunes の ▶ ボタンをクリックするか、iPhone/iPod touch/iPad の ▶ ボタンを押して再生してください。	– 70 –
iPhone/iPod touch/iPad で AirPlay 再生時に音が途切れる。または AirPlay 再生ができない。	• iPhone/iPod touch/iPad のバックグラウンドで起動しているアプリケーションを終了してから AirPlay 再生をしてください。 • 無線接続で再生している場合は、外部の影響を受けている可能性があります。無線 LAN のアクセスポイントからの距離を短くするなどネットワーク環境を変更してください。 • iPhone/iPod touch/iPad のアプリケーションまたは iTunes を最新のバージョンにアップデートしてください。	– – –

【M-XPort（エム・エックスポート）】

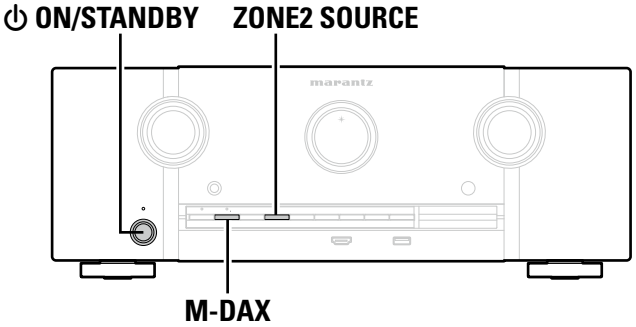
症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
ワイヤレスレシーバー(RX101)を接続時、音声が出力されない。	• Bluetooth（ブルートゥース）機器とワイヤレスレシーバー(RX101)の間で、正しくペアリングされているか確認してください。	27、155、157

【リモコン】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
リモコンを操作しても、正しく動作しない。	• 乾電池が消耗しています。新しい乾電池と交換してください。 • リモコンは、本機から約 7m および 30° 以内の範囲で操作してください。 • 本機とリモコンの間の障害物を取り除いてください。 • 乾電池の ⊕ と ⊖ を正しくセットしてください。 • 本機のリモコン受光部に強い光(直射日光、インバーター式蛍光灯の光など)があたっています。受光部に強い光があたらない場所に設置してください。 • リモコンを操作するゾーンの設定が合っていません。**MAIN** または **ZONE2** ボタンを押して、操作するゾーンを選んでください。	145 145 145 145 145 145 33、92

マイコンの初期化

表示が正しくない場合や操作ができない場合などにおこないます。
マイコンを初期化すると、各種設定内容がすべてお買い上げ時の設定になります。



1 ⏻ **ON/STANDBY を押して、電源を切る。**

2 **M-DAX と ZONE2 SOURCE を同時に押しながら、⏻ ON/STANDBY を押す。**

3 **ディスプレイの表示が約 1 秒間隔で点滅したら、2 つのボタンから指を離す。**

手順 3 でディスプレイの表示が約 1 秒間隔で点滅しない場合は、手順 1 からやり直してください。

保証と修理について

❏保証書について

この製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から 1 年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は、有料修理になりますので、ご注意ください。

保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。
有料修理の料金については、「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へお問い合わせください。

❏修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただけずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

修理を依頼されるとき

- 添付の「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へご相談ください。
- 修理を依頼されるときのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

❏依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名 …… 取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号 … 保証書と製品背面に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

❏補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。

❏お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

主な仕様

❏ オーディオ部

- **パワーアンプ部**

定格出力：	フロント： 110W+110W（負荷 8 Ω、20Hz～20kHz T.H.D 0.08%） センター： 110W（負荷 8 Ω、20Hz～20kHz T.H.D 0.08%） サラウンド： 110W+110W（負荷 8 Ω、20Hz～20kHz T.H.D 0.08%） サラウンドバック / フロントハイト / フロントワイド： 110W+110W（負荷 8 Ω、20Hz～20kHz T.H.D 0.08%）
実用最大出力：	フロント： 190W+190W（負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 10% JEITA） センター： 190W（負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 10% JEITA） サラウンド： 190W+190W（負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 10% JEITA） サラウンドバック / フロントハイト / フロントワイド： 190W+190W(負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 10% JEITA）
出力端子：	6～8 Ω

- **アナログ部**

入力感度 / 入力インピーダンス：	200mV/47k Ω
周波数特性：	10Hz～100kHz：+1、-3dB（DIRECT モード時）
S/N 比：	100dB（IHF-A、DIRECT モード時）
ひずみ率：	0.005%（20Hz～20kHz）（DIRECT モード時）
定格出力：	1.2V

- **デジタル部**

D/A 出力：	定格出力 — 2V（0dB 再生時 ） 全高調波ひずみ率 — 0.008%（1kHz、0dB） S/N 比 — 102dB ダイナミックレンジ — 100dB
デジタル入力：	フォーマット — デジタルオーディオインターフェース

- **フォノ・イコライザー部（PHONO 入力 — MEDIA PLAYER OUT）**

入力感度：	2.5mV
RIAA 偏差：	± 1dB（20Hz～20kHz）
S/N 比：	74 dB（JIS-A、5mV 入力 ）
定格出力：	150mV
ひずみ率：	0.03%（1kHz、3V 出力時）

❏ ビデオ部

- **標準ビデオ端子**

入出力レベル / インピーダンス：	1Vp-p、75 Ω
周波数特性：	5Hz～10MHz：0、-3dB

- **コンポーネントビデオ端子**

入出力レベル / インピーダンス：	Y（輝度）信号：1Vp-p、75 Ω PB/CB（青色）信号：0.7Vp-p、75 Ω PR/CR（赤色）信号：0.7Vp-p、75 Ω
周波数特性：	5Hz～60MHz：0、-3dB

❏ チューナー部

- **FM 部**

受信周波数範囲：	76.0MHz～90.0MHz
実用感度：	1.2 μ V（12.8dBf）
S/N 比：	モ　　ノ：70dB（IHF-A、DIRECT モード時） ステレオ：67dB（IHF-A、DIRECT モード時）
ひずみ率	モ　　ノ：0.7%（1kHz、100% 変調時） ステレオ：1.0%（1kHz、90% 変調時）

❏ 総合

電源：	AC 100V、50/60Hz
消費電力：	650W（電気用品安全法による）
スタンバイ時の消費電力：	0.2W
CEC スタンバイ時の消費電力：	0.5W
ネットワークスタンバイ時の消費電力：	2.7W

＊ JEITA：（社）電子情報技術産業協会（略称：JEITA）が制定した規格です。

- 仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。
- 本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。
- 本機は国内仕様です。
  必ず AC 100V のコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC 100V 以外の電源には絶対に接続しないでください。

索引

数字

2.1 チャンネル……90
3D……14
5.1 チャンネル……81、88
6.1 チャンネル……81、87
7.1 チャンネル……80、81、84、85、86

A

A2DP……27、155
Adobe RGB color/Adobe YCC601 color……155
AirPlay……70、155
ALAC……155
ARC……11
Audyssey……114
Audyssey DSX®……115、155
Audyssey Dynamic EQ®……115、155
Audyssey Dynamic Volume®……155
Audyssey Dynamic Volume®……115
Audyssey MultEQ® XT……114、155
Audyssey® セットアップ……32、92

B

Bluetooth……155

C

Content Type……14

D

Deep Color……14、155
Dolby
- Dolby Digital……77、155
- Dolby Digital Plus……77、155
- Dolby Pro Logic……77
- Dolby Pro Logic II……77、155
- Dolby Pro Logic IIz……156
- Dolby TrueHD……77、156

DTS……156
- DTS 96/24……77、156
- DTS Digital Surround……156
- DTS-ES Discrete 6.1……77、156
- DTS-ES Matrix 6.1……77、156
- DTS Express……77、156
- DTS-HD……77、156
- DTS-HD High Resolution Audio……156
- DTS-HD Master Audio……156
- DTS NEO:6™ Surround……77、156

Dynamic EQ……115
Dynamic Volume……115

E

EQ の調節……116

F

FLAC……156
Flickr……64
FM……49
FM 室内アンテナ……26

H

HDCP……14、156
HDMI……10、14、156
HDMI 音声出力……118
HDMI コントロール……96、118、119
HDMI 設定……118
Height ゲイン……112

I

IP コントロール……131
i/p スケーラー……120
iTunes……156

L

LFE……111、156

M

M-DAX……113
MP3……156
MPEG……156
MultEQ® XT……114

S

S. Back……127
sYCC601 color……157

T

TV フォーマット……121

V

vTuner……59、157

W

Windows Media DRM……157
Windows Media Player……157
WMA……157

X

x.v.Color……157

あ

アスペクト比……120
アップデート……138
アンプの割り当て……127

い

一般……134
色合い……118
色の濃さ……118

う

ウェブコントロール……98

え

映像の選択……125
エラーメッセージについて
(Audyssey® セットアップ)……38
エンハンサー……118

お

オーディオ……110
オーディオディレイ……113
オーディオ入力端子の選択……125
オートスタンバイ……136
オートプリセットメモリー……52
オートリップシンク……118、157
お気に入りから削除……69
お気に入りに登録……68
お知らせ POPUP……138
オペレーションモード……44
音量……114、121
音量の上限……114
音量の表示……121
音量レベル……135
音量レベル……135

か

カーブコピー……116
解像度……120
画質調整……118

き

距離……128

く

クイックセレクト名の変更……135
グラフィック EQ……116
クロスオーバー周波数……129

け

ケーブル
- 同軸ケーブル……16

ケーブル
- HDMI ケーブル……12、13
- イーサネットケーブル……16
- オーディオケーブル……16
- コンポーネントビデオケーブル……16
- サブウーハーケーブル……84、85、86、87、88、89、90、91
- スピーカーケーブル……84、85、86、87、88、89、90、91
- 光伝送ケーブル……16
- ビデオケーブル……16

結露……5
言語……135

こ

高音……112、135
故障かな？と思ったら……158
コントラスト……118
コントロールモニター……119

さ

再生
- ALAC……46、60
- CD プレーヤー……41、42
- DVD プレーヤー……41、42
- FLAC……46、60
- Flickr……64
- FM……49
- iPod (USB)……43
- JPEG……46、60
- MP3……46、57、60
- MPEG-4 AAC……46、60
- NAS……60
- USB メモリー……46
- WAV……46、60
- WMA……46、57、60
- インターネットラジオ……57
- オートサラウンド……73
- AUTO リスニングモード……78
- オリジナルリスニングモード……78
- ステレオ……78
- ダイレクト……72、78
- パソコン……60
- ブルーレイディスクプレーヤー……41、42

再生画面……121
再生画面の表示……121

サウンドモード……72、147
サブウーハー……113
サブウーハーの設定……33
サブウーハーレベル……113
サラウンドバックスピーカー……80、81、84、87
サラウンドパラメーター……111
サンプリング周波数……157

☞ し

シネマ EQ……111
写真表示……69
主音量を調節する……41
使用ソースの選択……124
情報……121、131、137
　オーディオ……137
　ゾーン……137
　ビデオ……137
　ファームウェア……137
情報の表示……121
新機能の追加……139

☞ す

スタンバイ時の HDMI 入力……119
ステージウィドス……115
ステージハイト……115
スピーカー……126
　接続……82
　設置……80
　設定……32、92
スピーカーインピーダンス……82、157
スピーカーの構成……127
スピーカーの選択方法……116
スライドショー……69
スリープタイマー……97、104

☞ せ

接続
　CD プレーヤー……24、25
　DVD プレーヤー……13、19
　FM……26
　HDMI……10
　iPod (USB)……23
　USB メモリー……23
　衛星チューナー……18
　外部のコントロール機器……95
　ケーブルテレビチューナー……18
　ゲーム機……13
　スピーカー……82
　セットトップボックス……13、18
　テレビ……12、17
　電源コード……31
　パワーアンプ……28、29
　ビデオカメラ……13、21、22
　ブルーレイディスクプレーヤー……13、20
　ホームネットワーク(LAN)……30
　メディアプレーヤー……13
　ワイヤレスレシーバー……27
接続の設定……132
セットアップロック……139
センターイメージ……111
センター幅……111

☞ そ

ソースレベル……125
ゾーン 2……103、157
ゾーン 2 の設定……135
ゾーン名の変更……135

☞ た

ダイアローグ……113
ダイアローグレベル……113
ダイナミックレンジ……157
ダイナミックレンジ圧縮……111
ダイレクトチューニング……51
ダウンミックス……157

☞ ち

チャンネル……135
チューニングモード……50

☞ て

低音……112、128、135
ディスプレイ……142
ディスプレイの明るさ……136
ディメンション……111
テキスト検索……66
デコードモード……125
デジタルオーディオ端子の割り当て……123
デュアルバックアップメモリー機能……100
電源オン時の音量……114

☞ と

登録商標……146
トーンコントロール……112

☞ に

入力信号……150
入力ソース……122
入力ソース名の変更……124
入力ソースを選ぶ……40
入力端子の割り当て……123
入力モード……125

☞ ね

ネットワーク……39、130

☞ の

ノイズ除去……118

☞ は

バイアンプ……91
ハイパスフィルター……135
バイリンガル……114
パノラマ……111
パラメーター確認……39
パワーオフコントロール……119

☞ ひ

ピクチャー再生……69
左レベル……135
ビデオ……117
ビデオコンバージョン……9、119
ビデオ出力の設定……119
ビデオモード……119
ピュアダイレクト……73
表示方法……114

☞ ふ

ファームウェア……138
フォーマット……121
付属品……5
ブライトネス……118
ブラウズモード……43、44
プリセットスキップ……55
プリセットに登録……53
プリセットネーム……54
プリセットメモリー……53
フレンドリーネームの編集……131
プログレッシブ……157
プログレッシブモード……120
フロント A/B(接続)……81、89
フロントキーロック機能……100
フロントスピーカーの設定……129
フロントディスプレイ……136
フロントハイトスピーカー……81、85、86
フロントパネル……141
フロントワイド……128

☞ へ

ペアリング……157
ヘッドホン……141
編集……131

☞ ほ

保護回路……157
本機の電源を入れる……40

☞ ま

マイコンの初期化……162
マニュアル EQ……116
マニュアルセットアップ……127

☞ み

右レベル……135
ミューティング……41
ミューティングレベル……114、135

☞ め

メインゾーン……157
メニュー一覧……105
メンテナンスモード……133

☞ も

文字……109
文字入力……109
モニター出力……118

☞ ら

ラウドネスマネージメント……111
ランダム……45、67

☞ り

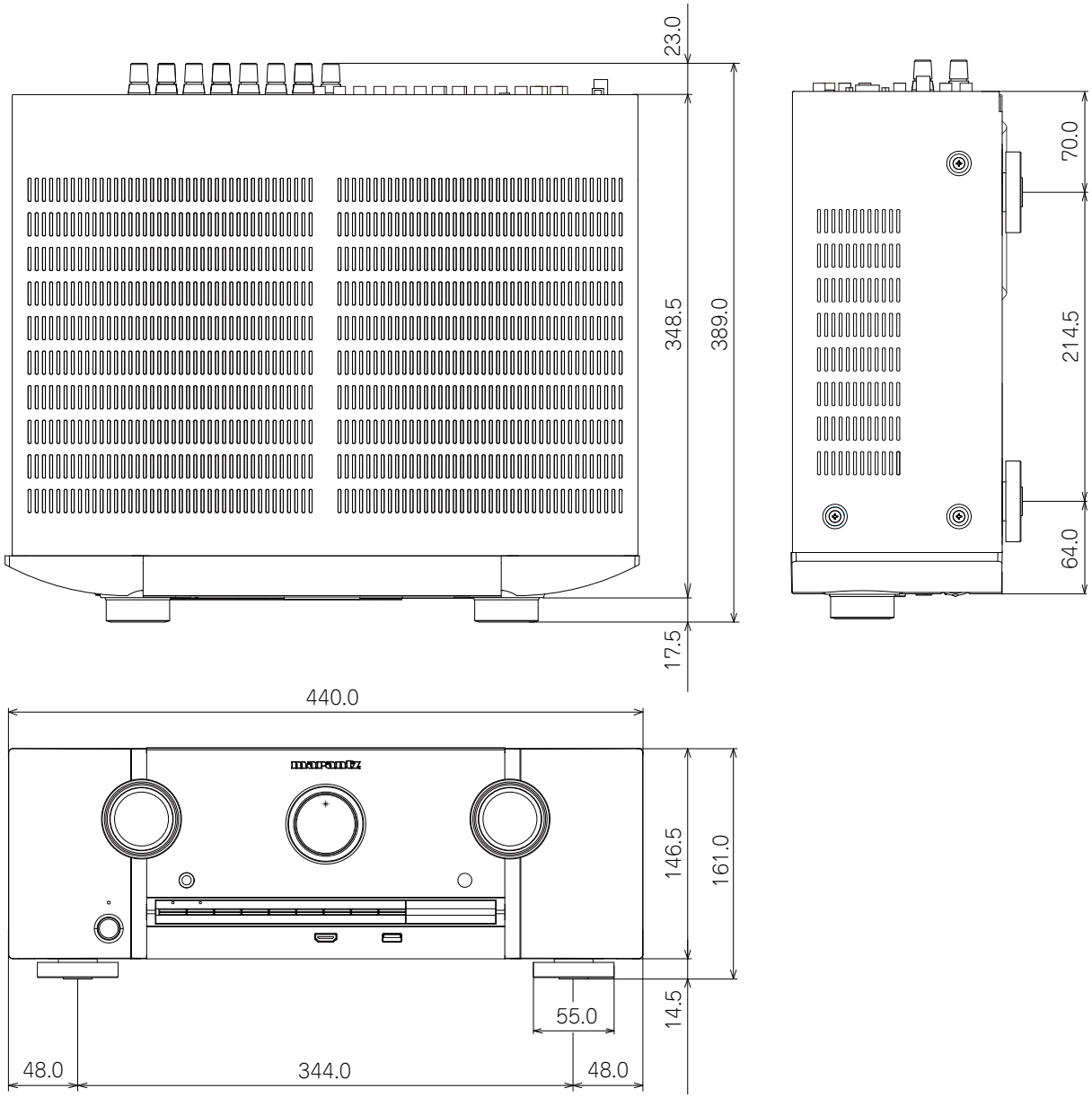
リアパネル……143
リスニングポイント……32
リスニングモード……72
リピート……45、67
リファレンスレベルオフセット……115
リモートモード……43、44
リモートロック機能……101
リモコン……144
　乾電池の入れかた……145
リモコンの設定……33、92

☞ れ

レベル……129

寸法

単位：mm



質量：11.2kg

marantz®

お客様ご相談センター

☎ 0570（666）112

【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】

IP 電話をご利用の場合など、プロバイダーのサービスによってはつながらない場合があります。その場合は 03（3570）5138 におかけください。

受付時間　9：30 ～ 17：30
（当社休日および祝日を除く、月～金曜日）

〒 210-8569　神奈川県川崎市川崎区日進町 2 番地 1　D&M ビル

修理に関するお問い合わせは、
添付の**「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」**をご覧ください。

株式会社 ディーアンドエムホールディングス

当社の最新情報をインターネット上でご覧ください。
http://www.marantz.jp

V01A

3520 10101 10AMA